



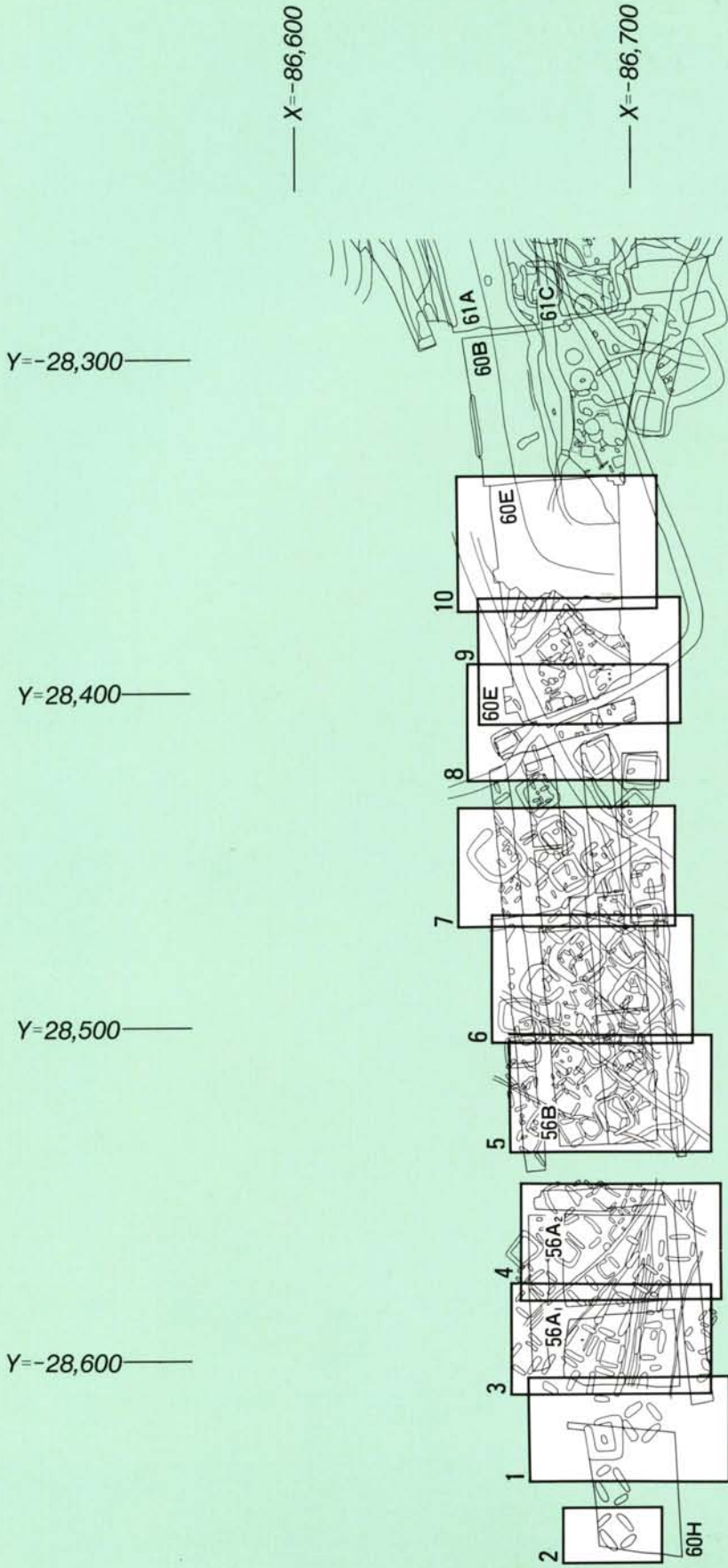
図 版

●遺構実測図版

プラン・セクション

●写真図版

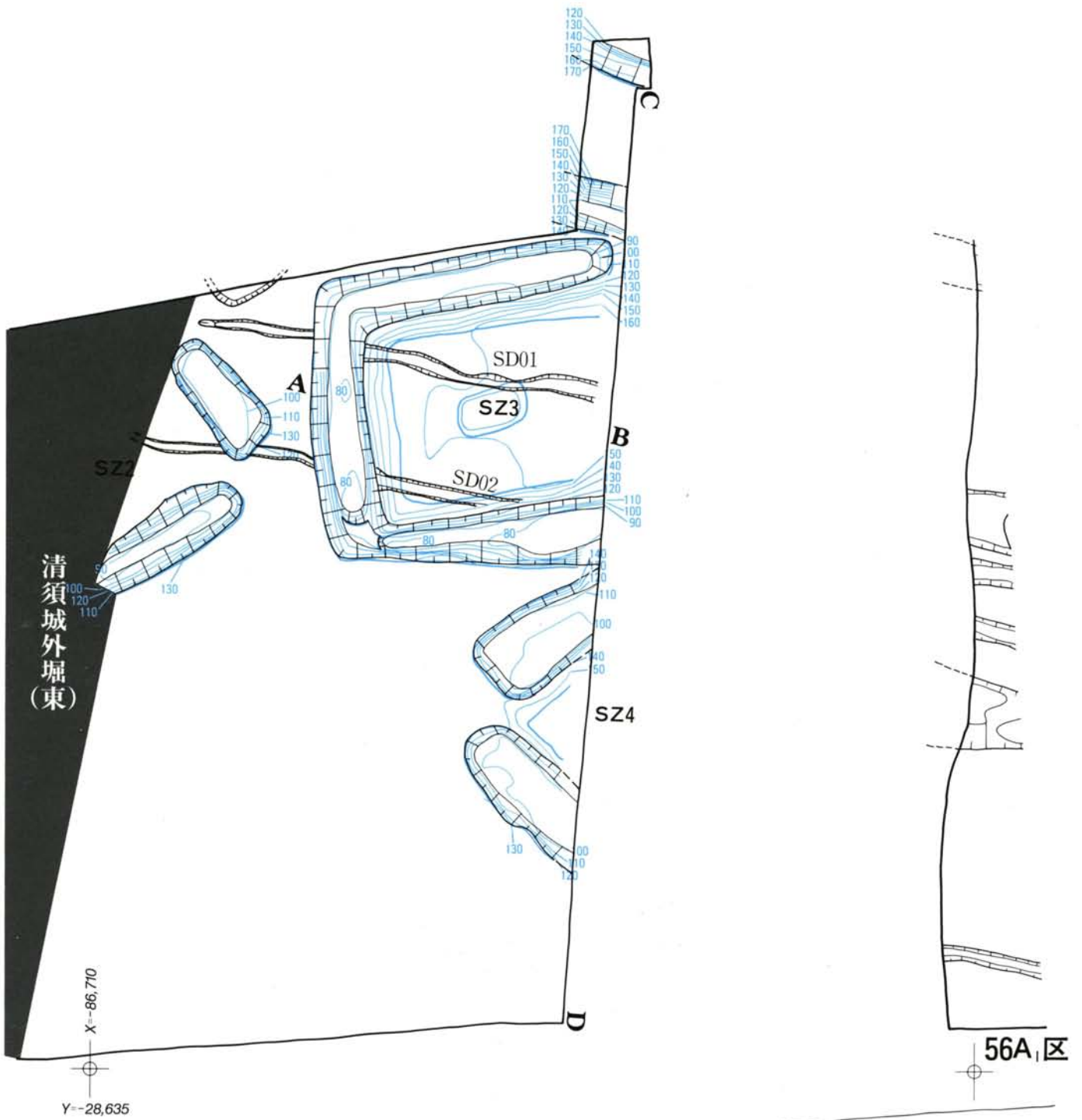
●カラー写真図版



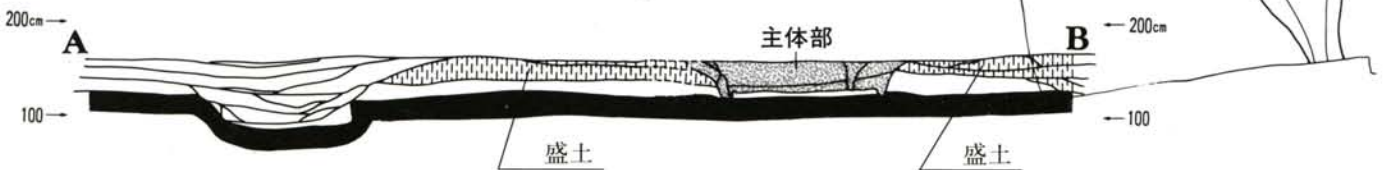
X=-86,800

图版割付图 1

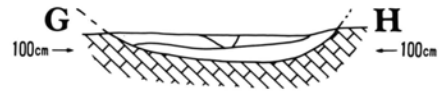
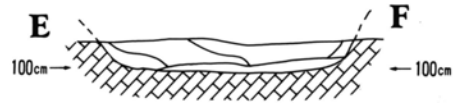
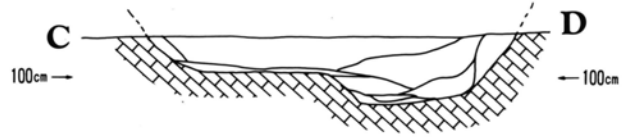
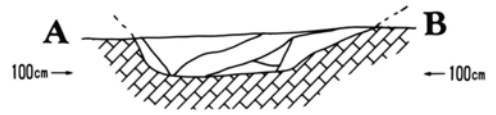
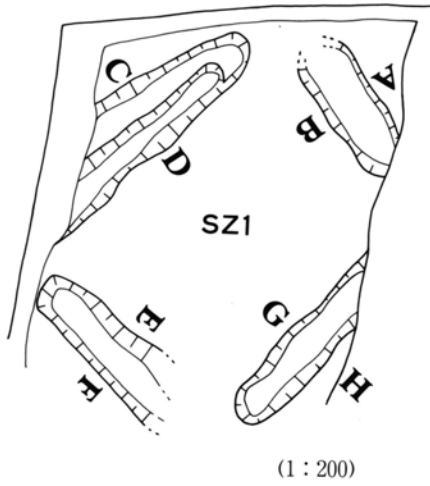
西部地区



●60H区 SZ4 東西セクション (1:80)

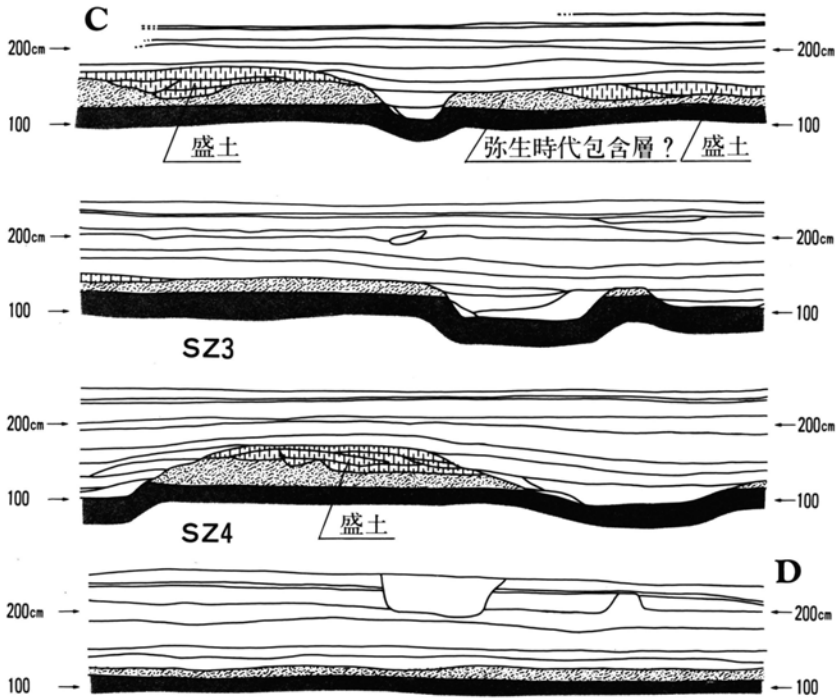


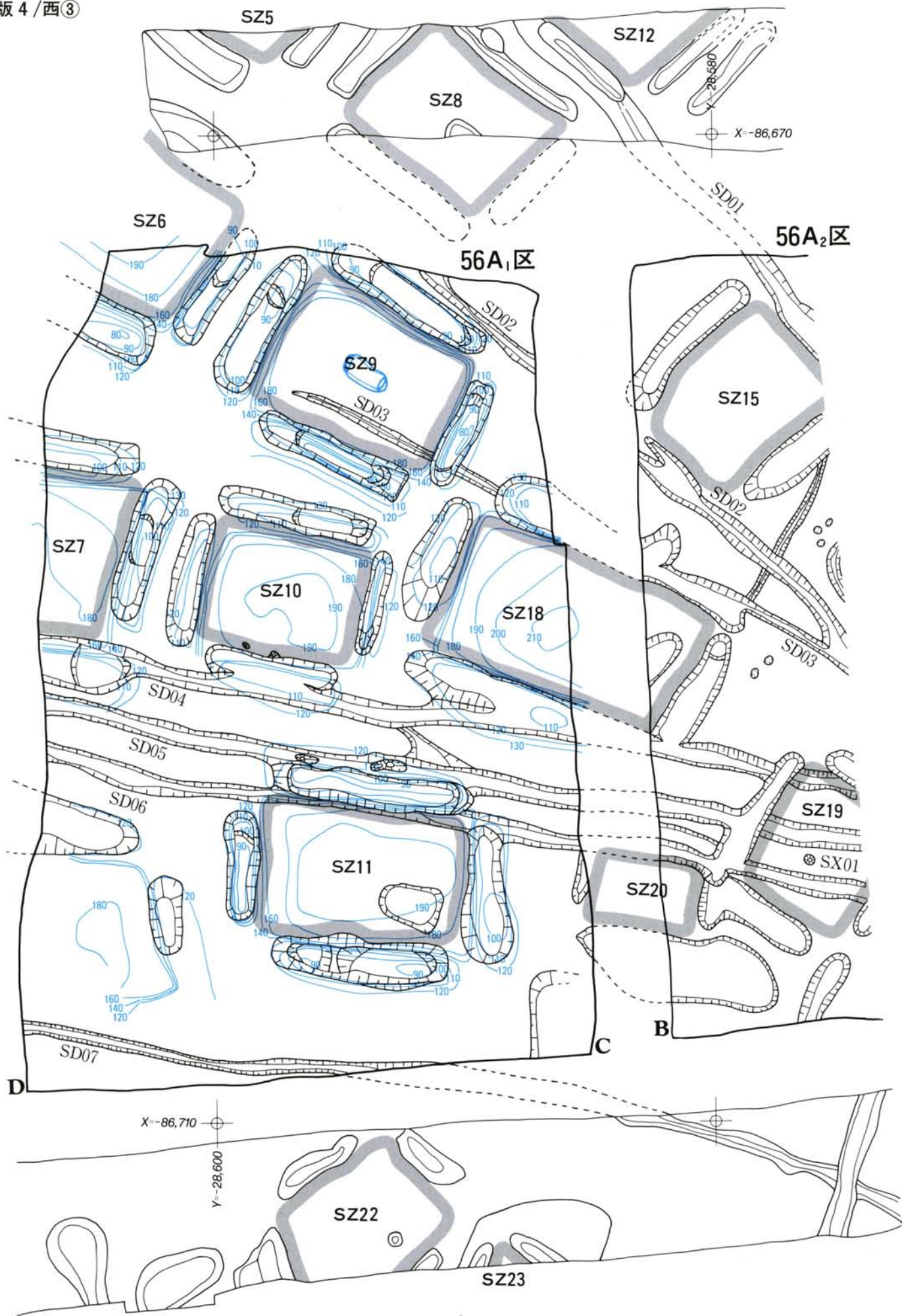
●60H区 SZ1 プラン・周溝土層セクション

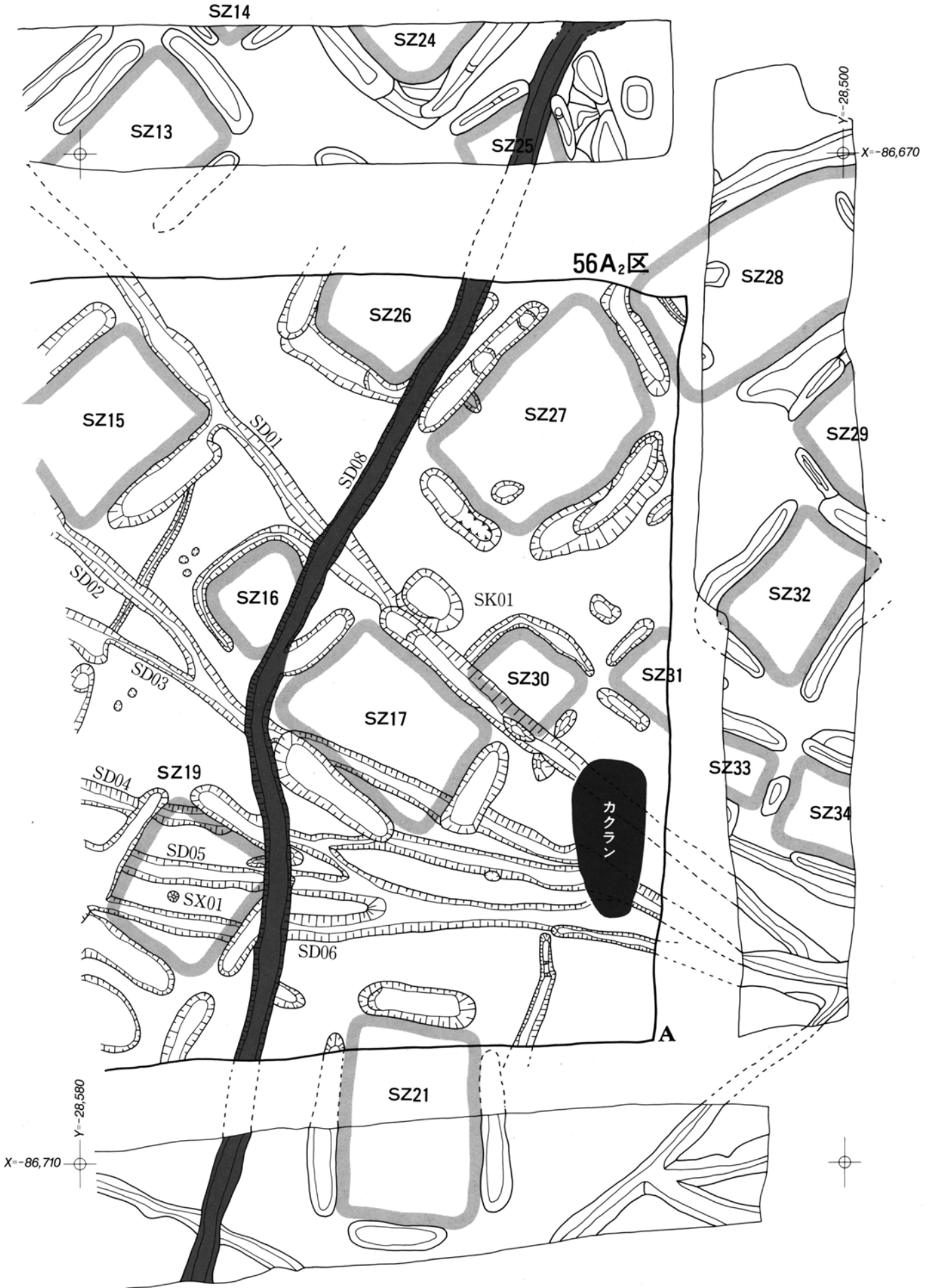


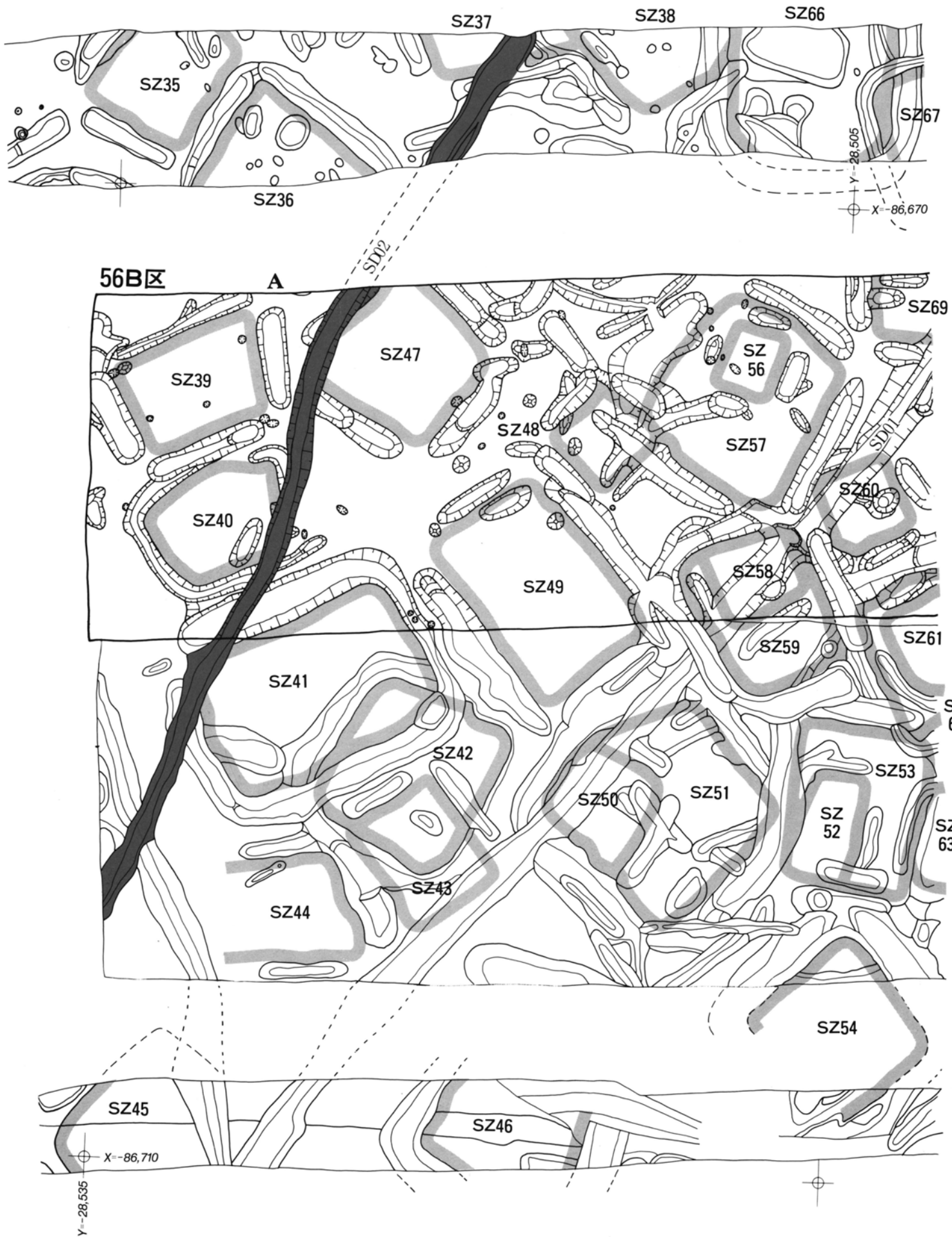
(1:40)

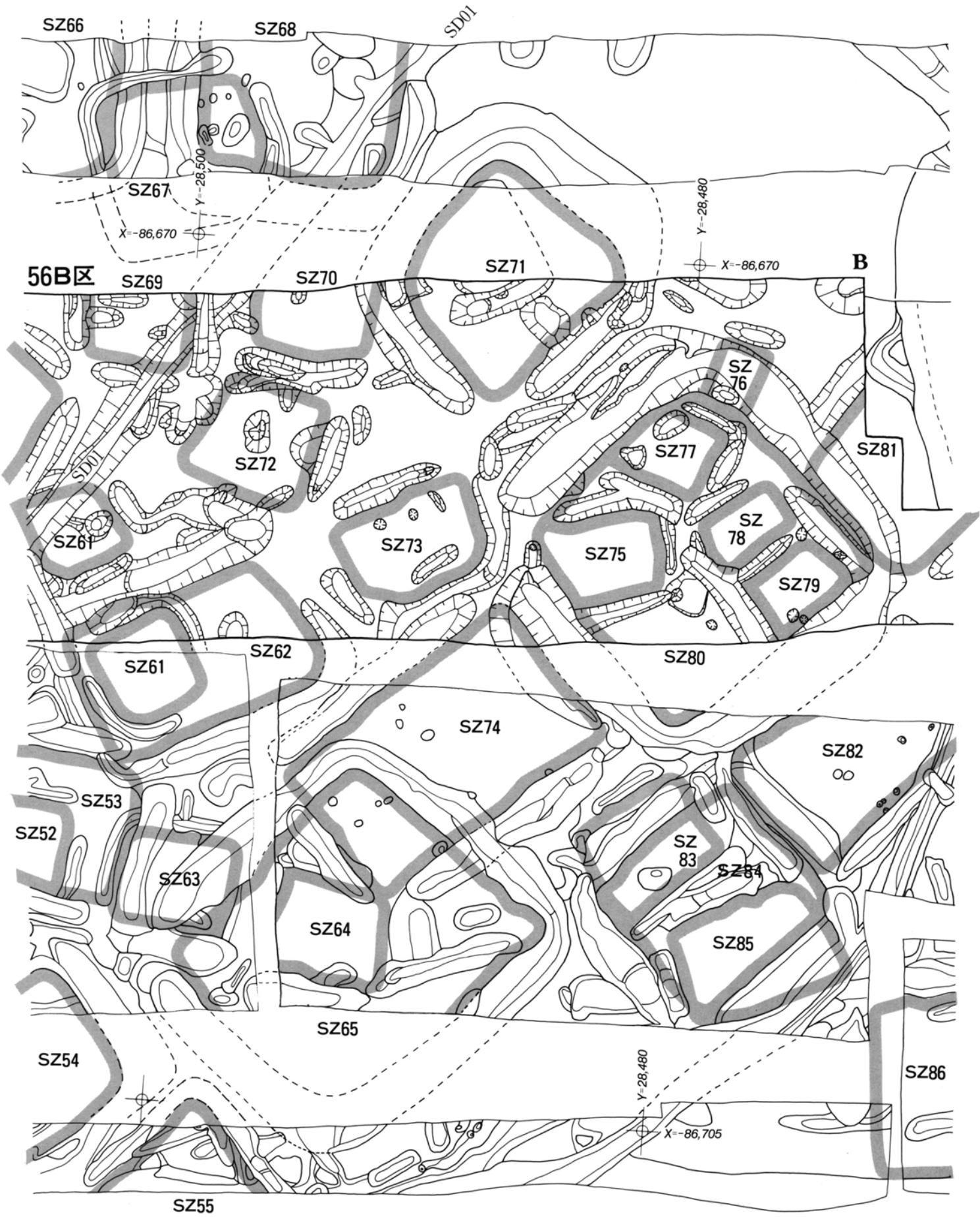
●60H区 東壁土層セクション(図版2)



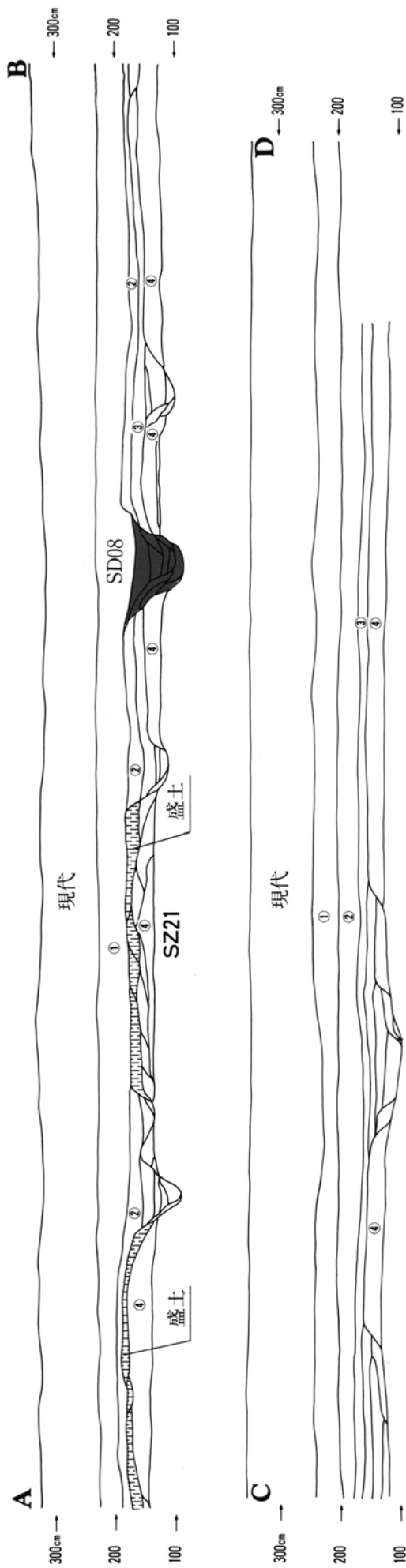




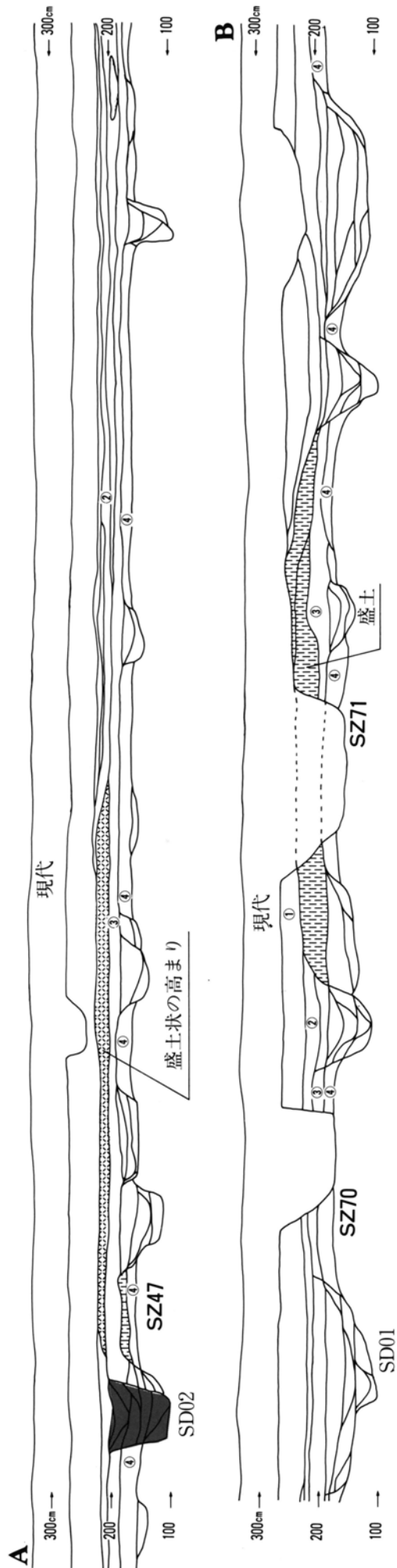




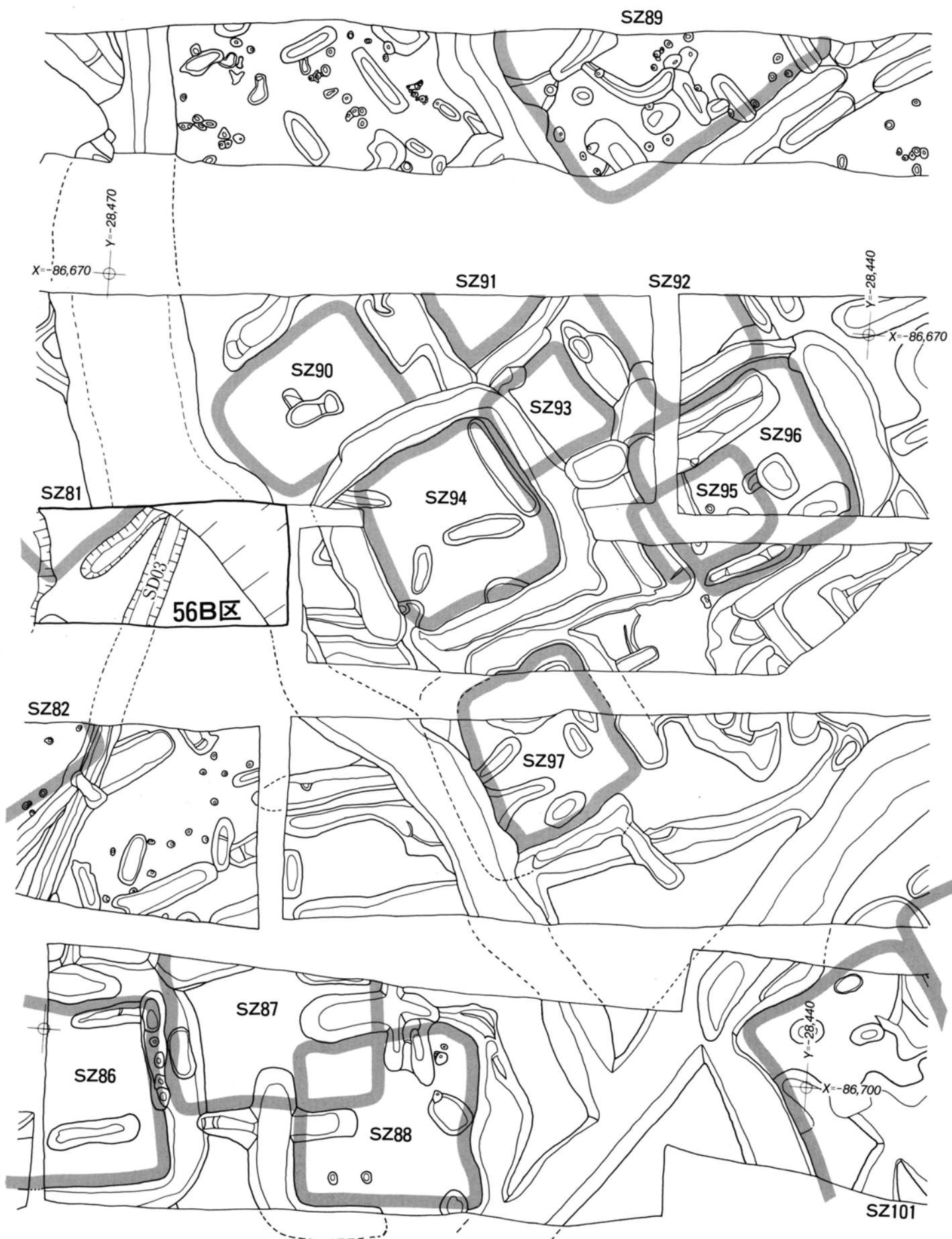
●56A₂区 南壁土層セクション(1:100)

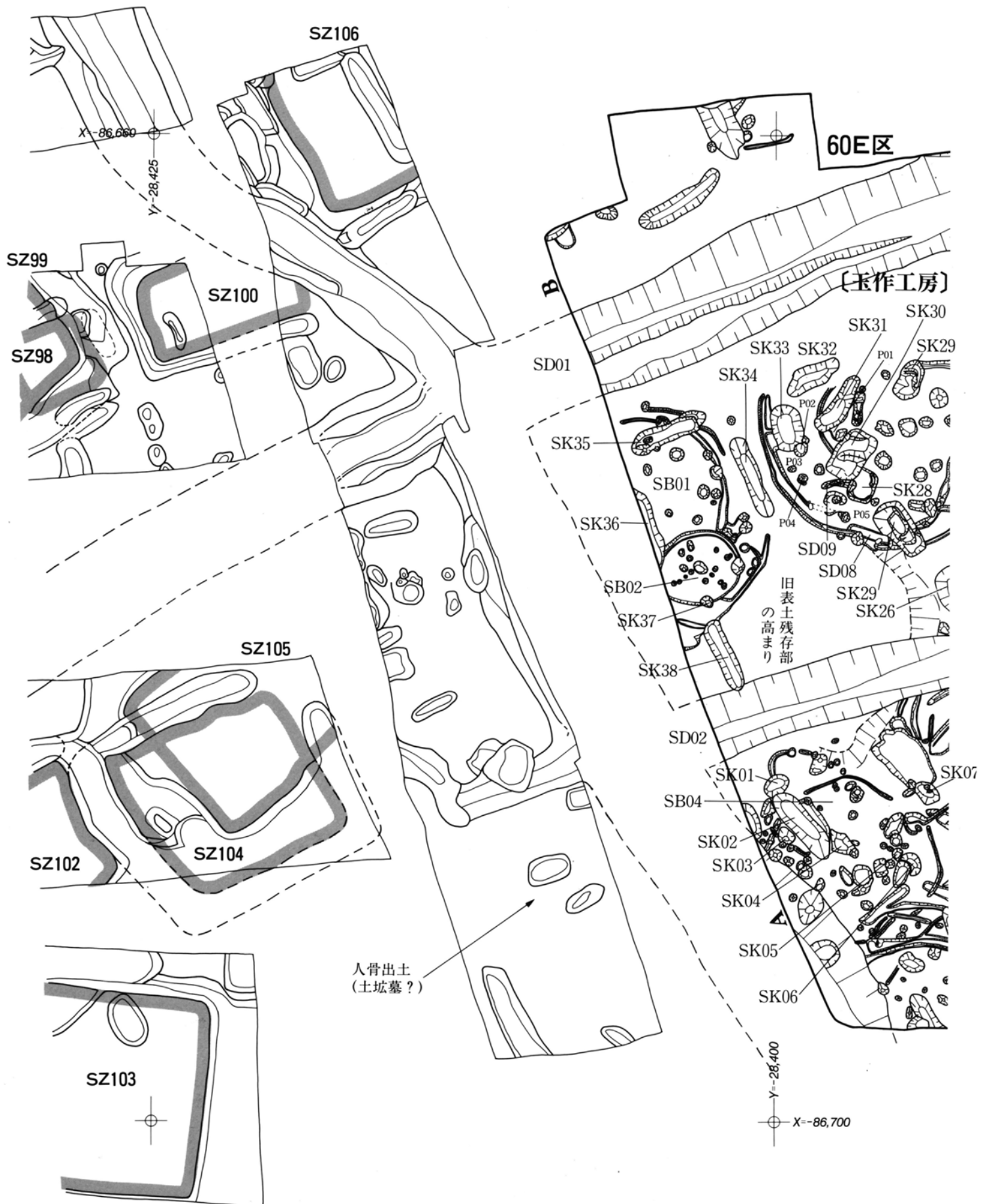


●56B区 北壁土層セクション(1:100)



- ①古代～中世
- ②古墳時代以降
- ③弥生時代中期以降
- ④弥生時代中期以前



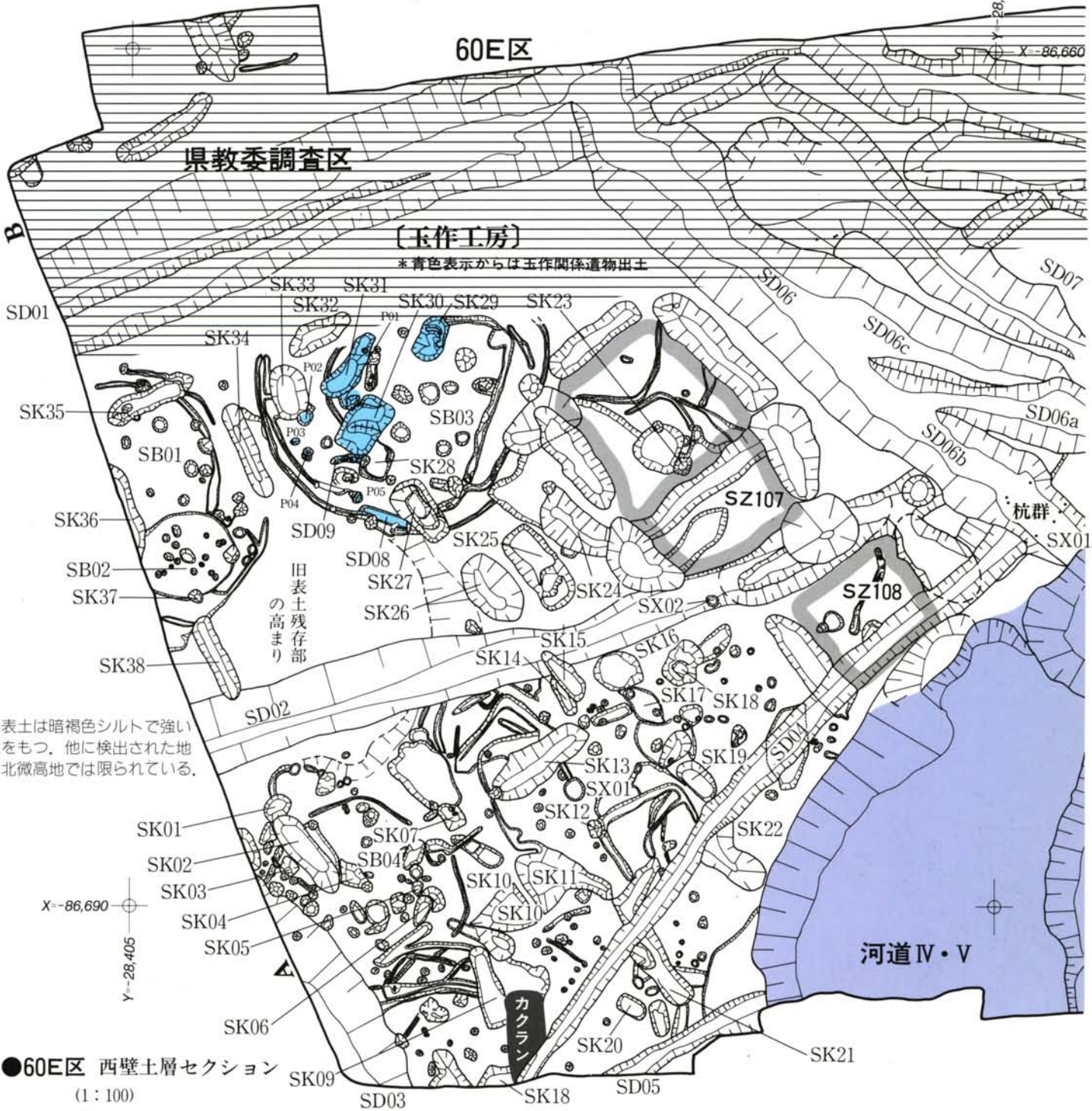


60E区

県教委調査区

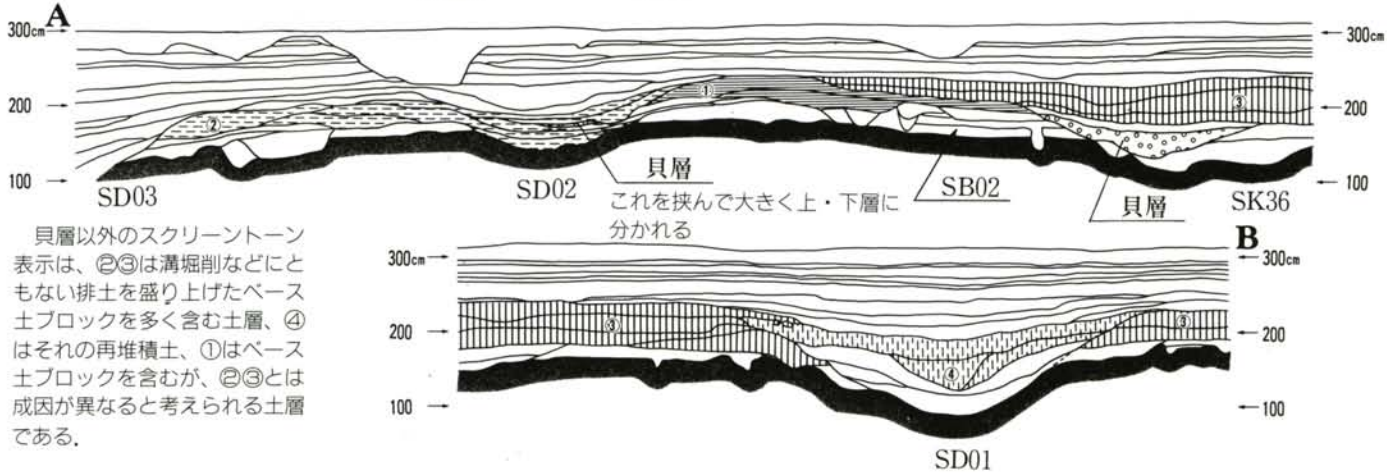
〔玉作工房〕

*青色表示からは玉作関係遺物出土

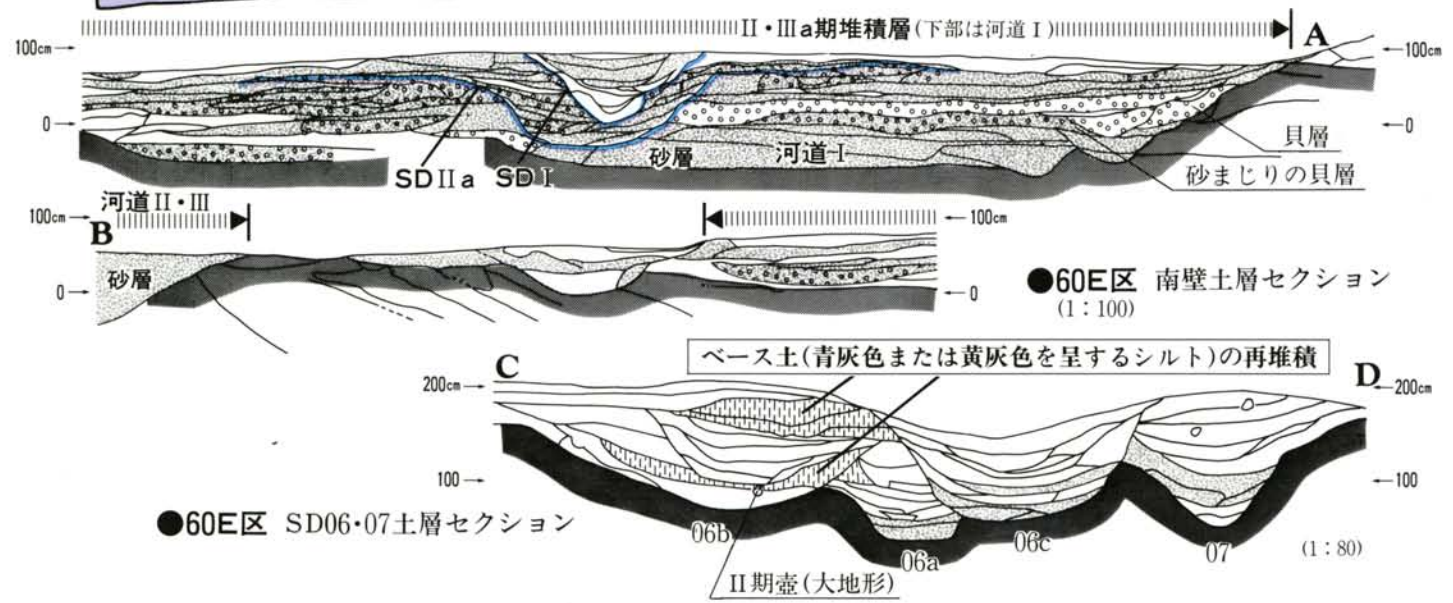
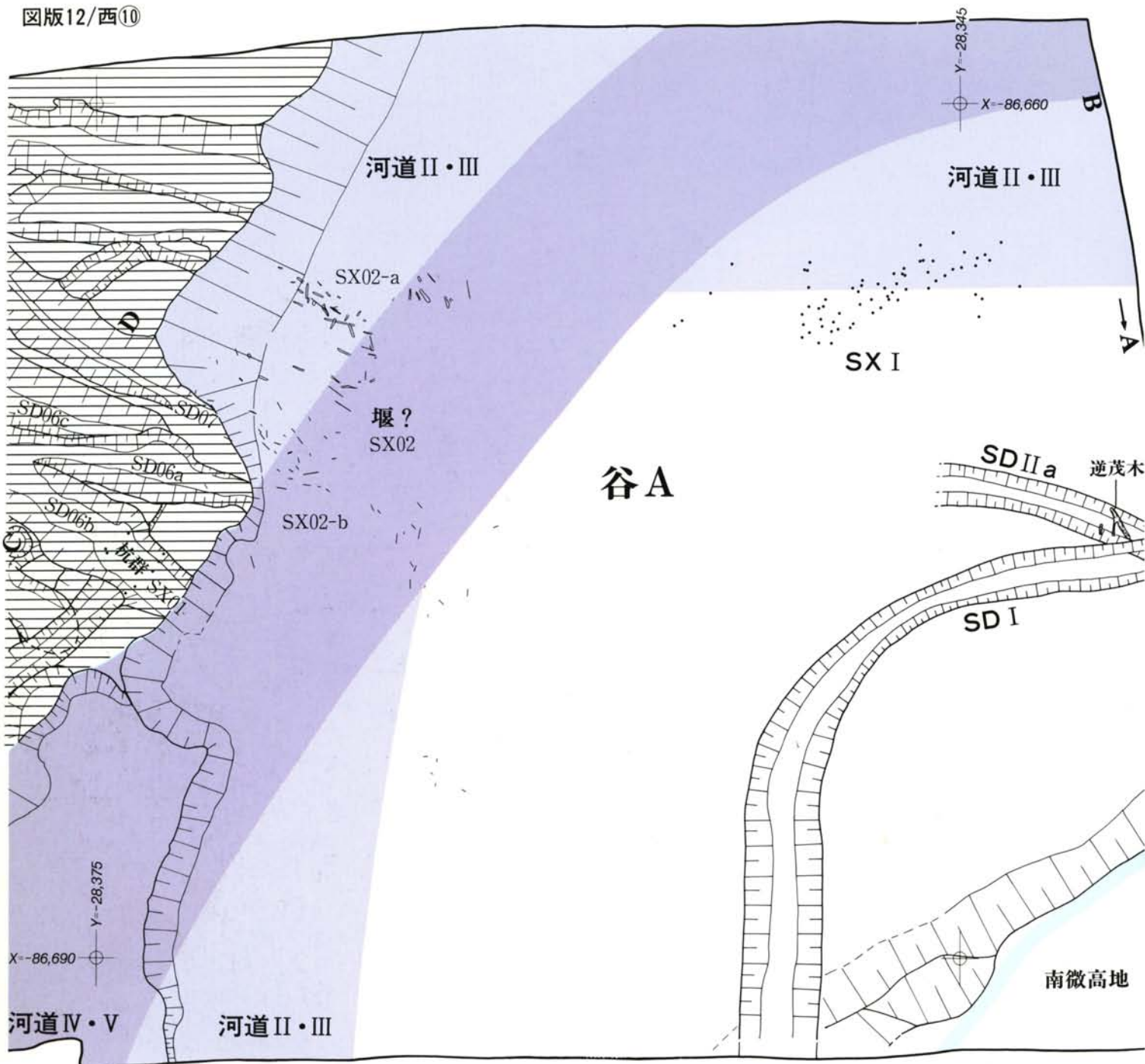


*旧表土は暗褐色シルトで強い粘性をもつ。他に検出された地点は北微高地では限られている。

●60E区 西壁土層セクション (1:100)



貝層以外のスクリーントーン表示は、②③は溝堀削などにもない排土を盛り上げたベース土ブロックを多く含む土層、④はそれの再堆積土、①はベース土ブロックを含むが、②③とは成因が異なると思われる土層である。



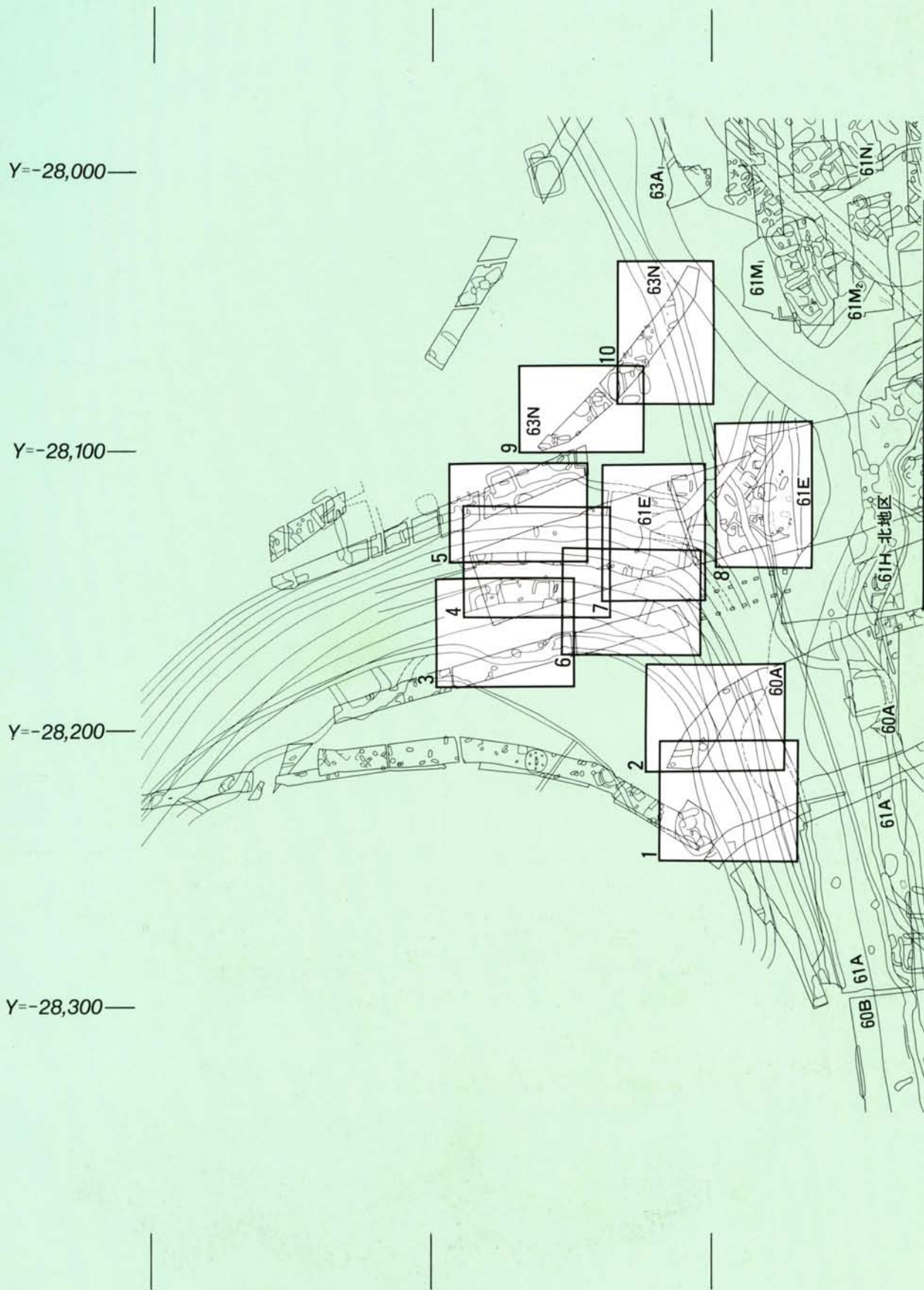
●60E区 南壁土層セクション (1:100)

●60E区 SD06・07土層セクション

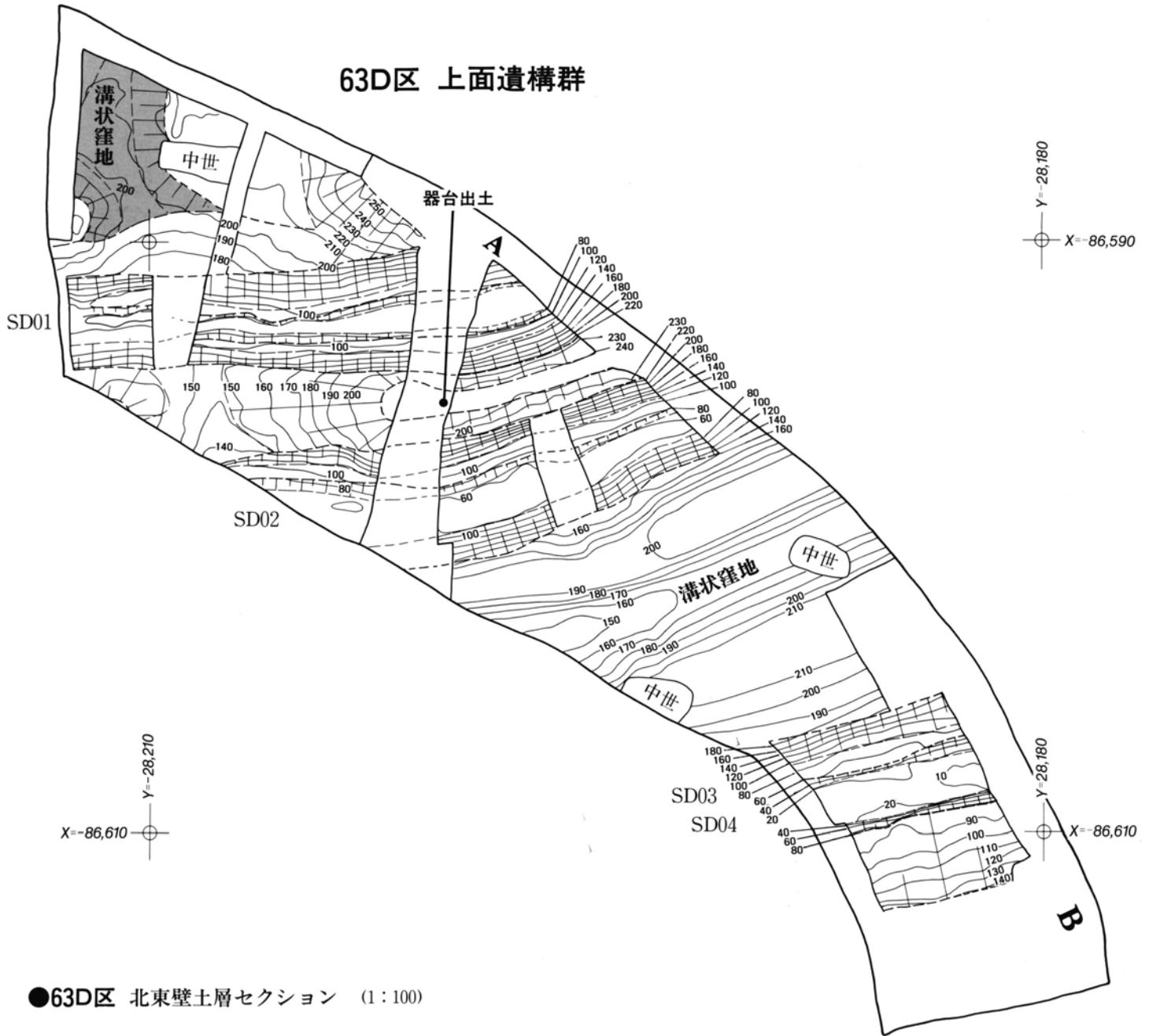
(1:80)

图版割付图 2

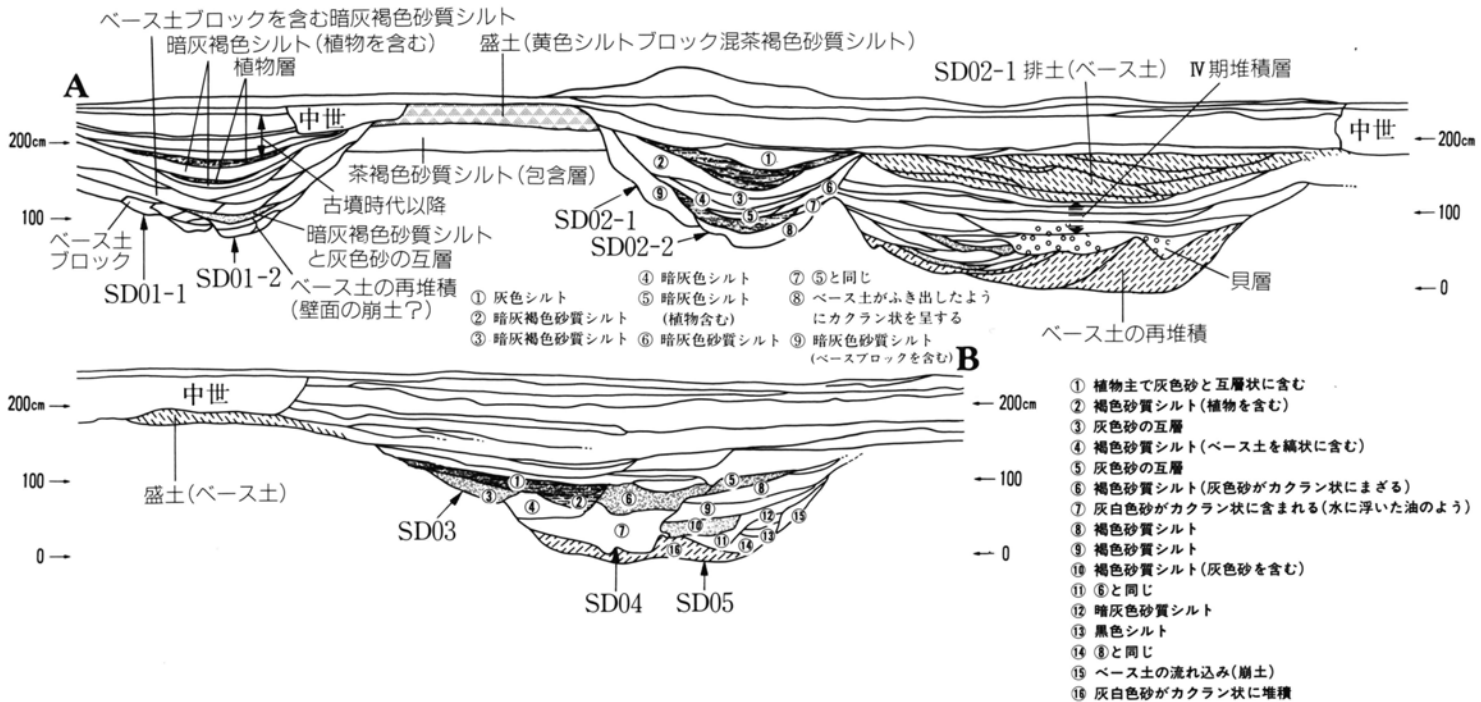
北部地区

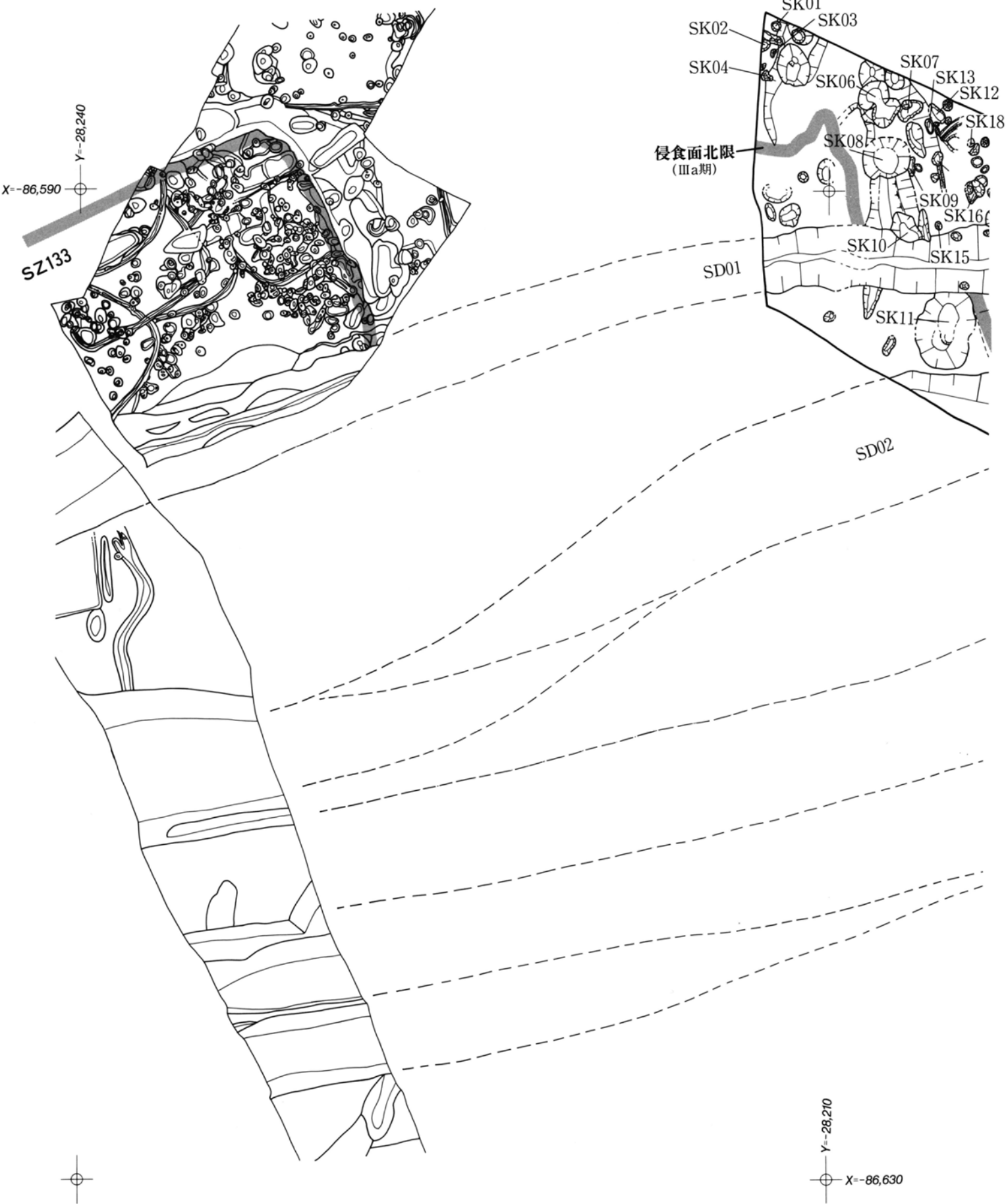


63D区 上面遺構群

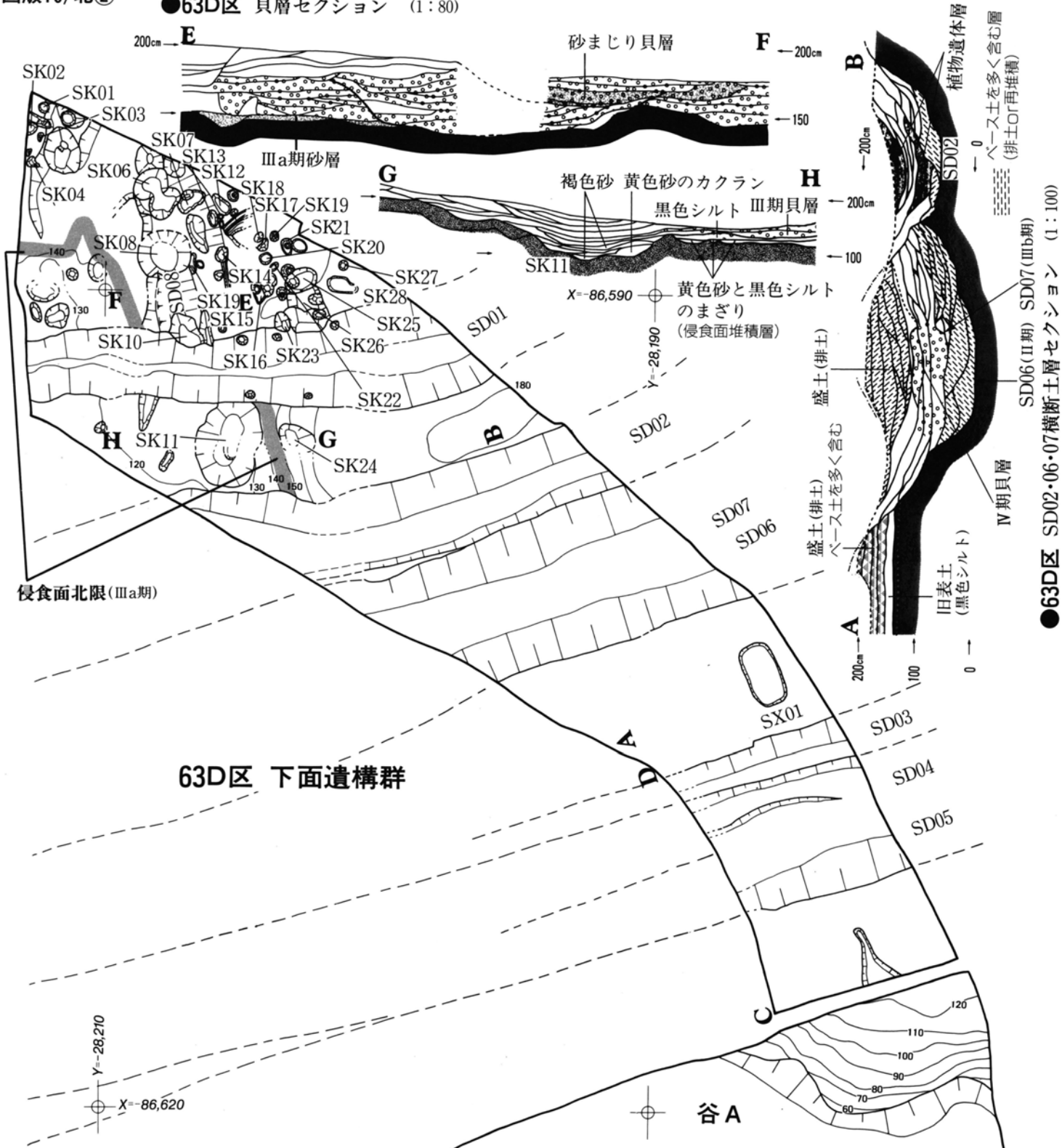


●63D区 北東壁土層セクション (1:100)





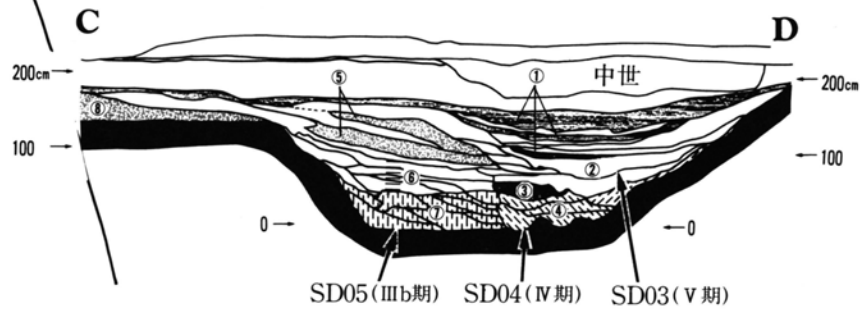
●63D区 貝層セクション (1:80)



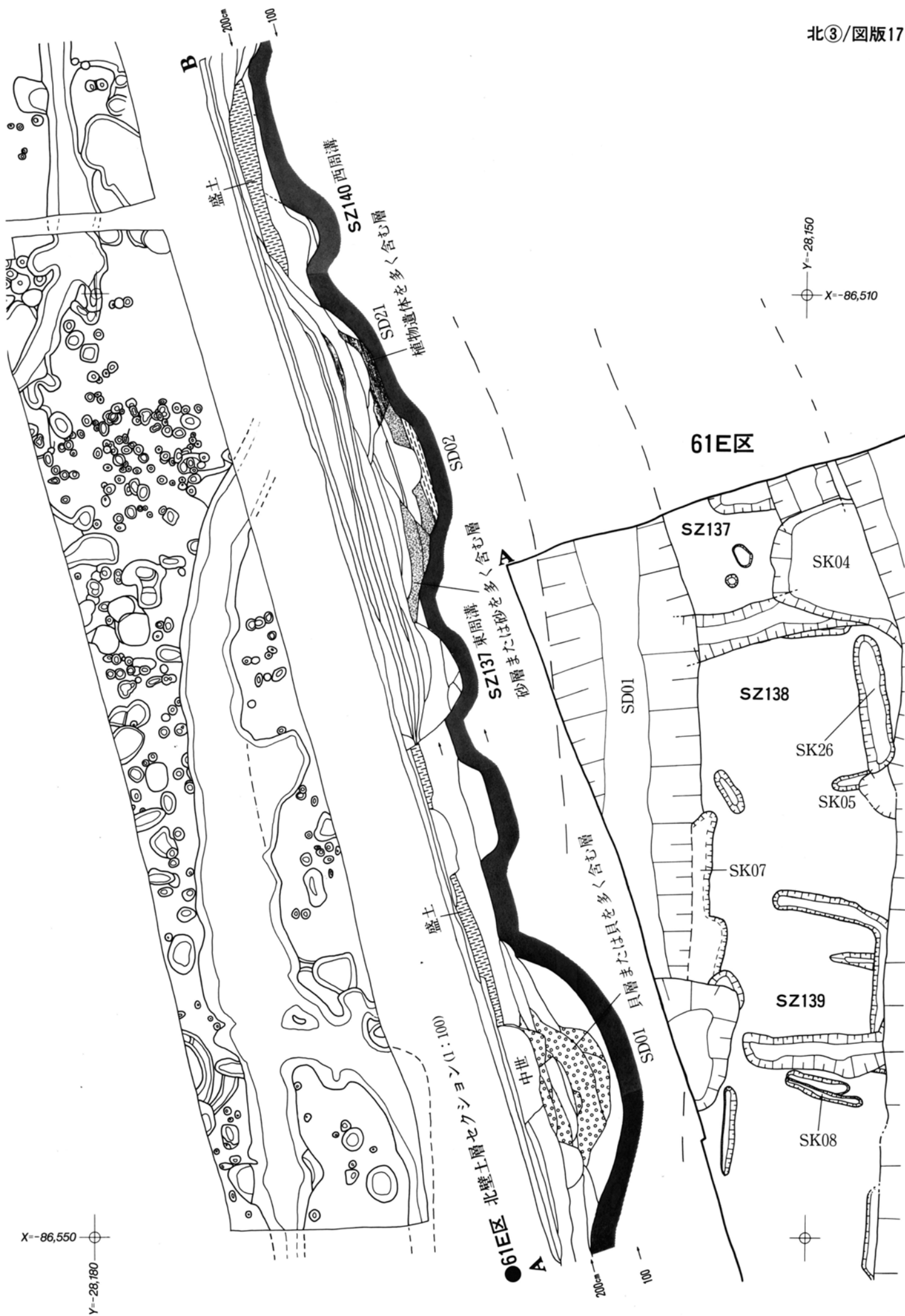
63D区 下面遺構群

●63D区 SD03・04・05土層セクション (1:100)

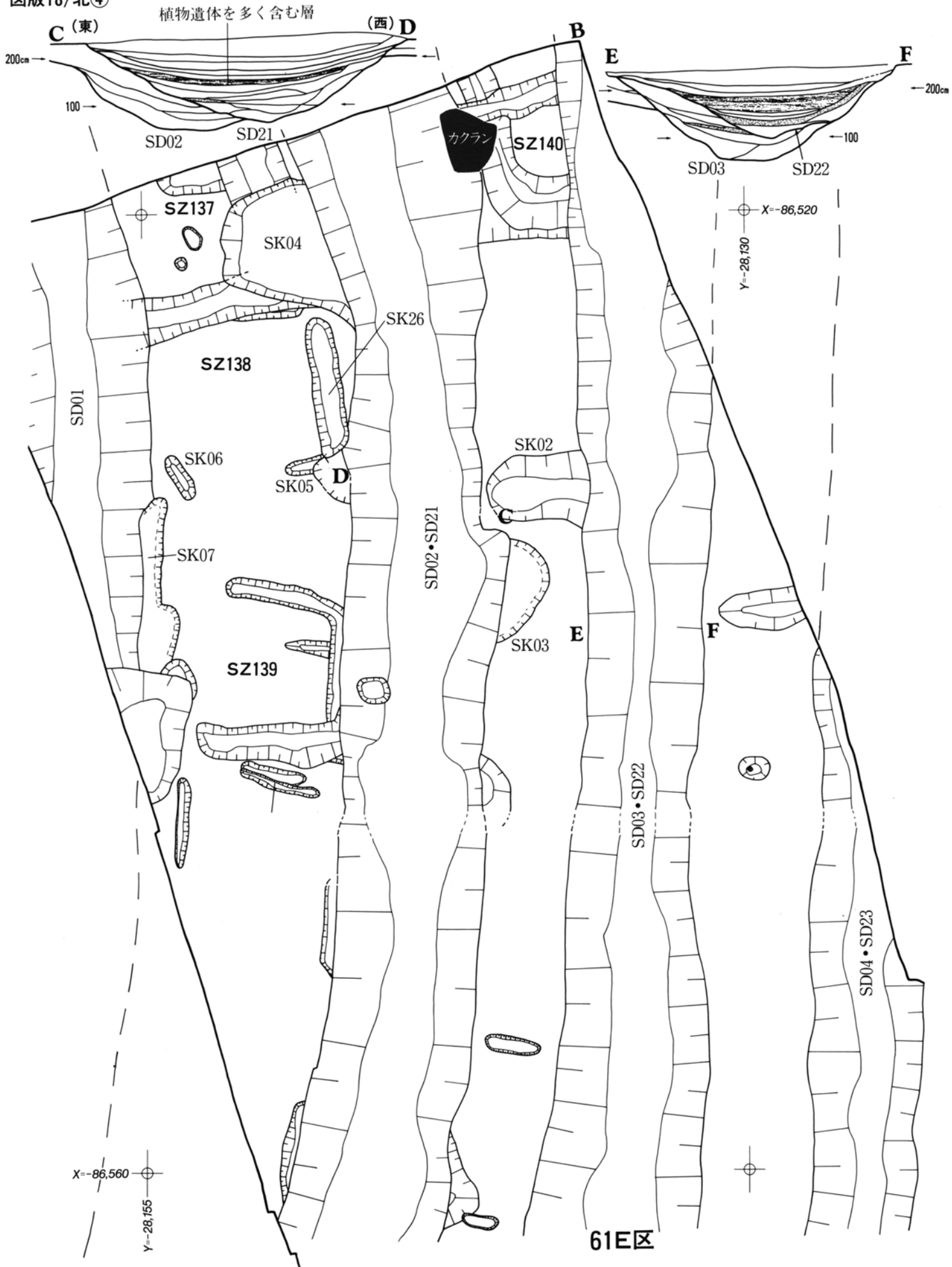
- ① 植物遺体
- 古墳時代(Ⅶ期末?)
- ② 褐色砂質シルト
- 植物を多く含む
- 灰色砂を互層状に含む
- ③ 植物遺体
- ④ カクラン状の灰白色砂
- ⑤ 灰白色砂を互層状に含む
- ⑥ 暗褐色砂質シルト
- Ⅳ期
- 木製品を多く含む
- ⑦ カクラン状の灰白色砂
- ⑧ 灰褐色砂

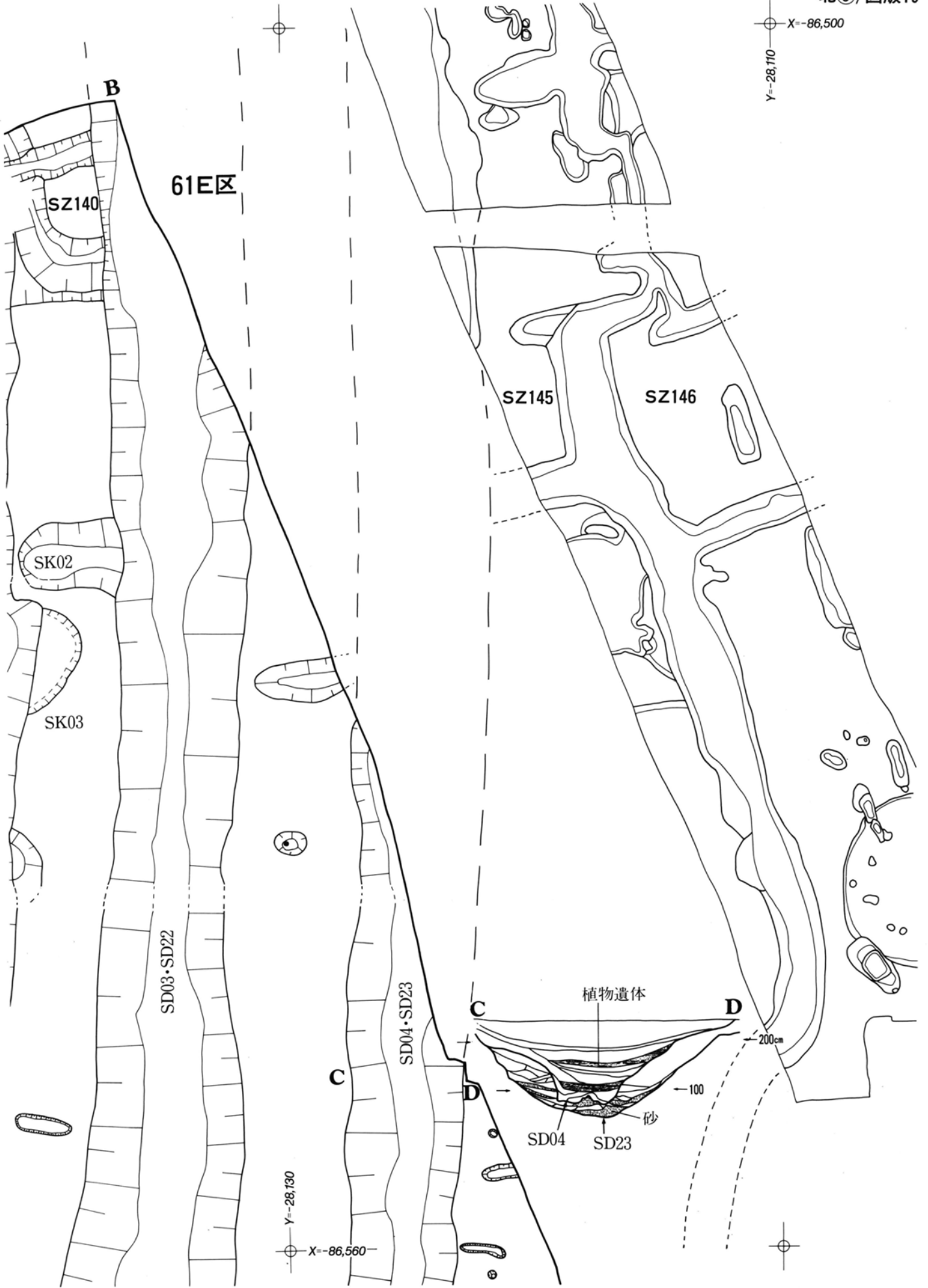


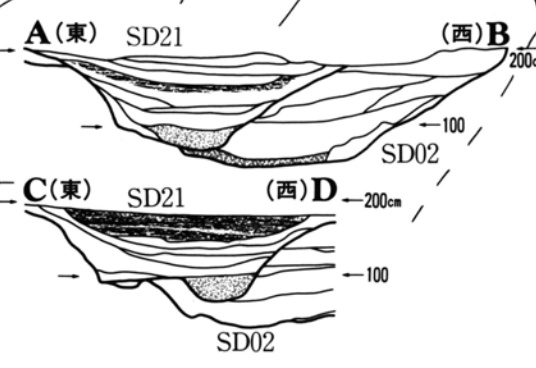
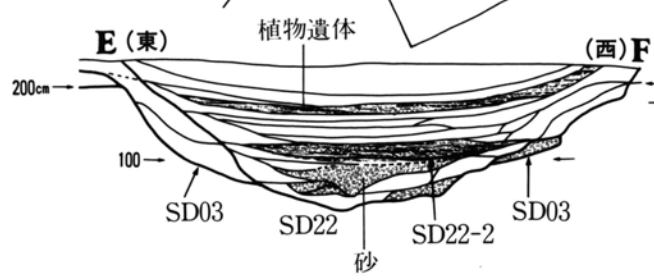
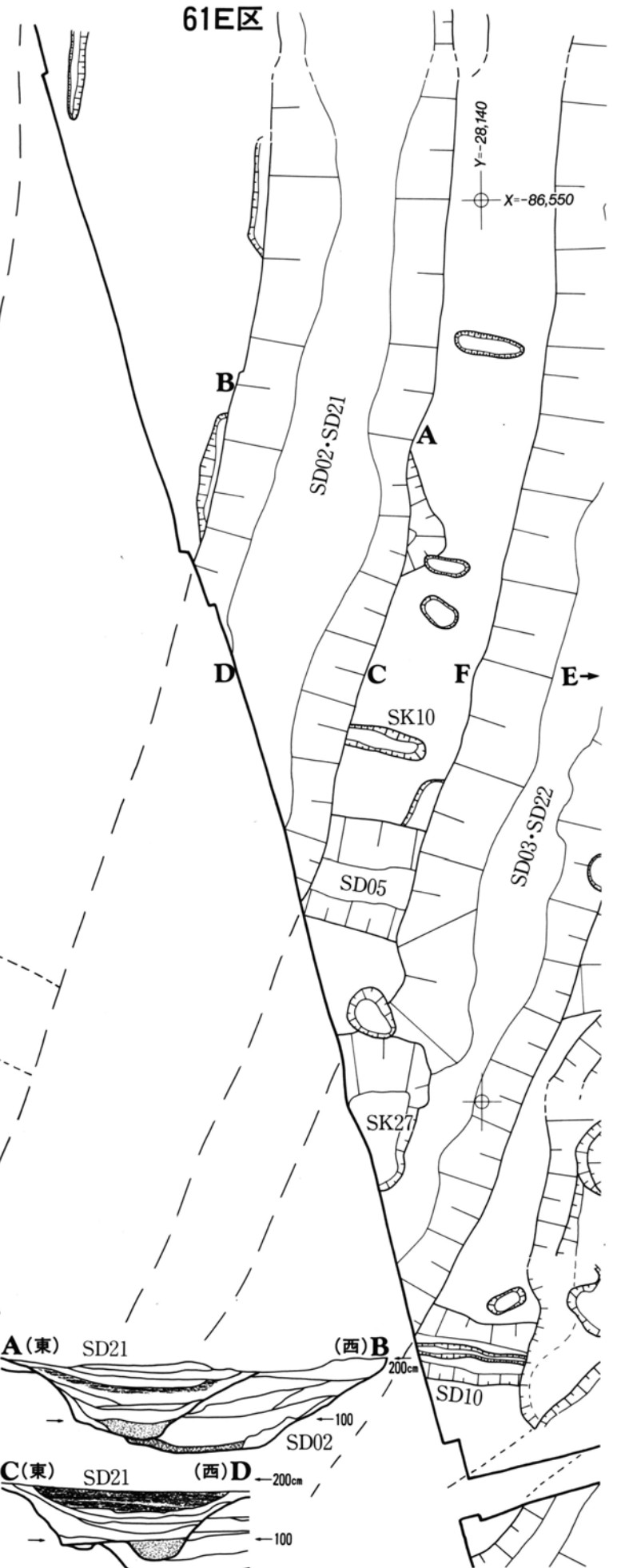
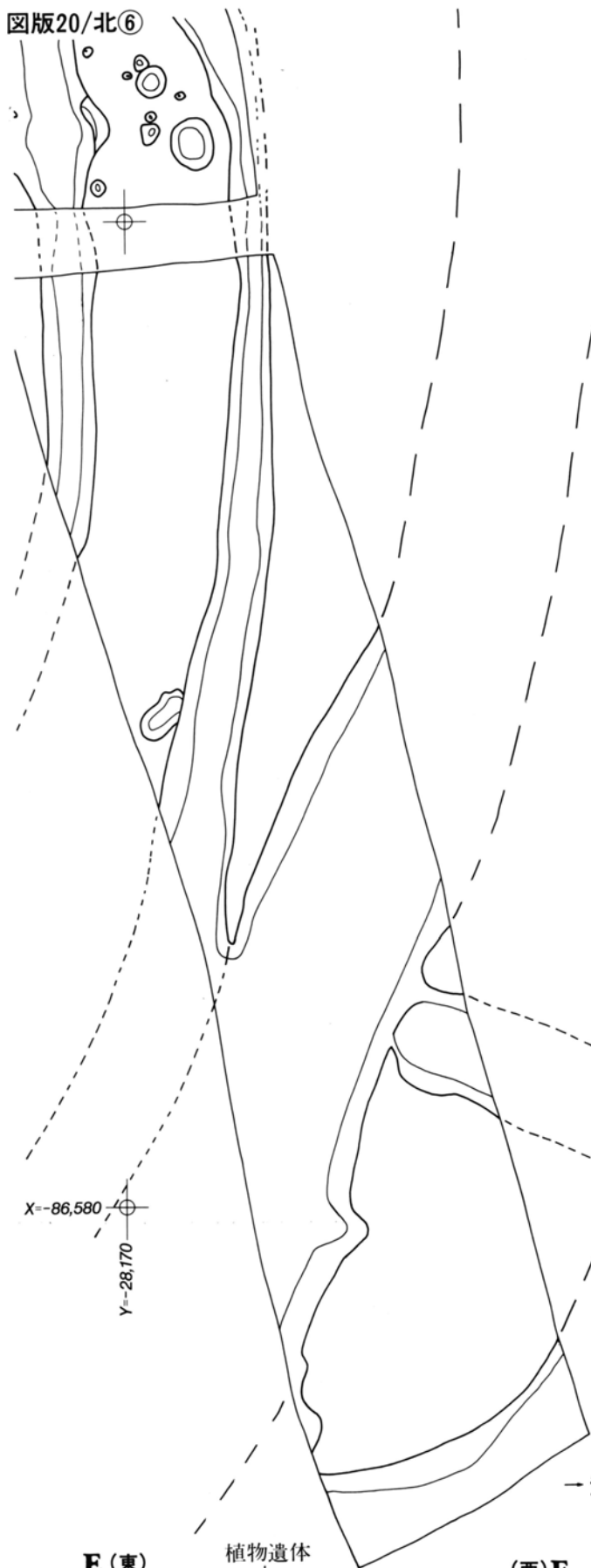
●63D区 SD02・06・07横断土層セクション (1:100)



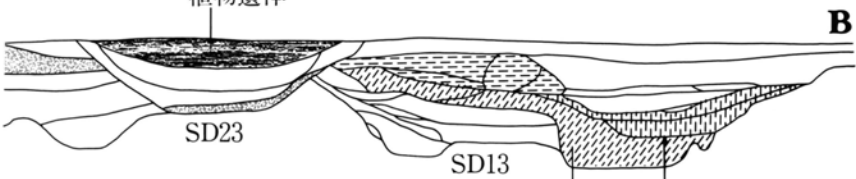
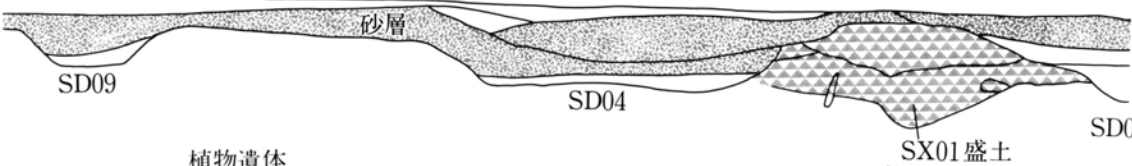
図版18/北④







200cm →



※プランの等高線はベース面
に対応している。

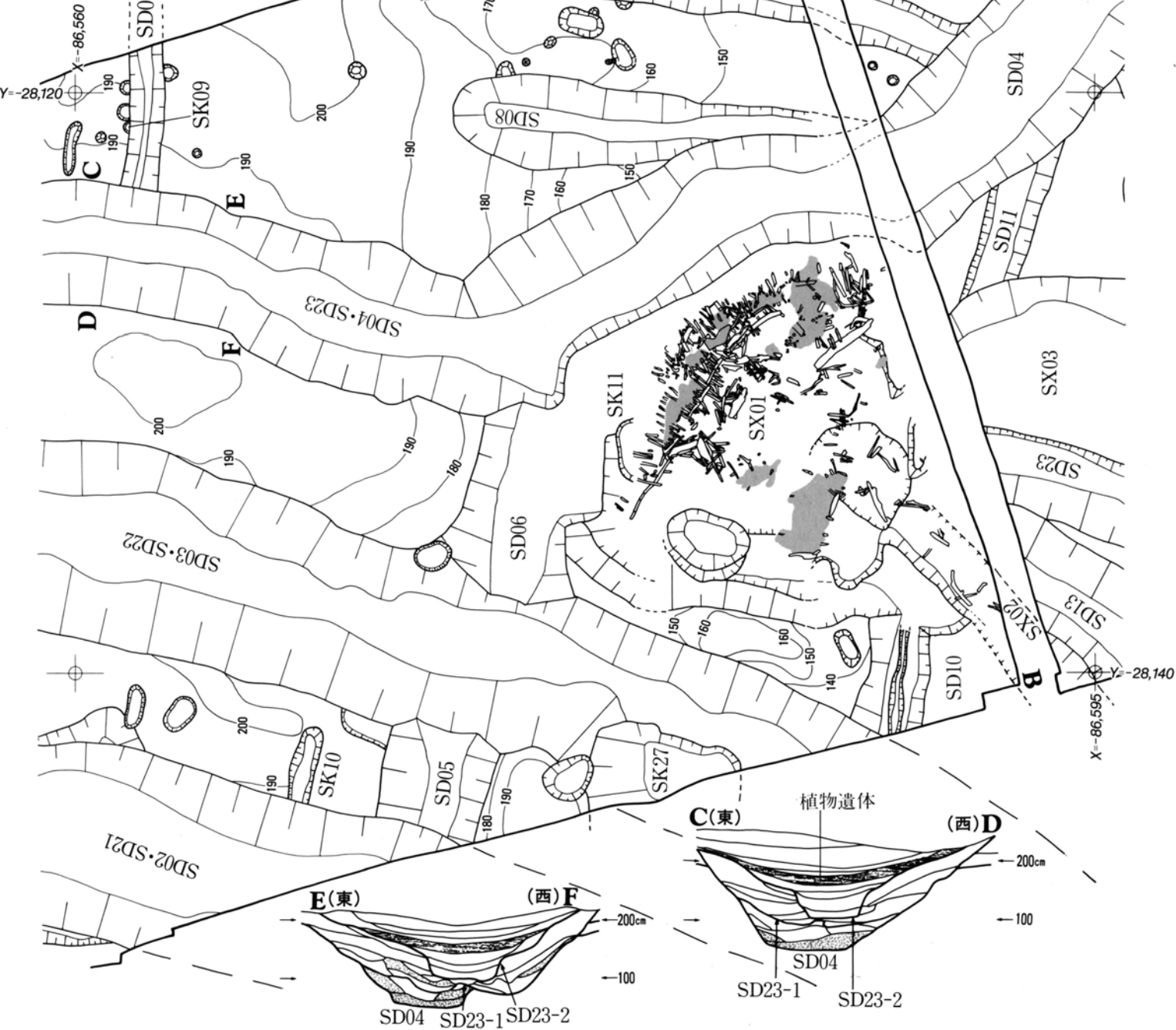
ベース土の堆積

SX01 盛土

SD03 ?

B

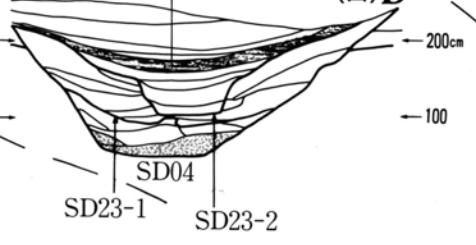
A



植物遺体

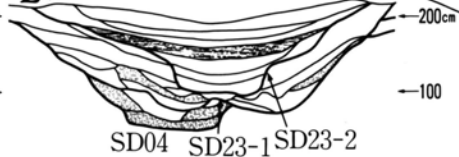
C(東)

(西) D



E(東)

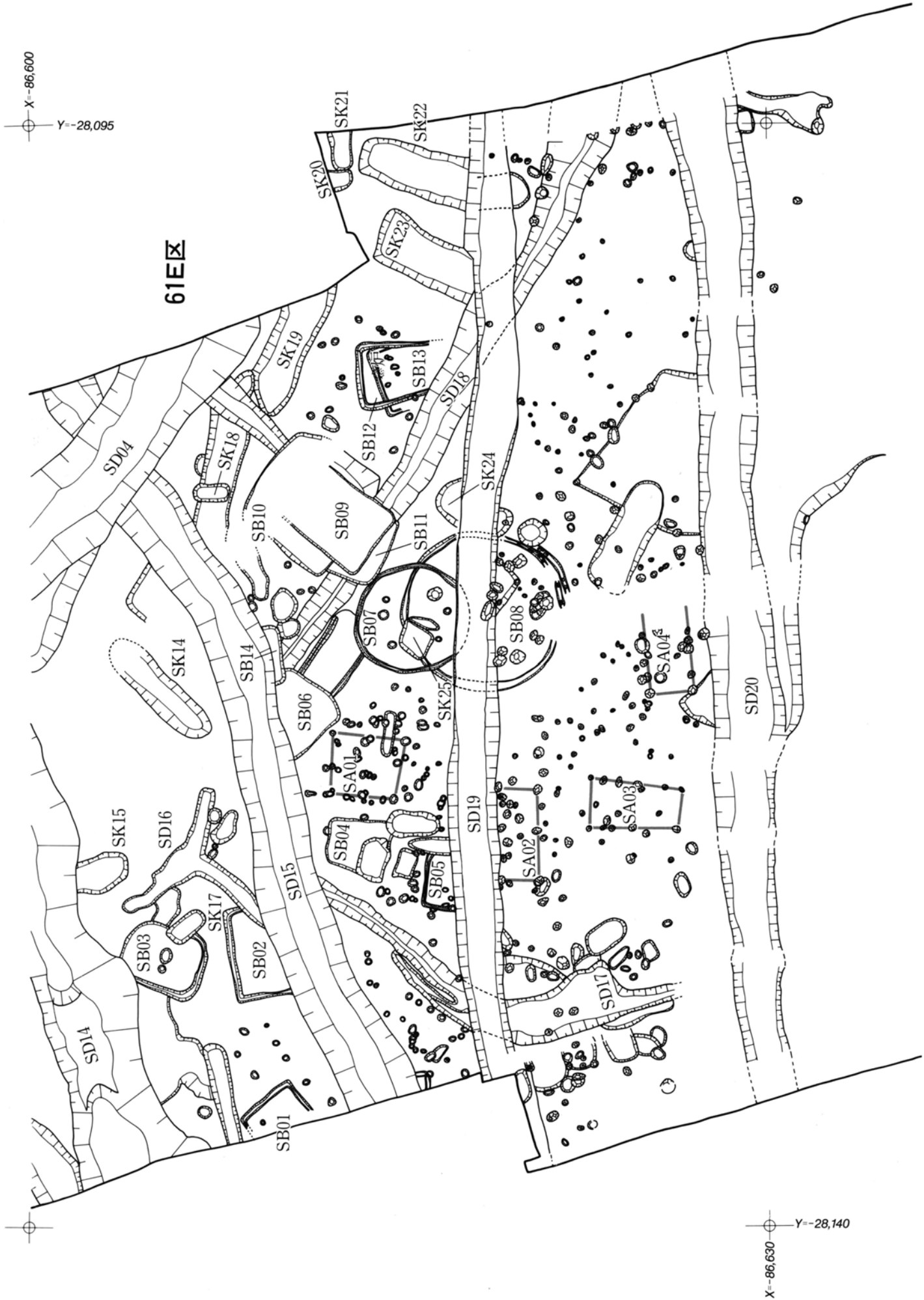
(西) F



SD04 SD23-1 SD23-2

X--86,600
Y--28,095

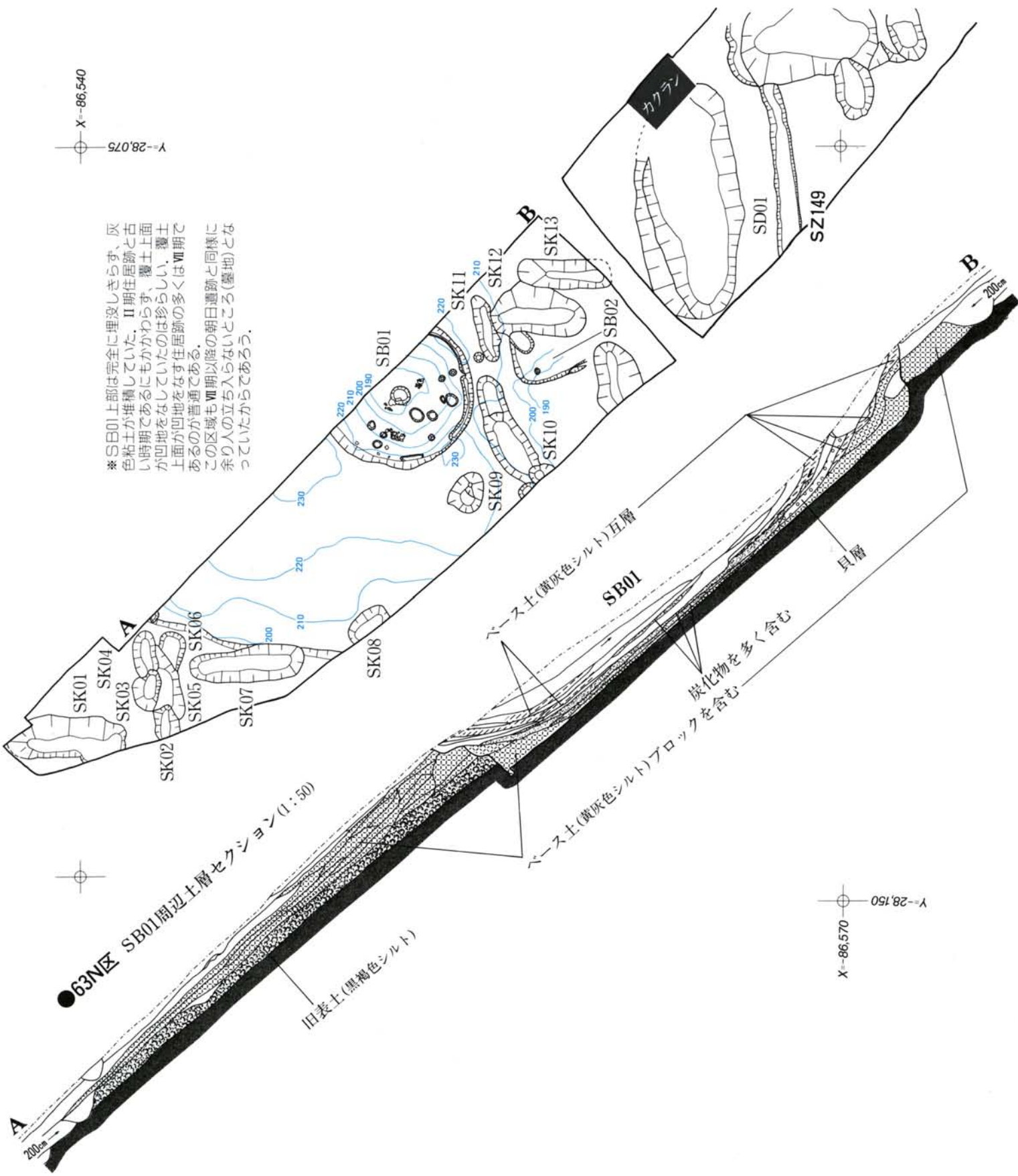
61E区



X--86,630
Y--28,140

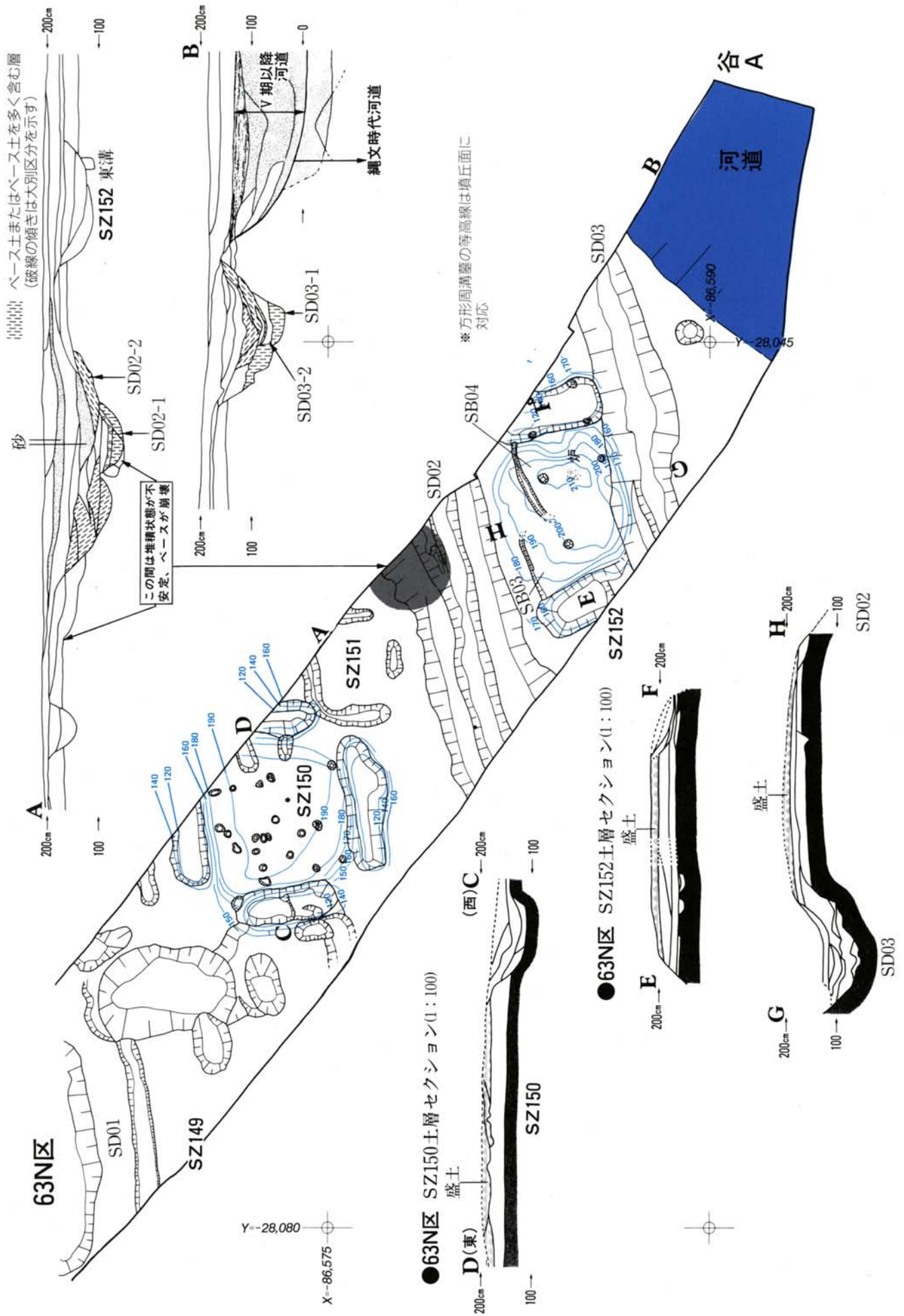
X--86,540
Y--28,075

*SB01上部は完全に埋没しきらず、灰色粘土が堆積していた。II期住居跡と古い時期であるにもかかわらず、覆土上面が凹地をなしていたのは珍らしい。覆土上面が凹地をなす住居跡の多くはVII期であるのが普通である。
この区域もVII期以降の朝日遺跡と同様に余り人の立ち入らないところ(墓地)となっていたからであろう。



●63N区 SB01周辺土層セクション(1:50)

X--86,570
Y--28,150



图版割付图 3

Y=-28,000

Y=-28,100

Y=-28,200

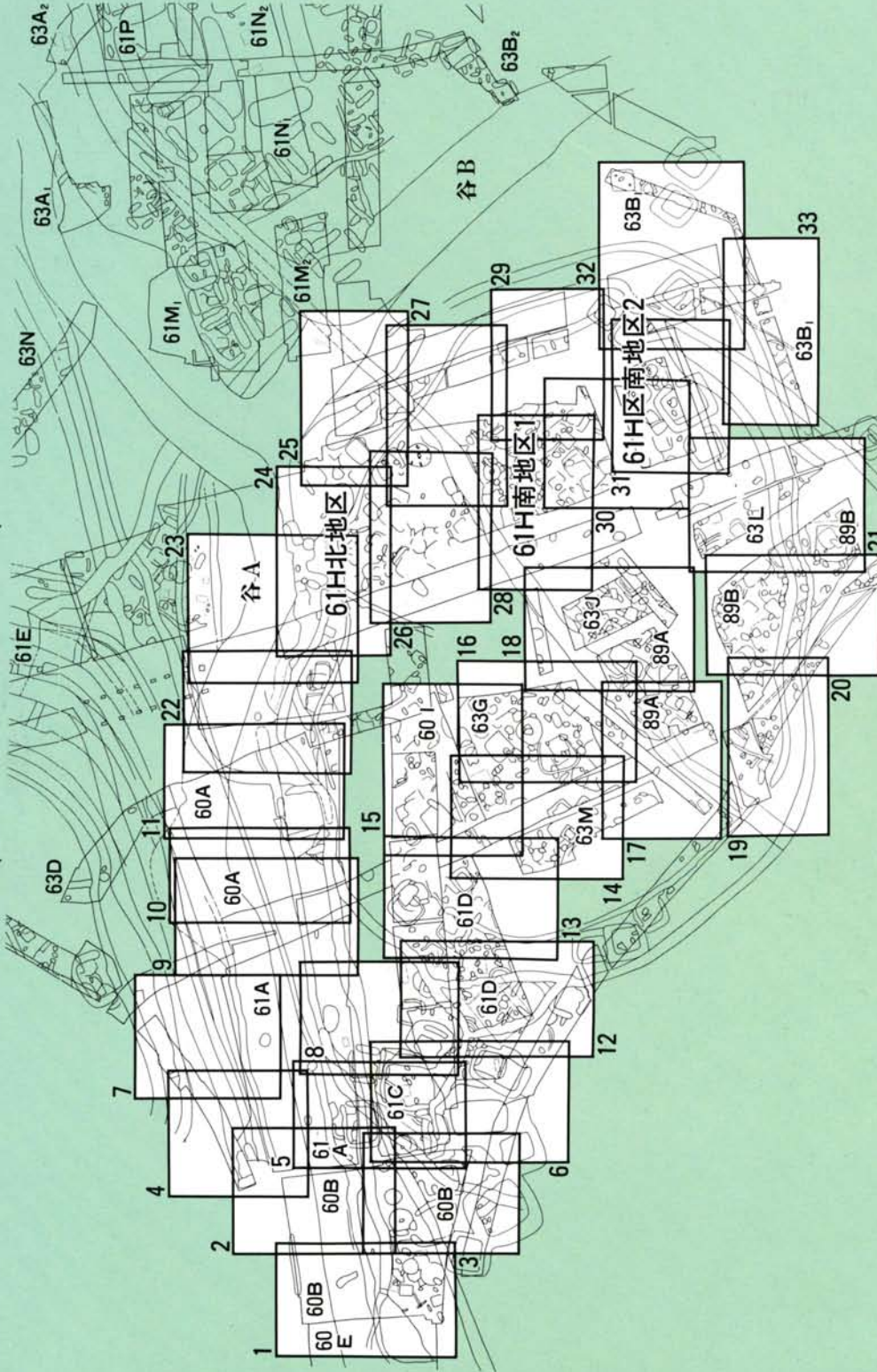
Y=-28,300

X=-86,600

X=-86,700

X=-86,800

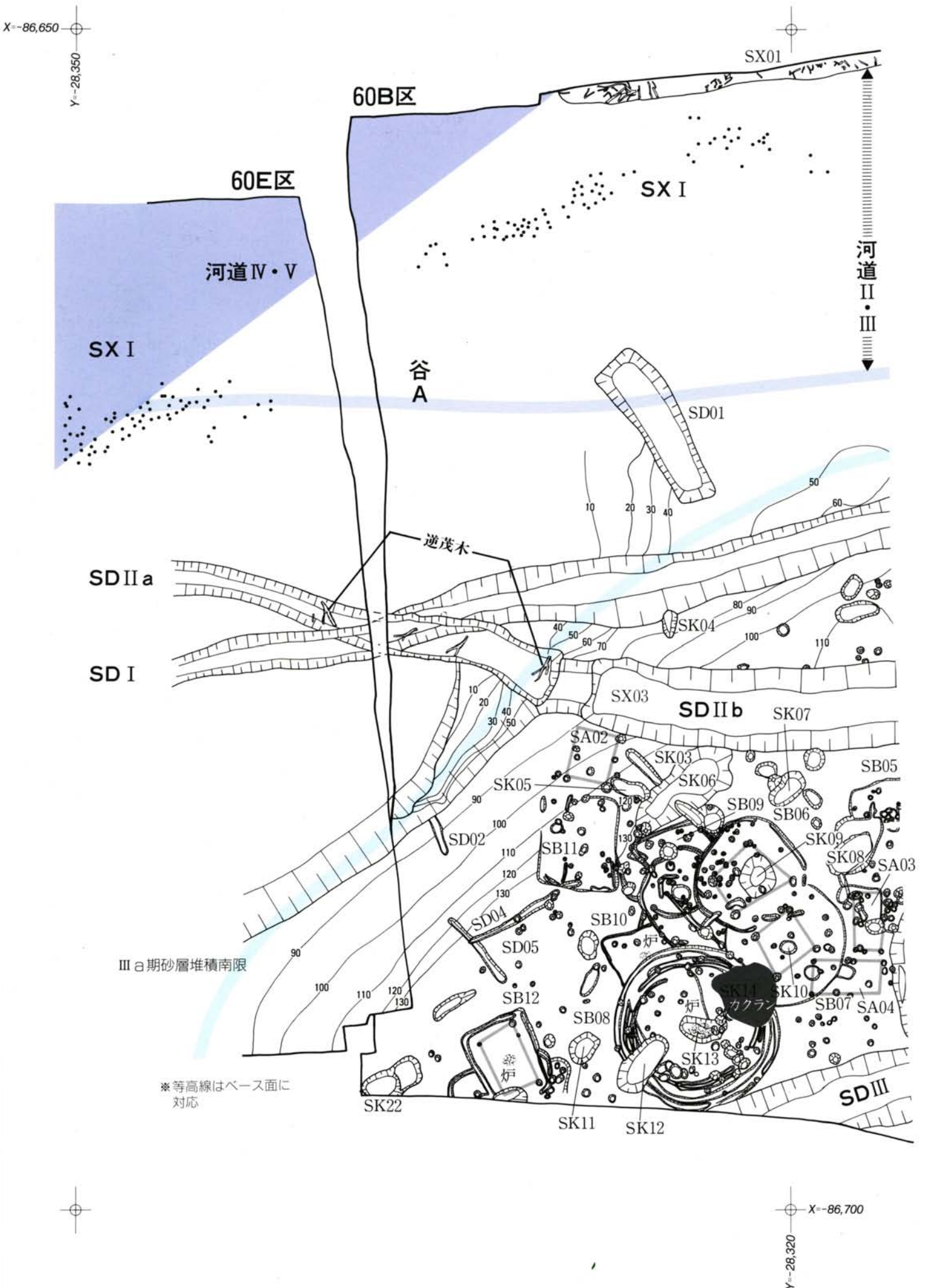
南部地区图



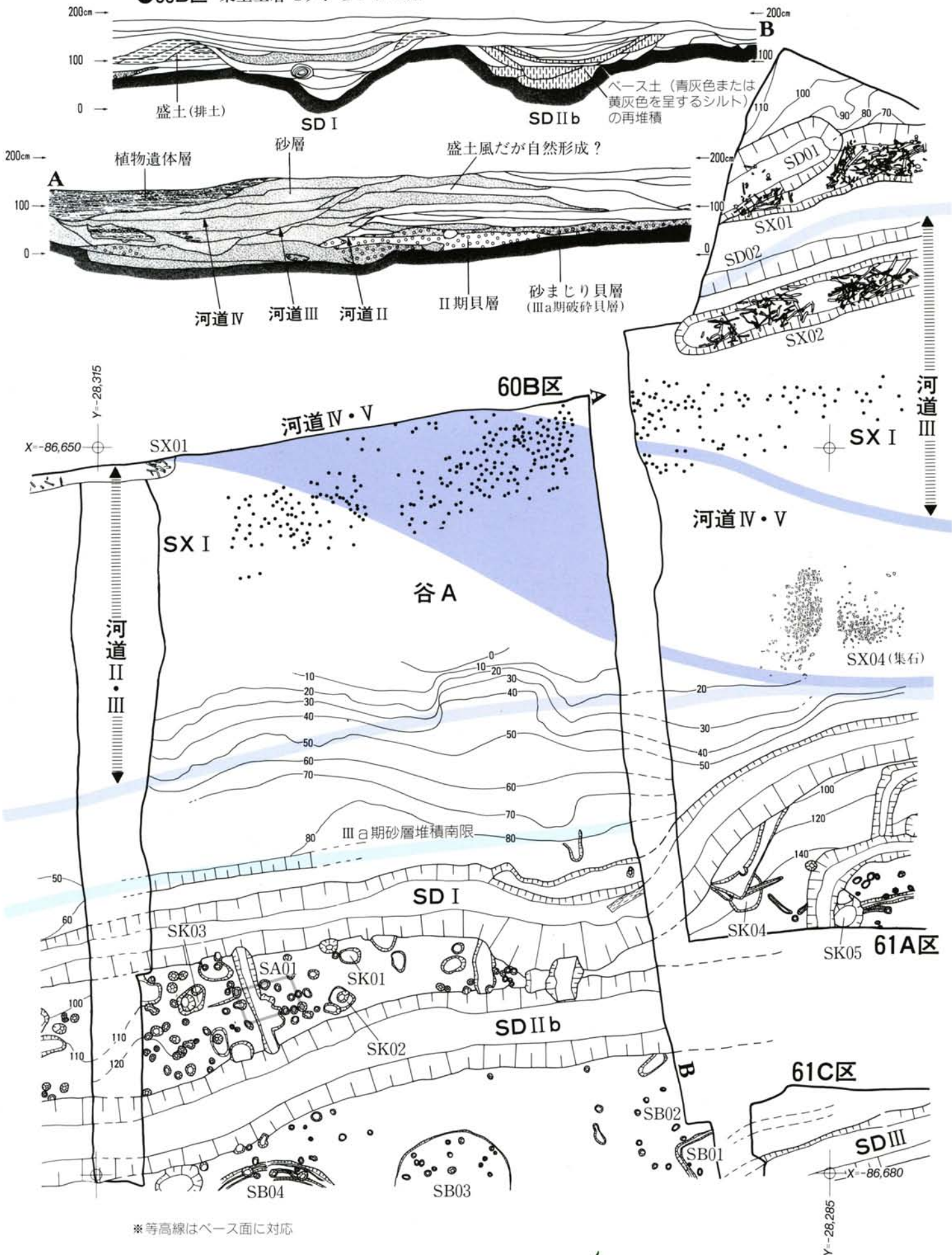
X=-86,600

X=-86,700

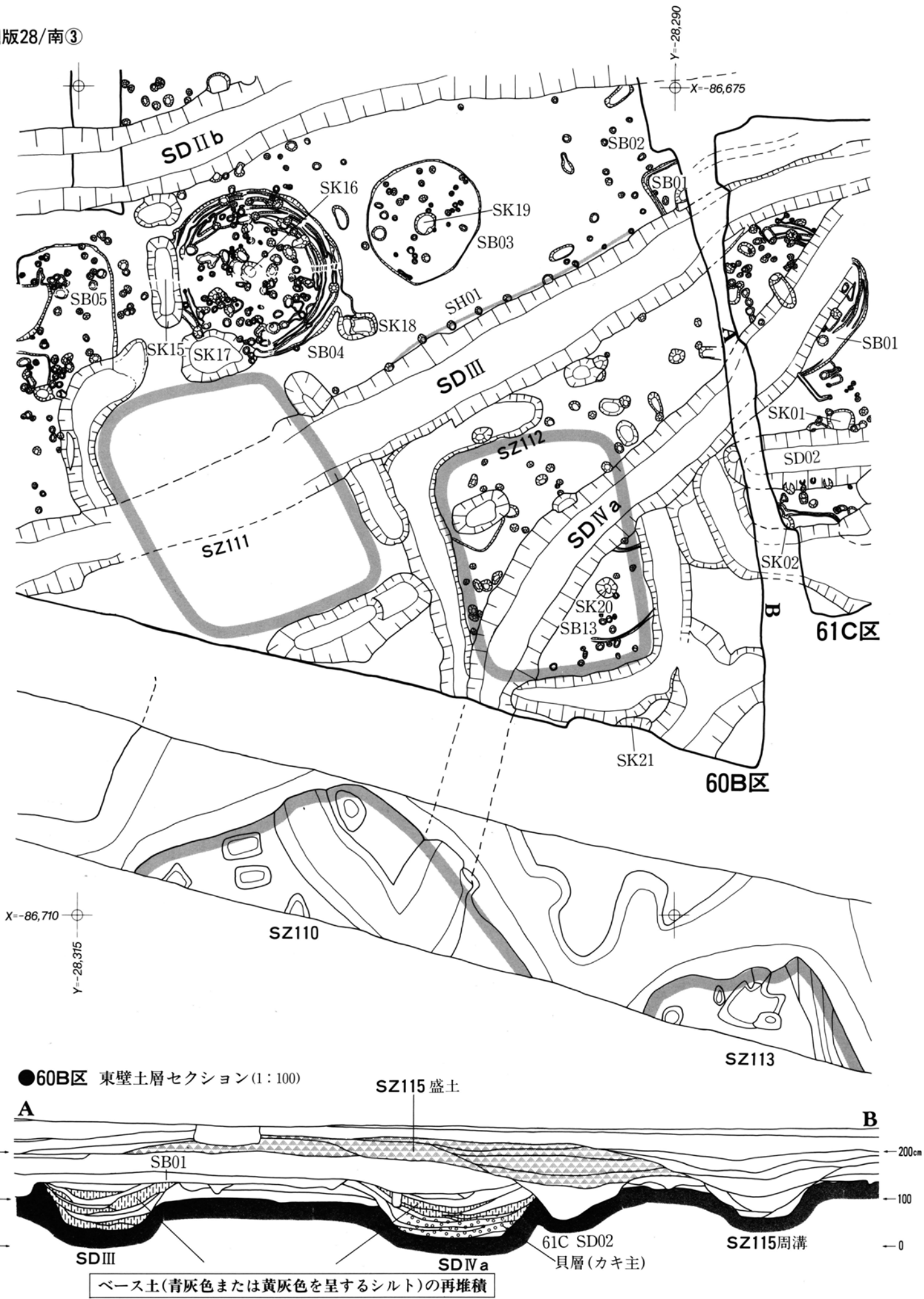
X=-86,800



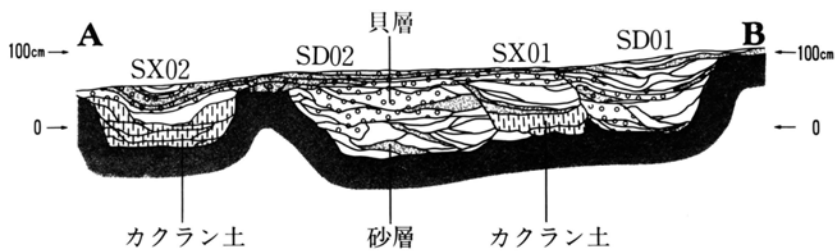
●60B区 東壁土層セクション(1:100)



※等高線はベース面に対応

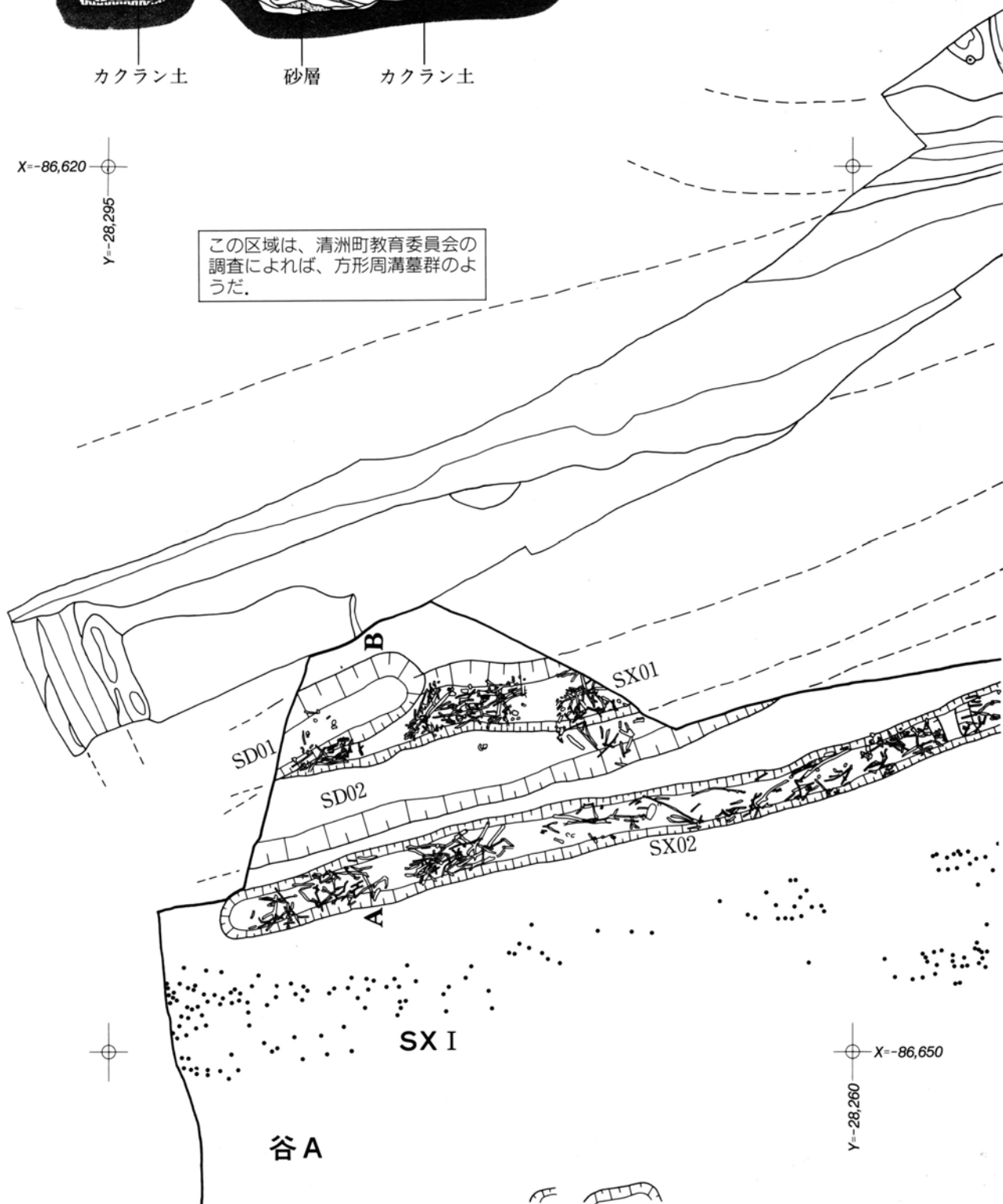


●61A区 SD1・2・SX1・2土層セクション(1:100)



X=-86,620
Y=-28,295

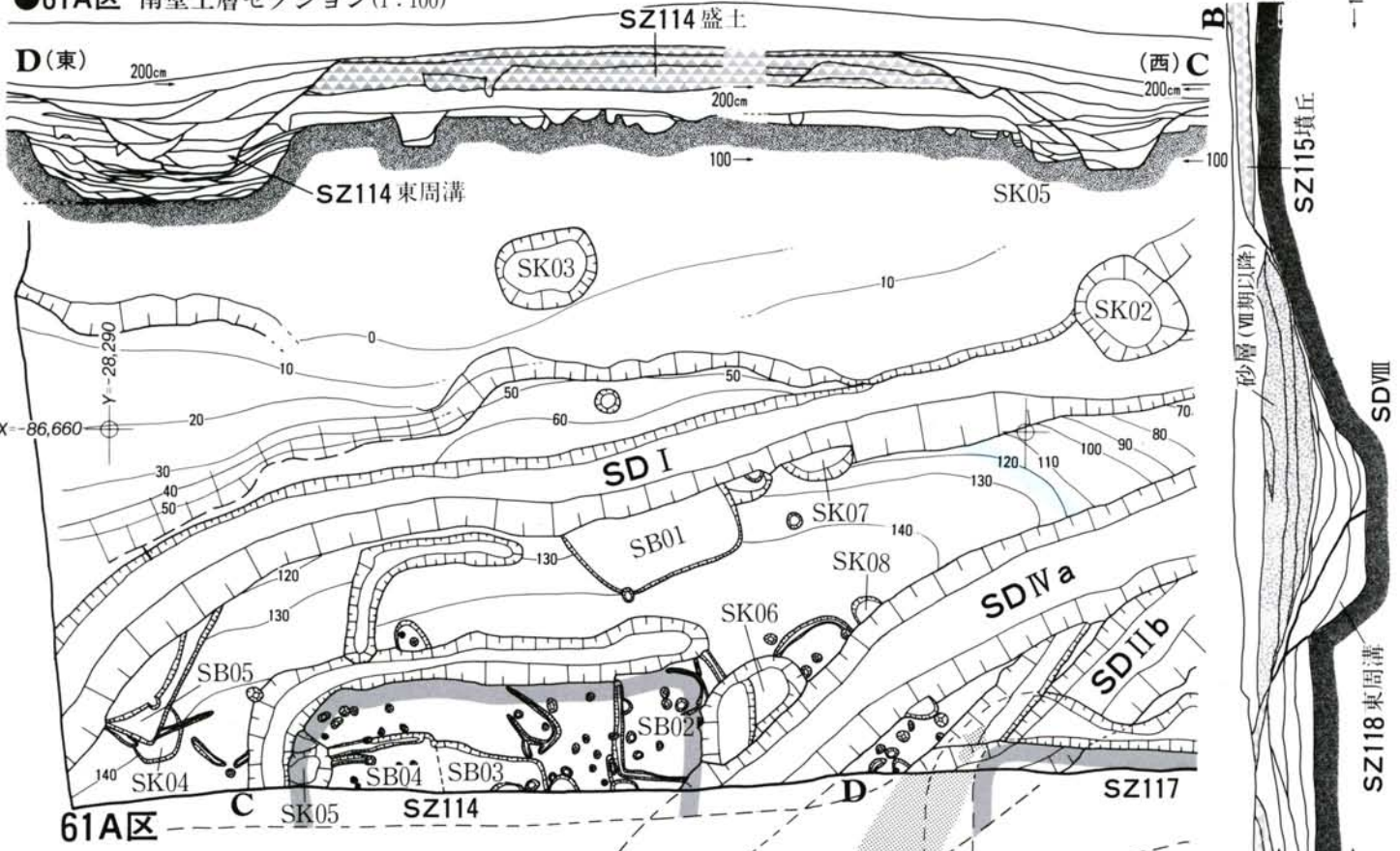
この区域は、清洲町教育委員会の調査によれば、方形周溝墓群のようだ。



谷A

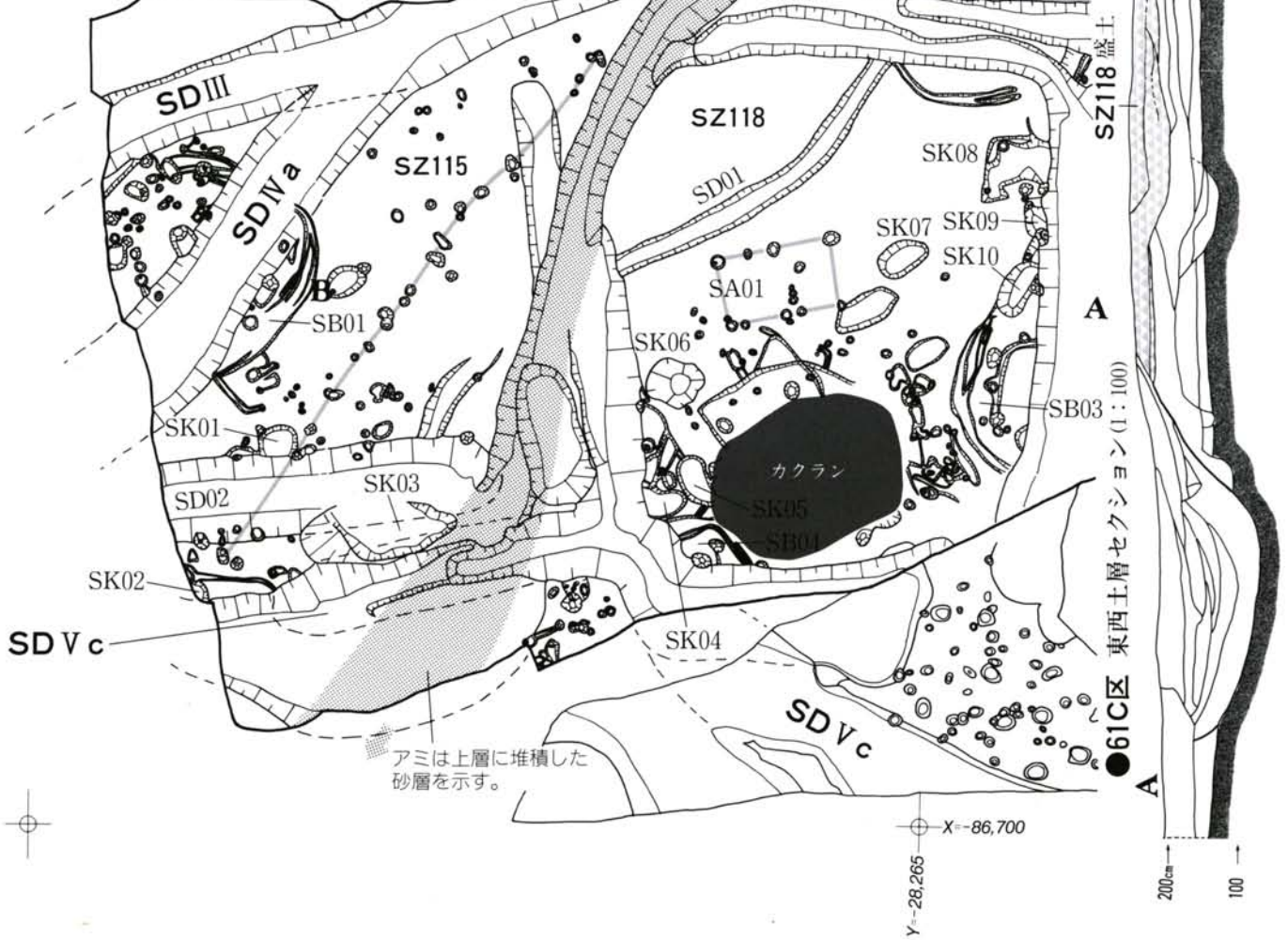
SK03

●61A区 南壁土層セクション(1:100)



※等高線はベース面に対応

61C区



アミは上層に堆積した砂層を示す。

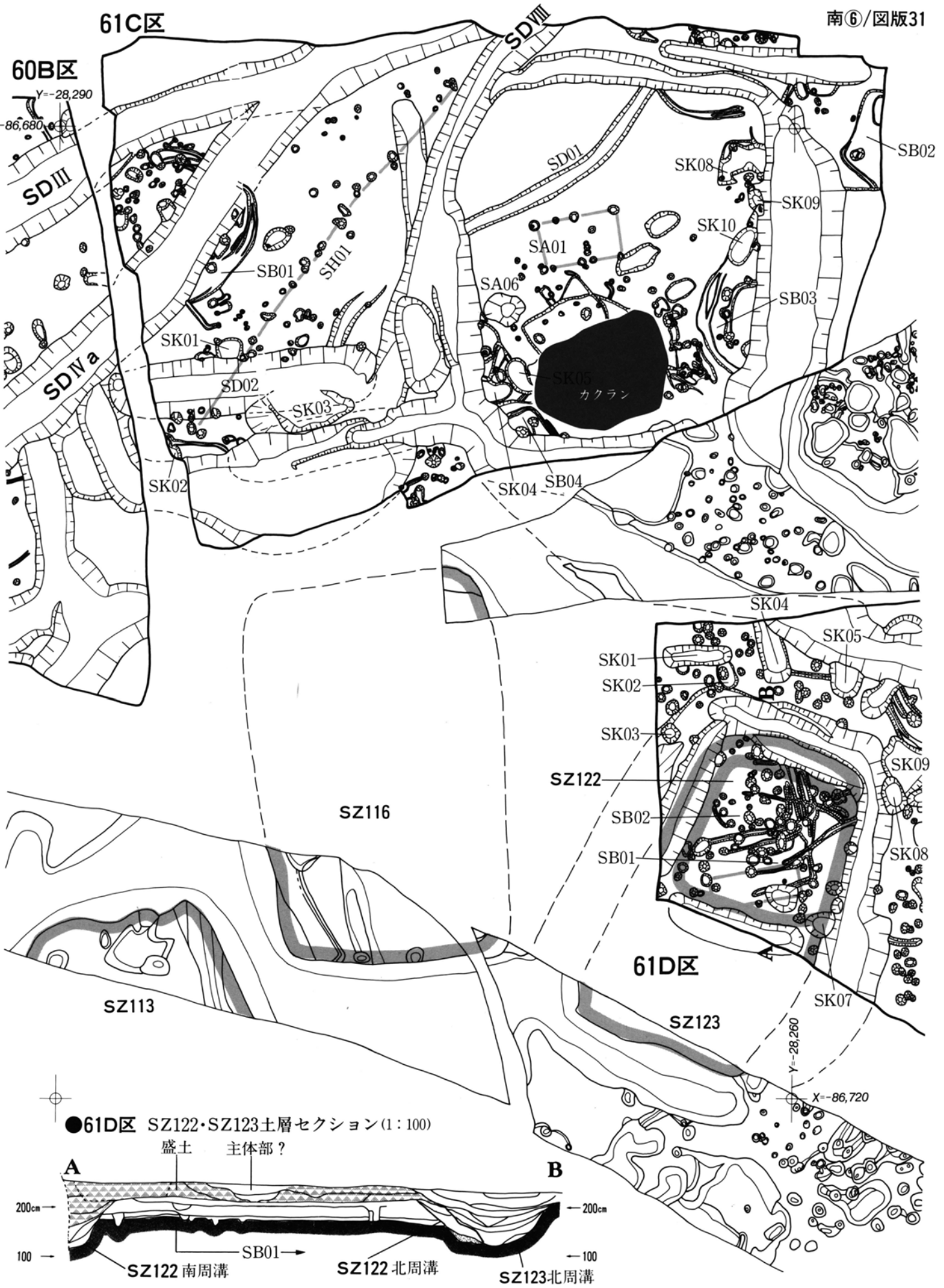
●61C区 東西土層セクション(1:100)



61C区

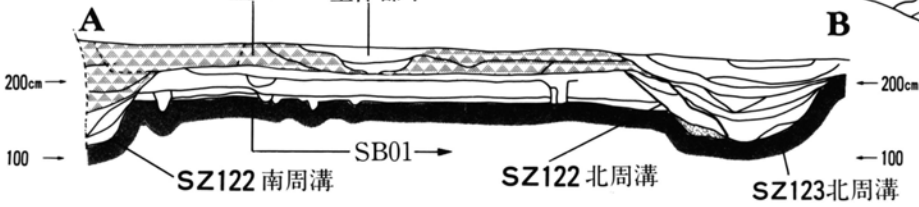
60B区

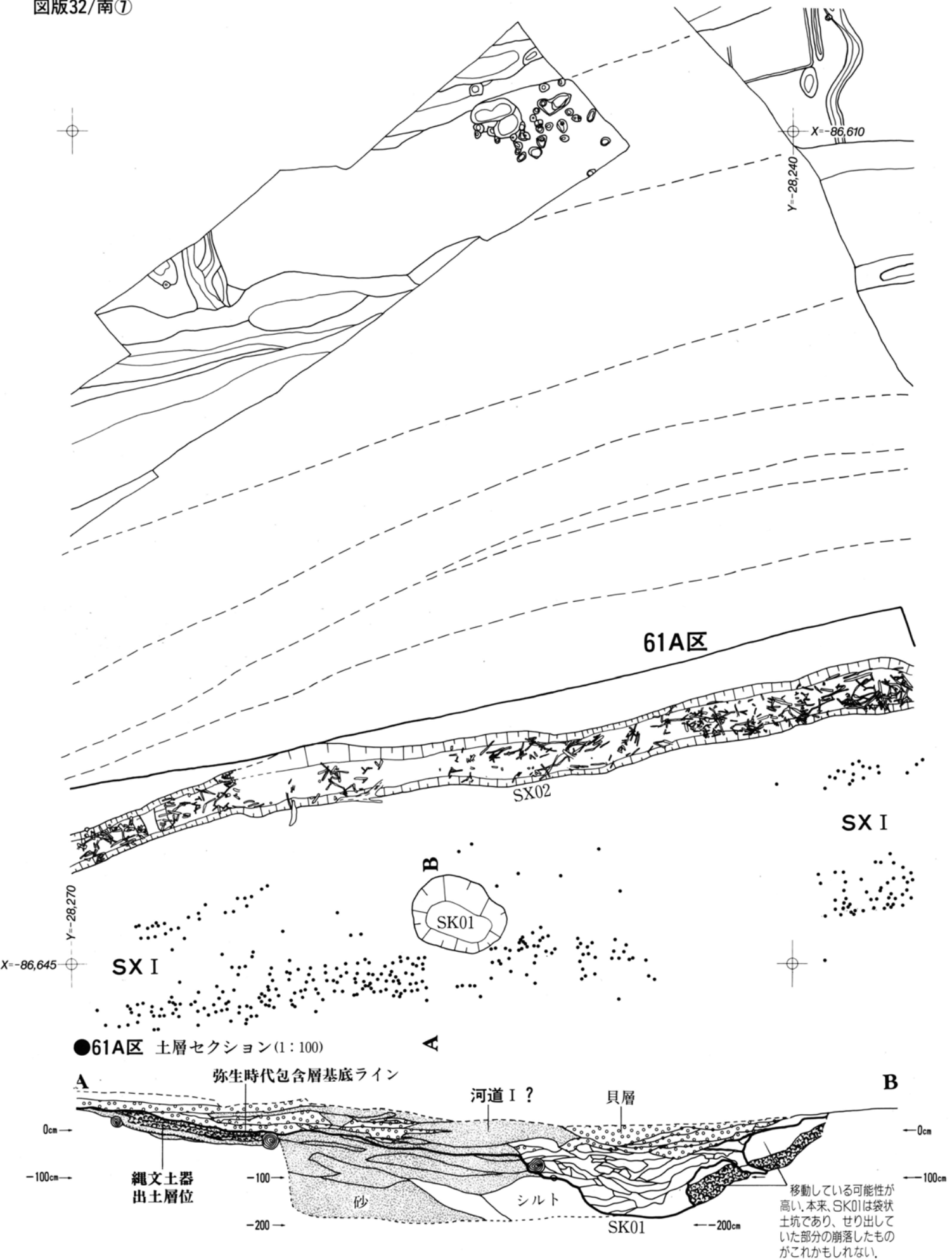
Y=-28,290
X=-86,680

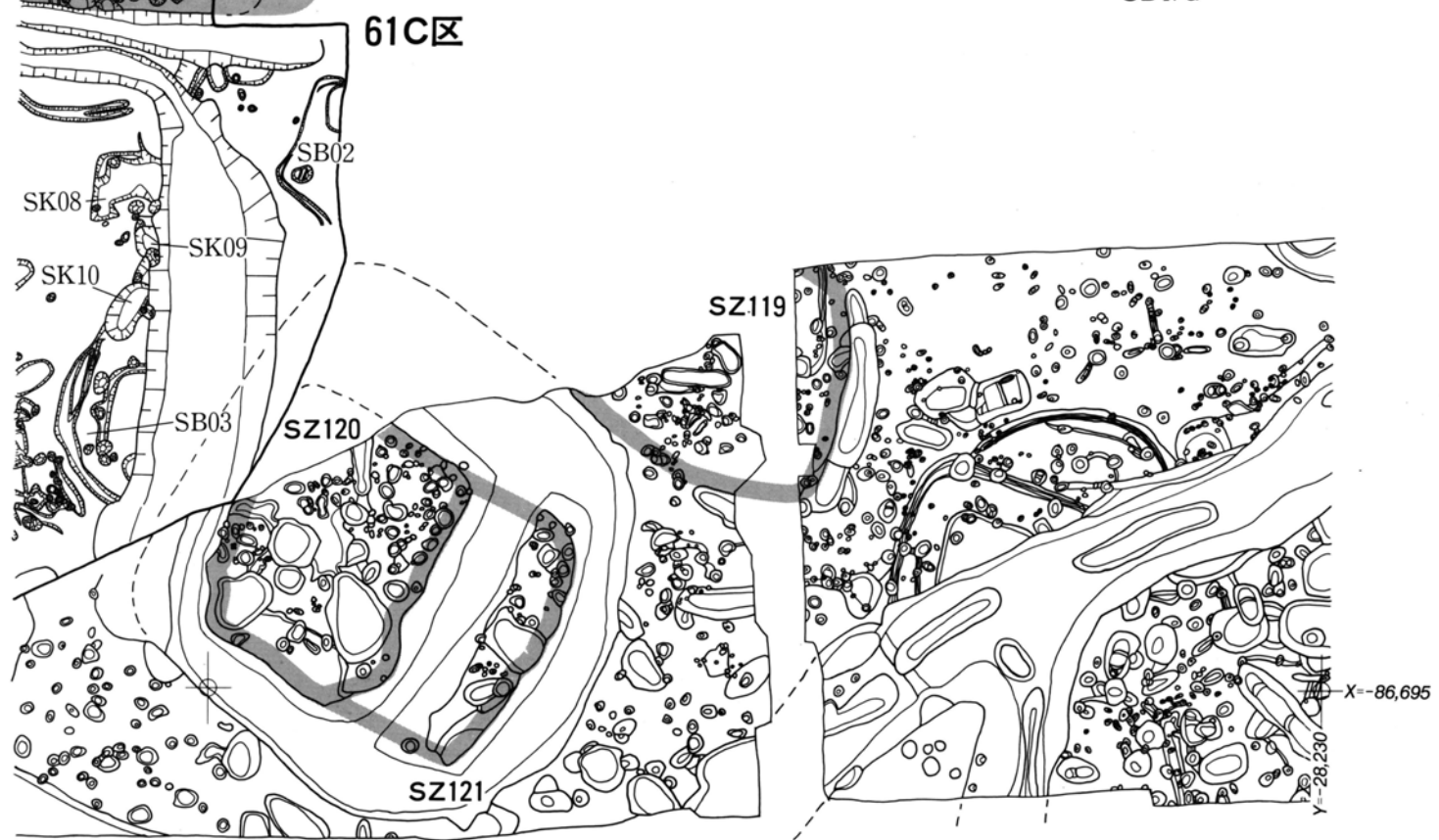
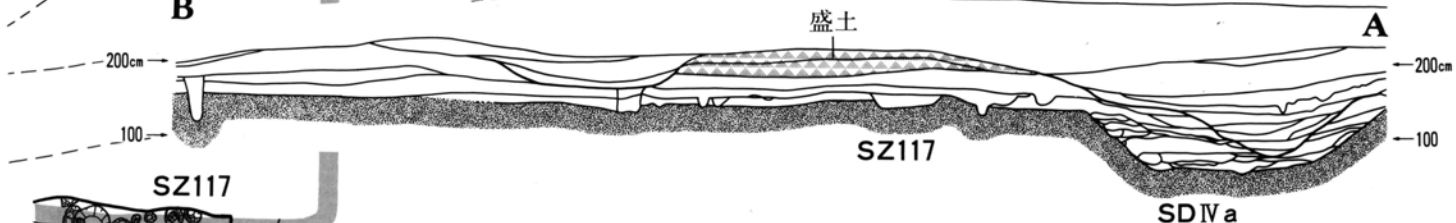
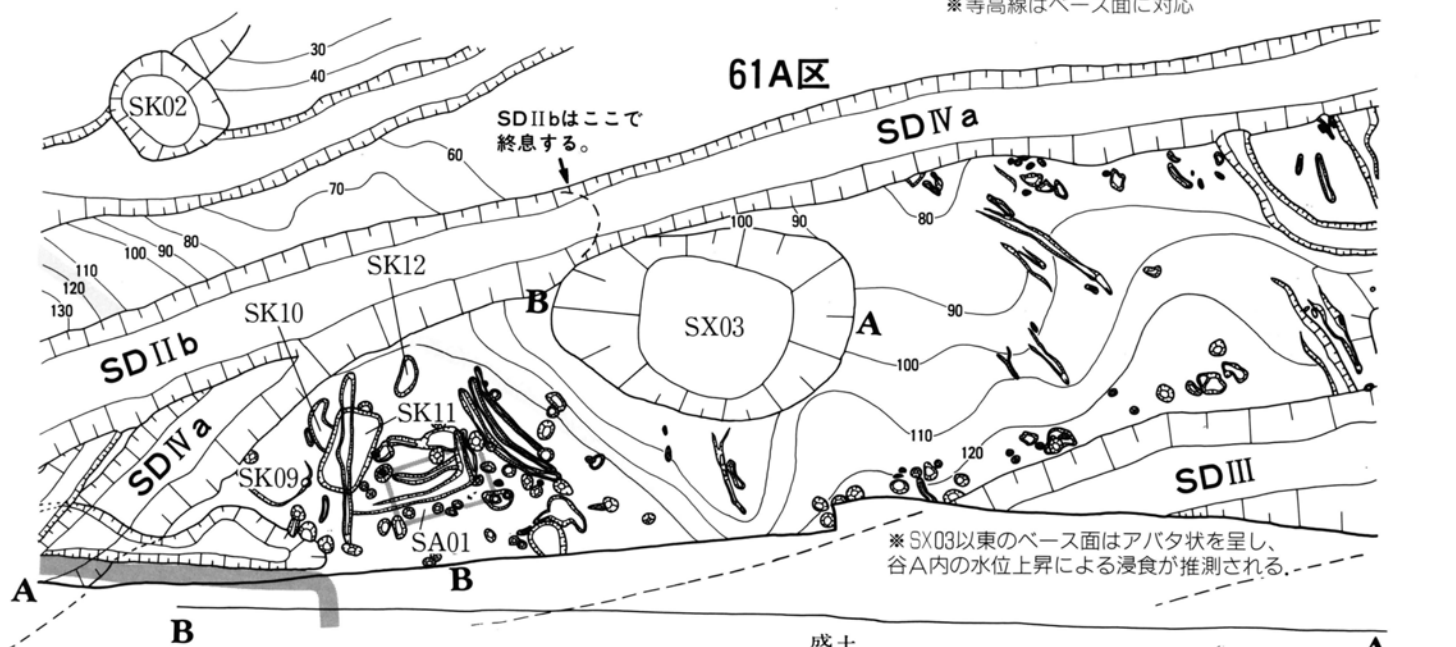
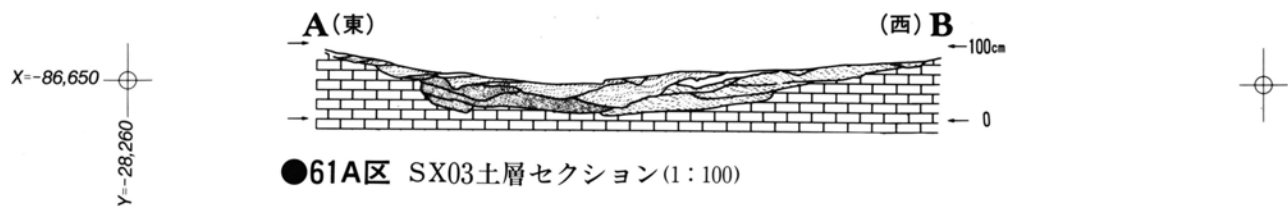


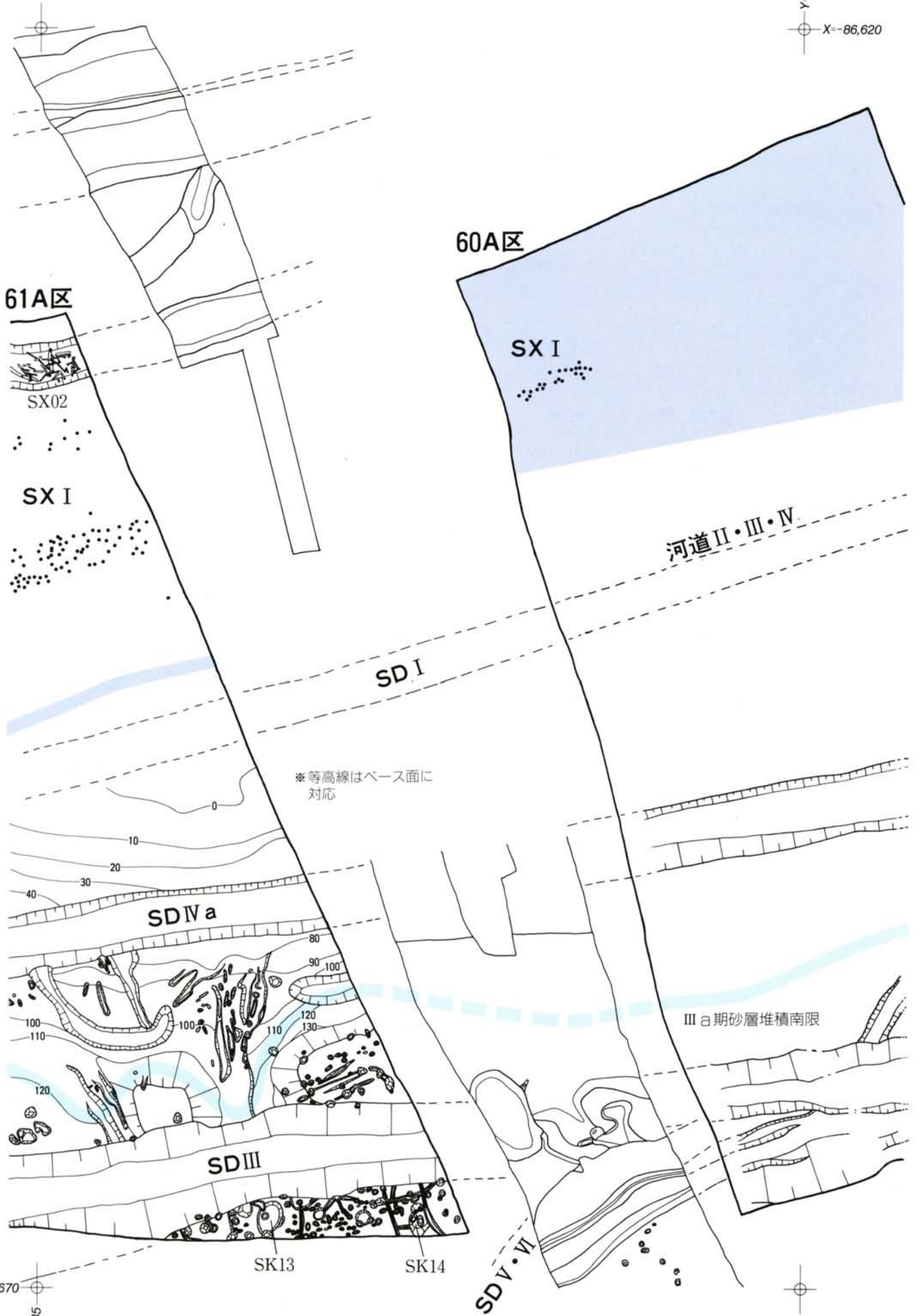
● 61D区 SZ122・SZ123土層セクション(1:100)

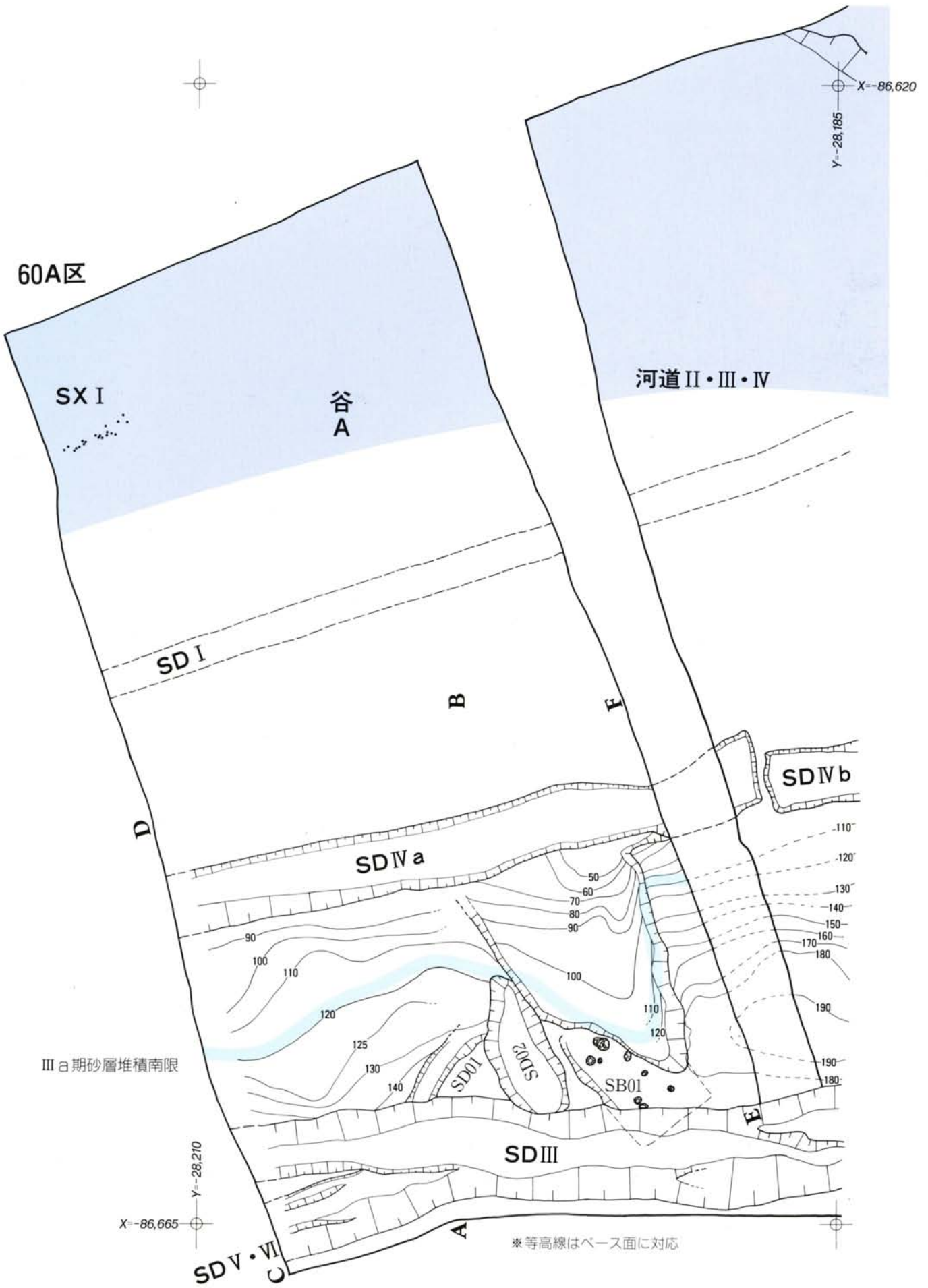
盛土 主体部?



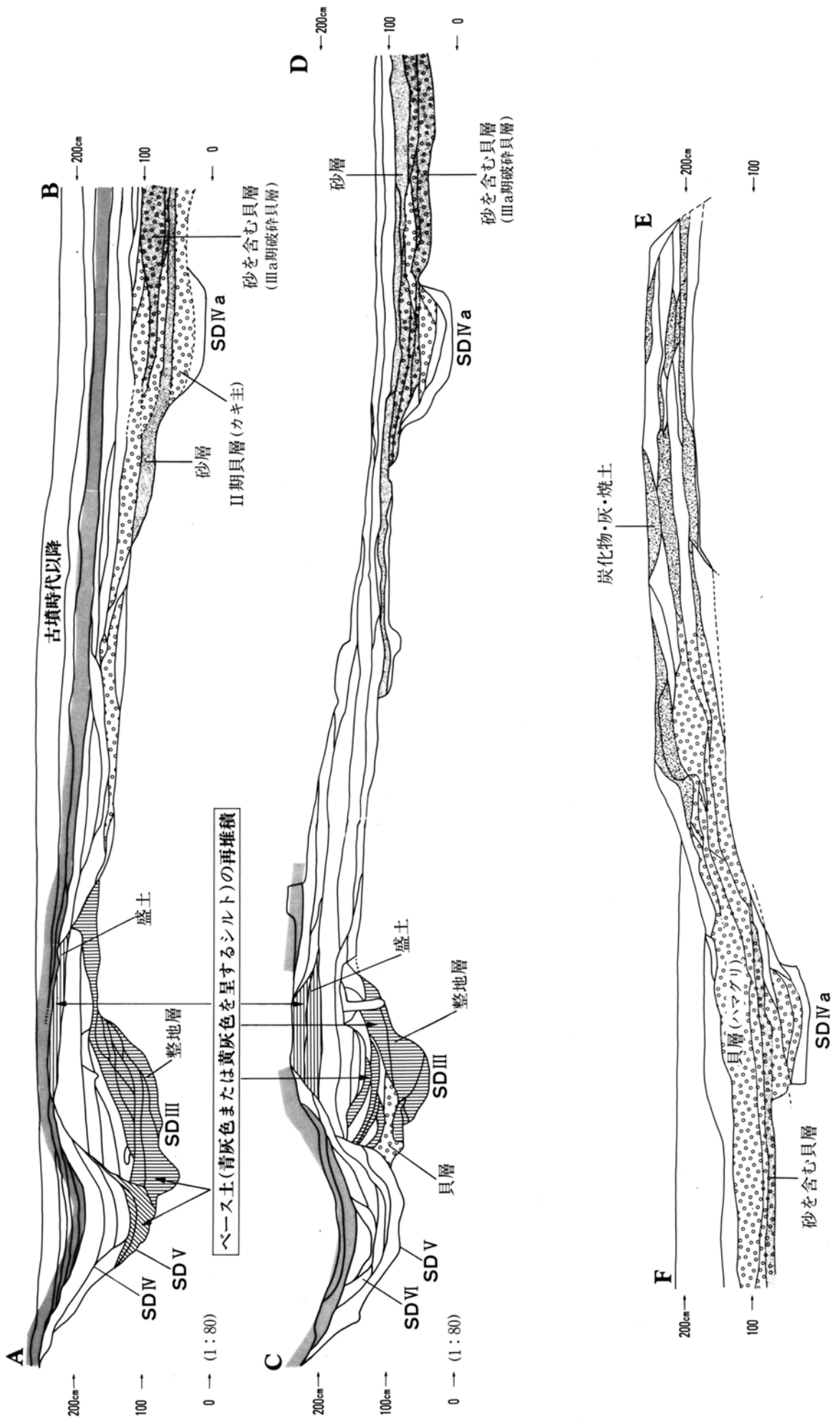


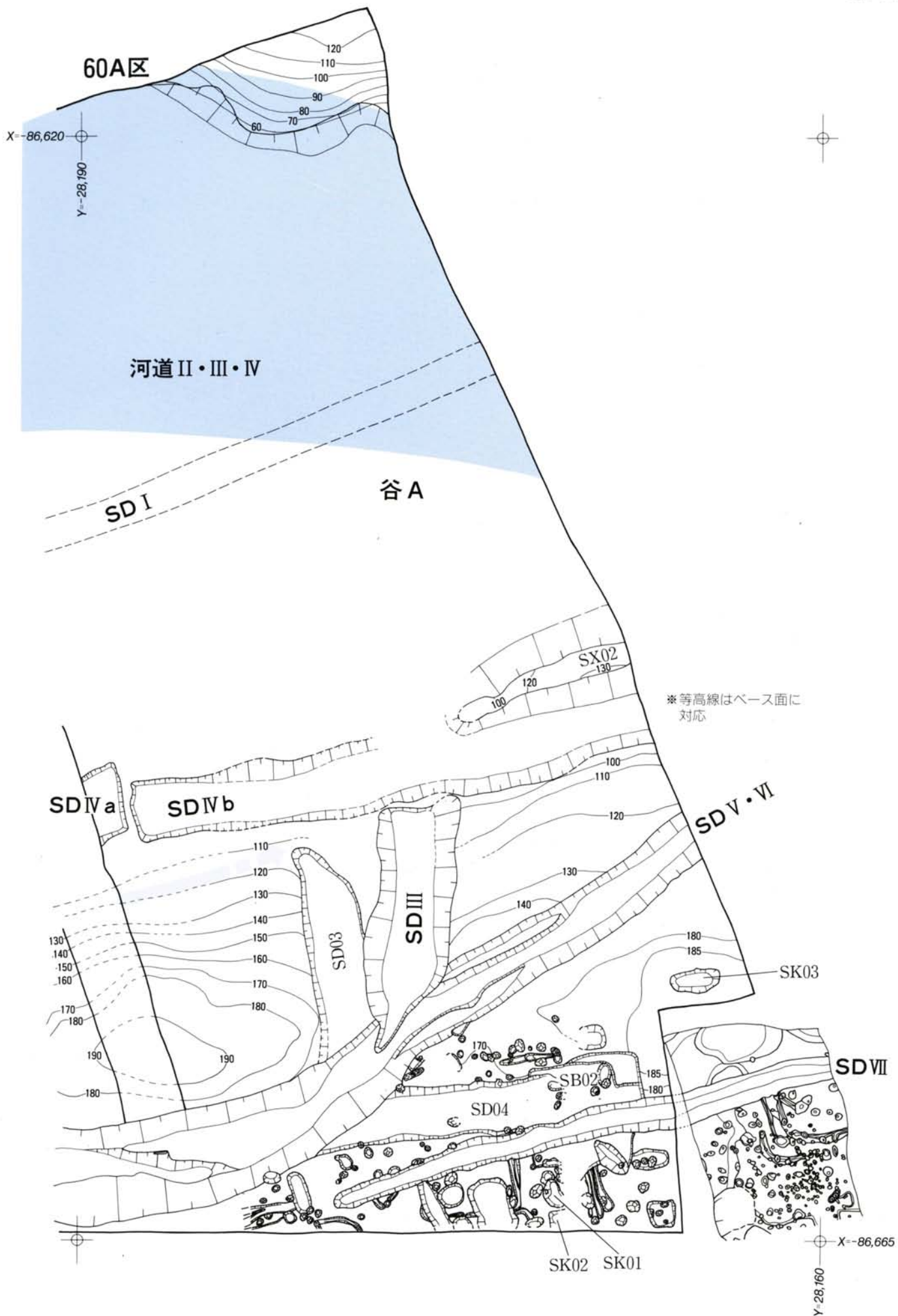




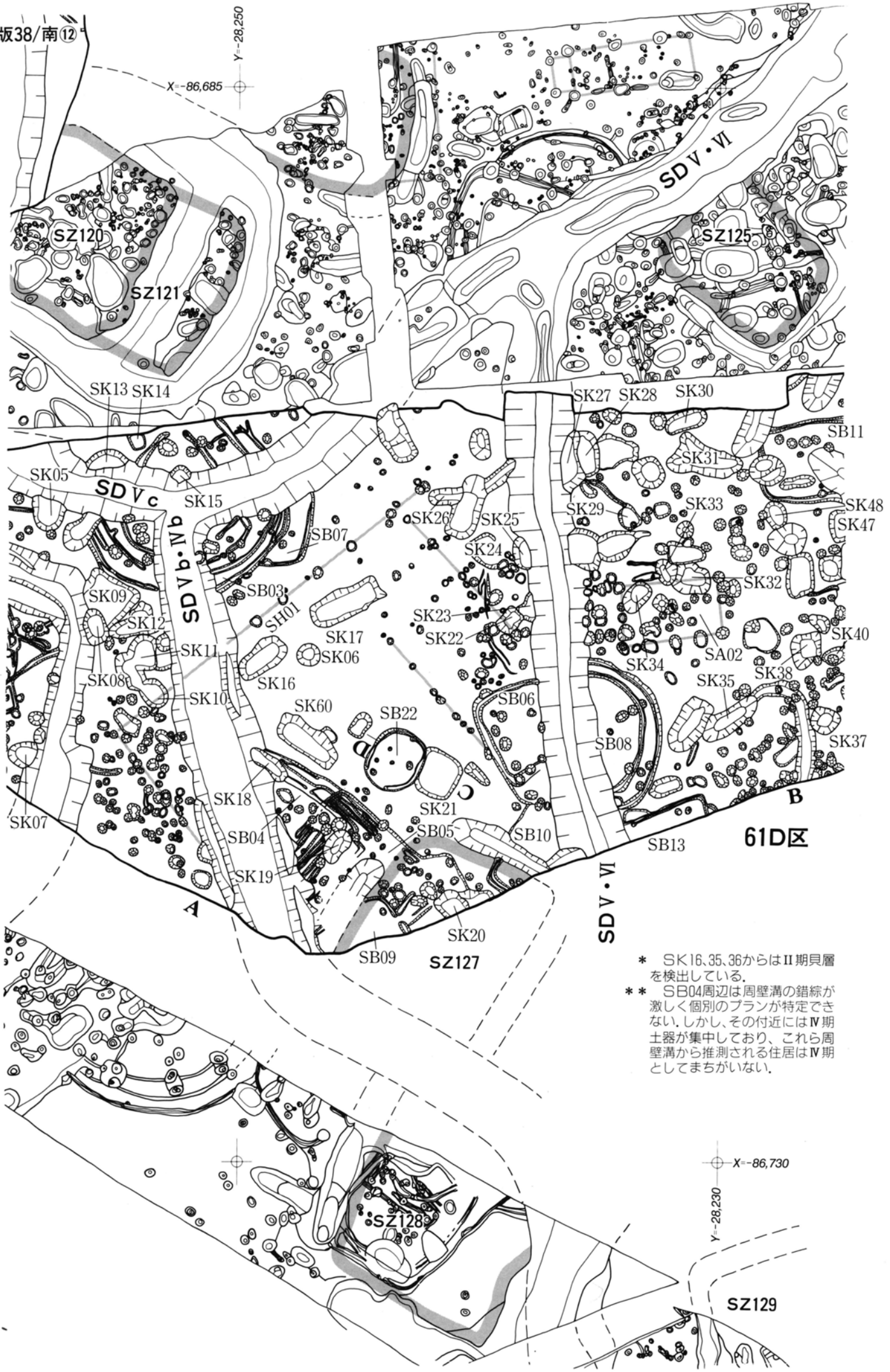


●60A区 土層セクシヨン





X=-86,685
Y=-28,250

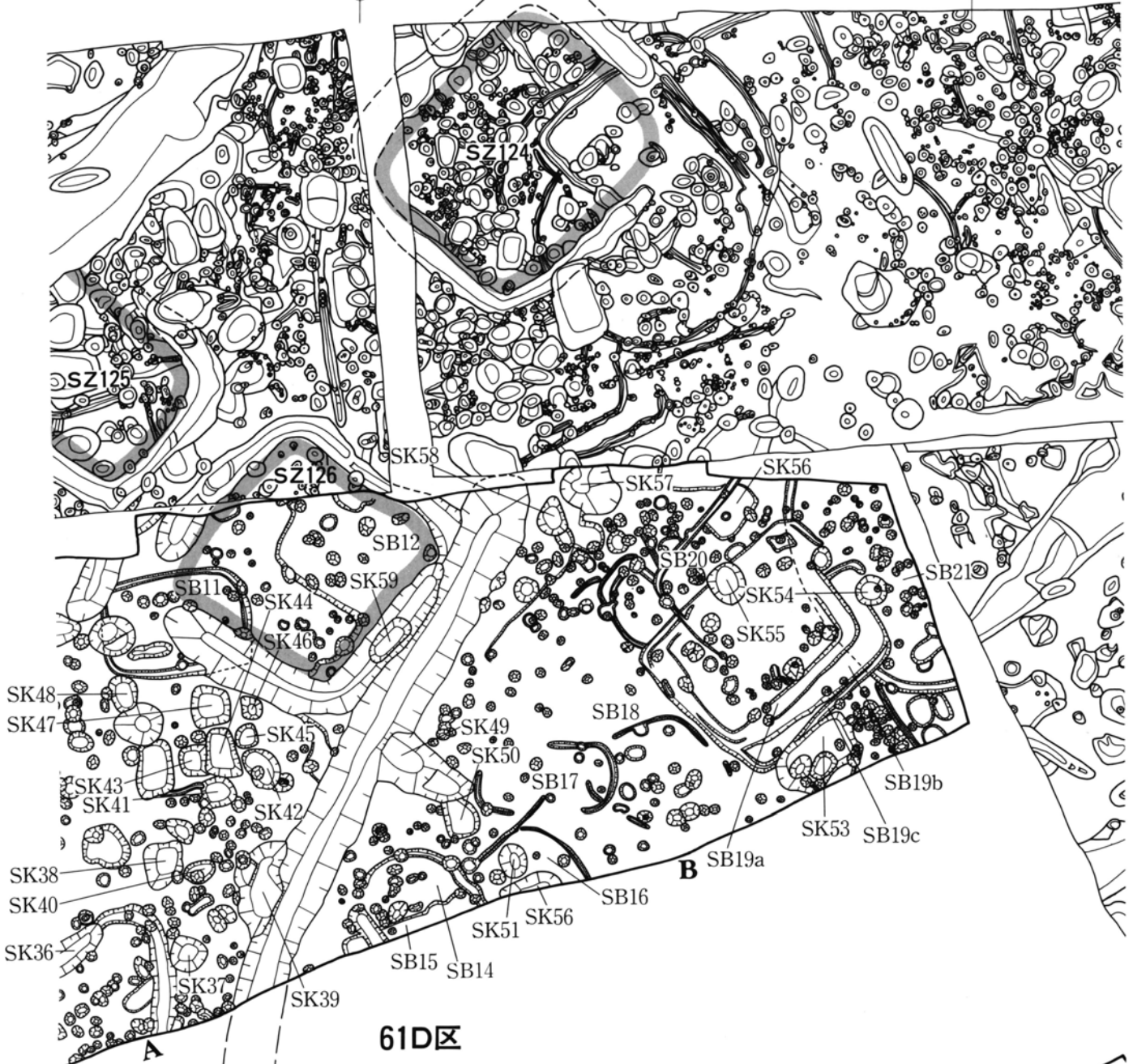


- * SK16, 35, 36からはII期貝層を検出している。
- ** SB04周辺は周壁溝の錯綜が激しく個別のプランが特定できない。しかし、その付近にはIV期土器が集中しており、これら周壁溝から推測される住居はIV期としてまちがいない。

X=-86,730
Y=-28,230

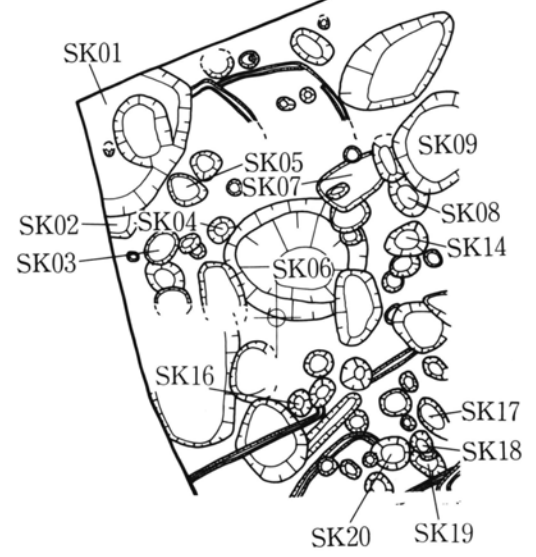
SZ129

Y-28,1200
X--86,680

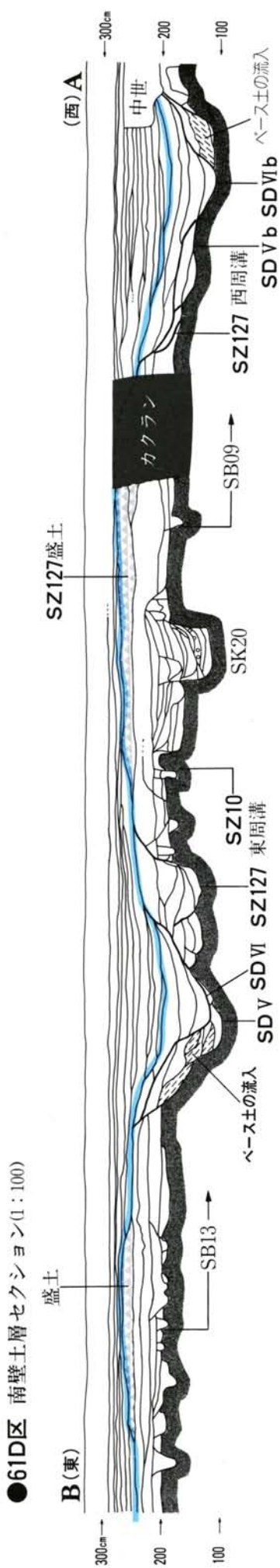


61D区

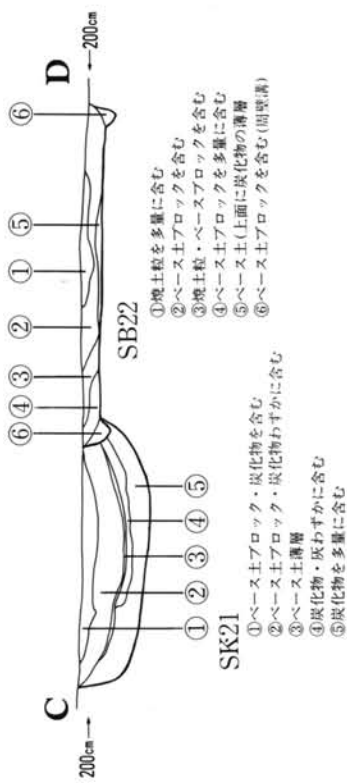
63M区



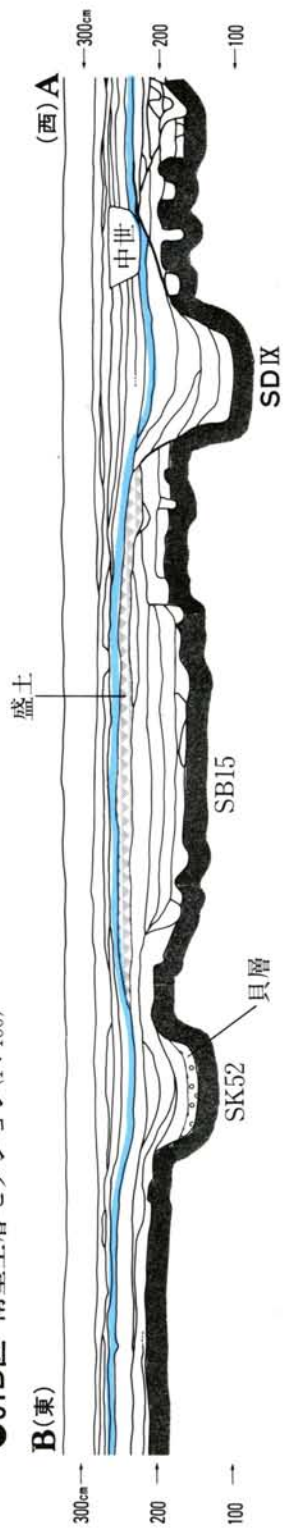
Y-28,220
X--86,725



●61D区 SB22・SK21土層セクション(1:100)

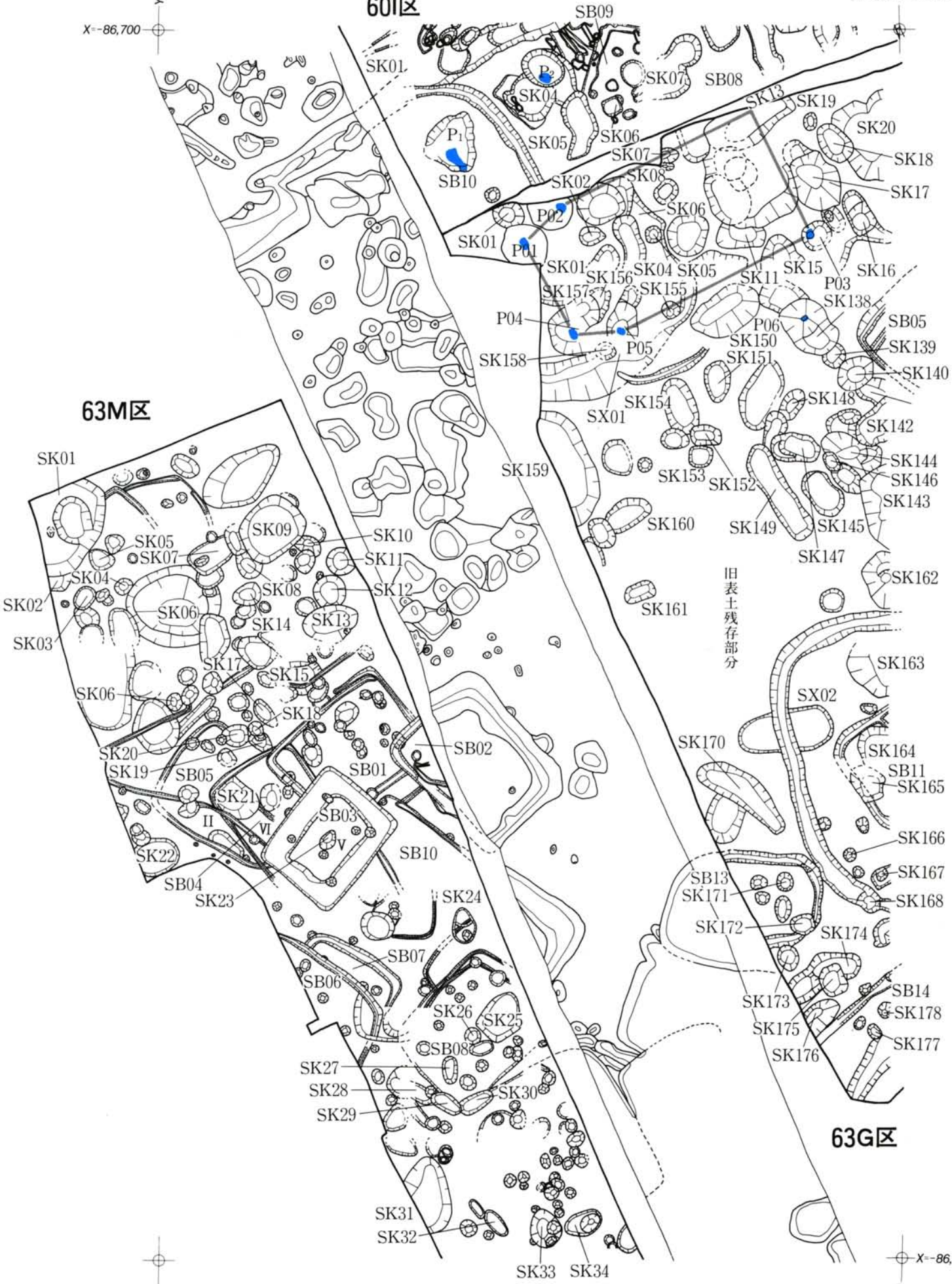


●61D区 南壁土層セクション(1:100)



X=-86,700
Y=-28,200

60I区

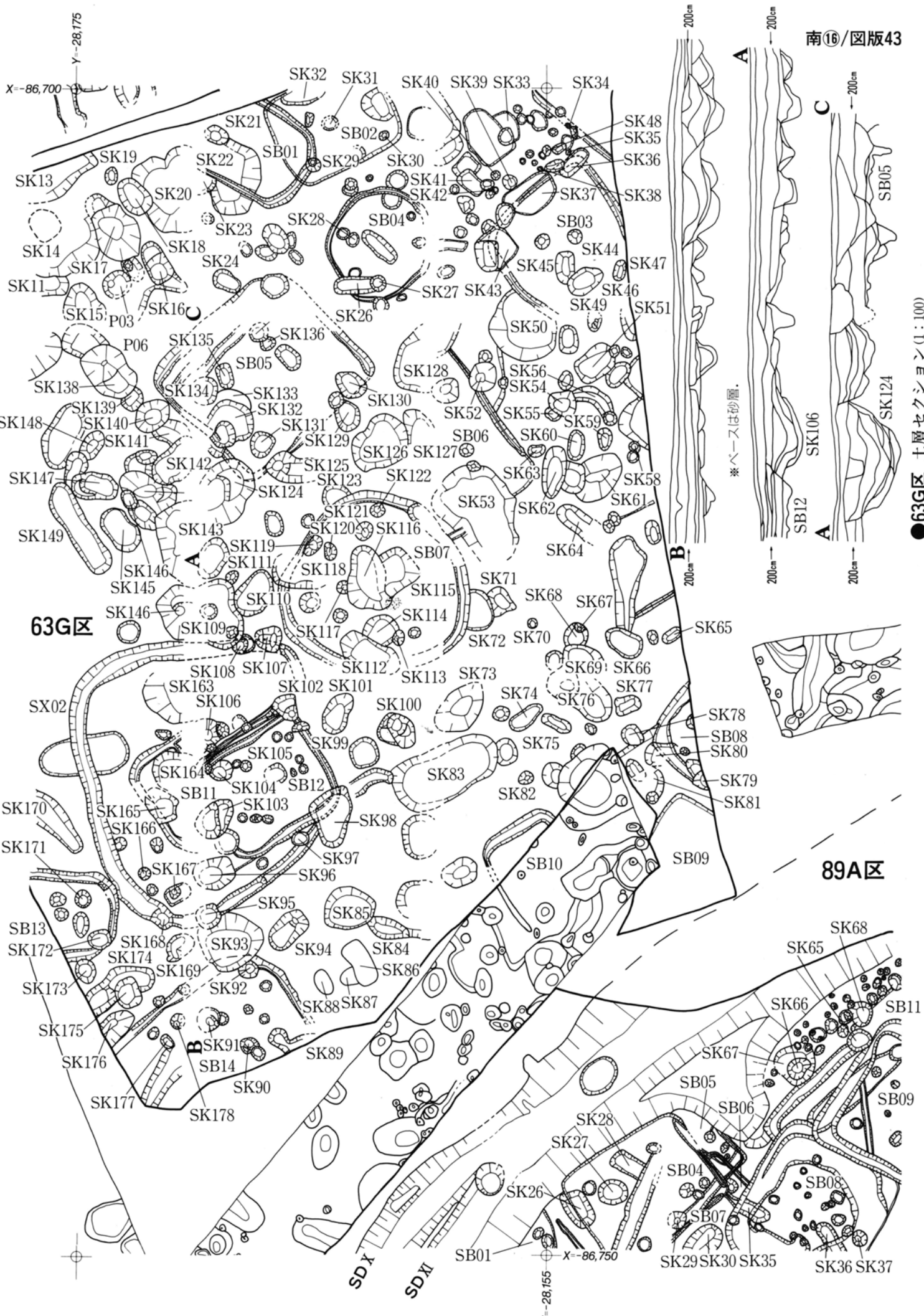


旧表土残存部分

63M区

63G区

X=-86,750
Y=-28,170



●63G区 土層セクション(1:100)

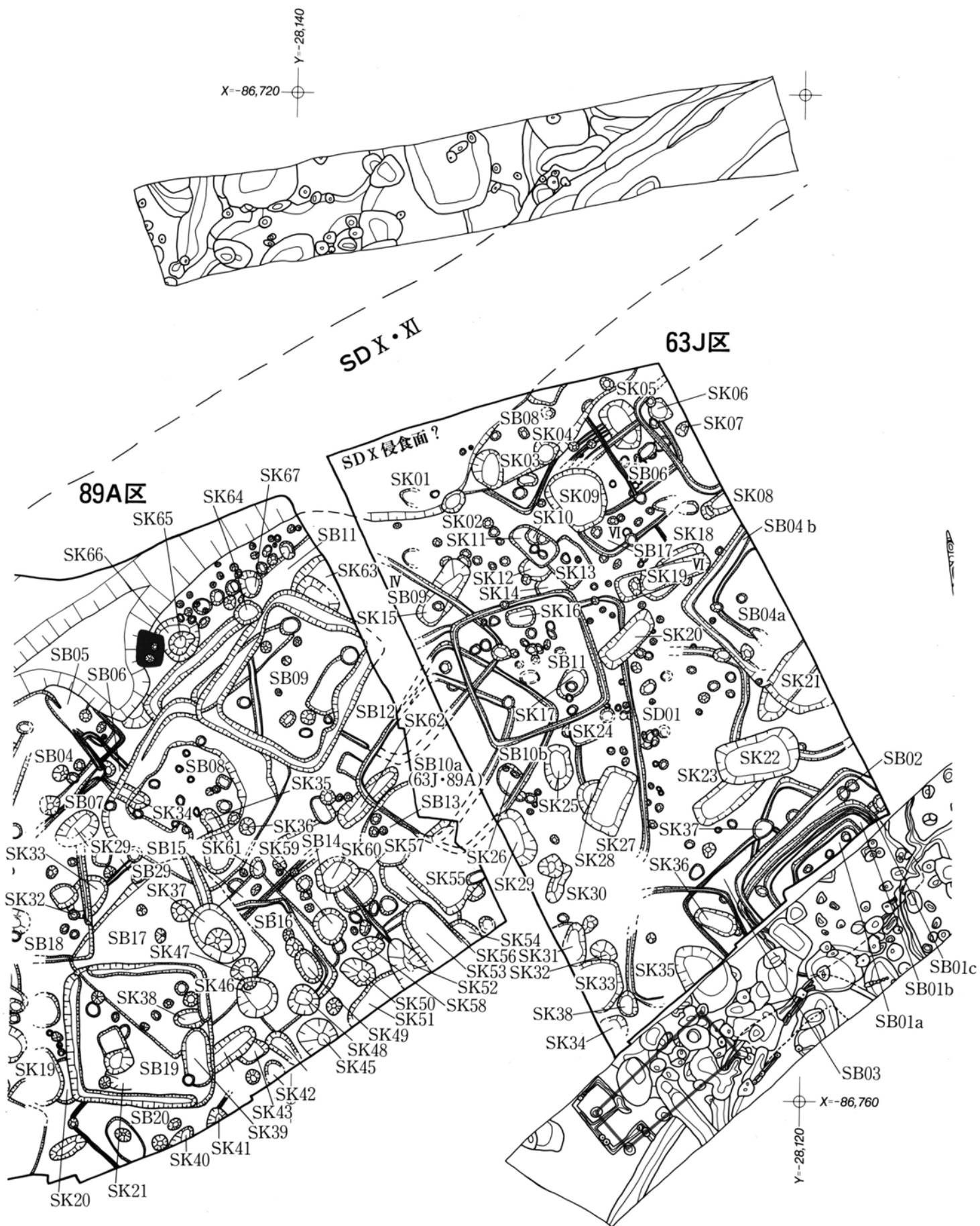


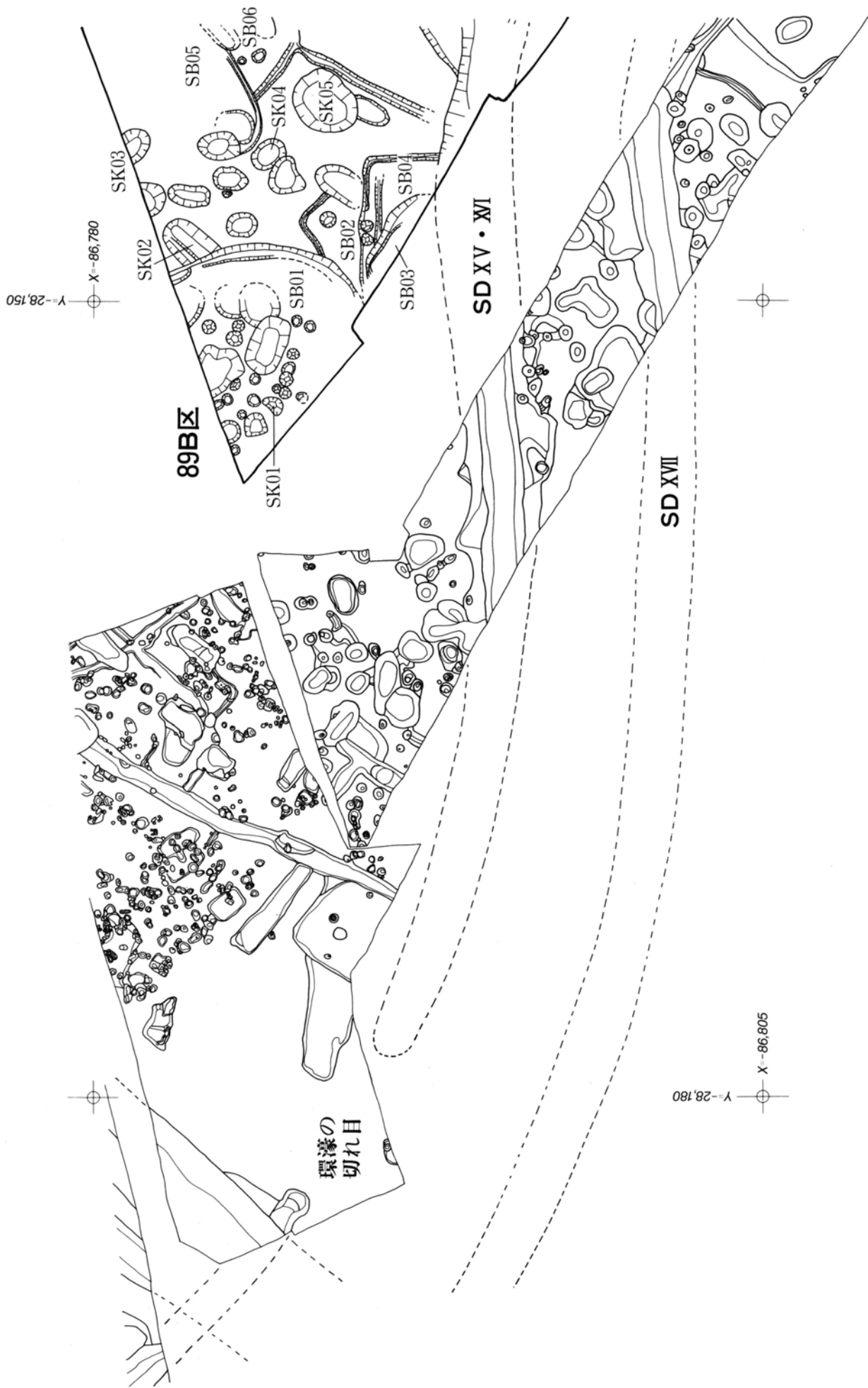
X=86,750
Y=28

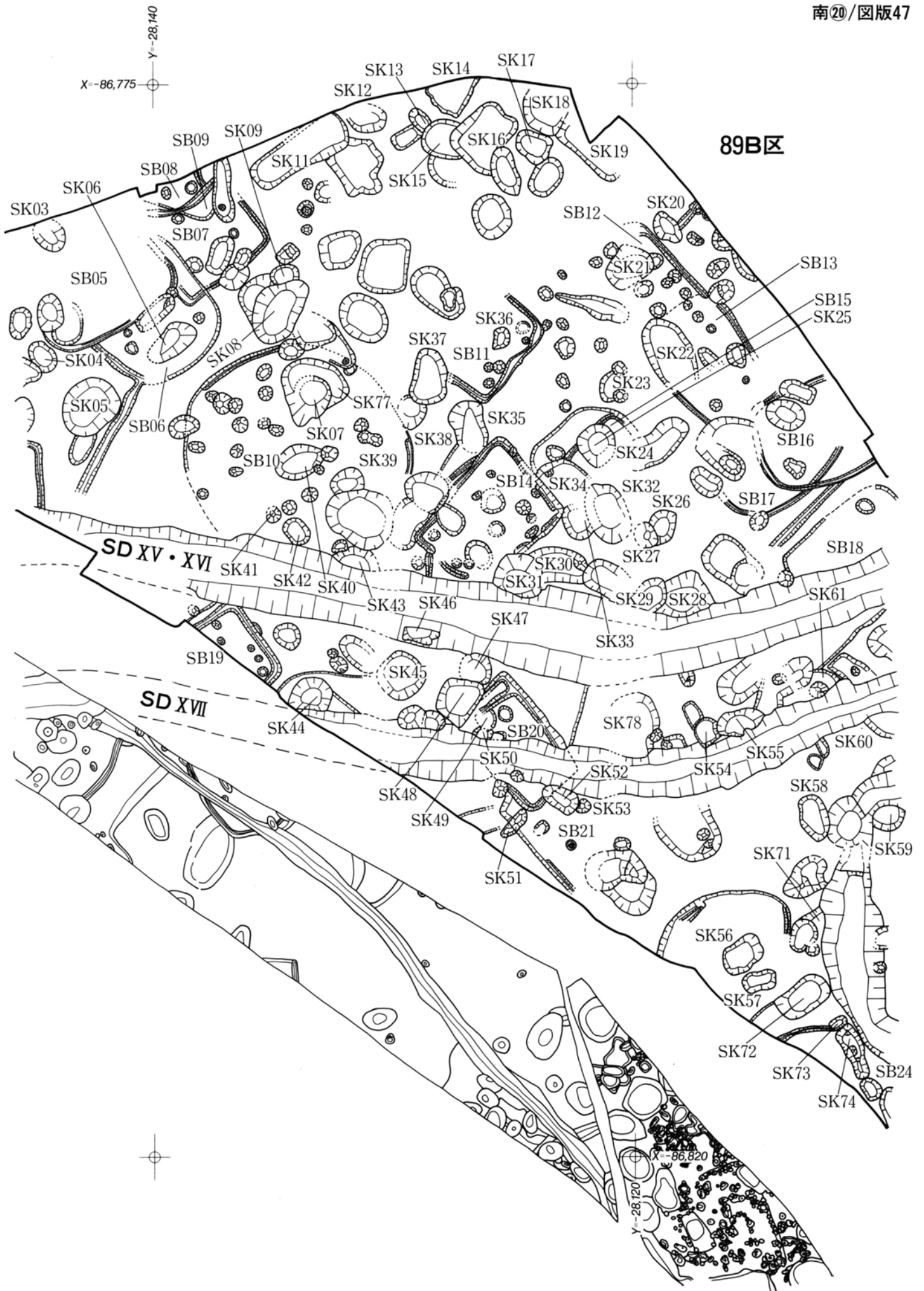
89A区

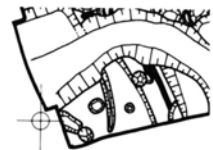
61M区

X=86,750
Y=28,190

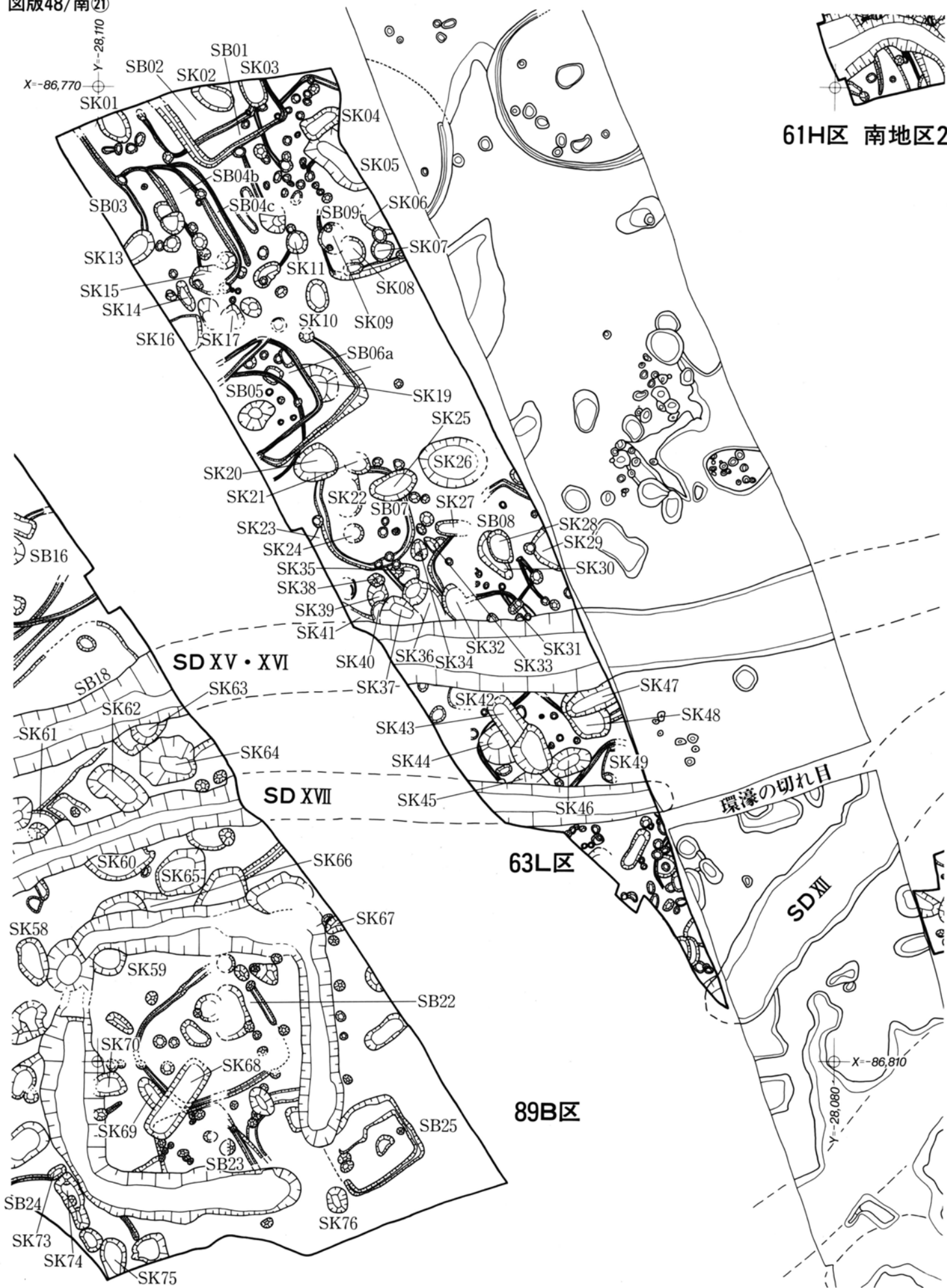








61H区 南地区2



61H区

60A区

●60A区

実壁土層セクシ
ン(1:100)

盛土

盛土

SDN1b

III期貝層

I期未包含層?

SDV・VI

SDVb

SDV・VI

SDVII

SX04 (古墳時代)

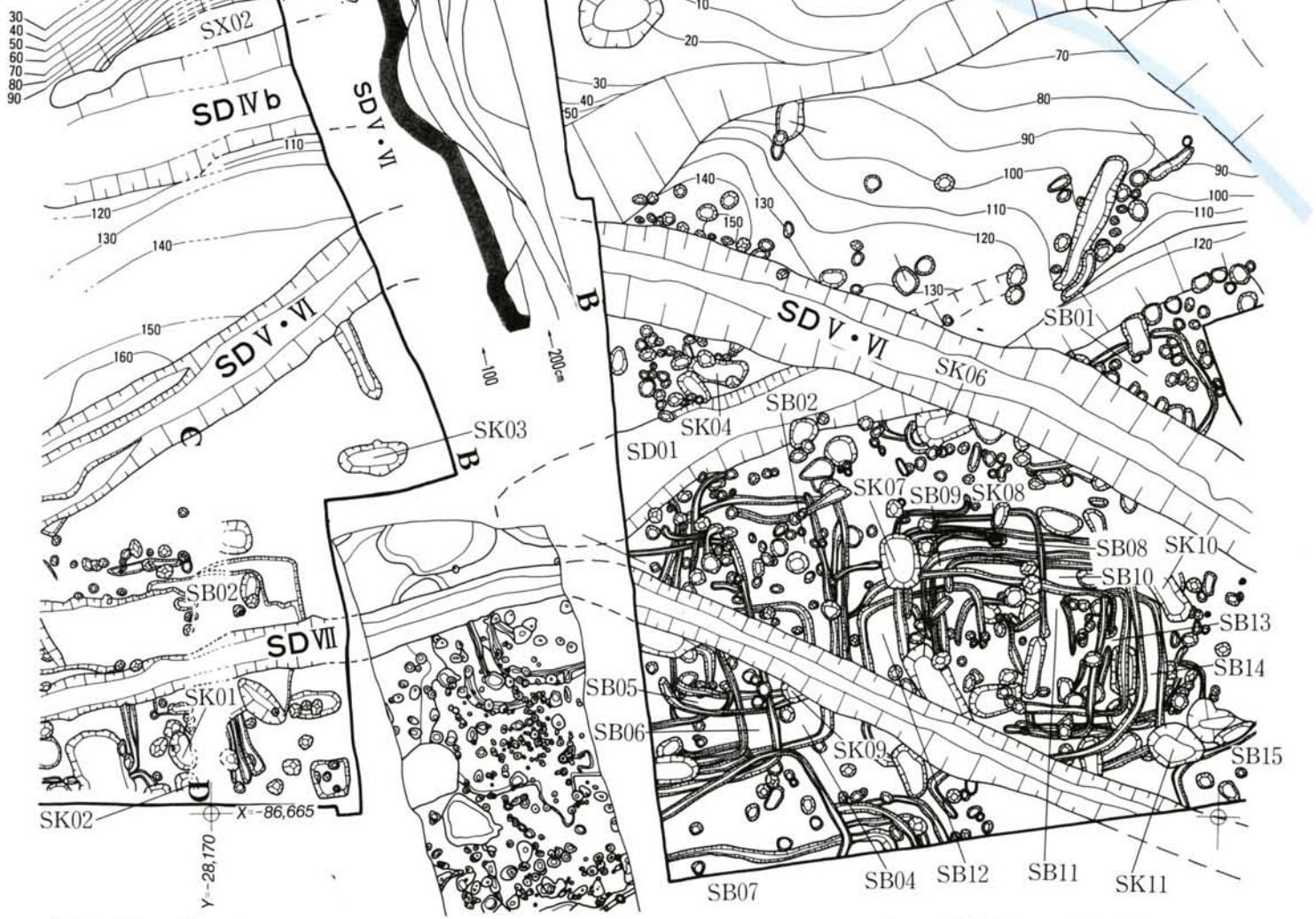
谷 A

30
40
50
60
70
80
90

70
60
50
40
30
20
10

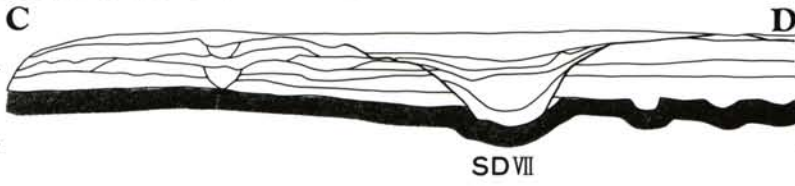
X=86,630

Y=28,140

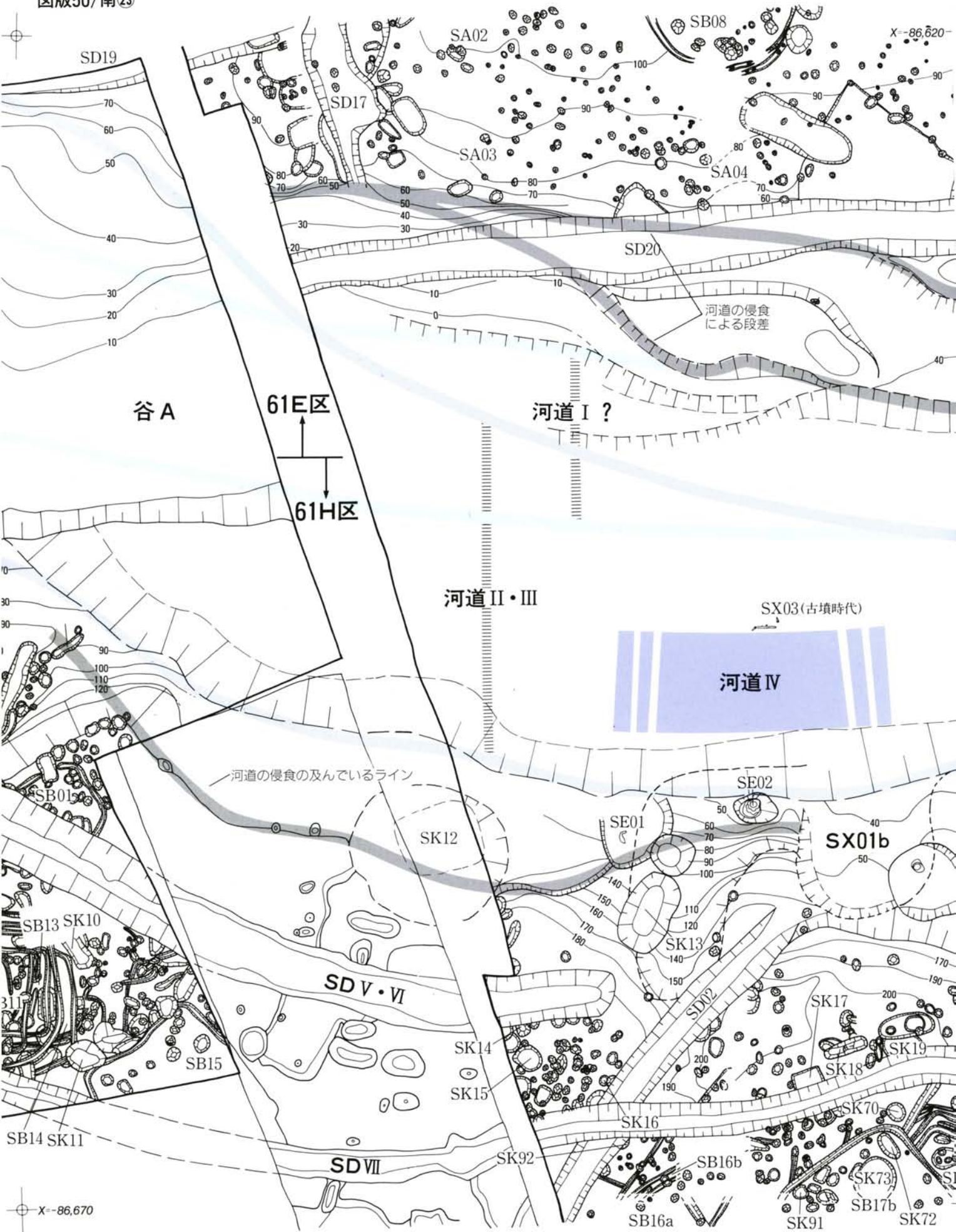


●60A区 土層セクション(1:100)

*プランの等高線はベース面に対応

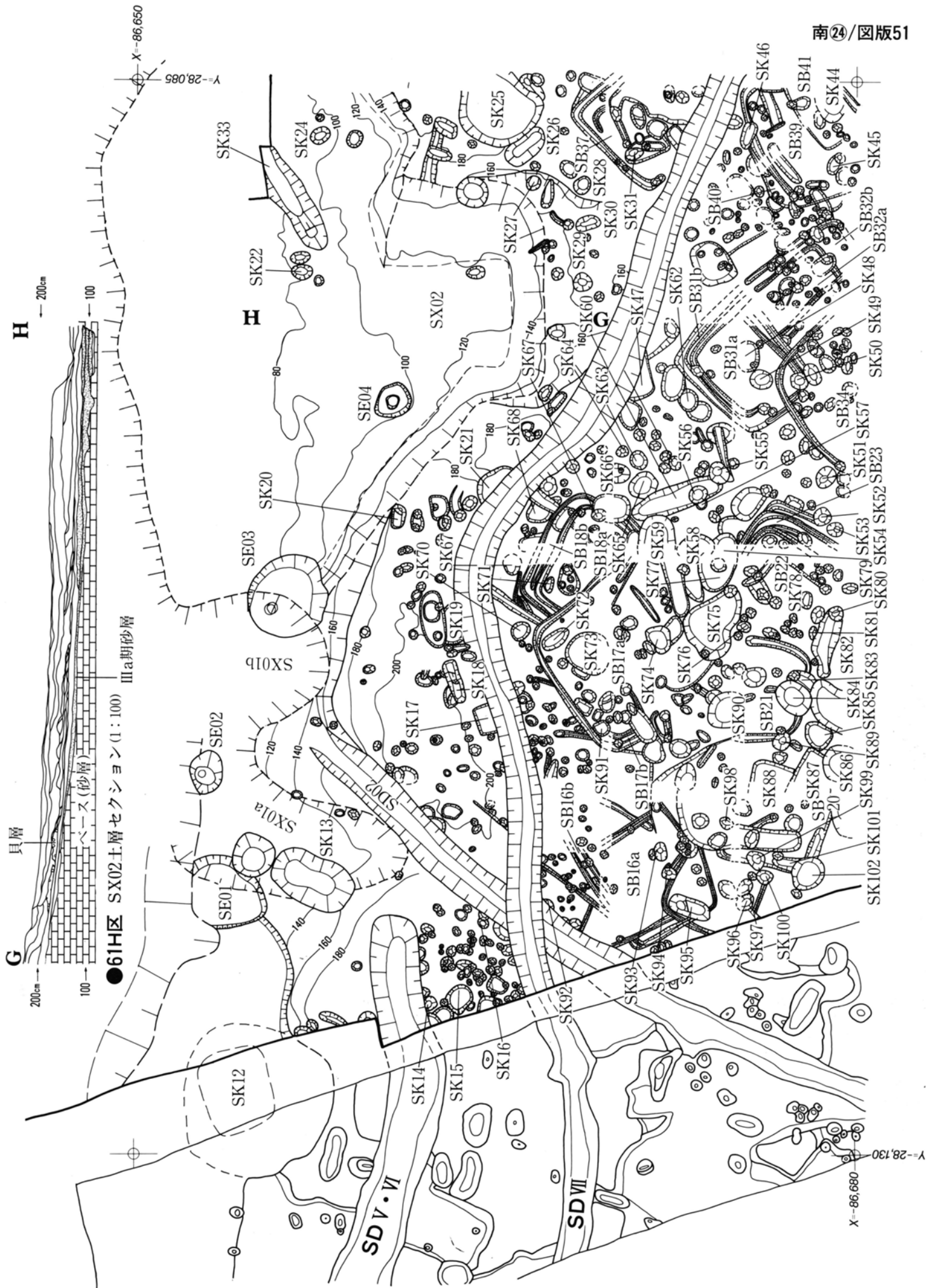


200cm
100

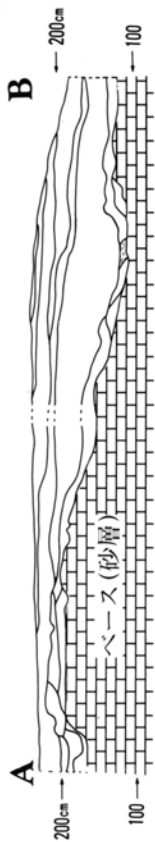


※プランの等高線はベース面に対応

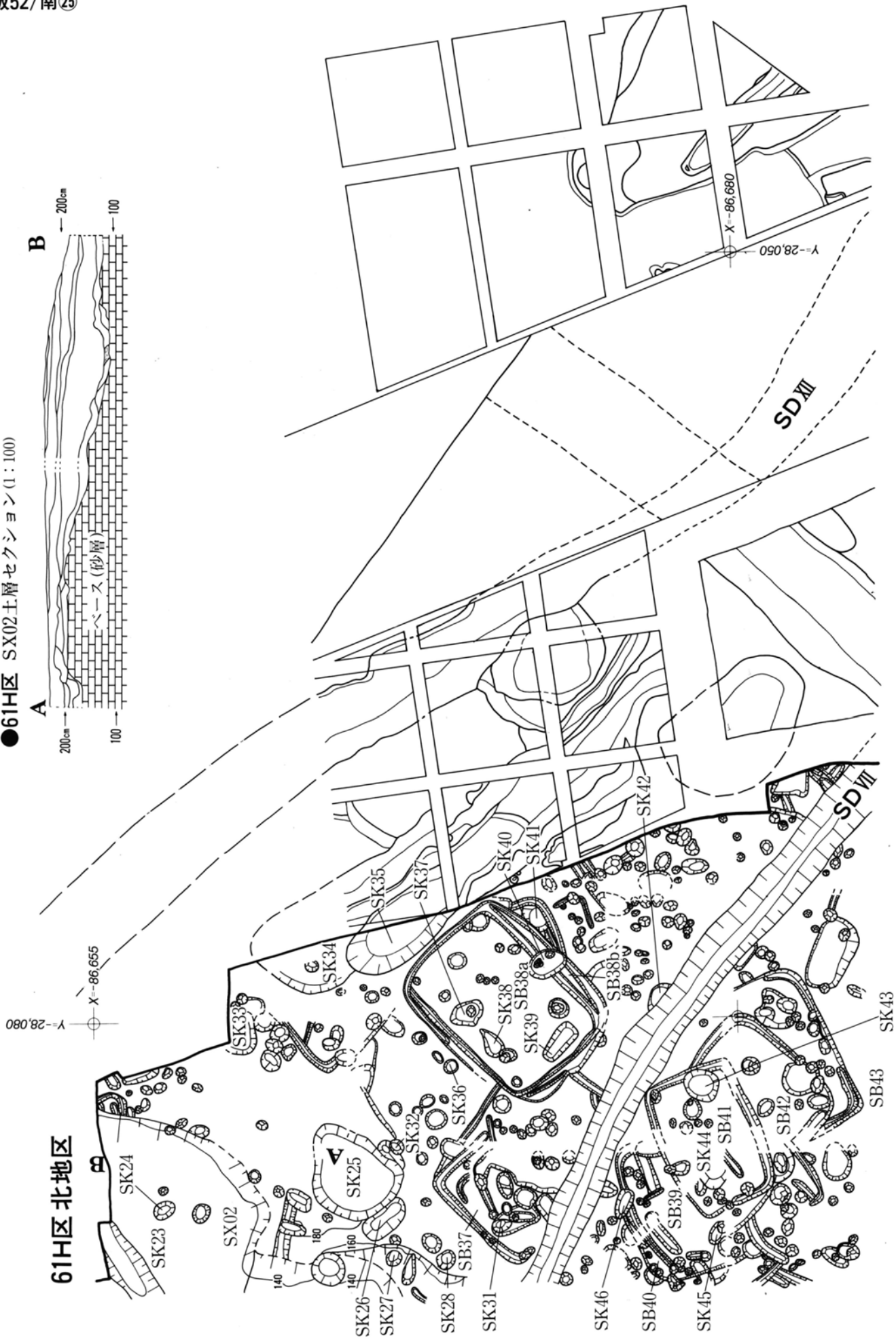
X--86,670
Y--28,145

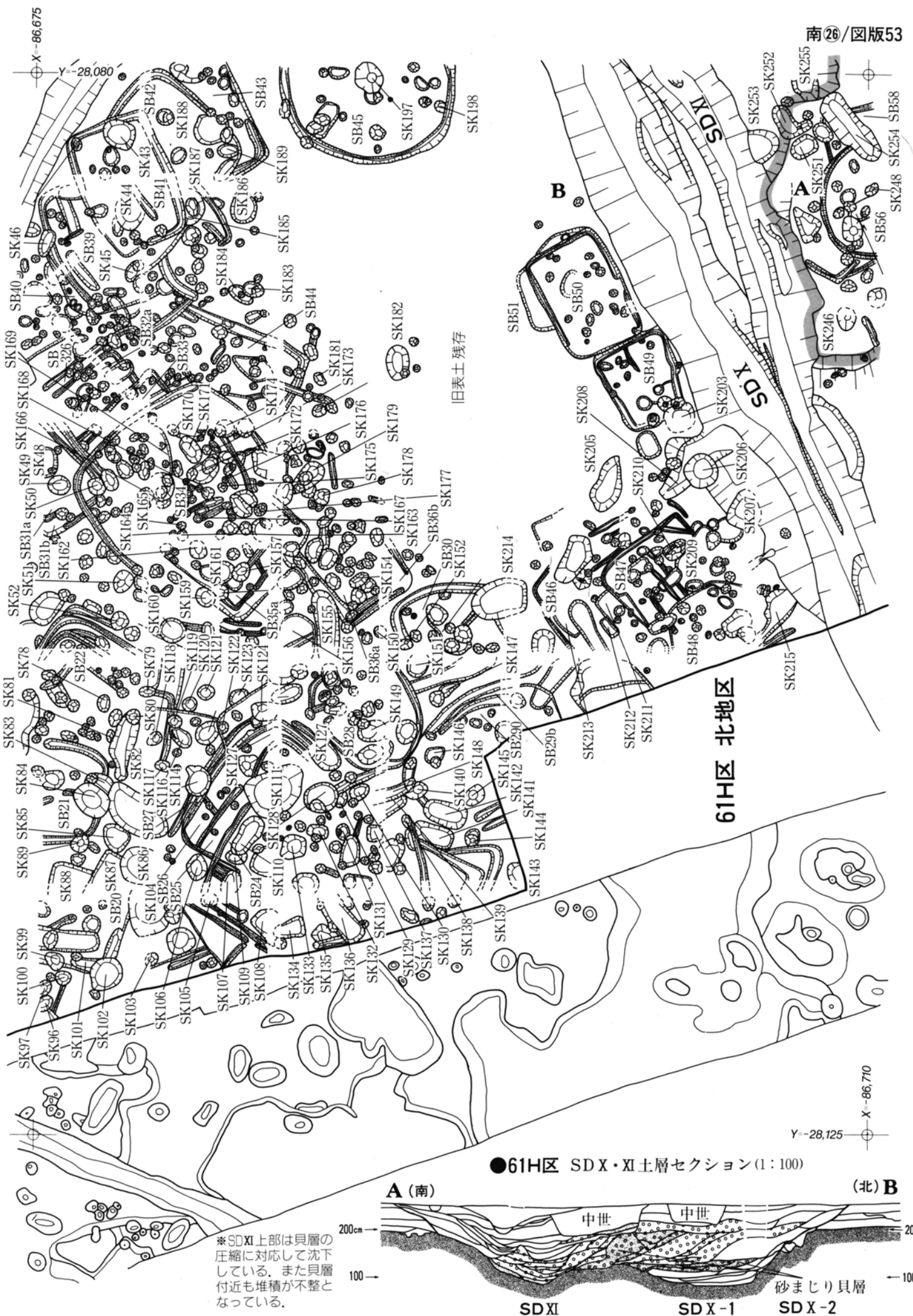


●61H区 SX02土層セクション(1:100)



61H区北地区



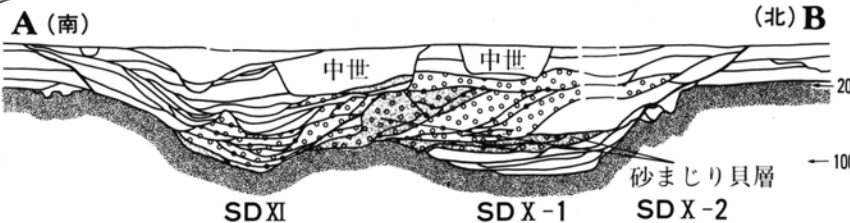


旧表土残存

61H区 北地区

●61H区 SDX・XI土層セクション(1:100)

*SDXI上部は貝層の
圧縮に対応して沈下
している。また貝層
付近も堆積が不整と
なっている。



A (南)

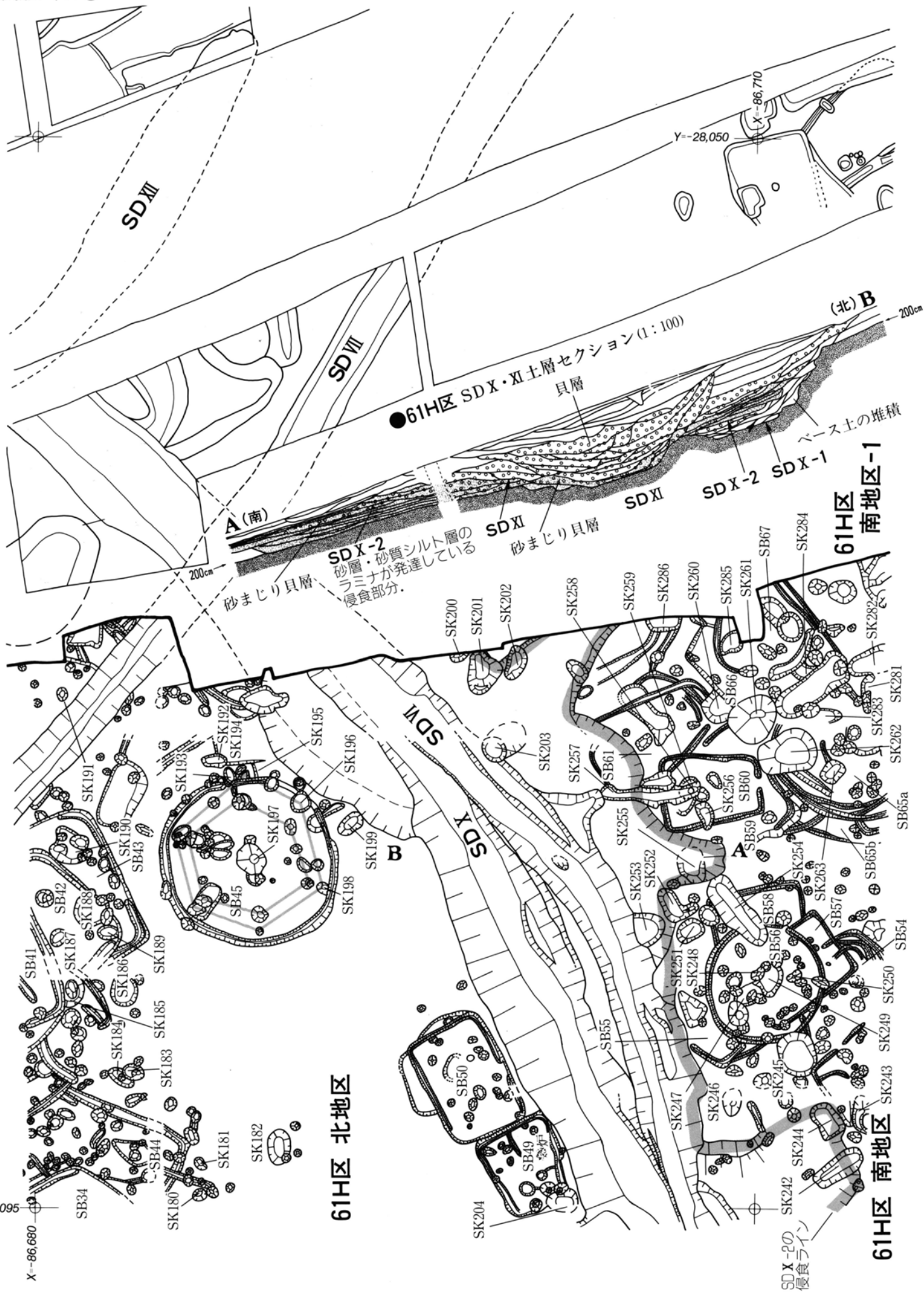
(北) B

SDXI

SDX-1

SDX-2

砂まじり貝層



61H区 北地区

61H区 南地区-1

61H区 南地区-2

●61H区 SDX・XI土層セクション(1:100)

SDX-2
砂層・砂質シルト層の
ラミナが発達している
侵食部分。

砂まじり貝層

砂まじり貝層

SDX-2の
侵食ライン

ベース土の堆積

(北) B

A (南)

61H区 南地区-1

61H区 南地区-2

61H区 南地区-2

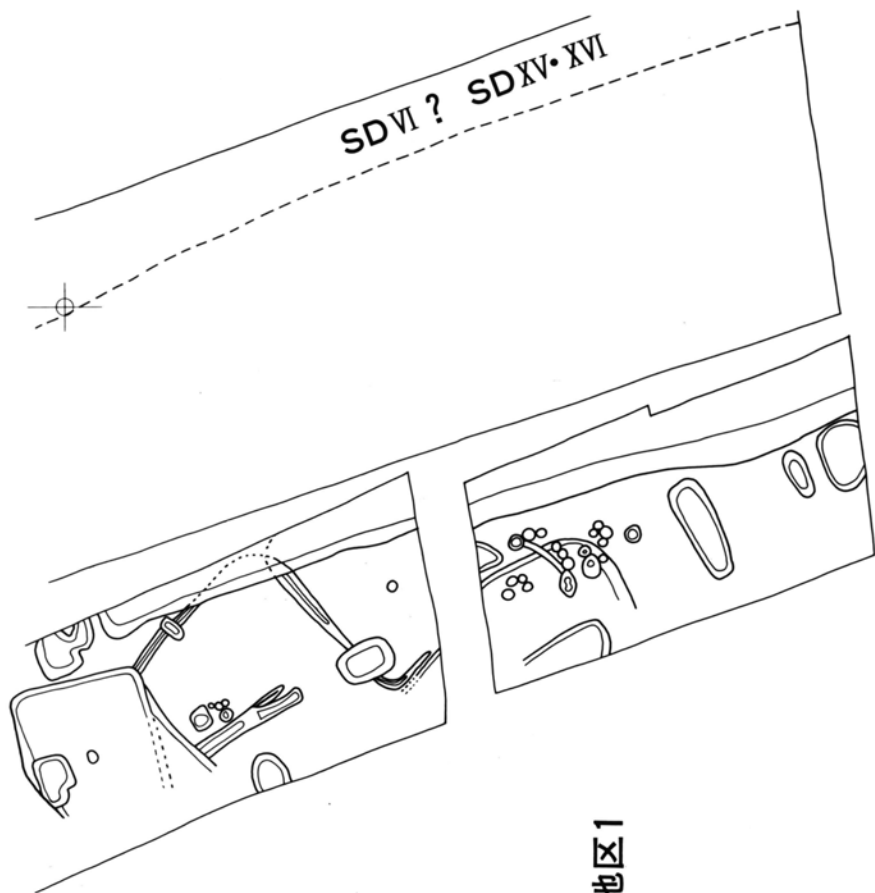


61H区
南地区1

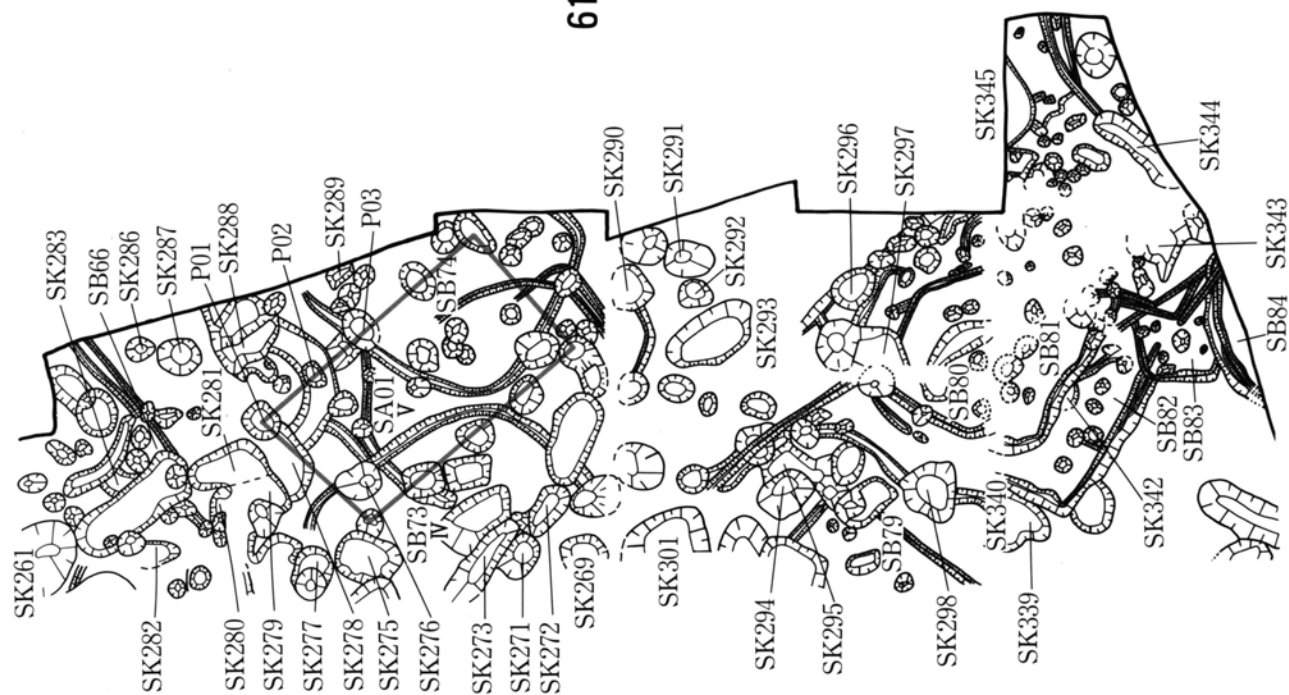
SD X-2の水位上
昇にもなう侵
食ライン。

X-86,740
Y-28,080

X-86,710
Y-28,110



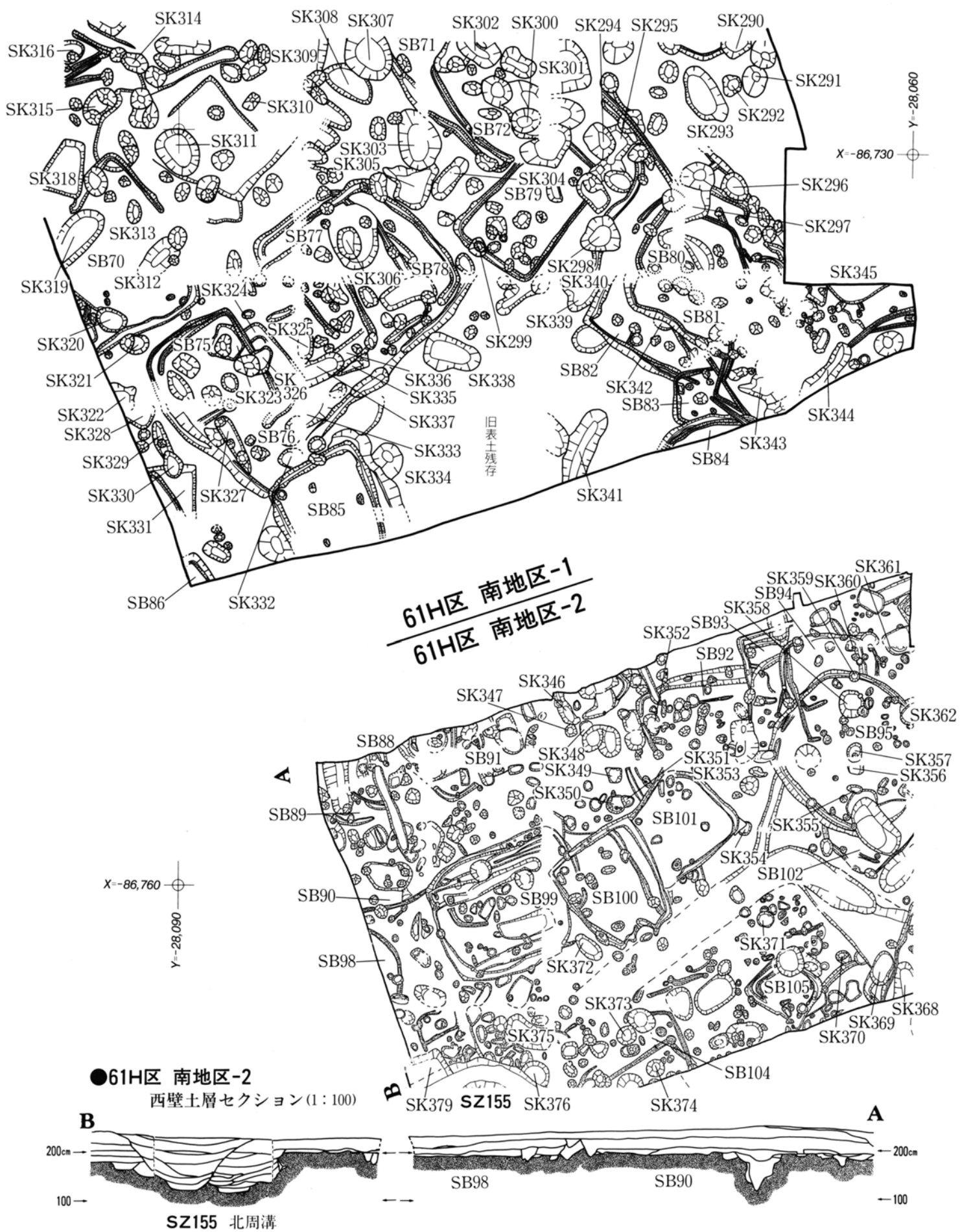
61H区 南地区1

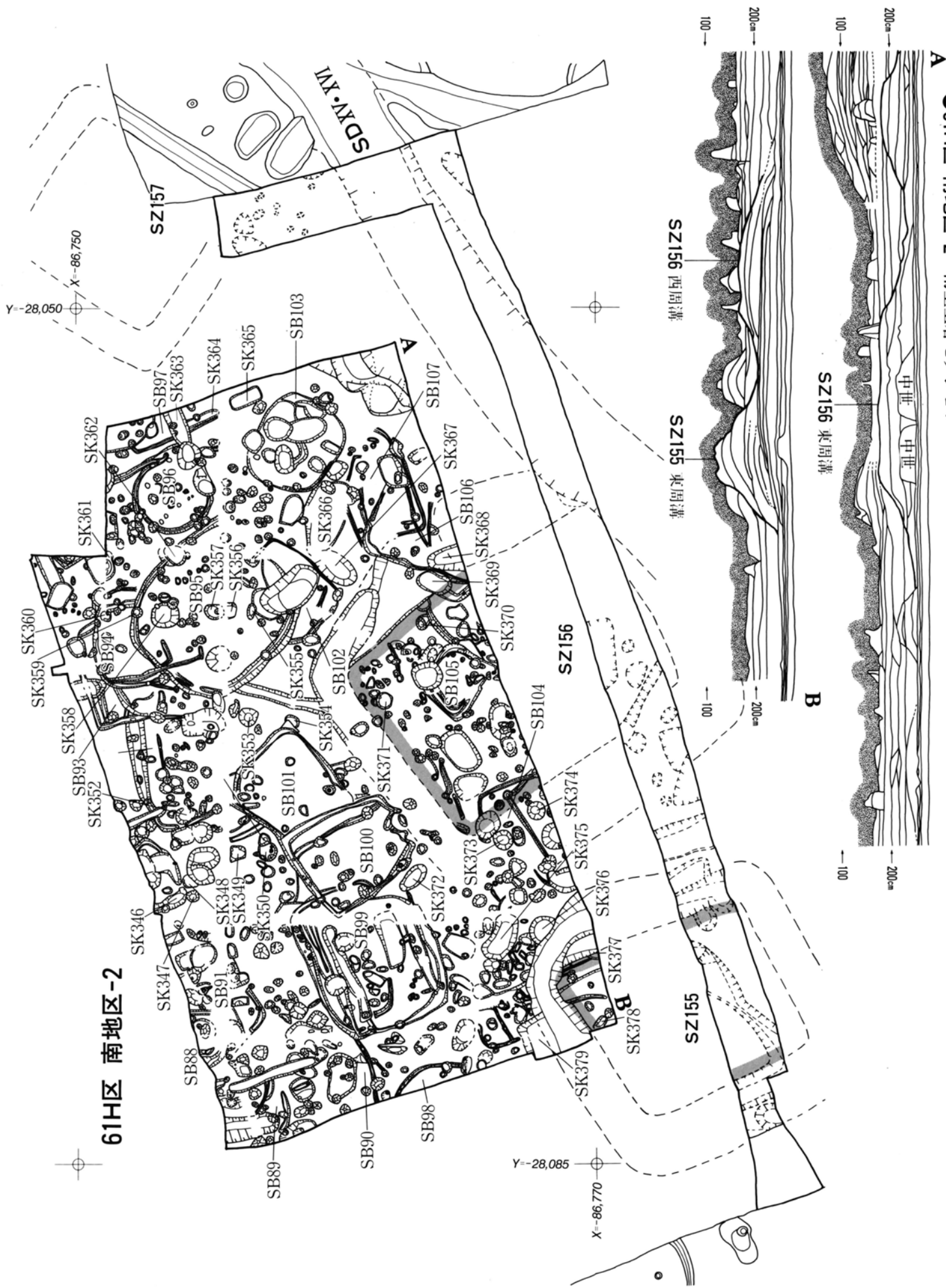


X--86,710

Y--28,080







61H区 南地区-2

●61H区 南地区-2 南壁土層セクション

SZ156 東周溝

SZ155 西周溝

SZ155 東周溝

B

A

中世 中世

100 200cm

100 200cm

100 200cm

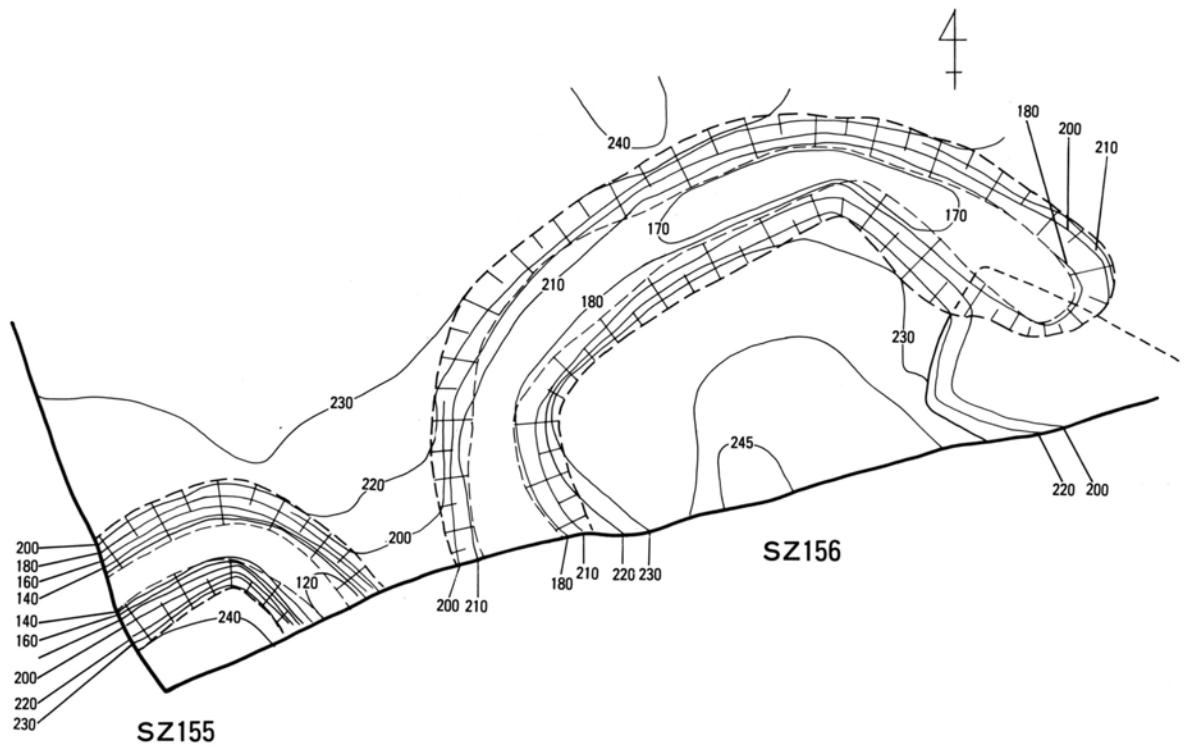
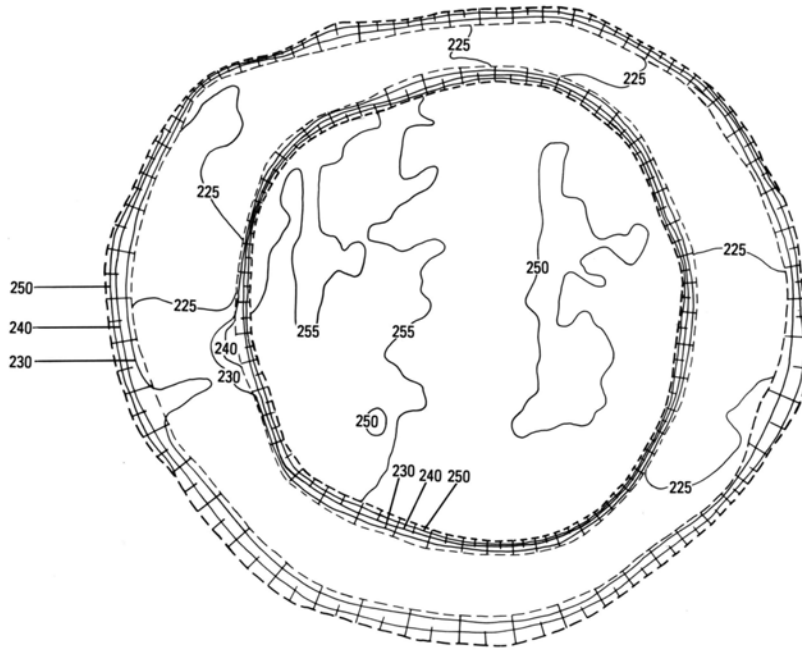
100 200cm

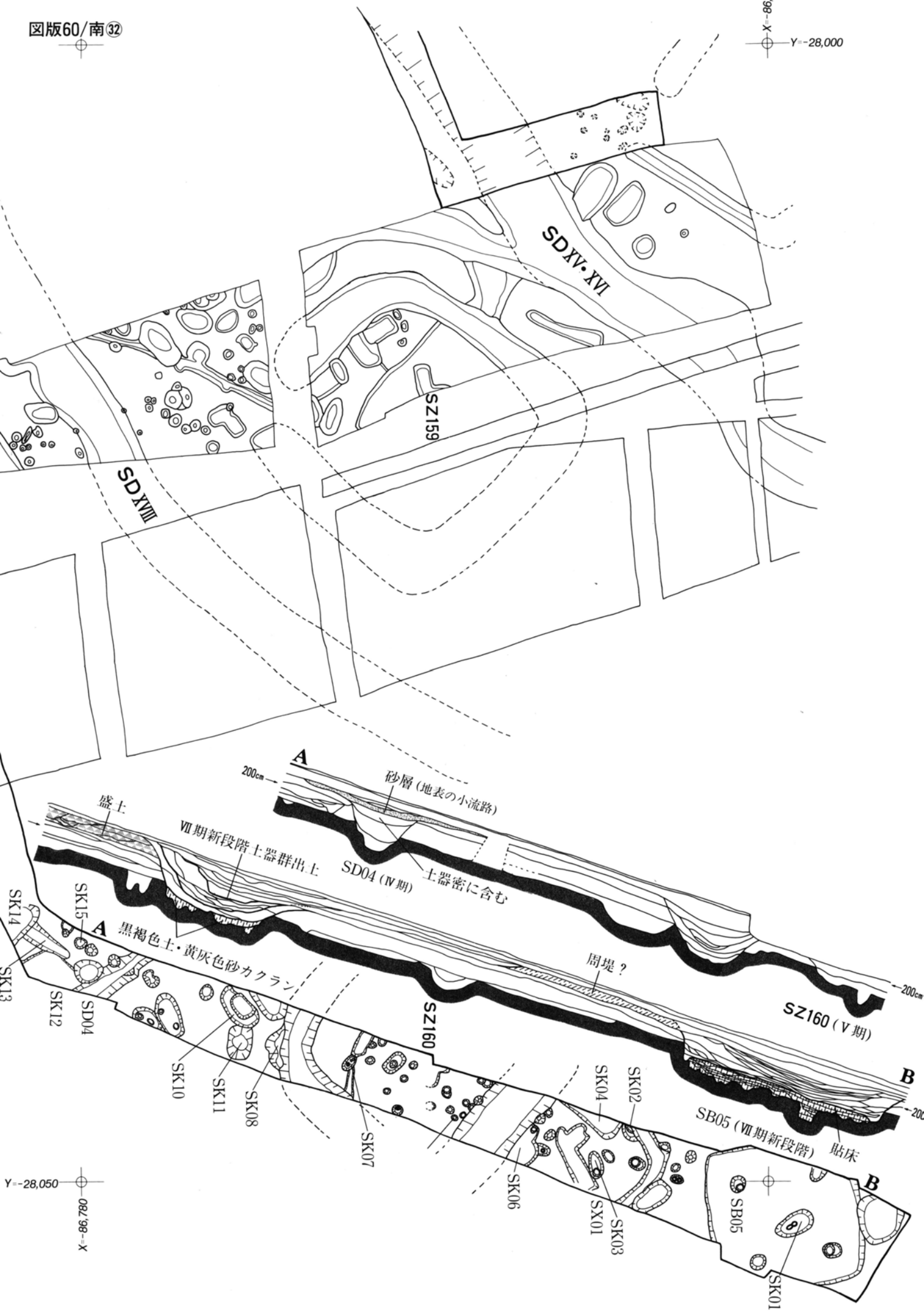
X=86,770 Y=28,085

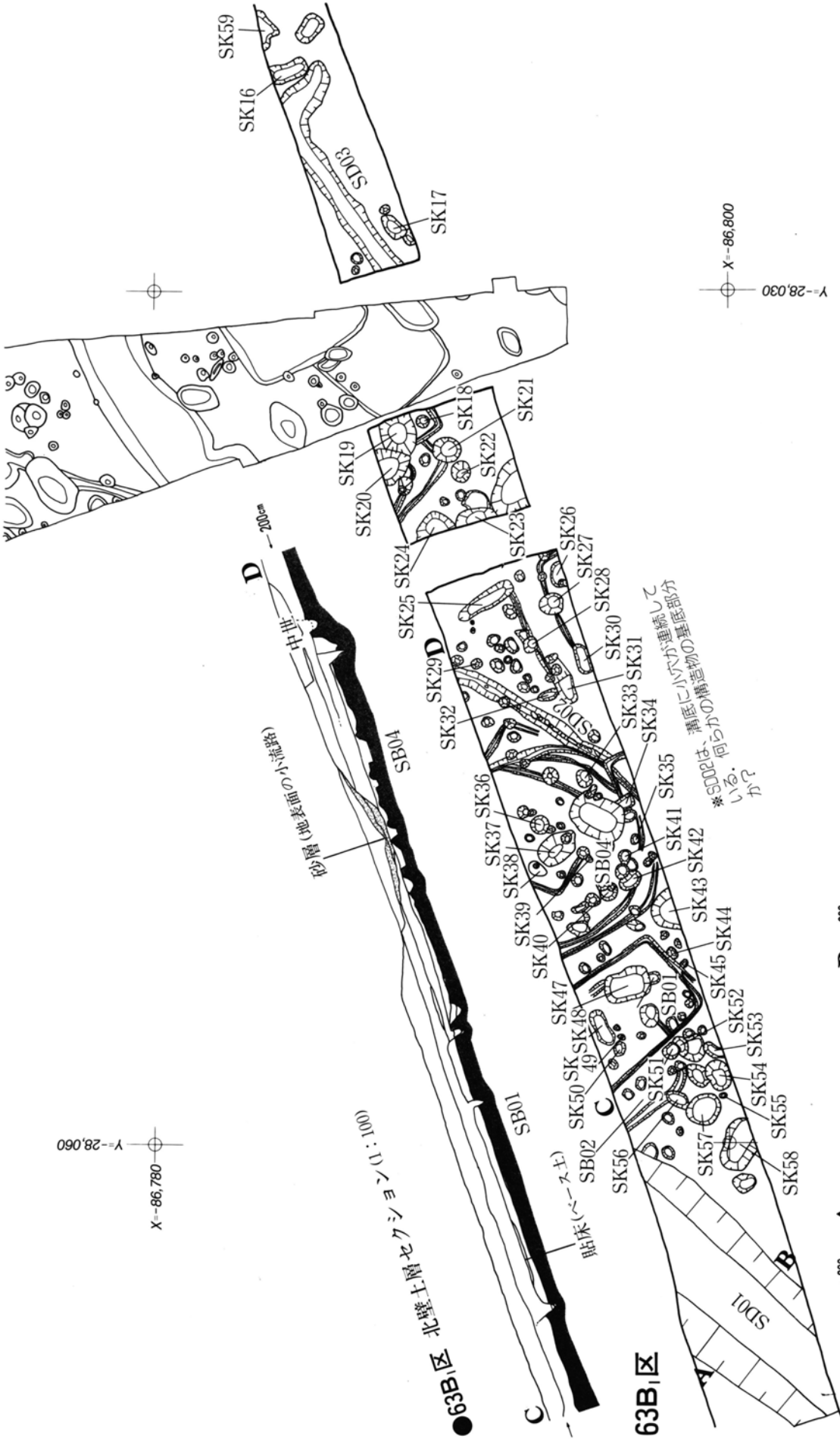
X=86,750 Y=28,050

61H区 SZプラン(等高線図)

SZ1001







●63B|区 SD01土層セクション(1:100)

図版62 X=-86,500

X=-86,600

X=-86,700

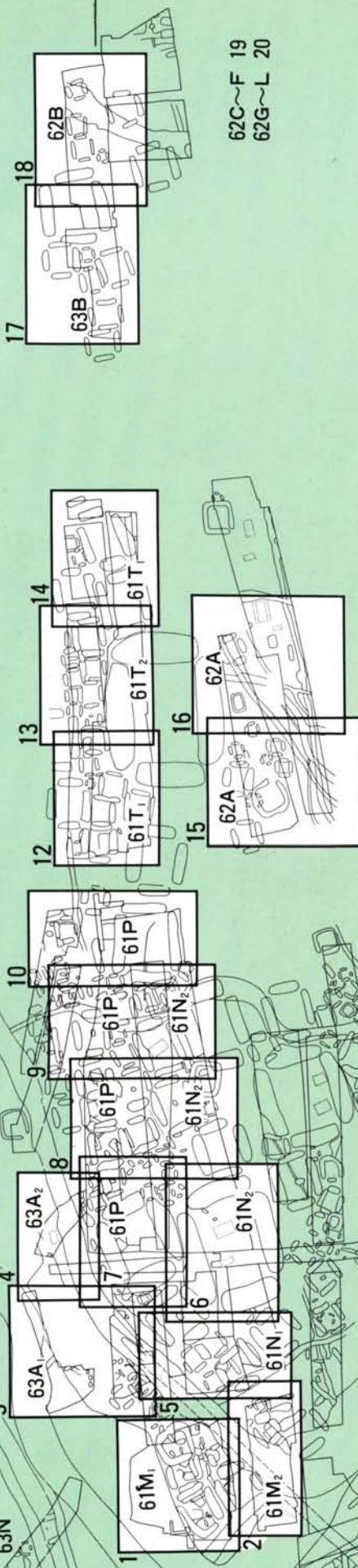
Y=-27,500

Y=-27,600

Y=-27,800

Y=-27,900

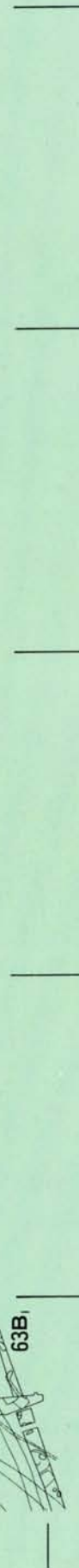
Y=-28,000

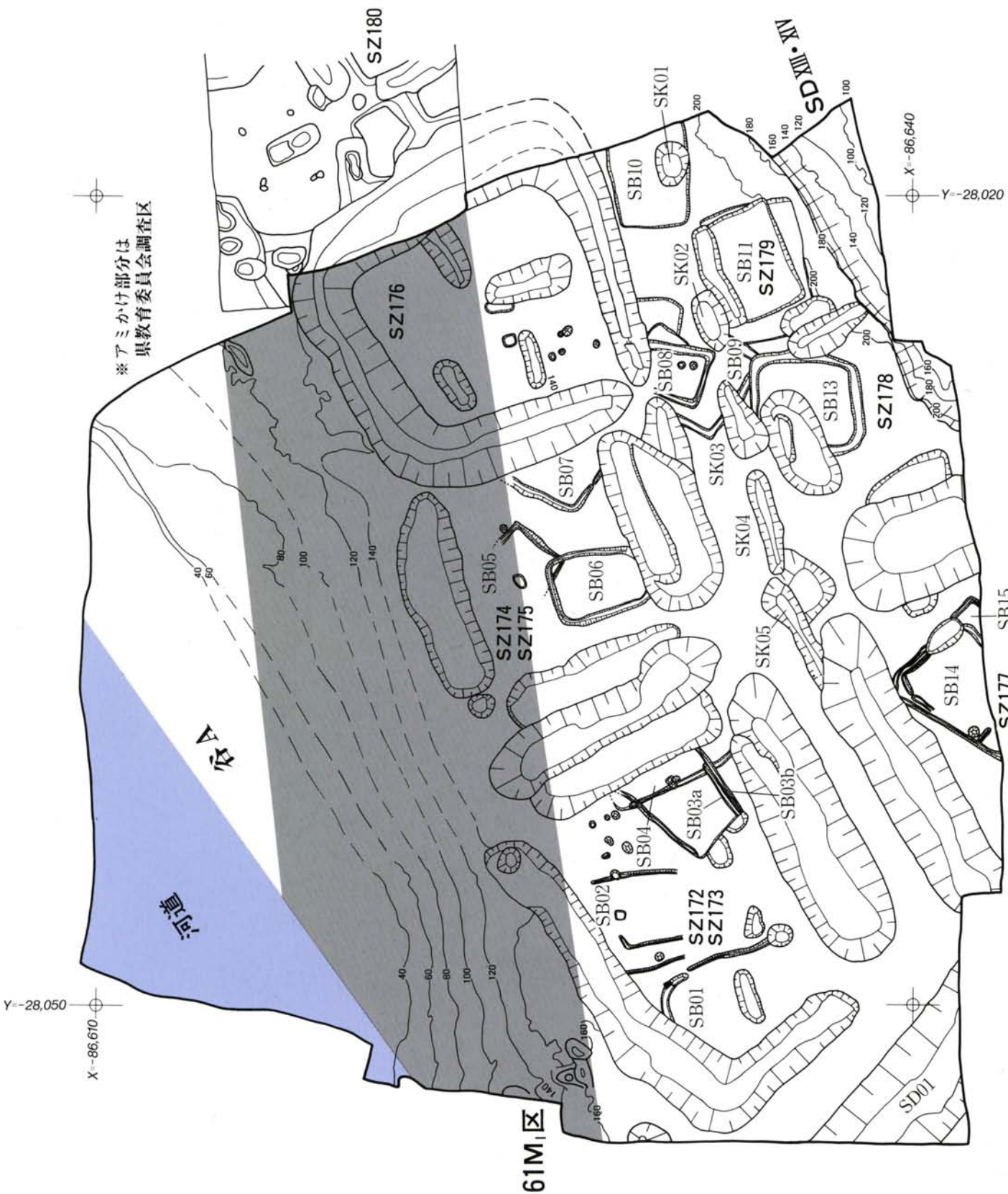


62C~F 19
62G~L 20

図版割付図 4

東部地区

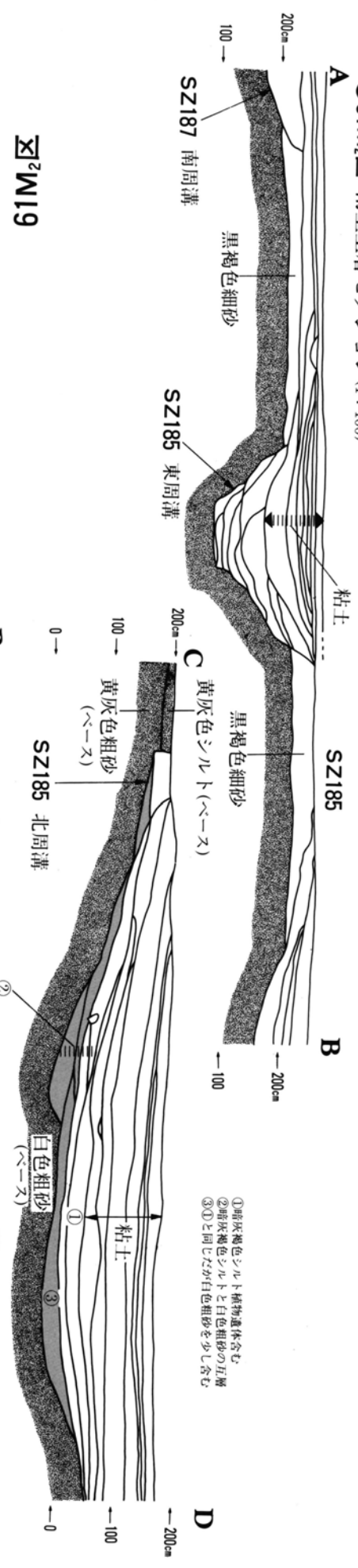




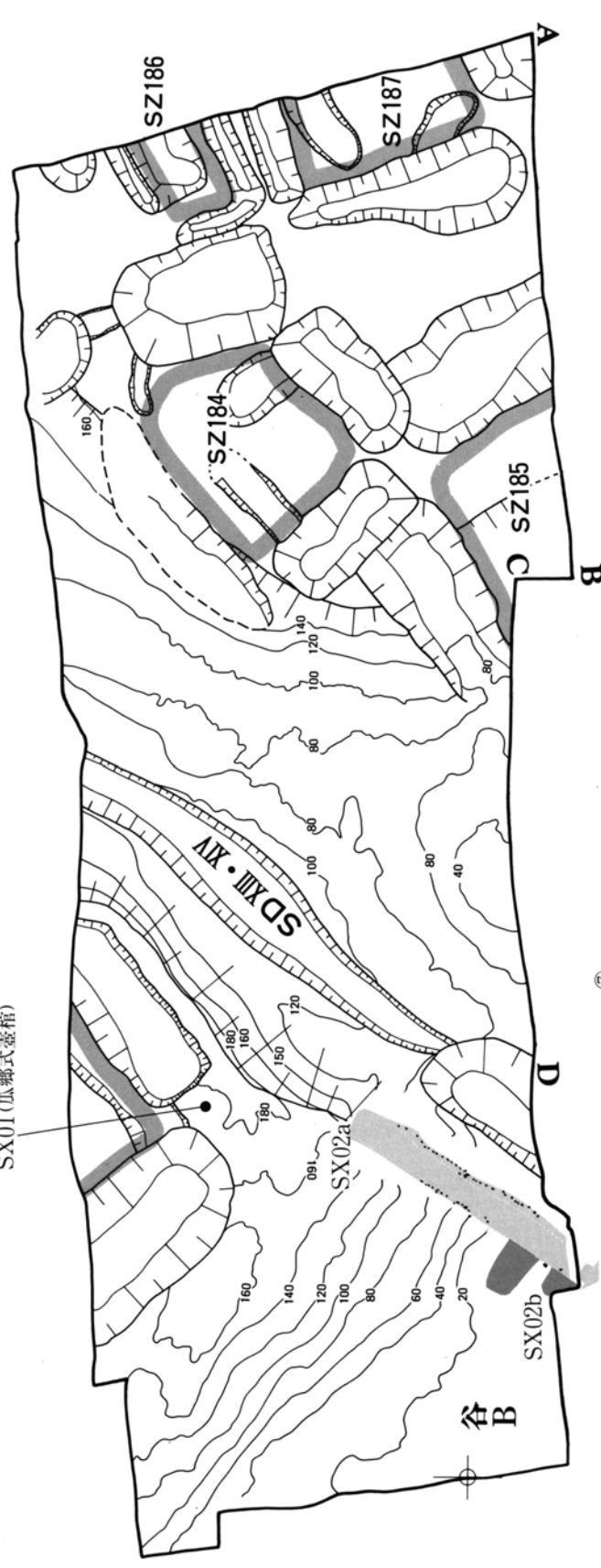
※アミかけ部分は
県教育委員会調査区

61M₁区

●61M₂区 南壁土層セクション(1:100)

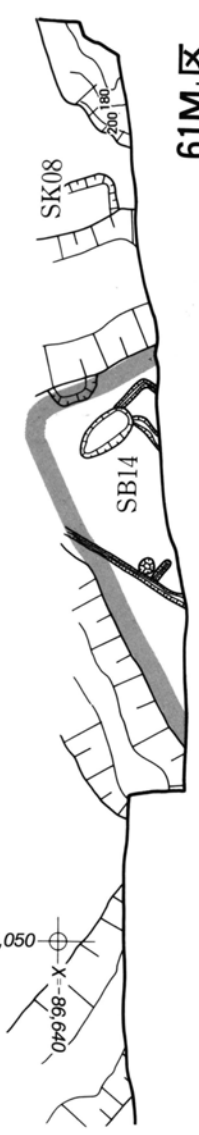


X=-86,600 Y=-28,005

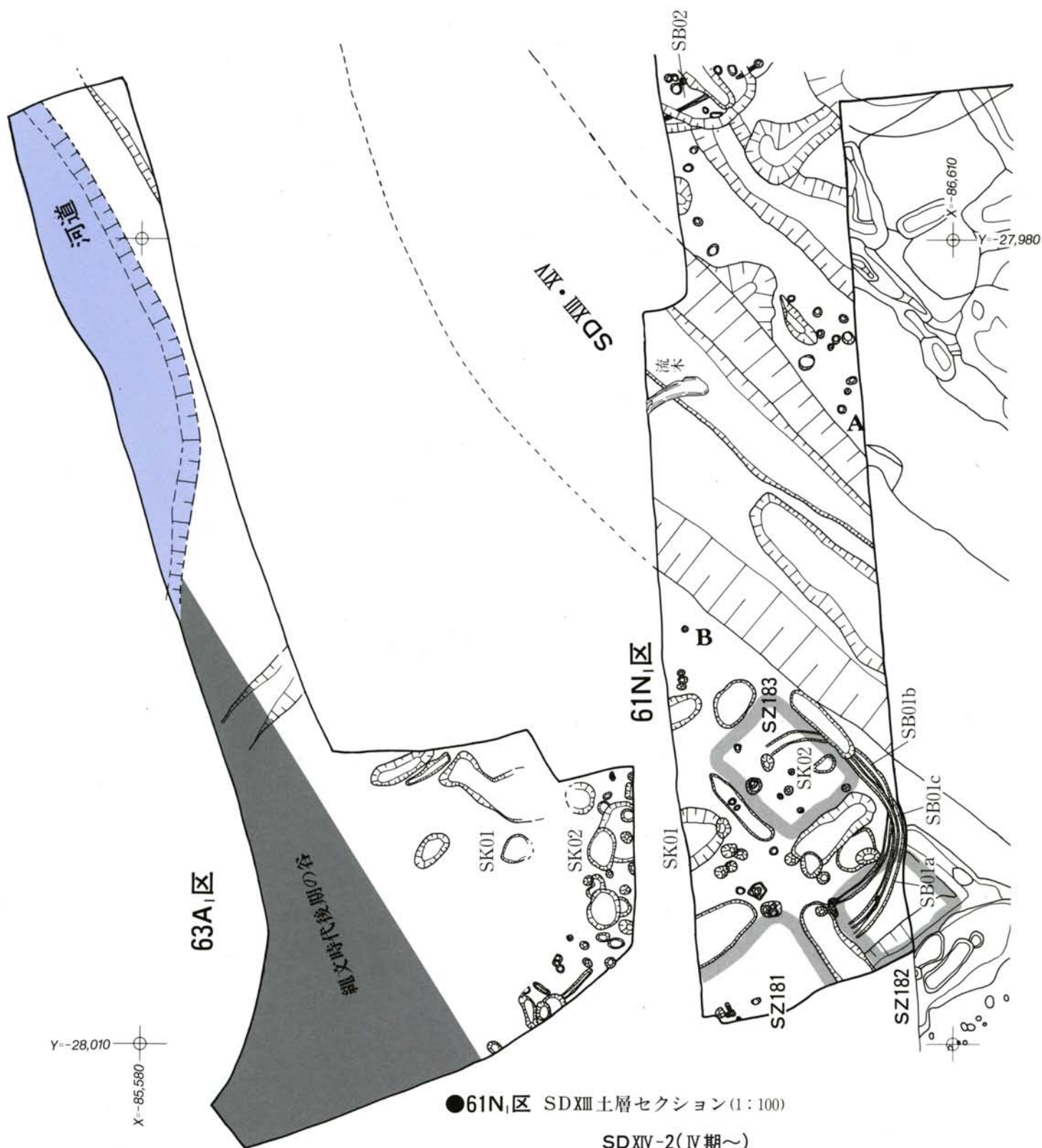


61M₂区

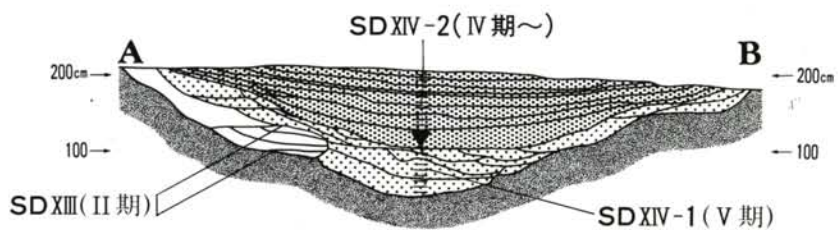
61M₁区

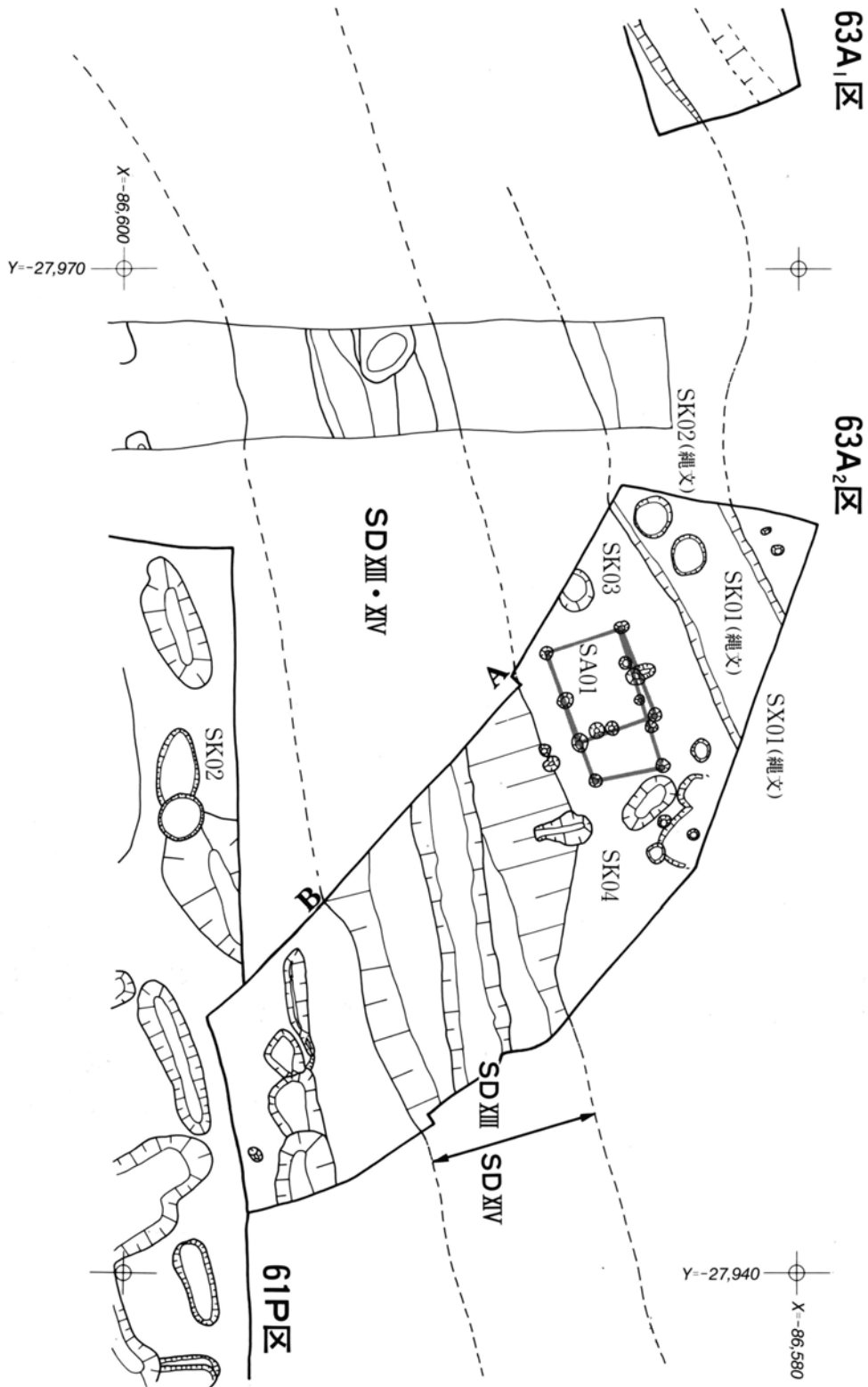


Y=-28,050 X=079,98

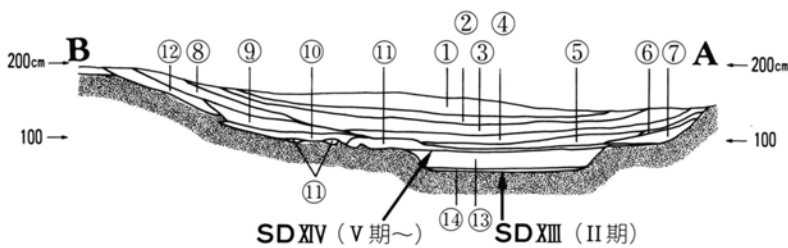


●61N区 SDXIII土層セクション(1:100)

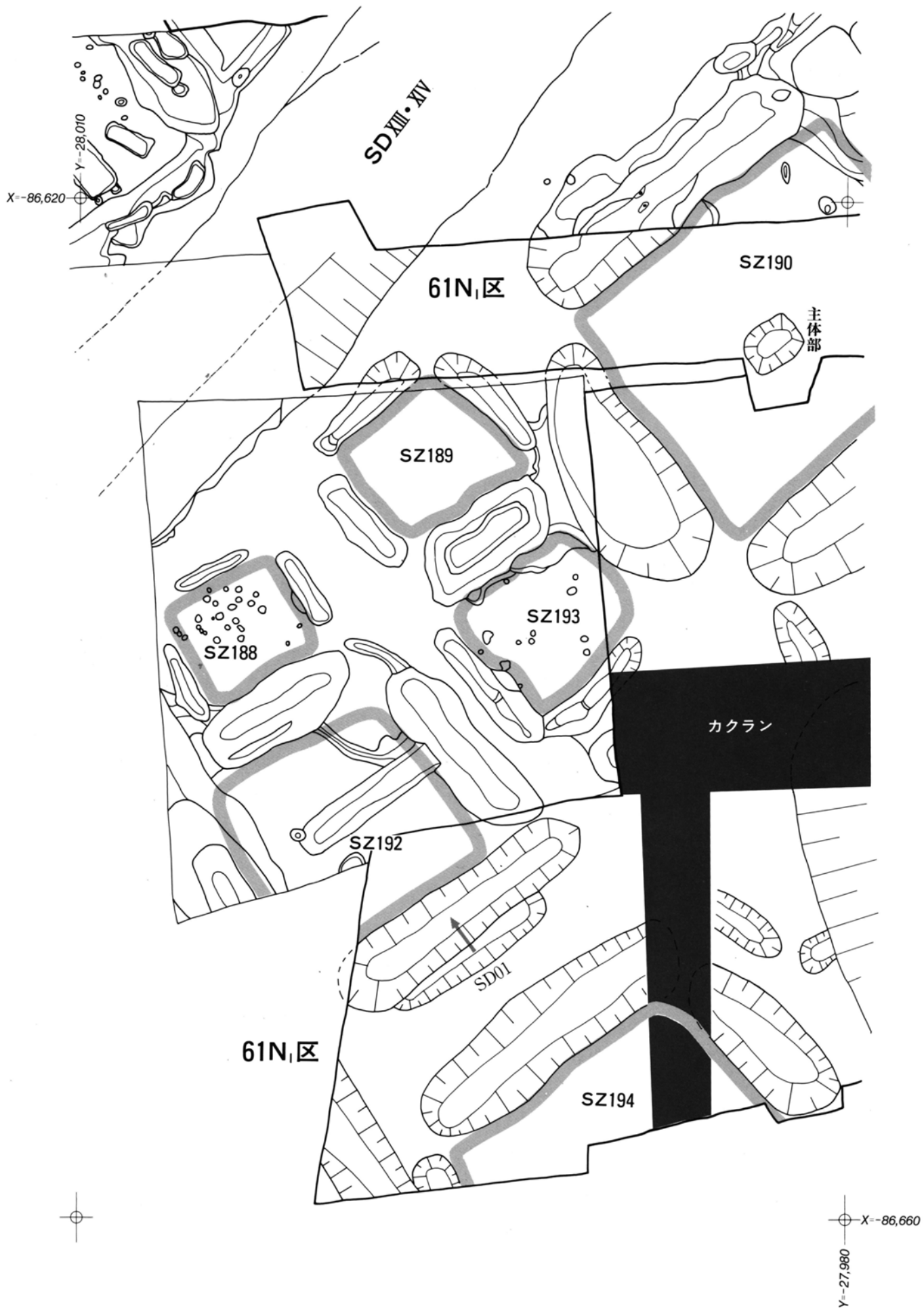


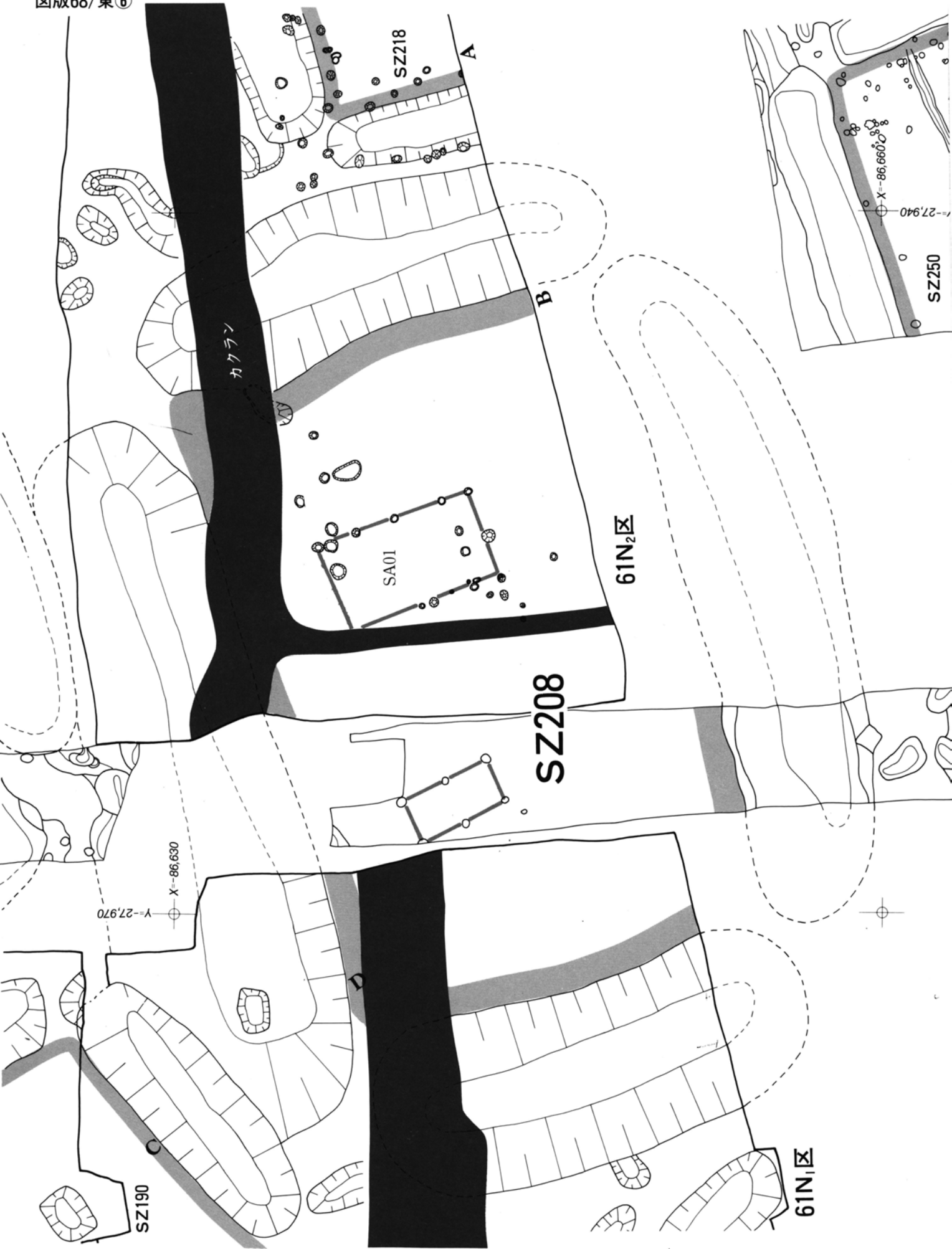


●63A₂区 SD XIII・XIV 土層セクション(1:100)



- SD XIV**
- ① 暗灰色シルト
 - ② 暗灰褐色砂質シルト (植物遺体含む)
 - ③ " (植物遺体を少し含む)
 - ④ " " " "
 - ⑤ " " " やや砂まじり
 - ⑥ 灰褐色砂質シルト
 - ⑦ 暗青色砂質シルト (ベース土の崩土)
 - ⑧ 灰褐色砂質シルト
 - ⑨ " " (ベース土混入)
 - ⑩ 灰青色砂質シルト (ベース土混入)
 - ⑪ 灰色砂
 - ⑫ ⑨に類似
- SD XIII**
- ⑬ 暗灰青色砂質シルト
 - ⑭ 黄褐色砂





●61N₂区 方形周溝墓周溝土層セクション(1:100)

Ⅶ期



63A₂区

61P区

SZ207

SZ206

SZ208

SZ211

SZ210

SZ209

SK03

SZ212

SZ206 (Ⅲa期)

SZ207 (Ⅳ期)

SK01

61N₁区

SB02

SZ191

SZ190

SZ213

SZ214

SZ215

SZ216

61N₂区

X--86,620

Y--27,940

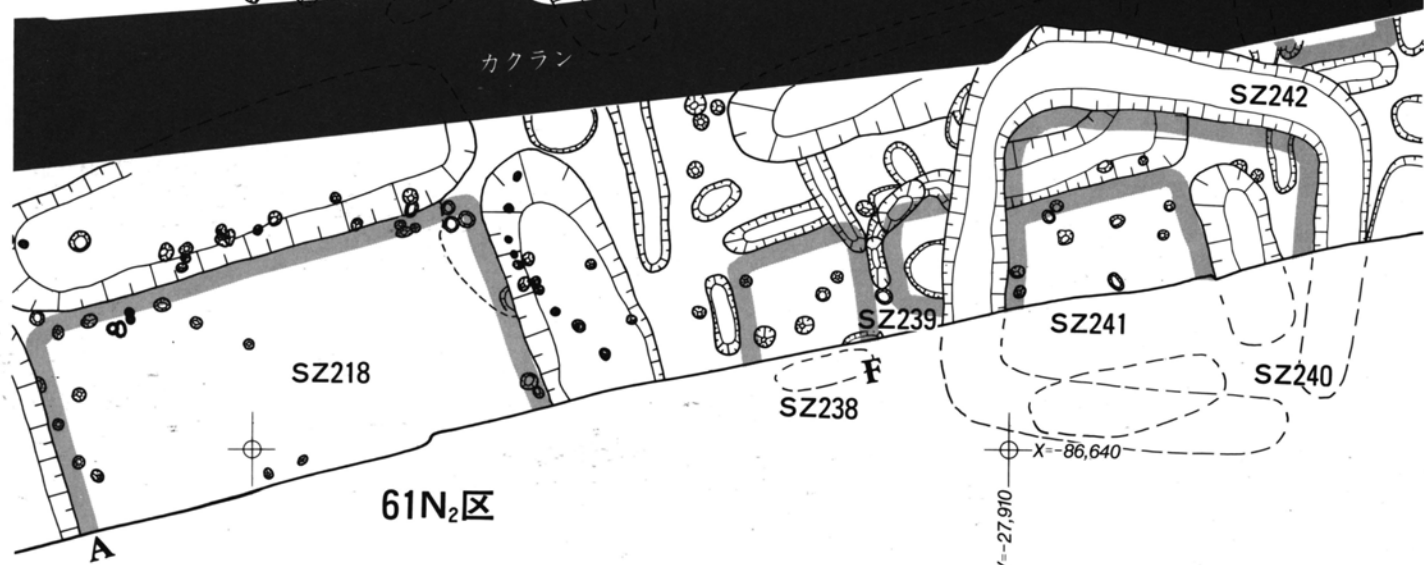
A

B

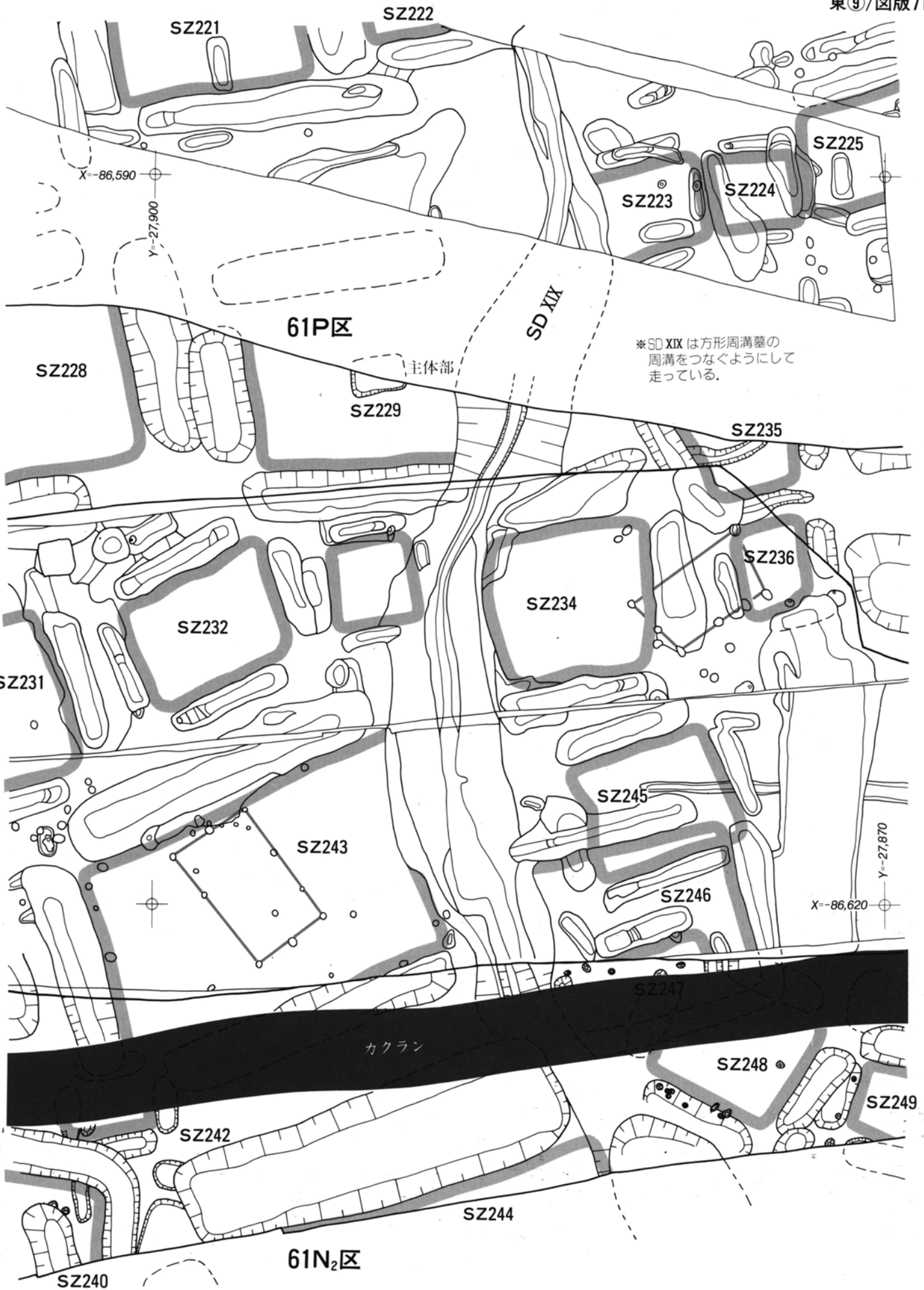
61P区

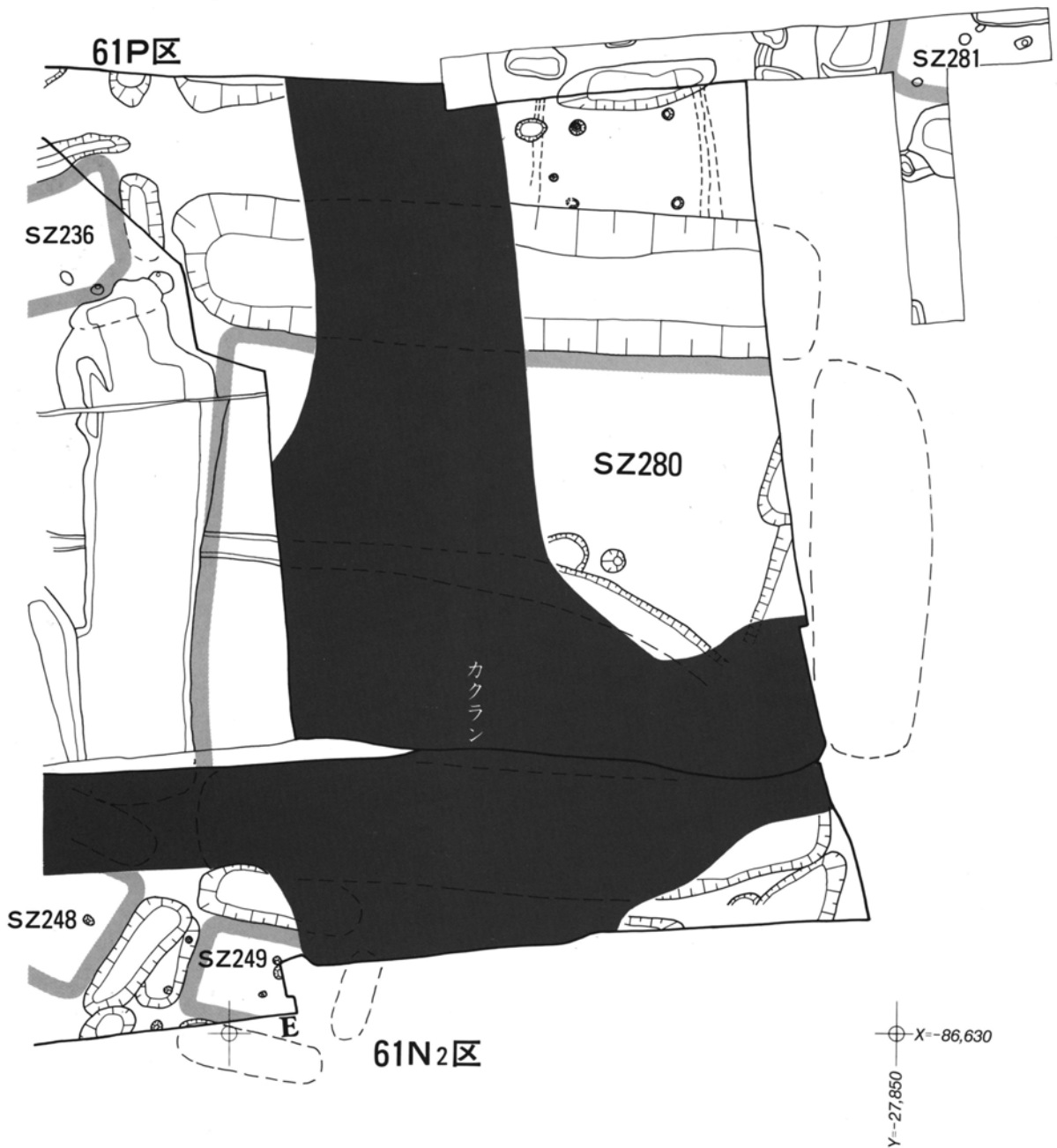
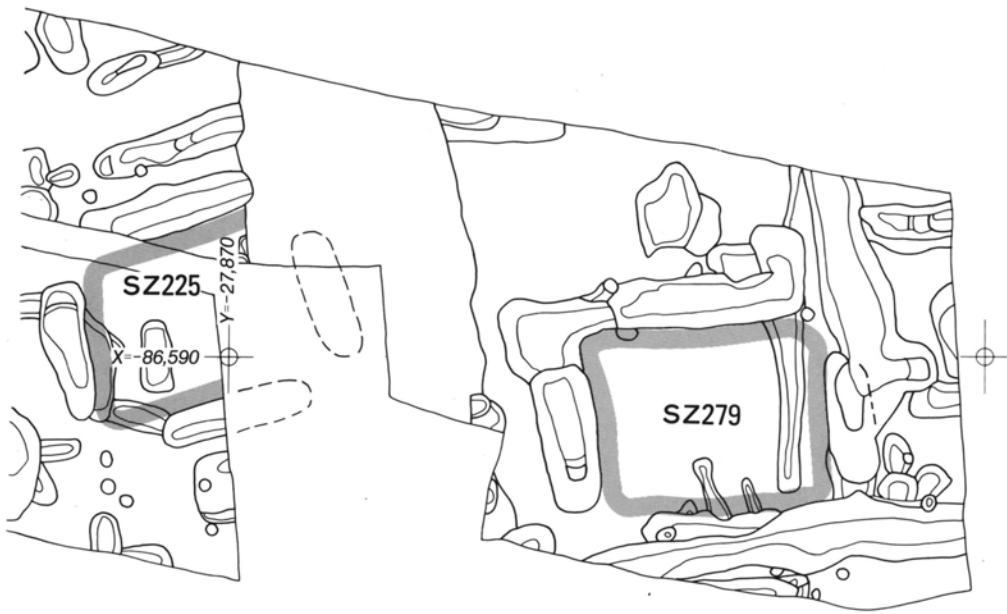


カクラン



61N₂区





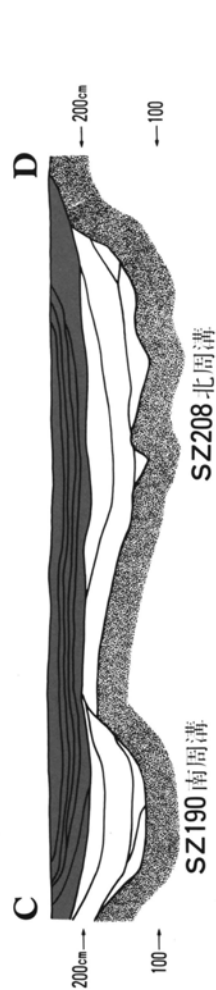
●61N₂区 南壁土層セクション(1:100)



※SZ208東周溝では、かなり溝底に近いところからVI期赤彩広口壺が出土している。周溝の再掘削が考えられる(再利用かどうかは不明)。

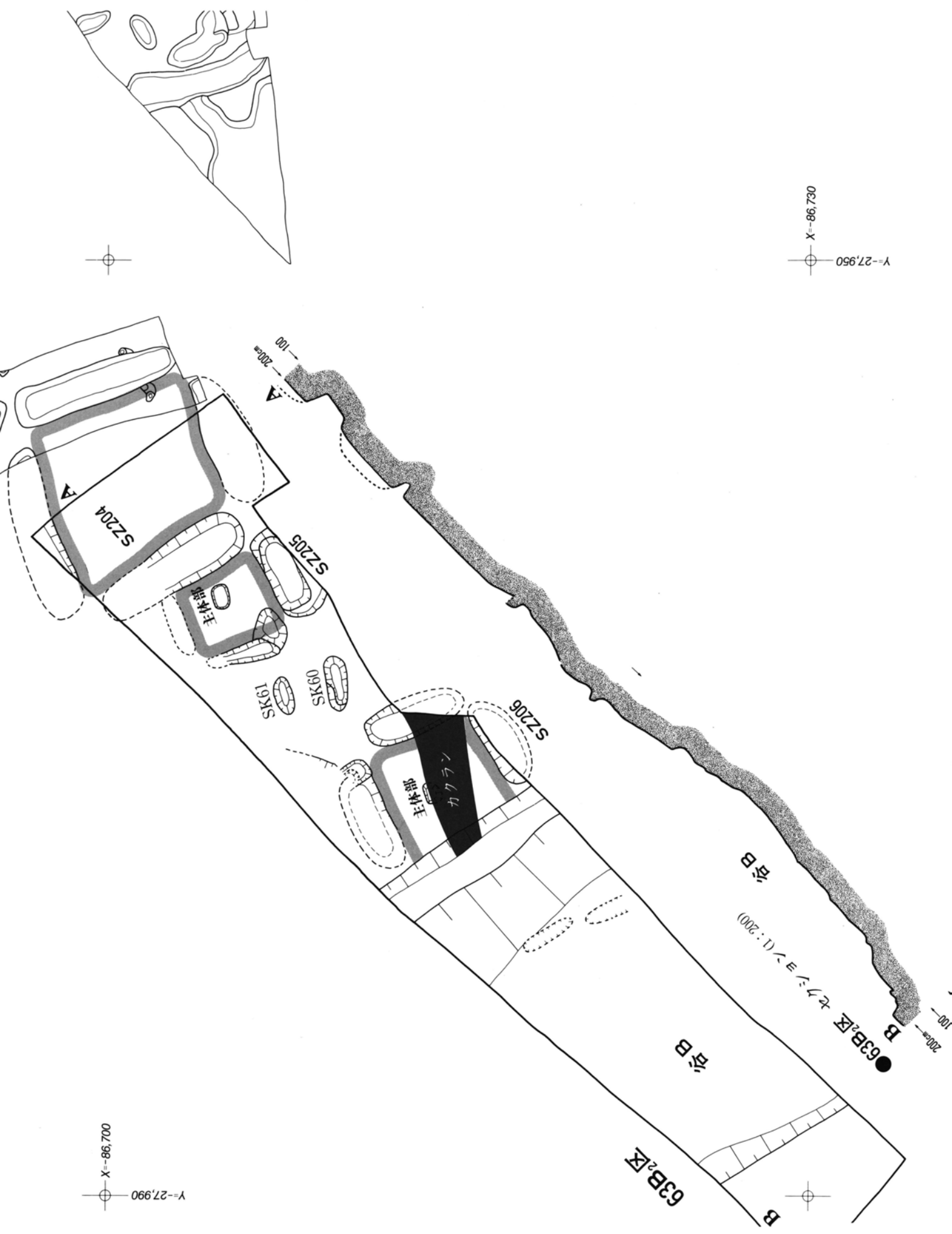
●61N₁区 方形周溝墓周溝土層セクション(1:100)

※東部地区で検出された方形周溝墓周溝の多くには、埋土上部に薄層の累重が観察された。黄白色シルトあるいは白色シルトの堆積を特徴とする。



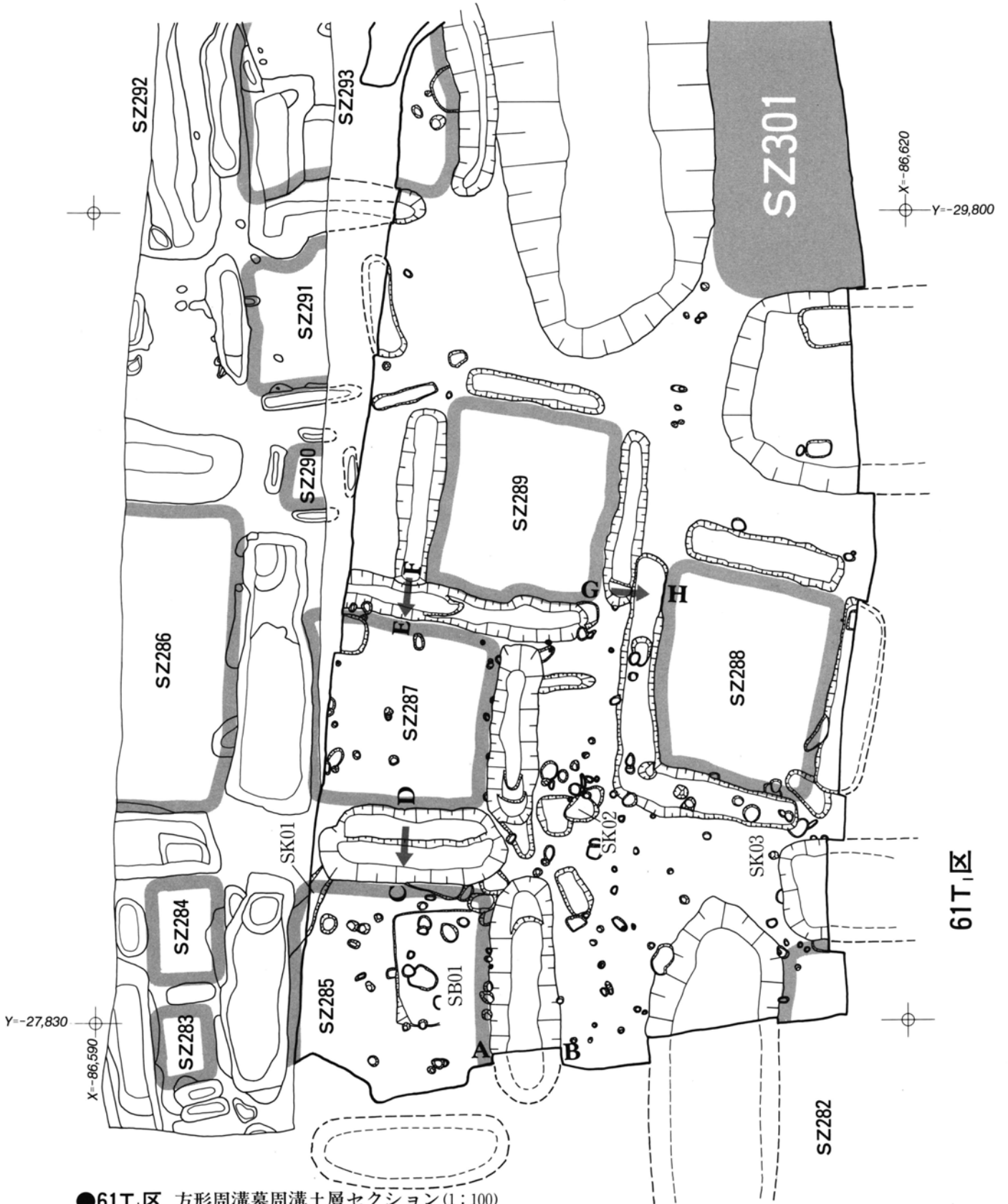
●61N₂区 南壁土層セクション(1:100)



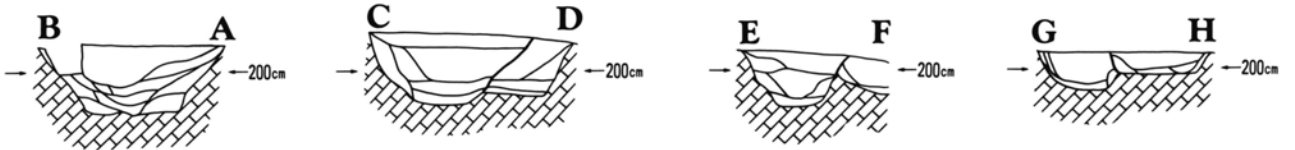


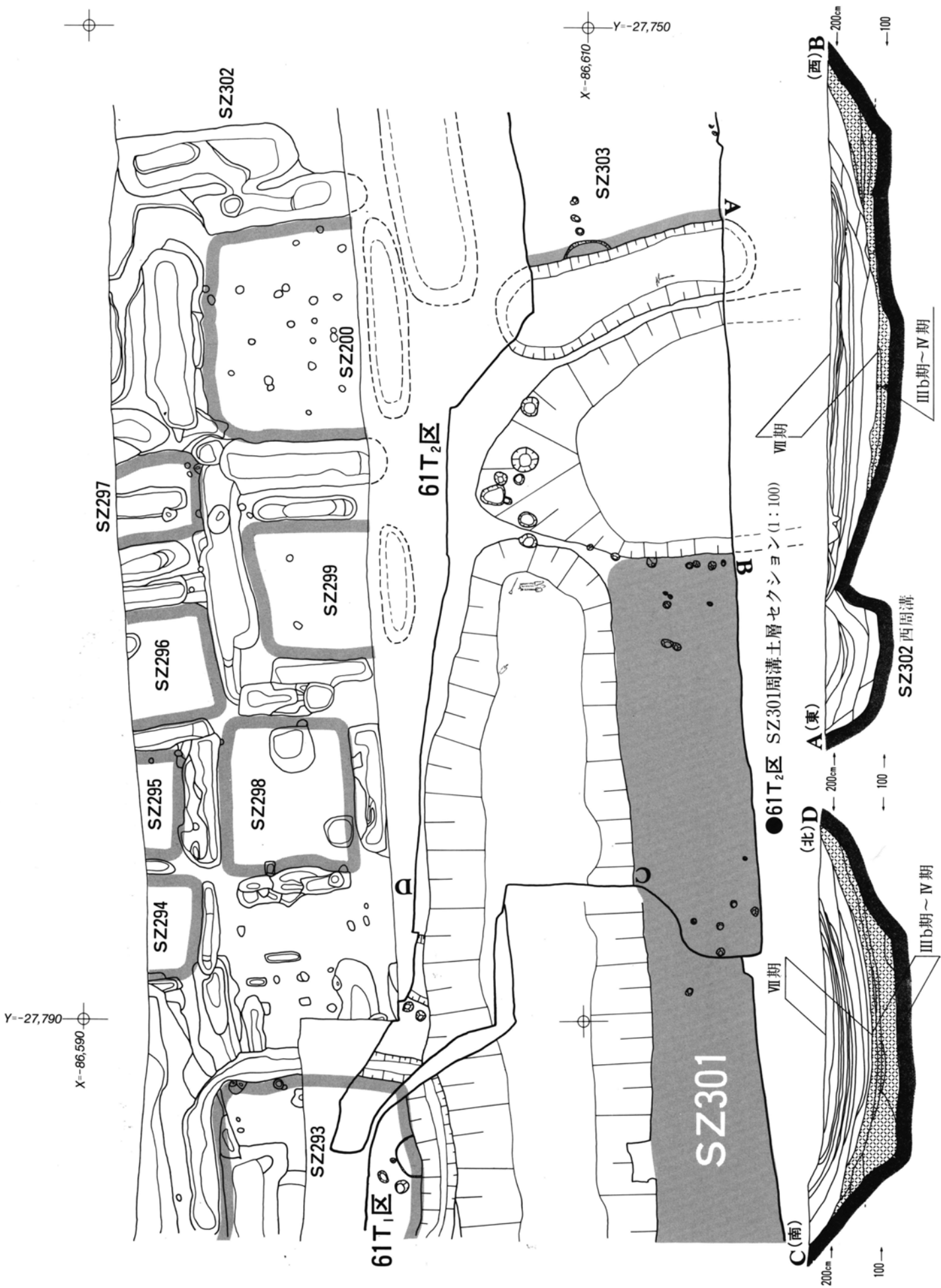
X = -86,700
Y = -27,990

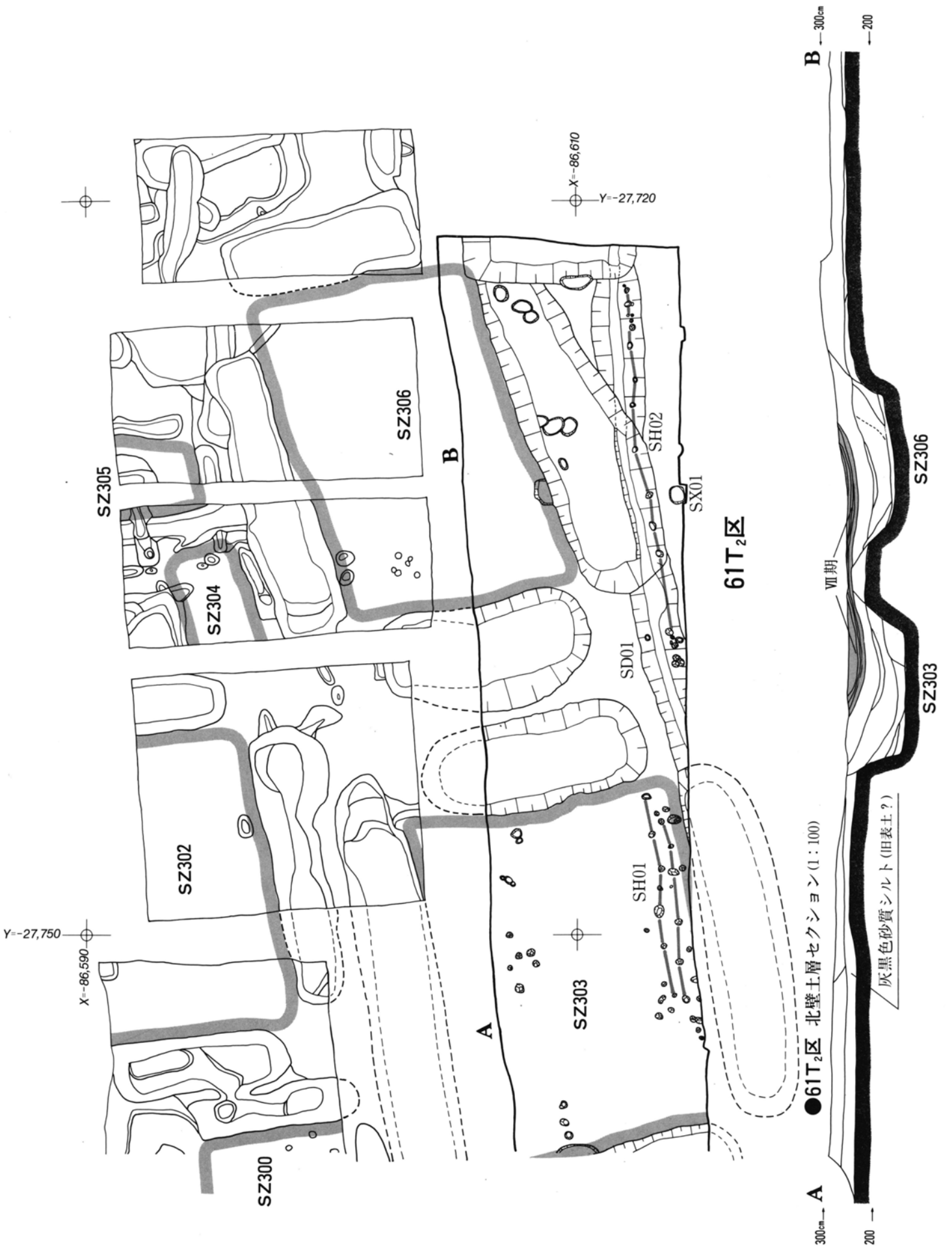
X = -86,730
Y = -27,950



●61T₁区 方形周溝墓周溝土層セクション(1:100)







●61T₂区 北壁土層セクション(1:100)

300cm--A

B--300cm

灰黒色砂質シルト(田表土?)

200

VII期

61T₂区

SZ306

SZ303

A

B

A

SZ305

SZ302

SZ304

SZ306

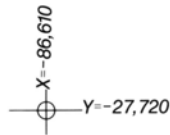
SZ300

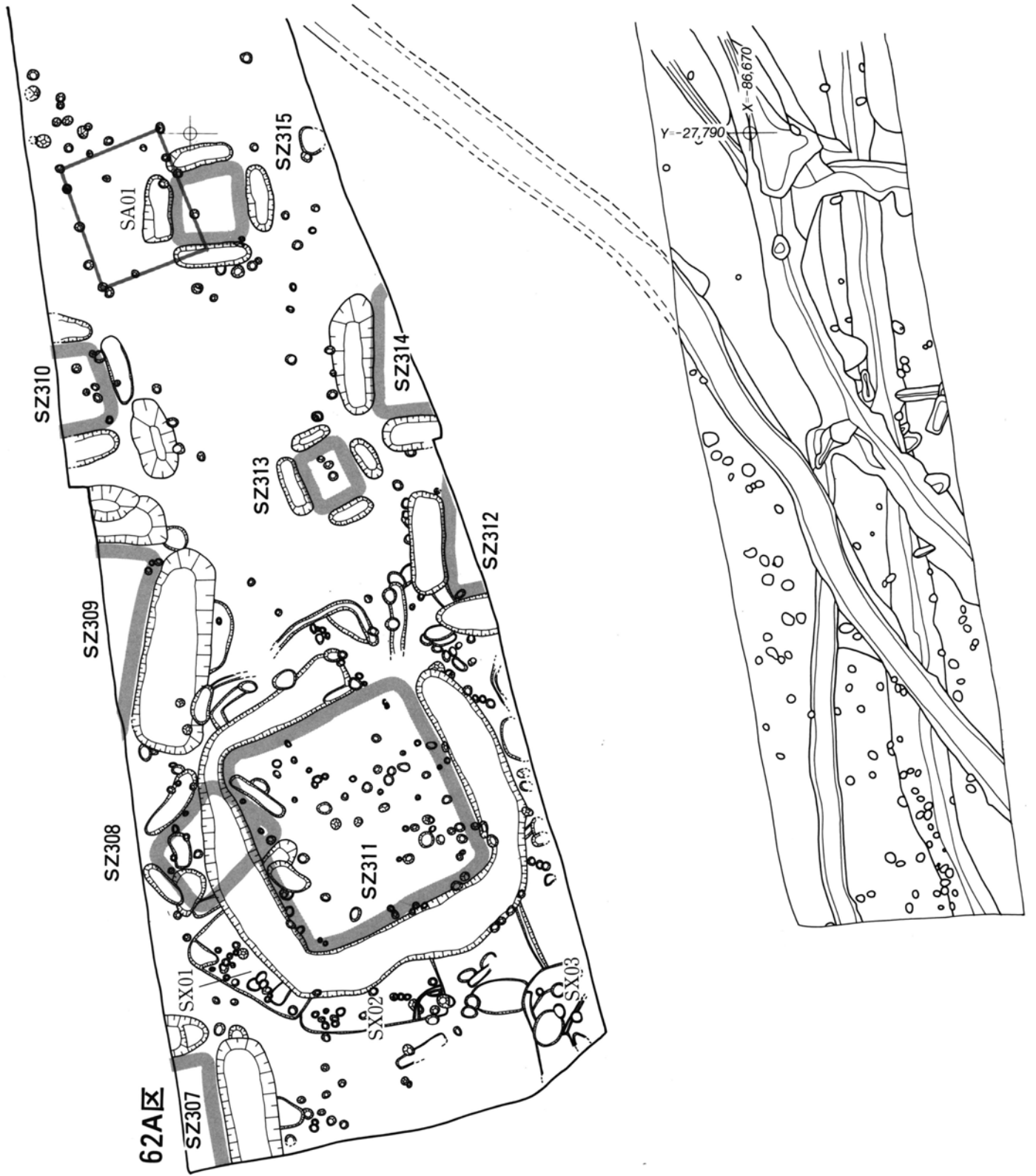
SH01

SD01

SH02

SX01



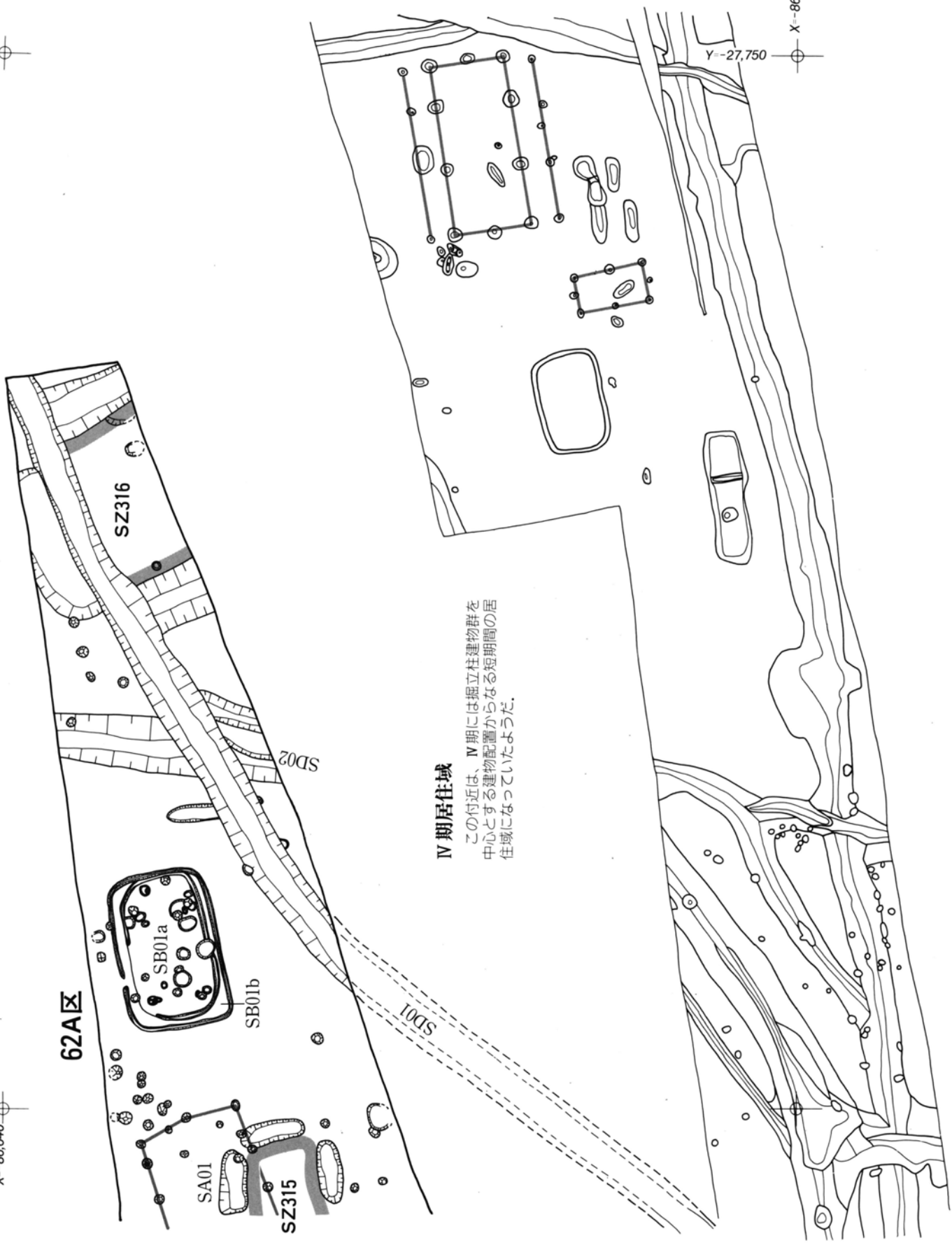


Y=-27,830
X=-86,650



Y--27,790
X--86,640

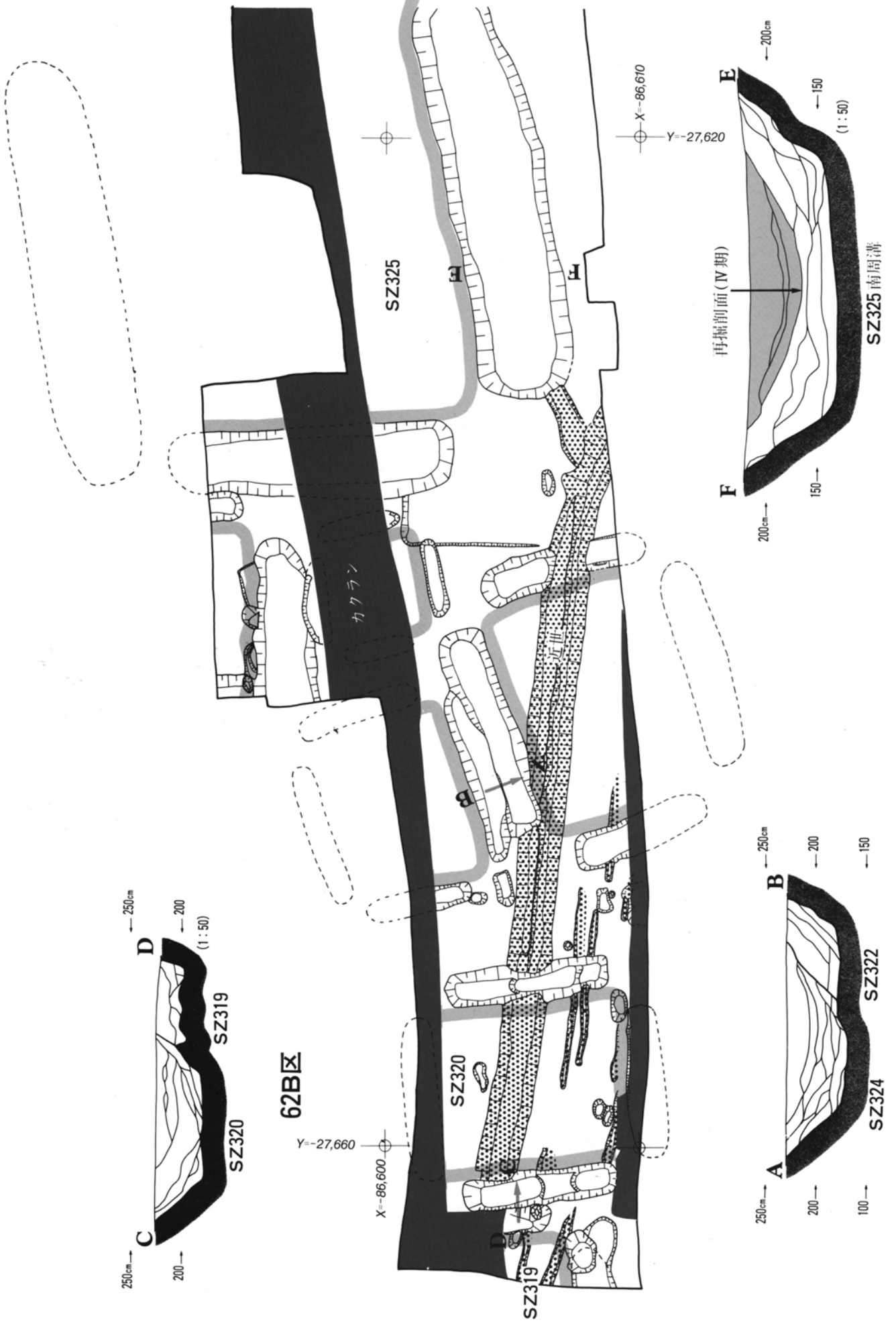
Y--27,750
X--86,670



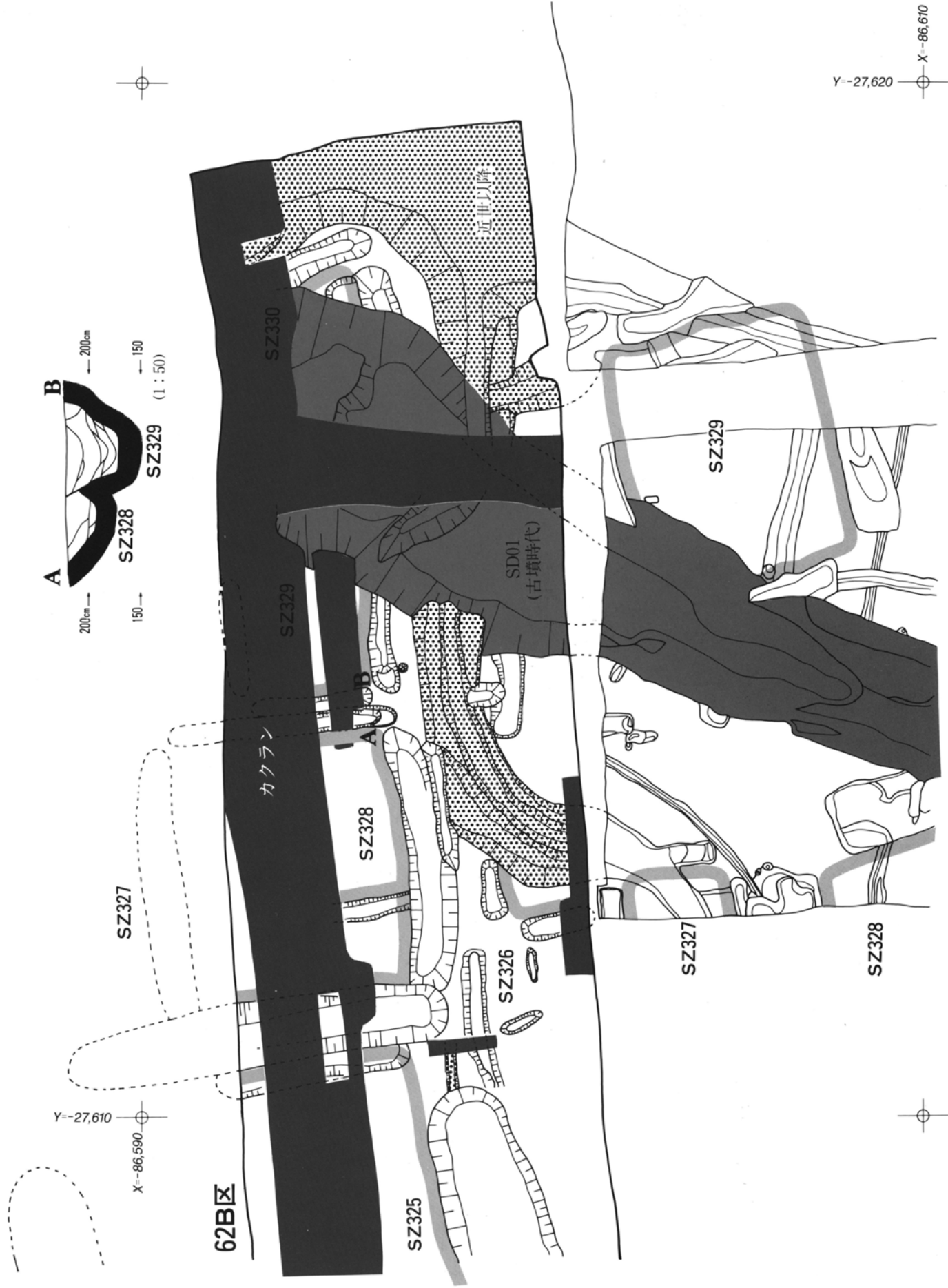
IV期居住域

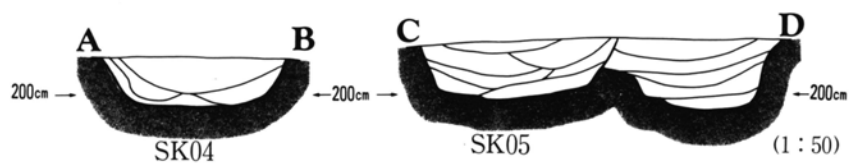
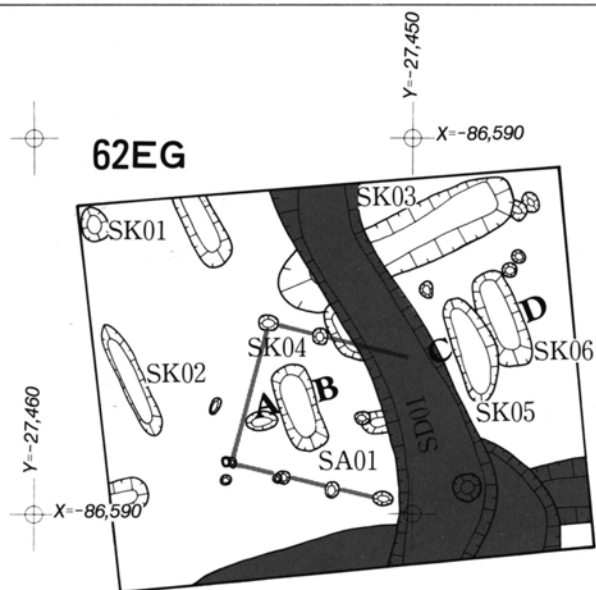
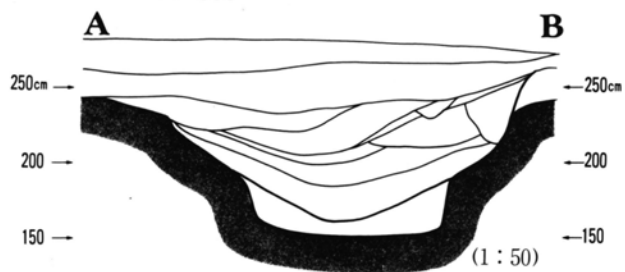
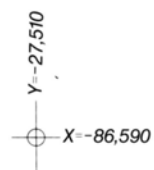
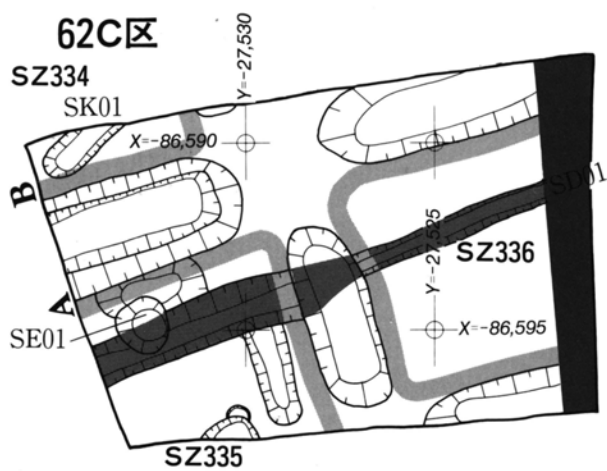
この付近は、IV期には掘立柱建物群を中心とする建物配置からなる短期間の居住域になっていたようだ。





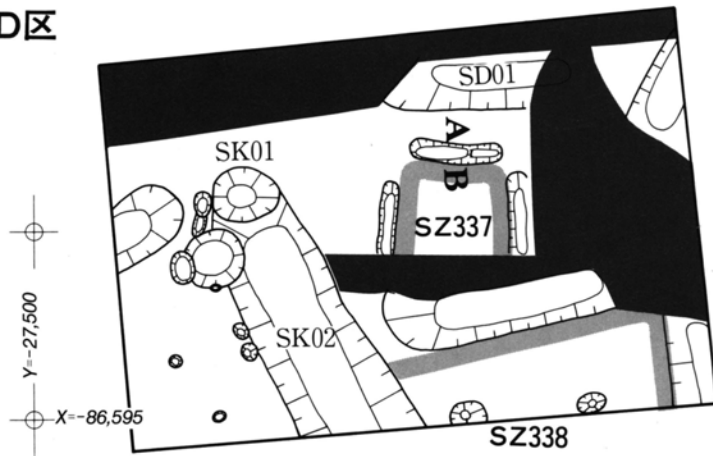
Y=-27,620 X=-86,610



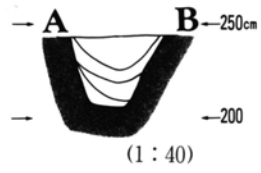


62D区

Y=-27,510
X=-86,590



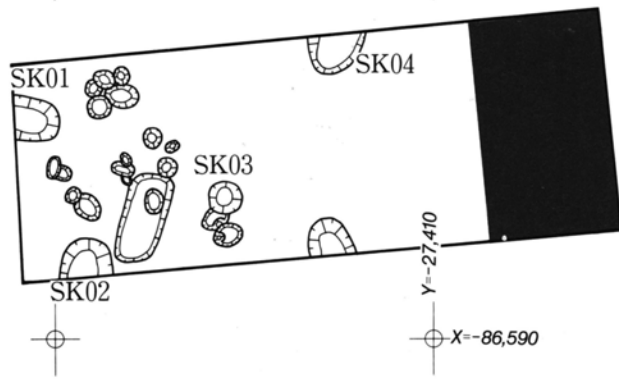
Y=-27,480
X=-86,590



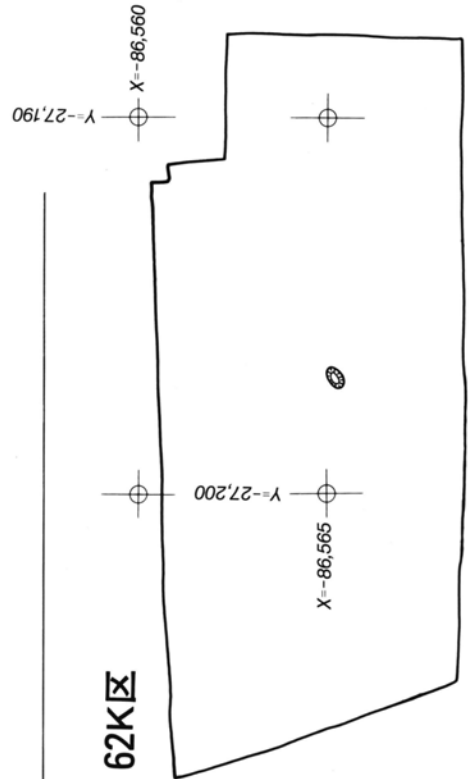
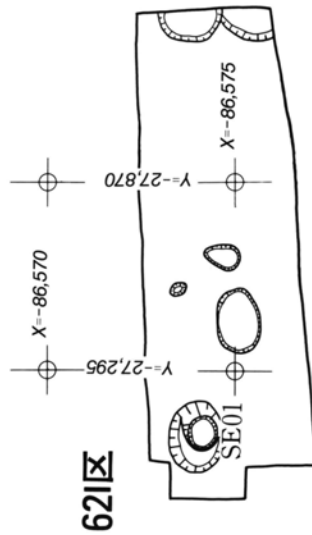
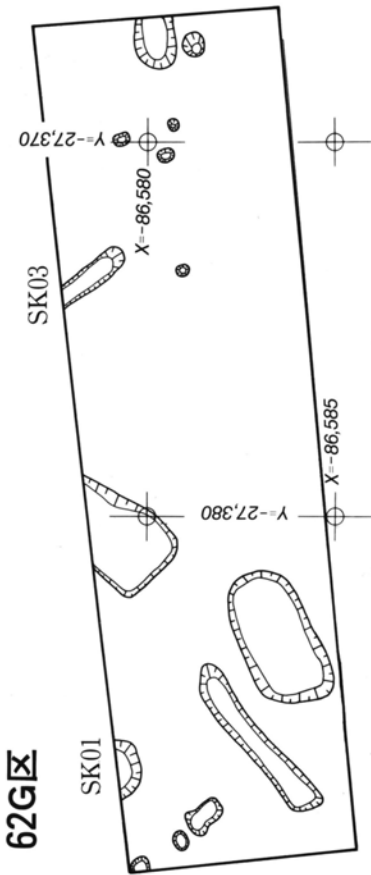
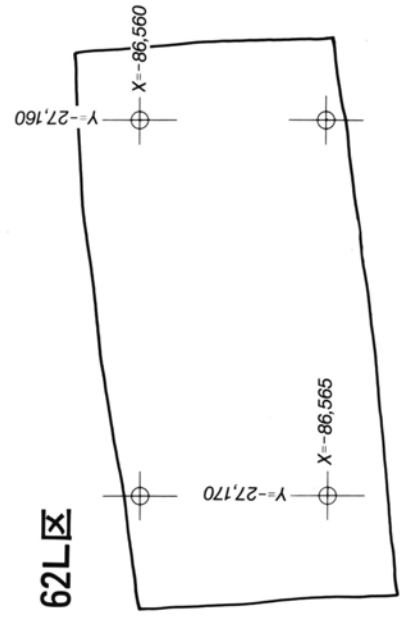
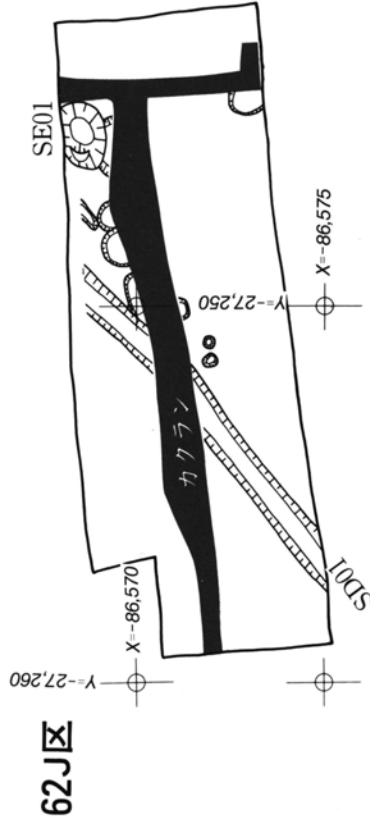
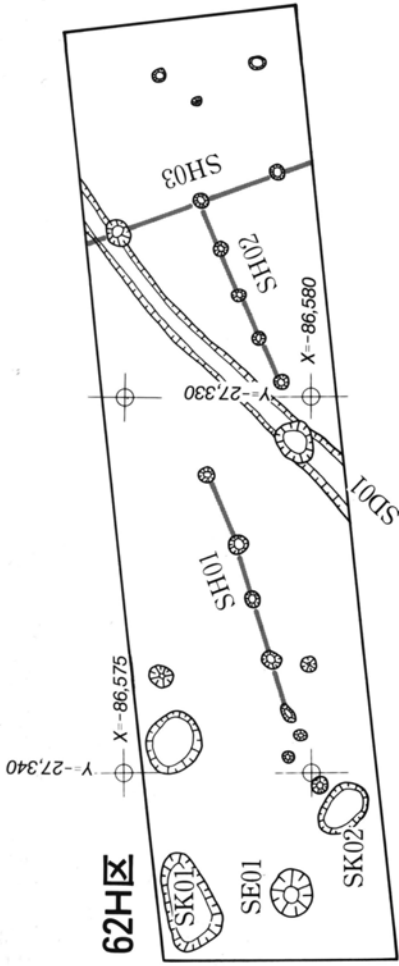
62F区

X=-86,580

Y=-27,430
X=-86,590

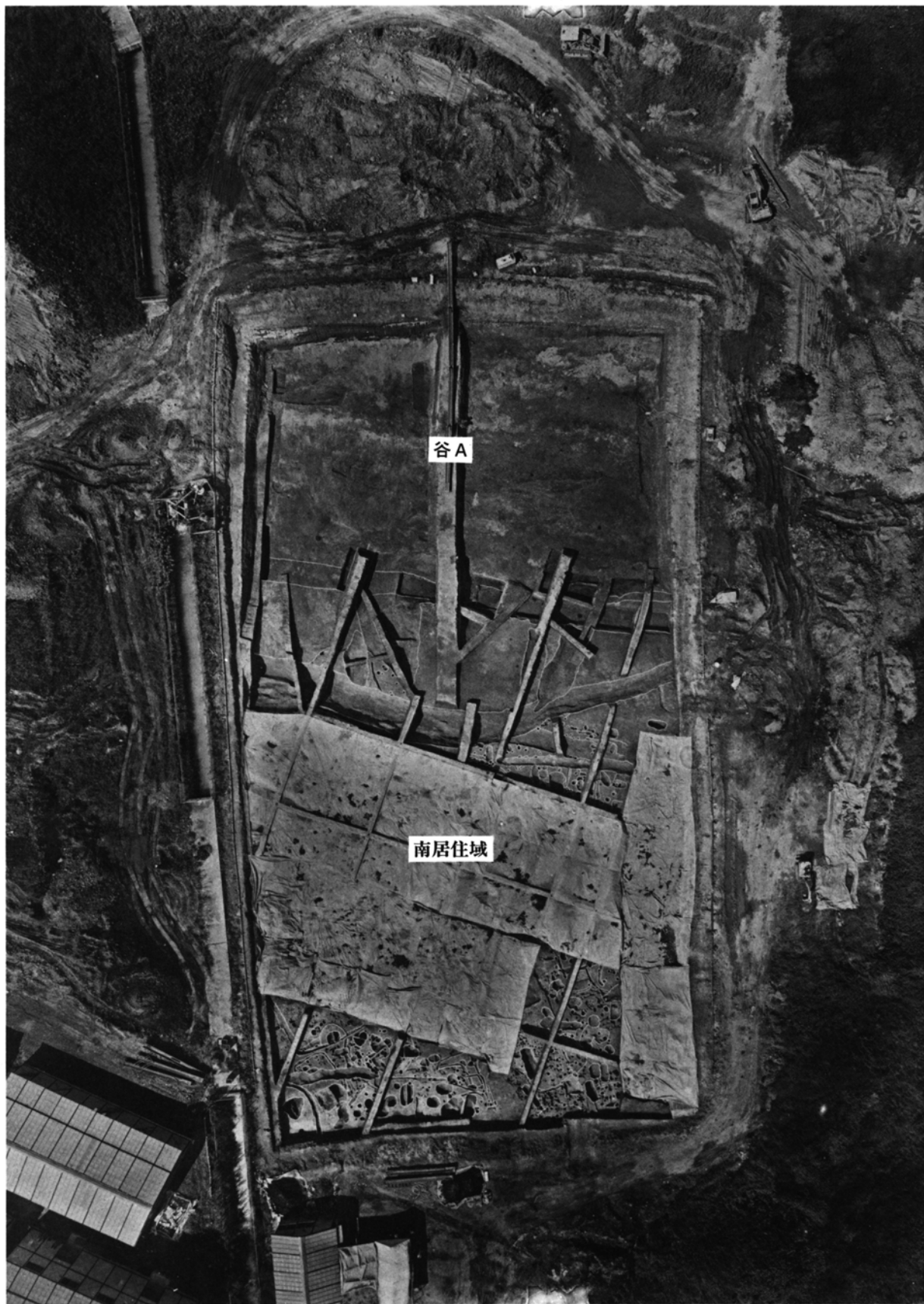


Y=-27,410
X=-86,590





●名古屋環状2号線・国道22号線交差部分
調査中は61E区・61H区・61P区、上が北。



● 60A区・60I区
下面遺構群。



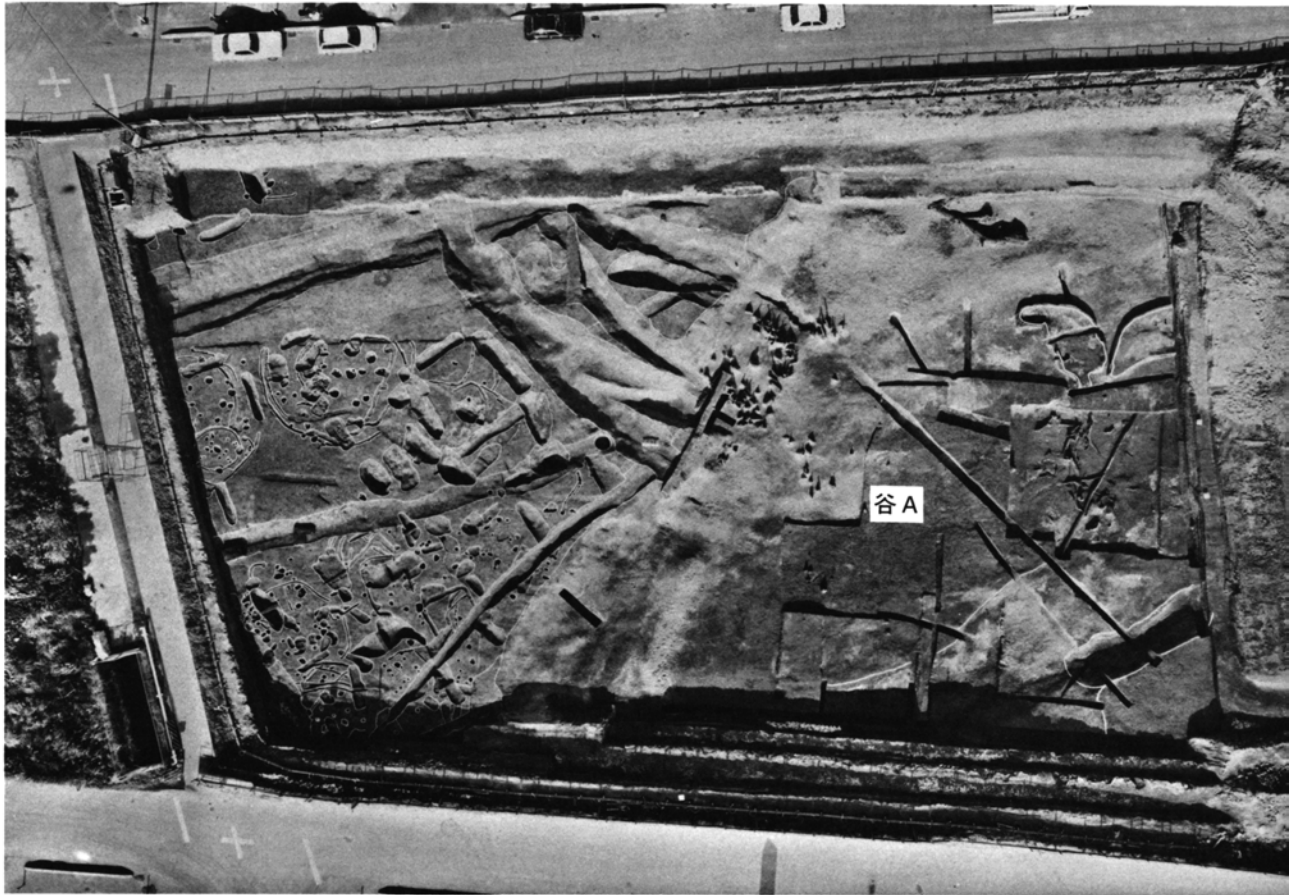
● 60A区
拡大.



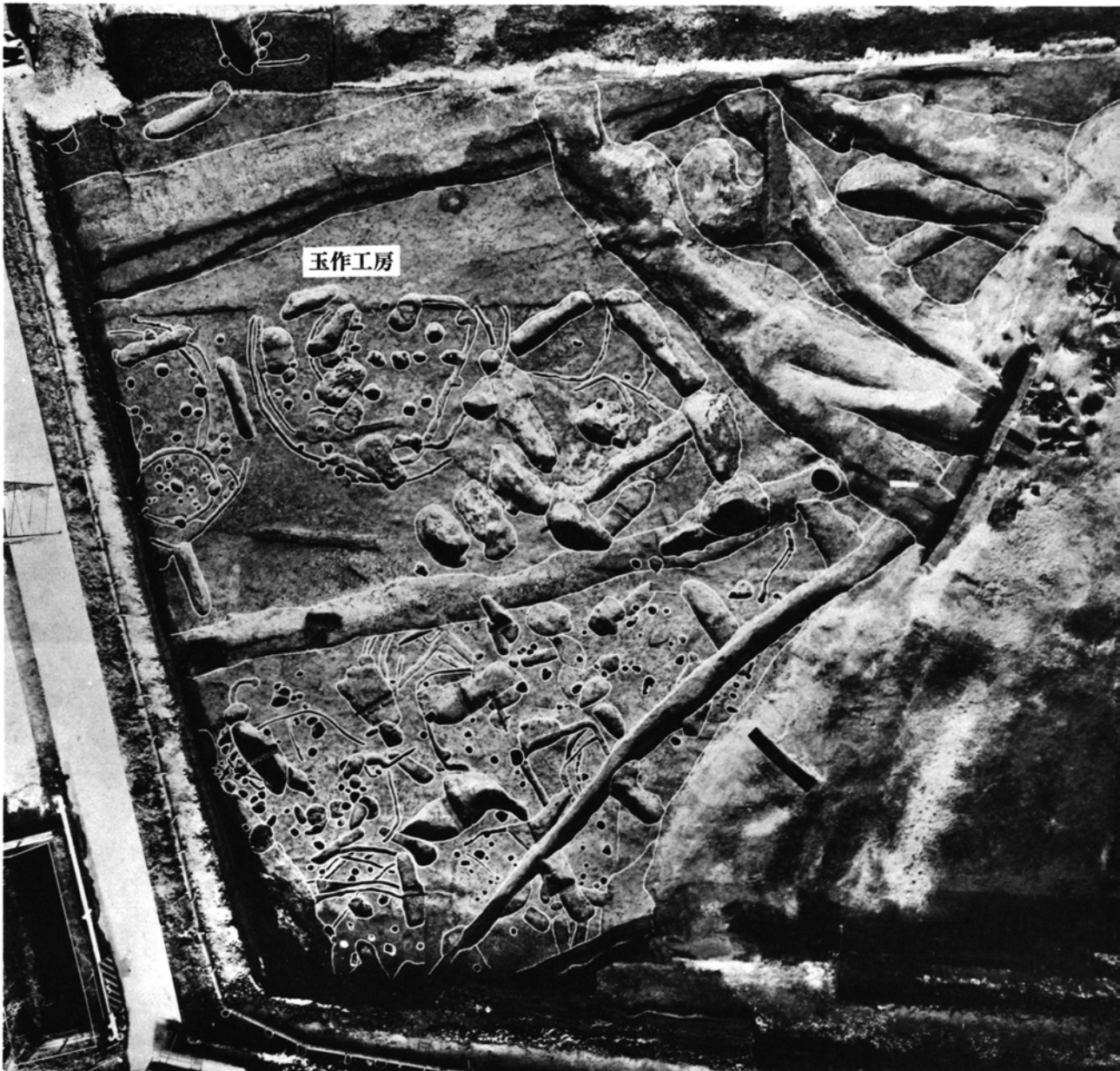
● 60B区

下面遺構群（上方の白点は杭を示す）。

● 60 E 区
下面遺構群



● 玉作工房付近の拡大





● 60E区
河道の流木群。

● 61A区
下面遺構群。

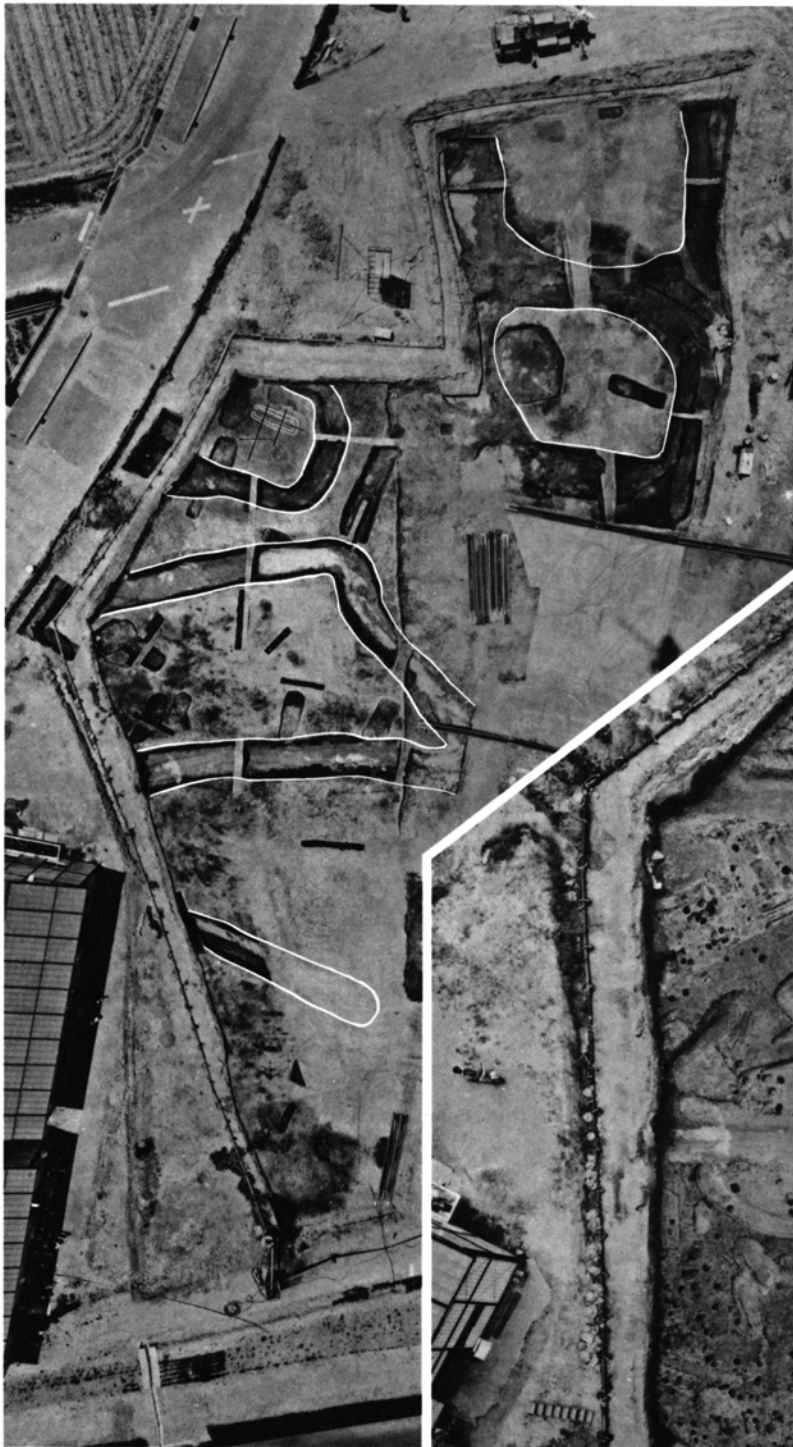


● 61A区
拡大 上面遺構群。





● 61A区
拡大（上方の白点は杭を示す）。



● 61C区・61D区
上面遺構群。

● 61D区
下面遺構群。





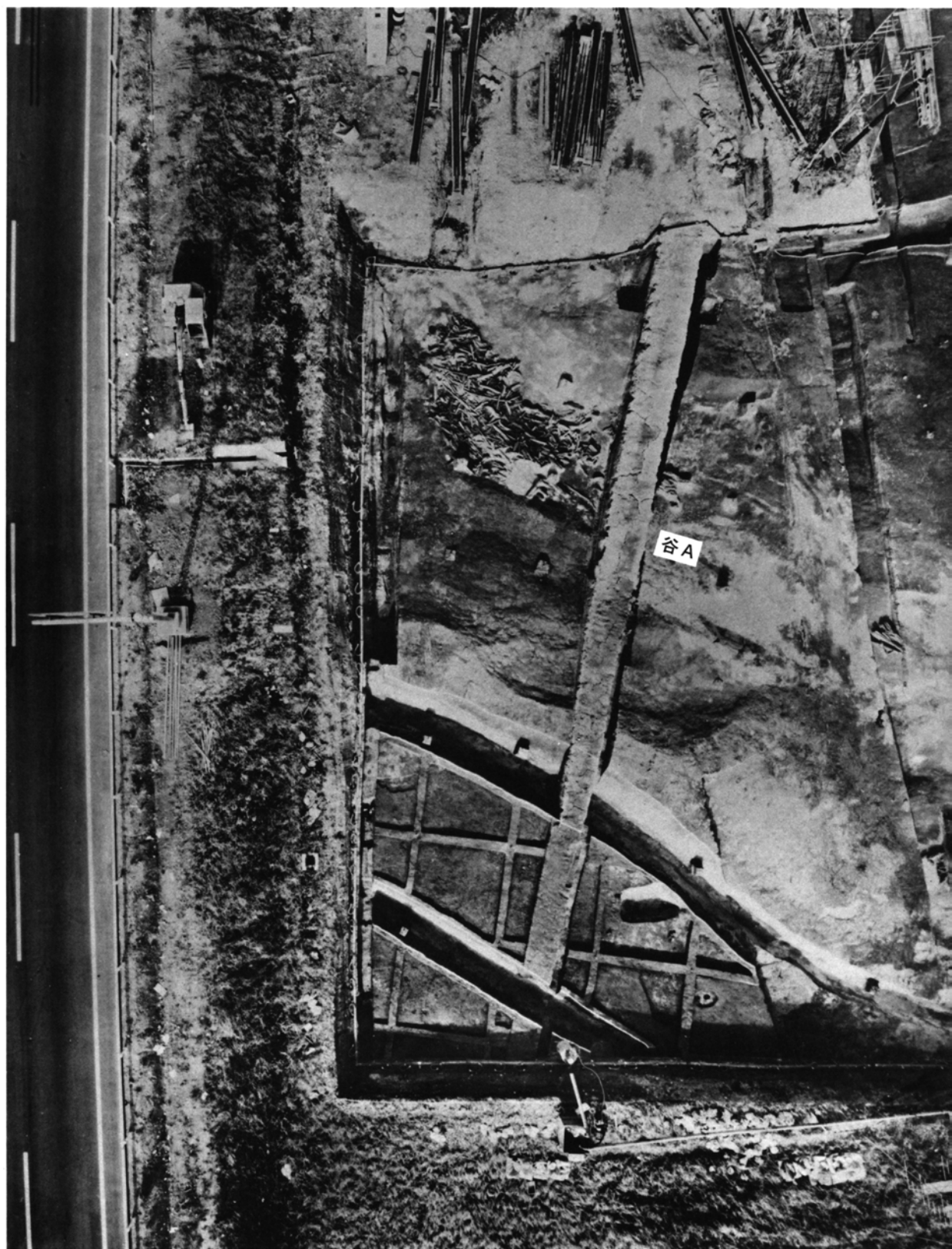
● 61E区
上面遺構群.

● 61E区
拡大 ヤナほか.





● 61E区
下面遺構群。



● 61H区
上面遺構群，谷A河道の流木群。



● 61E区南端・61H区北地区
谷Aに沿う南北微高地端の下面遺構群。

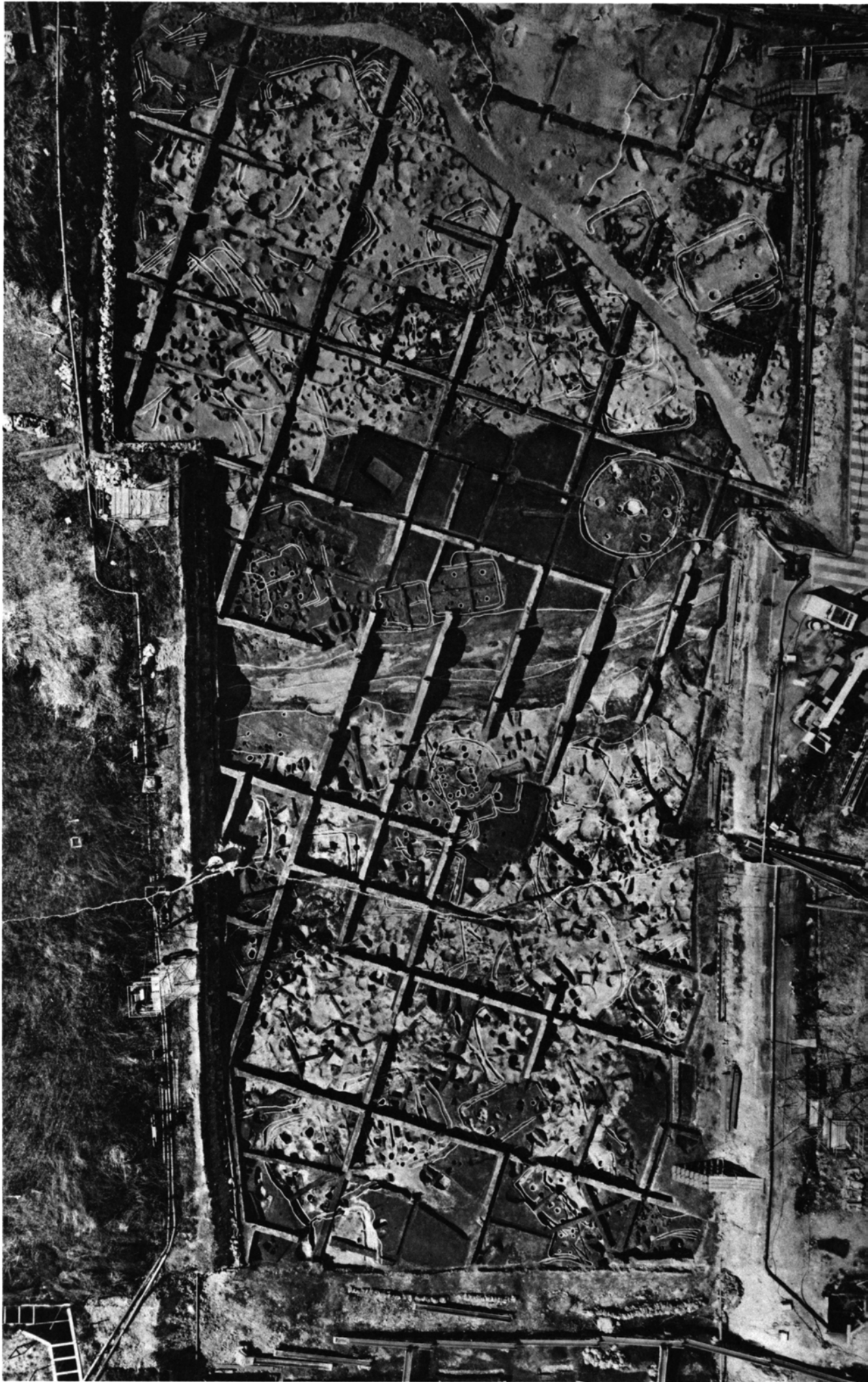


● 61E区南端・61H区
上面遺構群.



● 61H区
拡大 碁盤目状の溝は土層観察用の溝。

● 61H区
下面遺構群



● 61M区
上面遺構群



● 61M区・61N区





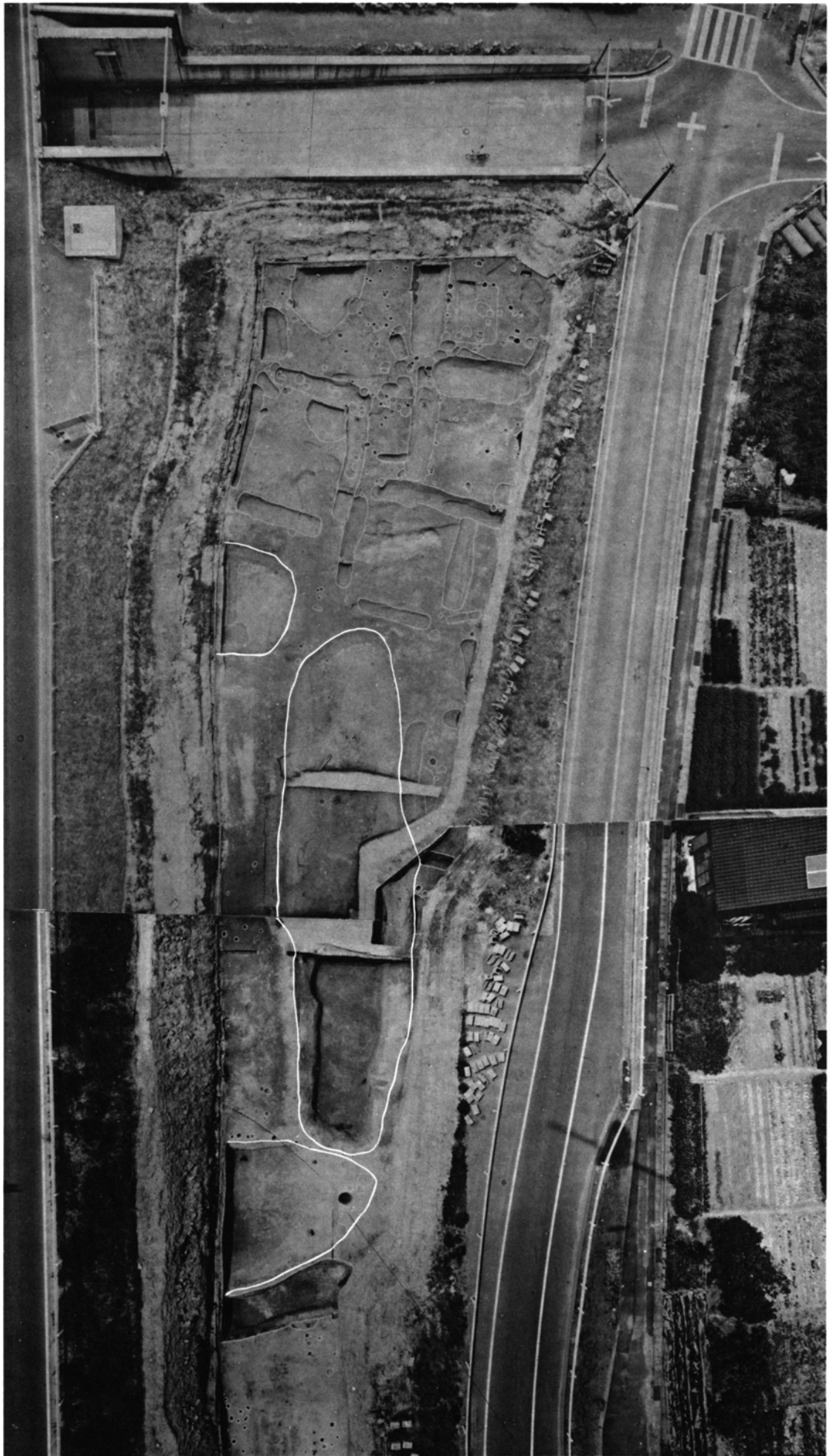
● 61P区
上面遺構群.



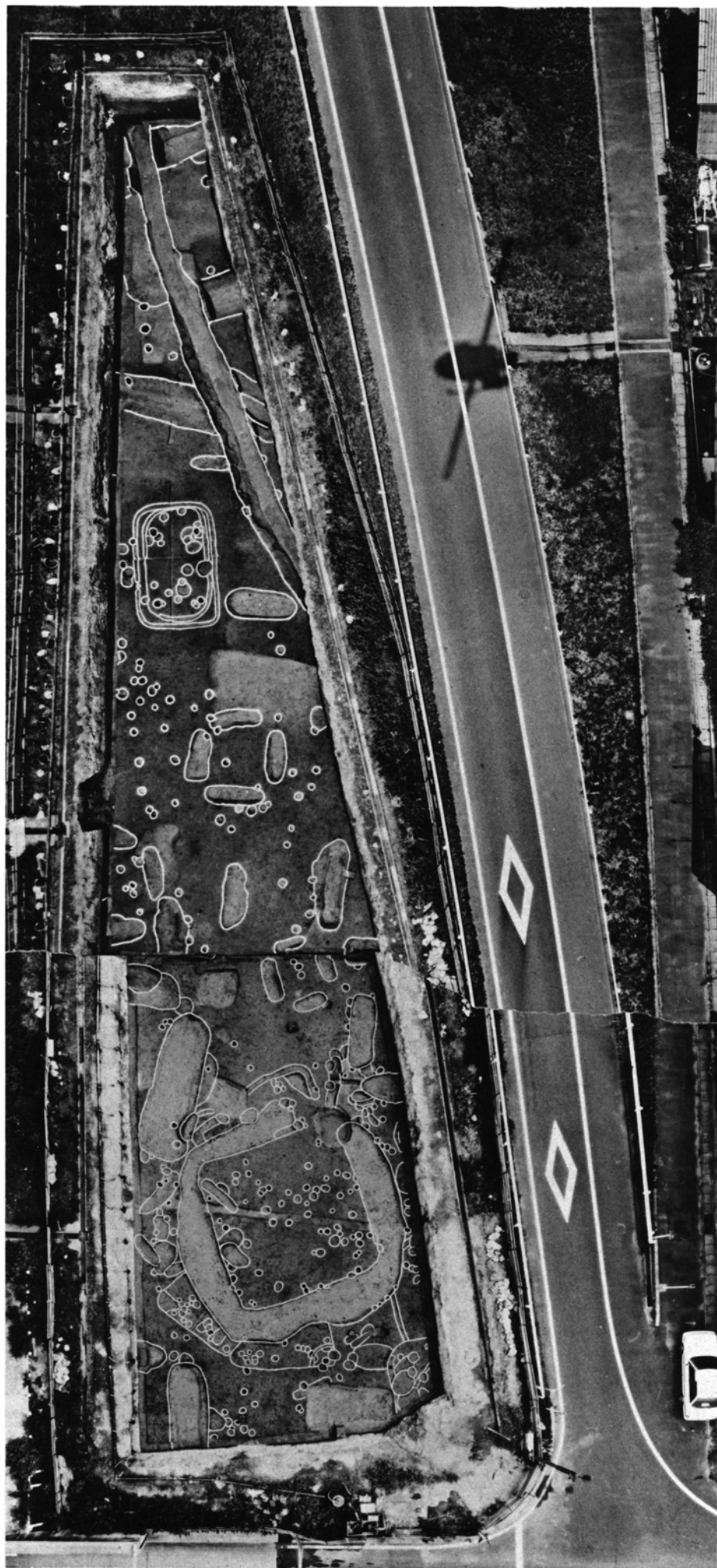


● 61T区
方形周溝墓築造以前の小穴列・群。

● 61丁区
大形方形周溝墓ほか



●
62
A
区





● 63A2区

● 63 D 区



上面遺構

下面遺構



● 63 G 区



上面遺構

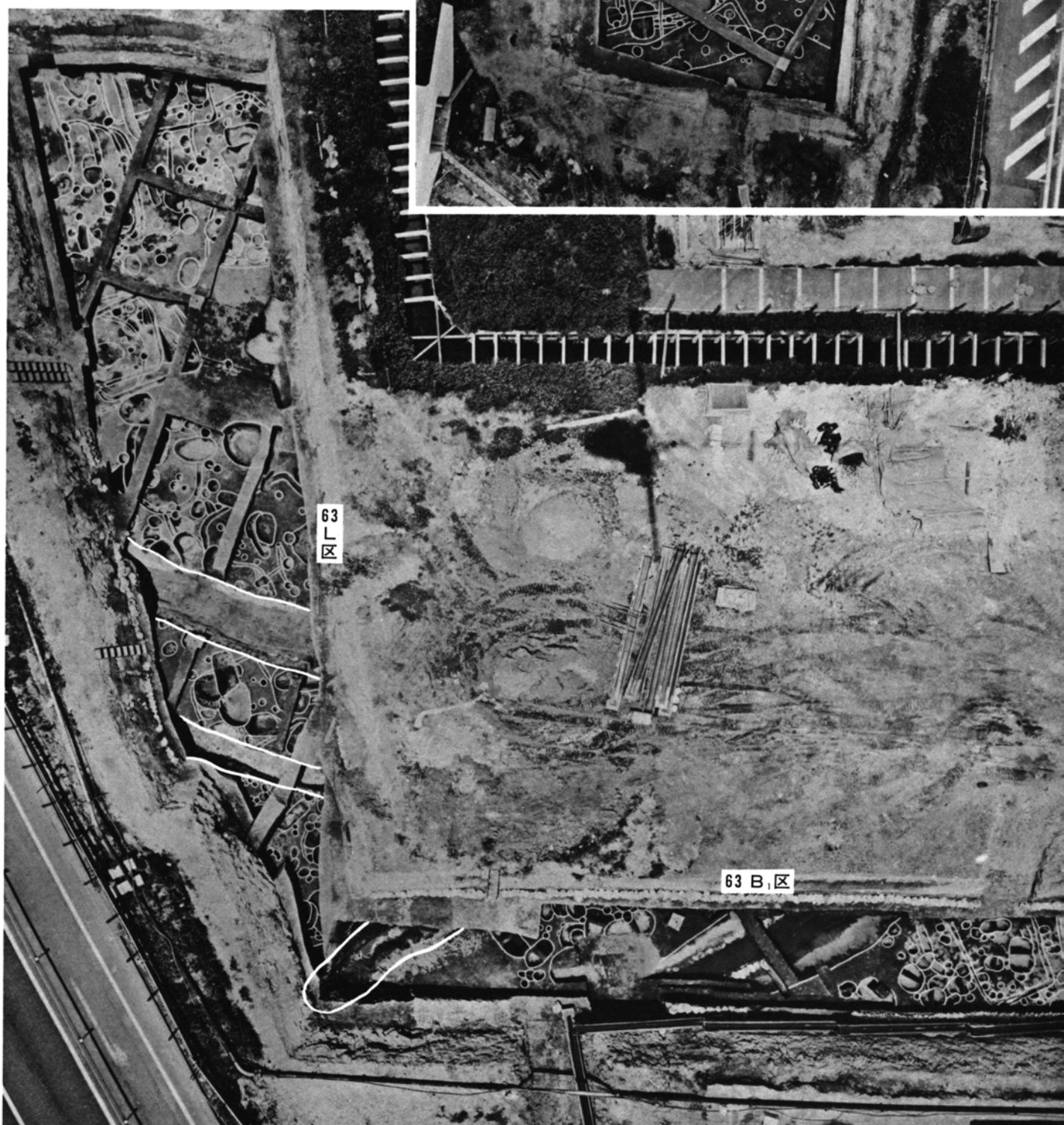


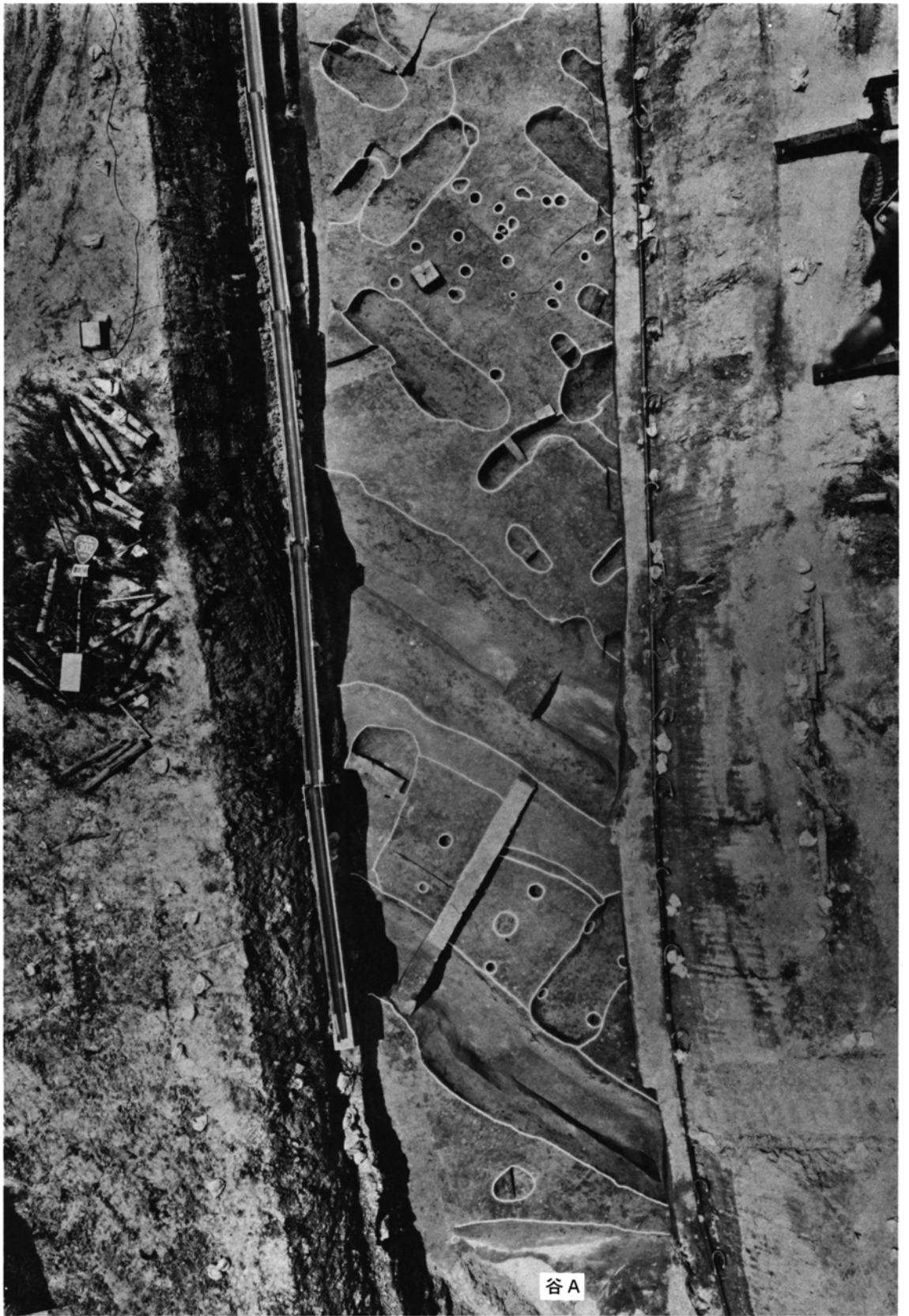
下面遺構

● 63J区
下面遺構群



● 63L区・63B区
下面遺構群。





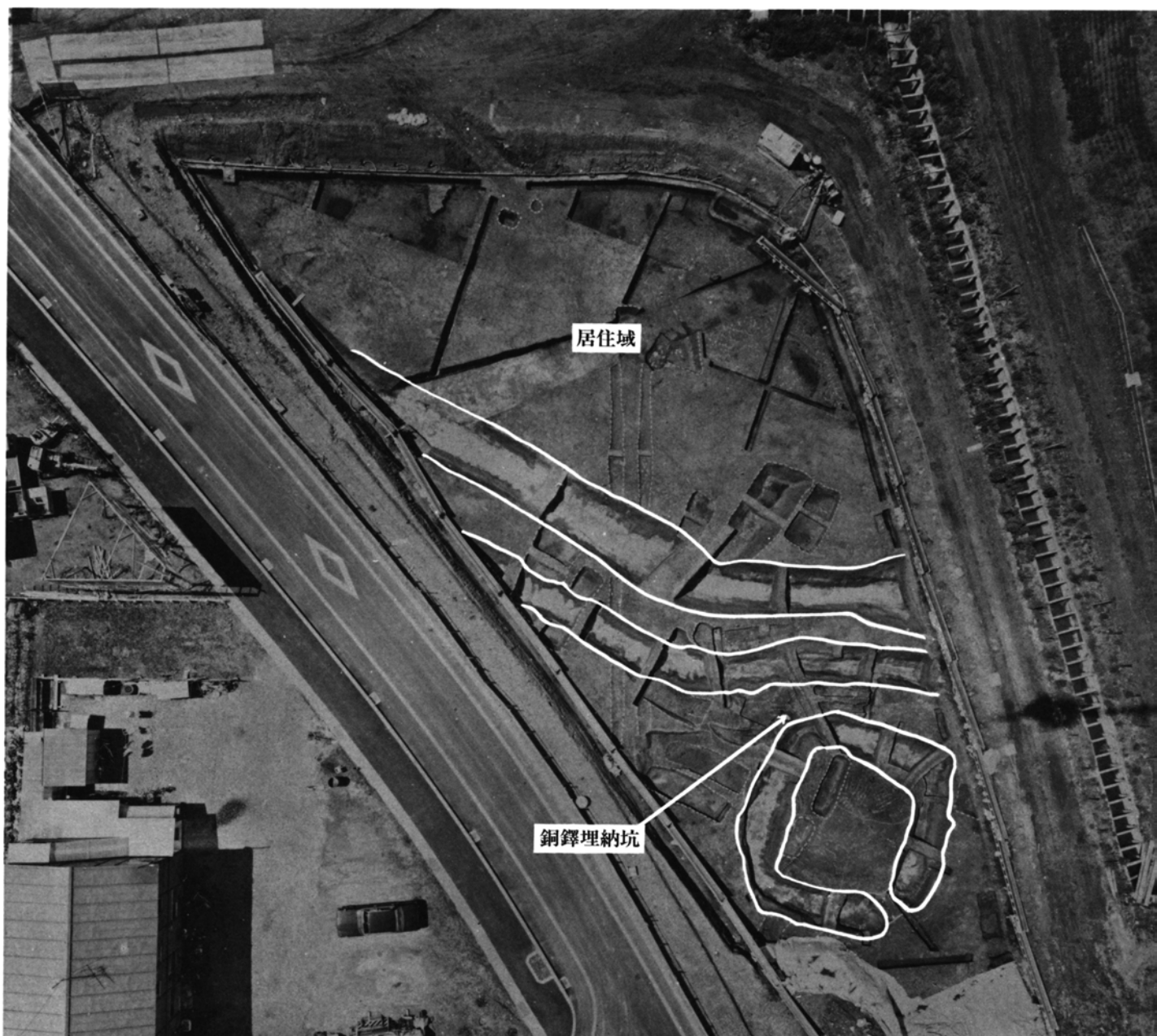
● 63N区
南半 下面遺構群.

● 89A区
下面遺構群



● 89B区

上面遺構群 (白線実線が弥生時代後期、破線・点線は中世以降)

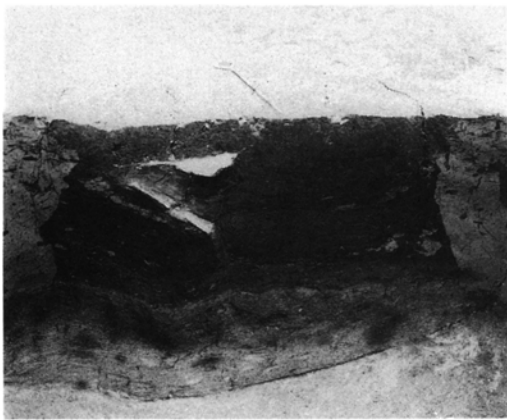




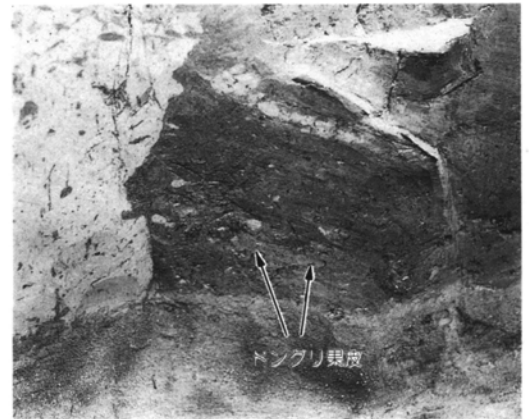
▲全景(南西から)



▲縄文土器(上から)



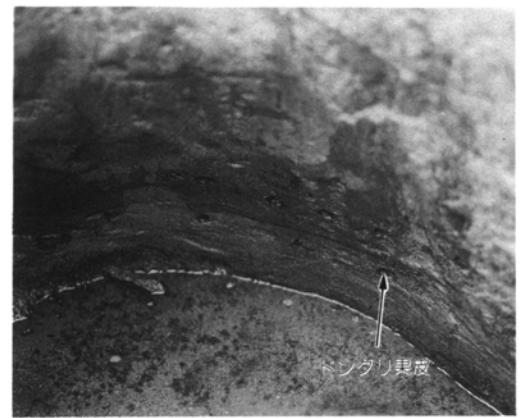
▲断面(南西から)



▲土層セクション



▲断ち割り(南から)

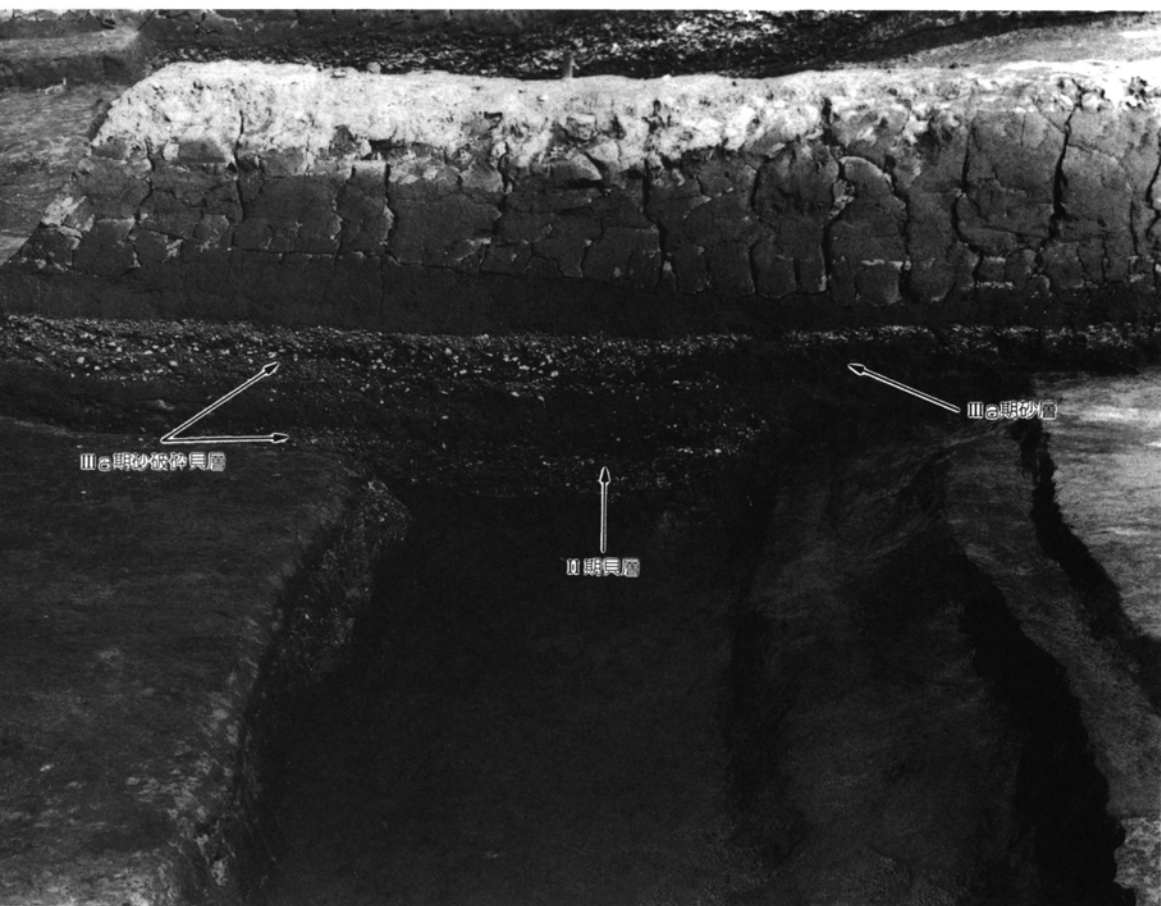


▲貯蔵穴壁面

●63A2区ドングリ貯蔵穴 SK01



▲上面遺構群(西から)



▲SDIVaと貝層(西から)

●
60
A
区

SDⅦ下部出土
のⅥ期土器 ▶
(南から)



谷A北部▶
(北から)

砂利のように見えるのは土器片
(河道Ⅱ・Ⅲ?)





●
60
△
区

◀SB01
(南から)



◀SX01と貝層
(東から)



▲上面遺構群(北東から)

▲SZ111 主体部1(北から)



▲主体部2(北から)

●60B区 方形周溝墓



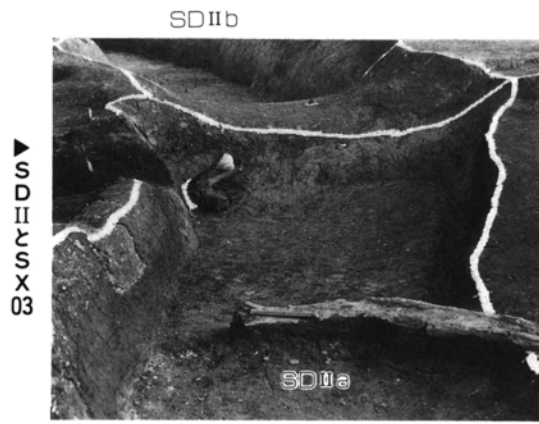


◀SD I
遺物出土状態
(北から)

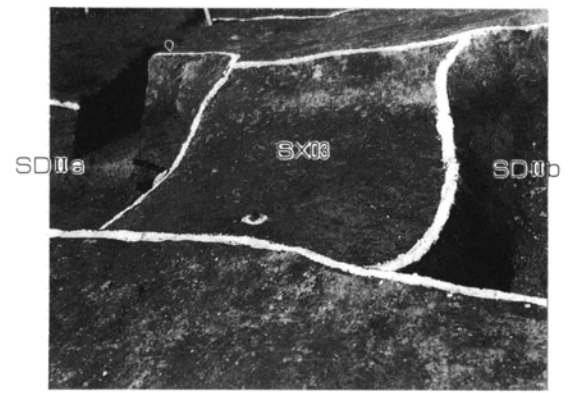
●
60
B
区



◀調査区西壁
(東から)



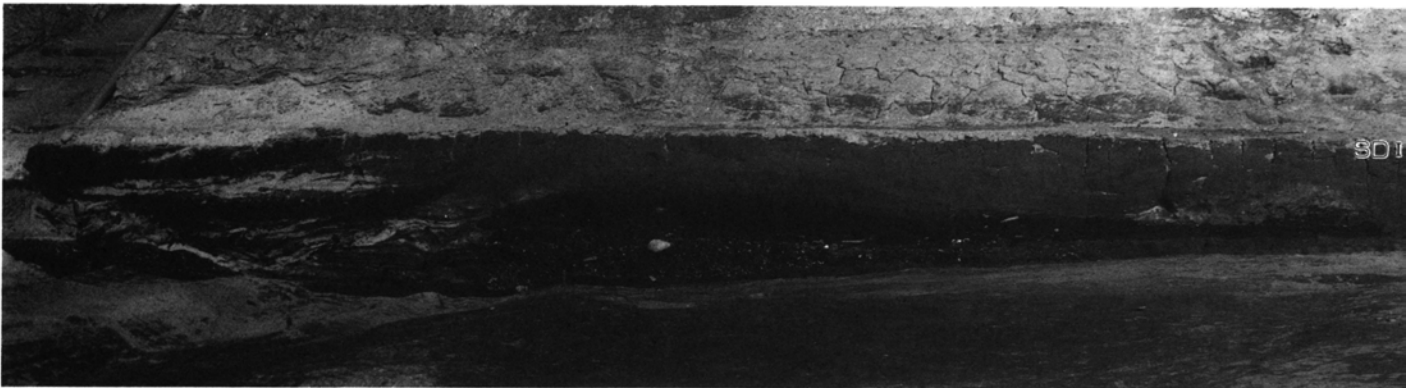
(西から)



(南から)

●60B区

▼調査区東壁土層セクション(西から)



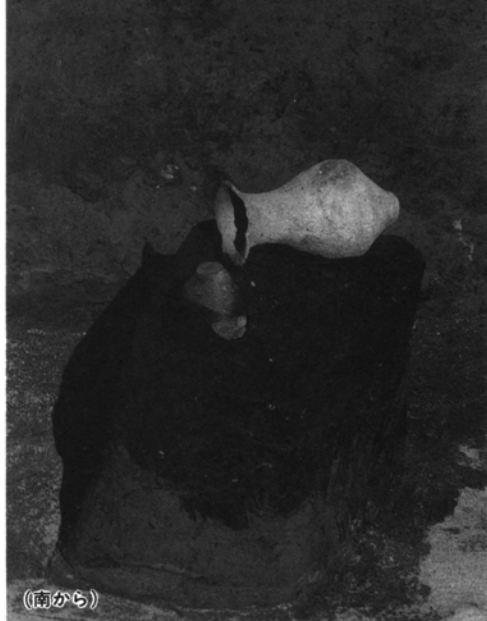
▼SDI 排土



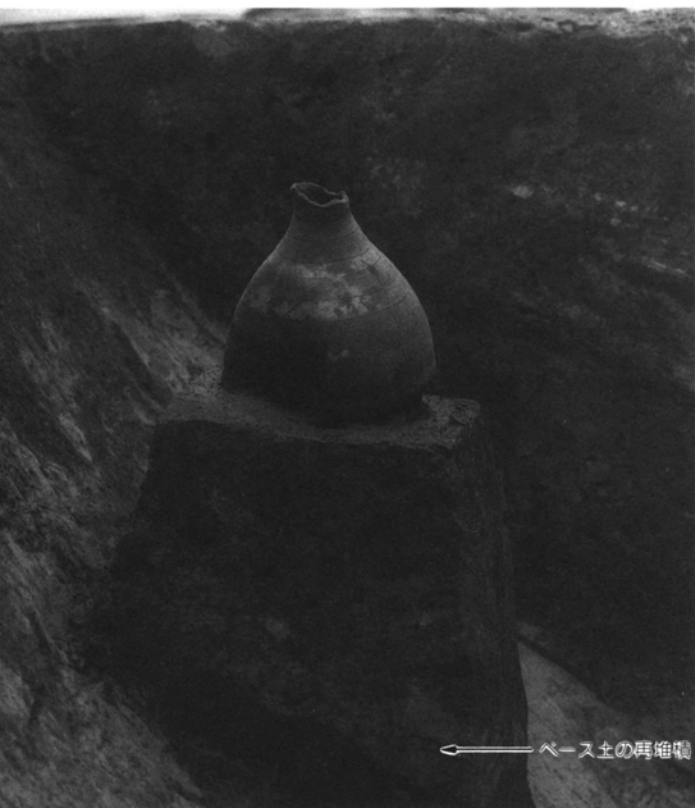


ベース土の再縮刷

(東から)



(南から)



ベース土の再縮刷

SD II b II期壺・鉢出土状態

60B区南部住居群



(西から)

▲SD II b IIIa期壺出土状態 (東から)

●60B区



(南→)

▶ 南半部近景(北東から)

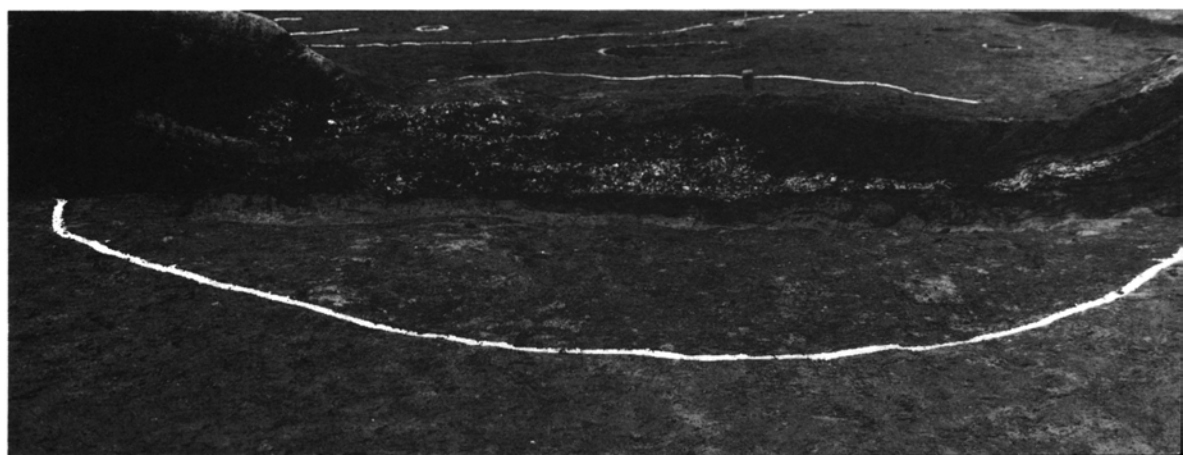


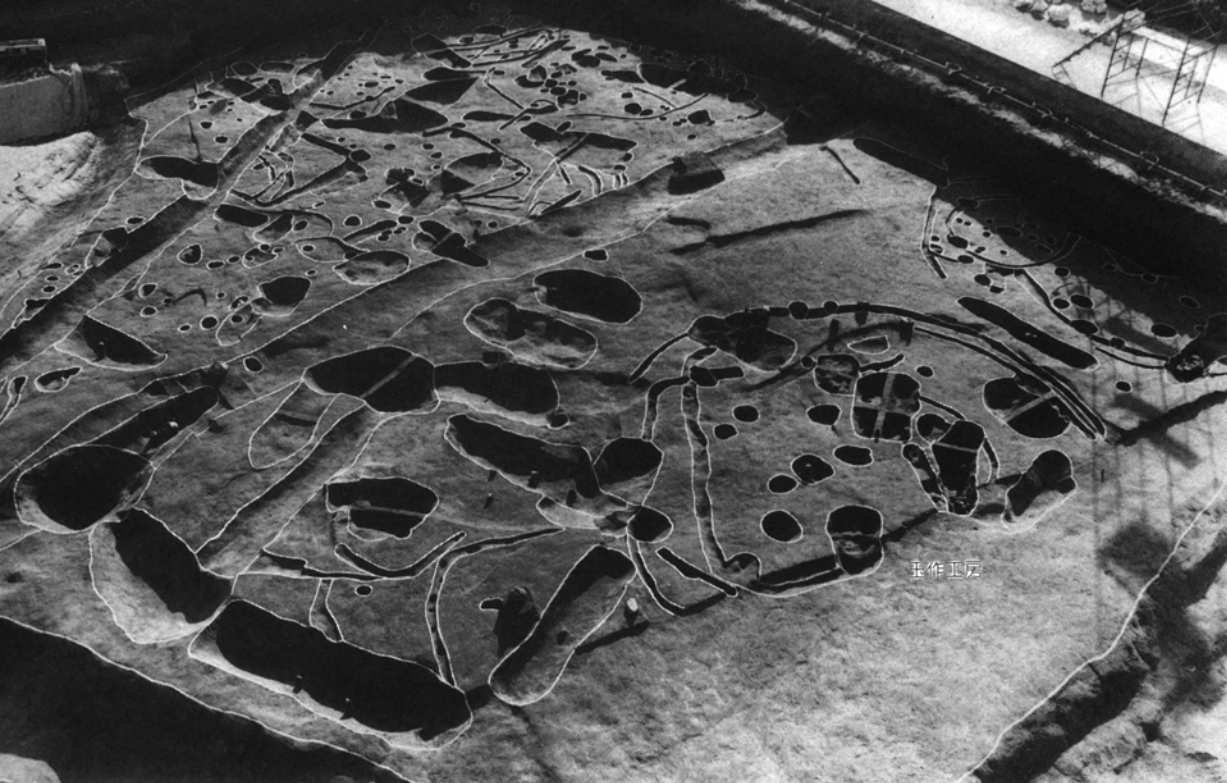
● 60B区下面遺構群

▶ SH01とSB03(東から)



▶ SB03と貝層(東から)





◀ 60 E 区西半部近景(北東から)



◀ SZ108 東周溝(北西から)



▲ SK02 土層セクション(北から)

▼ (東から)



● 60 E 区

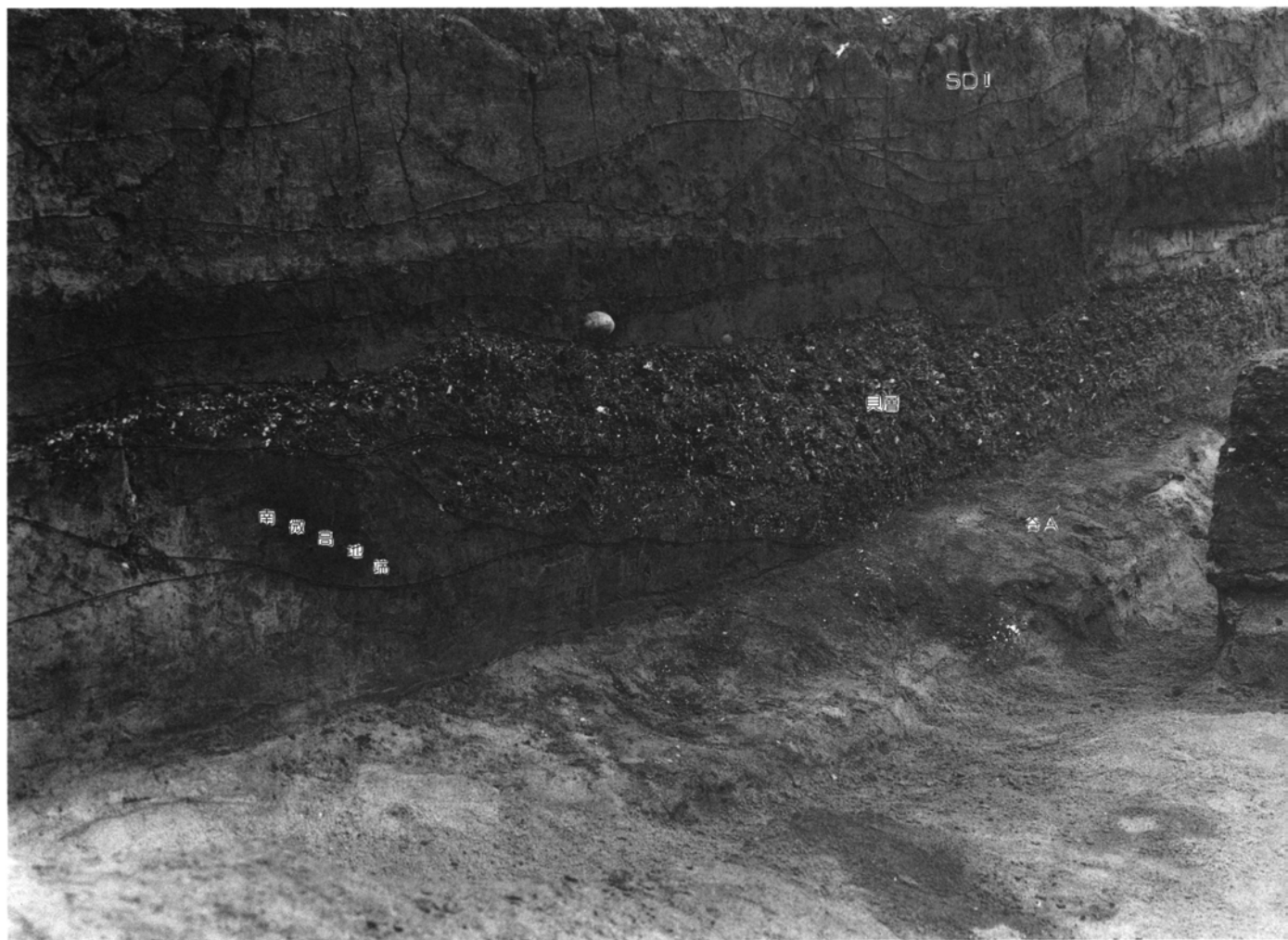


▲SD06aと土器(南東から)



●60E区

▼調査区南壁(北東から)



● 60日区方形周溝墓群



◀ 下面(南から)



◀ 上面(南から)

▼ SZ4主体部(南西から)





▲東半部(南から)



▲西半部(南から)

● 60 I 区下面遺構群

● 61 A 区上面遺構群

◀ 調査区東部(南西から)



◀ SX03 木製品・流木群



◀ SDI 下層出土

◀ 調査区西部(西から)





▲SD I 中層出土(南から)

▼下面遺構群(西から)

SD IVa

SD III



SD I

▶SD IV a イノシシ(ブタ?)穿孔下顎骨
(西から)





●61A区 SX02

▲柵の部材(南東から)

柵・逆茂木構築用の溝は、検出時にはやや凹地状をなし、関連遺物以外の本製品が多く流入していた。溝の方向に倒れている部材には本文で分類したようなa、bの2種類があり、それら2種で柵が構成されていたと考える。特に断片化した枝部分の多くはa、bにともなうものであろう。

a、bの遺存に疎密があるのは、倒壊後に原材として再利用するために抜き取られたものが多いからであろう。

▶逆茂木他の密集状態(東から)



●61A区 SX02

▶東端付近(西から)



▼西端付近(東から)

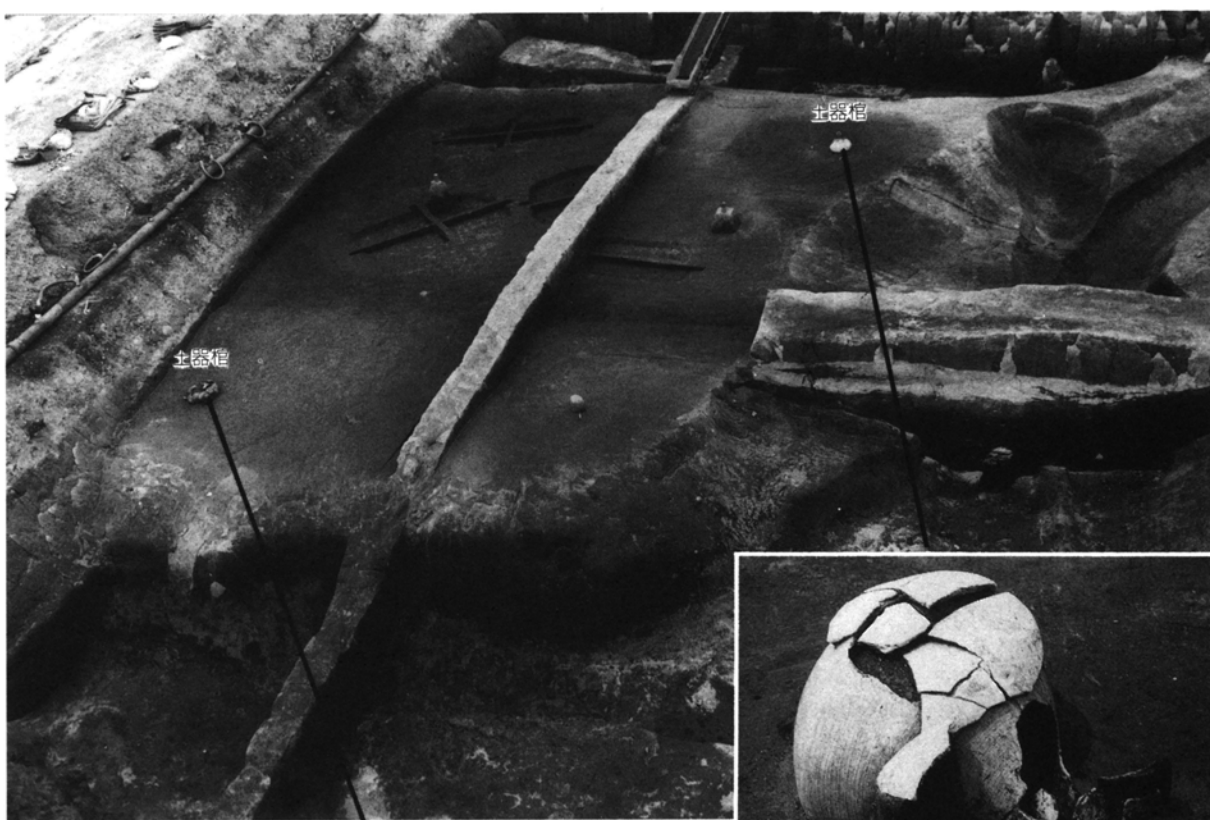


● 61C区方形周溝墓

▶ SZ115墳丘(南から)



▶ 同主体部

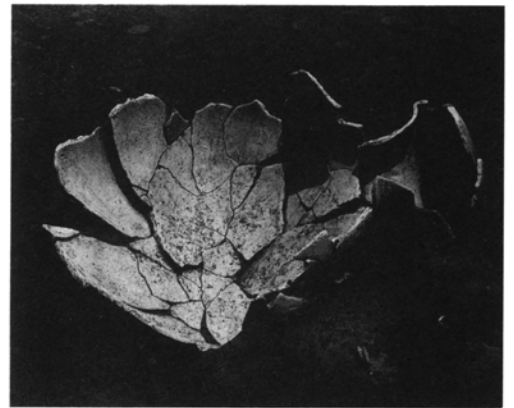




▲(南から)

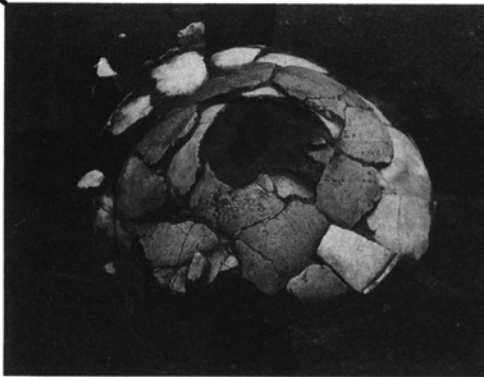


▶(西から)

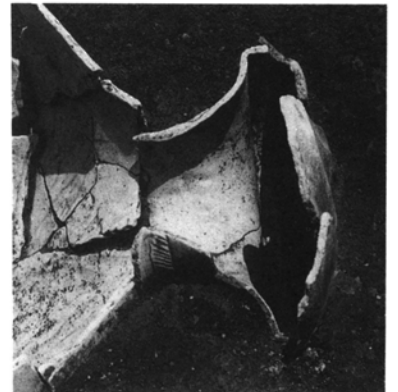


▲SZ118主体部(南から)

●61C区
方形周溝墓



▲(西から)



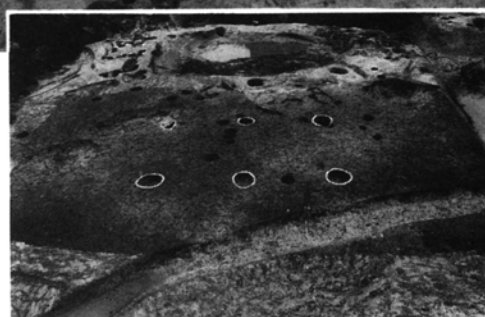


▲近景(南から)

●61C区下面遺構群

●61D区上面遺構群

▼近景(西から)





▲上面近景(南から)



▲下面近景(南から)

●61D区区画部分



◀ 全景(東から)

●61E区上面遺構群



▶ 方形周溝墓とヤナ(東から)



▲全景(北から)



●61E区

◀ヤナa 近景(北西から)

▼全景(南から)





● 61E区全景(北から)



●61E区ヤナ

◀ヤナa検出当初(西から)



▼ヤナb近景(東から)



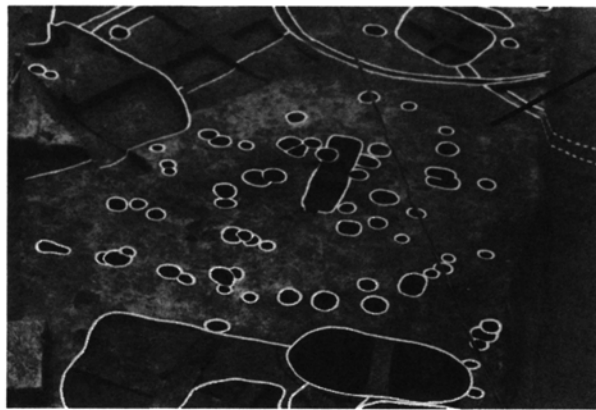


▲SX01周辺(北西から)



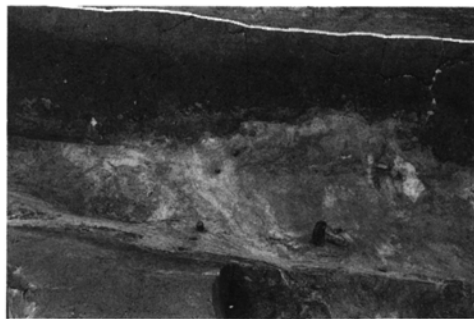
▲SX01近景(南東から)

●61E区下面遺構群



▲SD04-2砂層(南から)

●61E区南部下面遺構群



▲SD21南部 杭群SX04(南東から)



◀SX01盛土東端(北から)

▼SD04-2

●61H区上面遺構群

▶南微高地北端(南西から)



SD V・VI 東端

▶SD VII 付近上面遺構(西から)

SD VII内は廃棄された土器群





SDVII

(東から)

●61H区上面遺構群

61H区北端の谷Aにむかって傾斜する地区では、同一面で中世土壇群とV・VII期の遺構が検出されている。

SDVIIはV期の環濠で、VII期までは埋没しきらない窪地をなしていた。濠内にはV期～VII期までの土器が多量に廃棄されている。このSDVIIは、一部急激に蛇行する部分があり、突出部を形成している。突出部の北西には外環濠(SDV、VI)の切れ目があり、両者が無関係でないことが知れる。

SDVIIは沿って土塁が存在したか否かについては、写真のように平坦であるため不明である。

● 61H区包含層上部の遺物出土状態



▲遺構に関わらない例



▲遺構に関わる例(Ⅶ期SB112)



▲谷 A 流木群(北から)

●61H区

◀SE03
木製臼を重ねた井戸枠
(西から)

▶SD VII 土層セクション(西から)





▲61H区(北地区)西部(南から)
SB38(南東から)▶



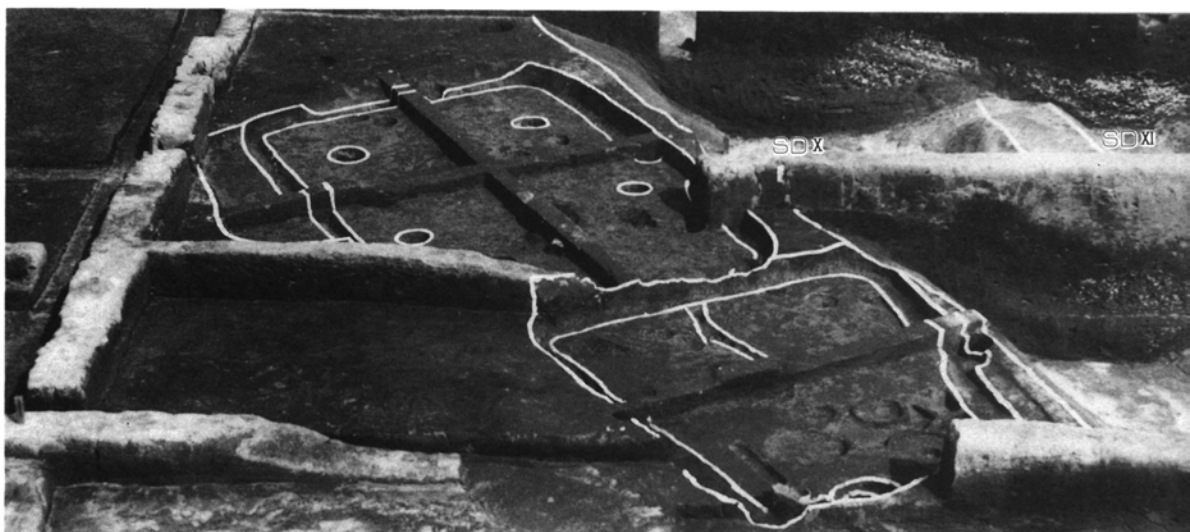
●61H区下面遺構群

▶SDXと北に接する住居跡群(東から)

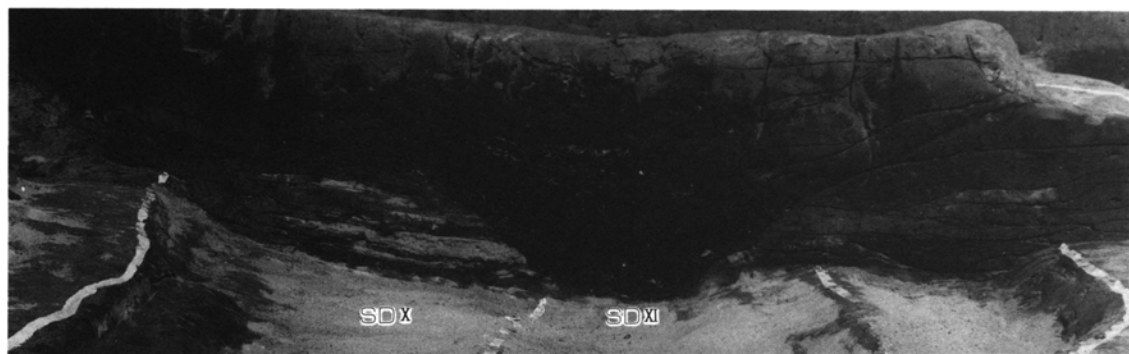


SB50▶

SB49▶



SDX・XI
土層セクション▶
(西から)



●61H区下面遺構群
(東から)



SDX

● 61H区(南地区)下面遺構群

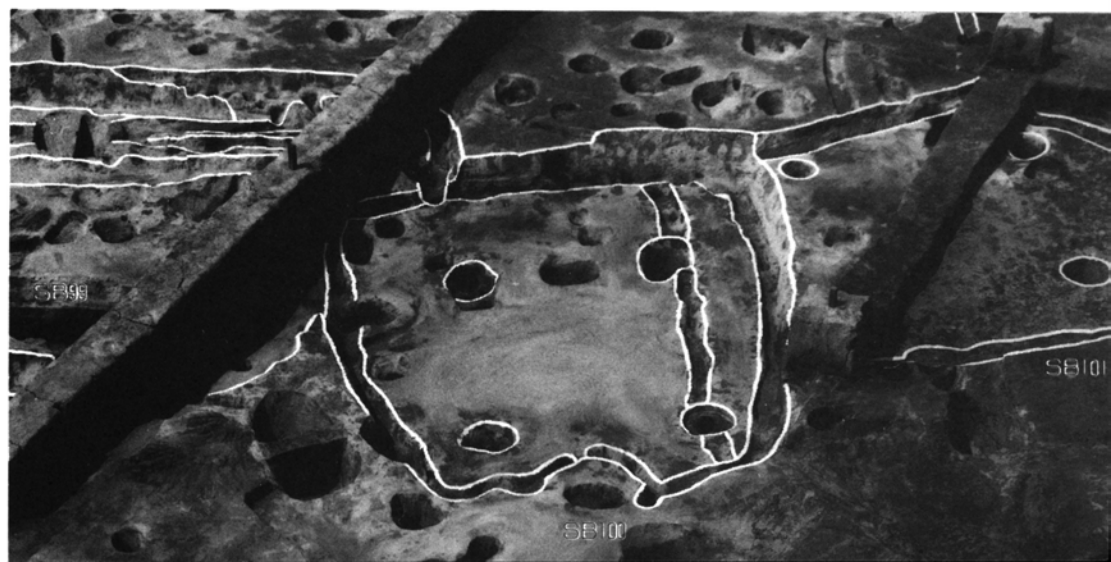
▶ 南地区1南部(東から)



▶ 南地区2(西から)



▶ 同上(南から)





●61M₁区上面遺構群

◀方形周溝墓群(東から)

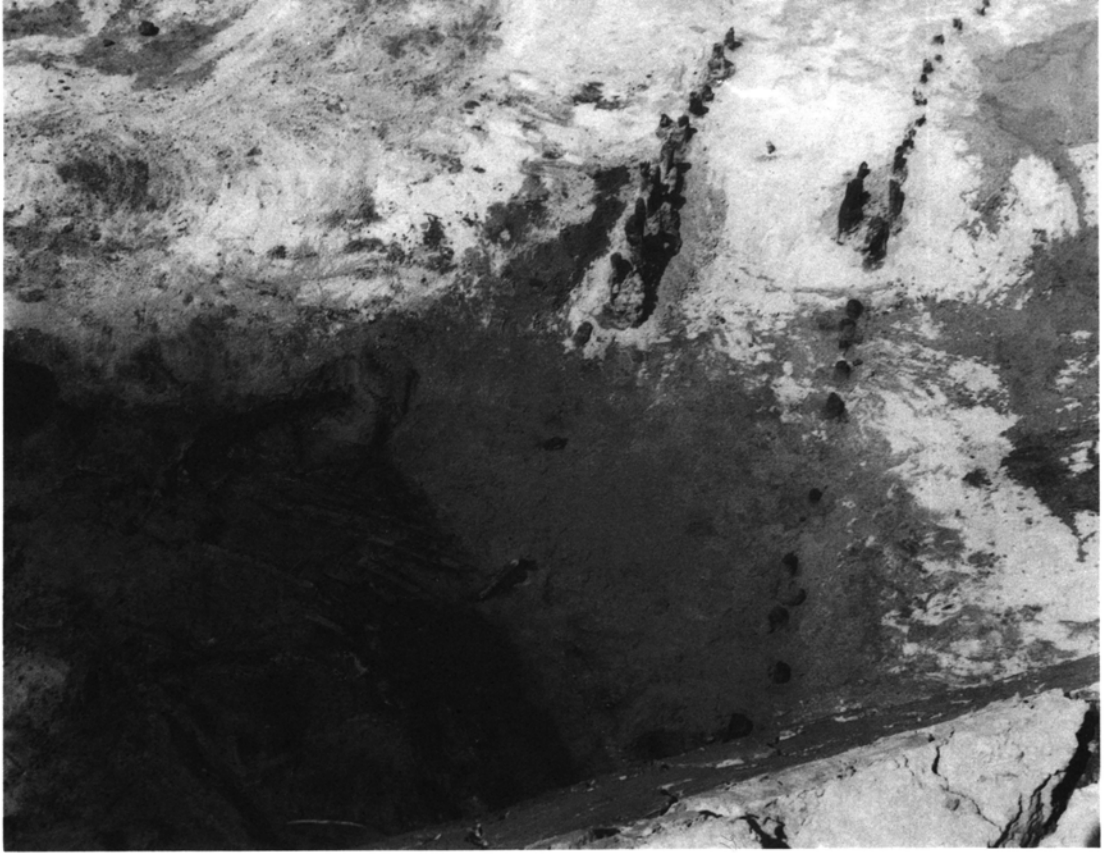


▲SZ177南西コーナー
土器棺SX01
(南から)

▼SZ173周溝内土器出土状態(西から)



● 61 M₂ 区杭列と木組み遺構 SXO2



(南から)

(北から)



(西から)



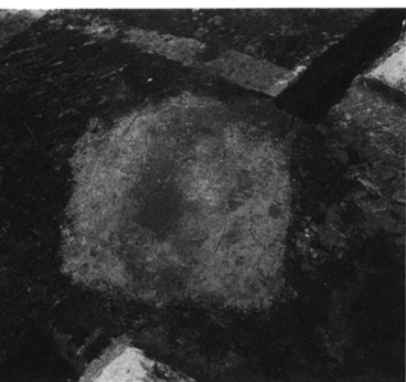


▶ 杭列断面(東から)



●61M2区

●61N区



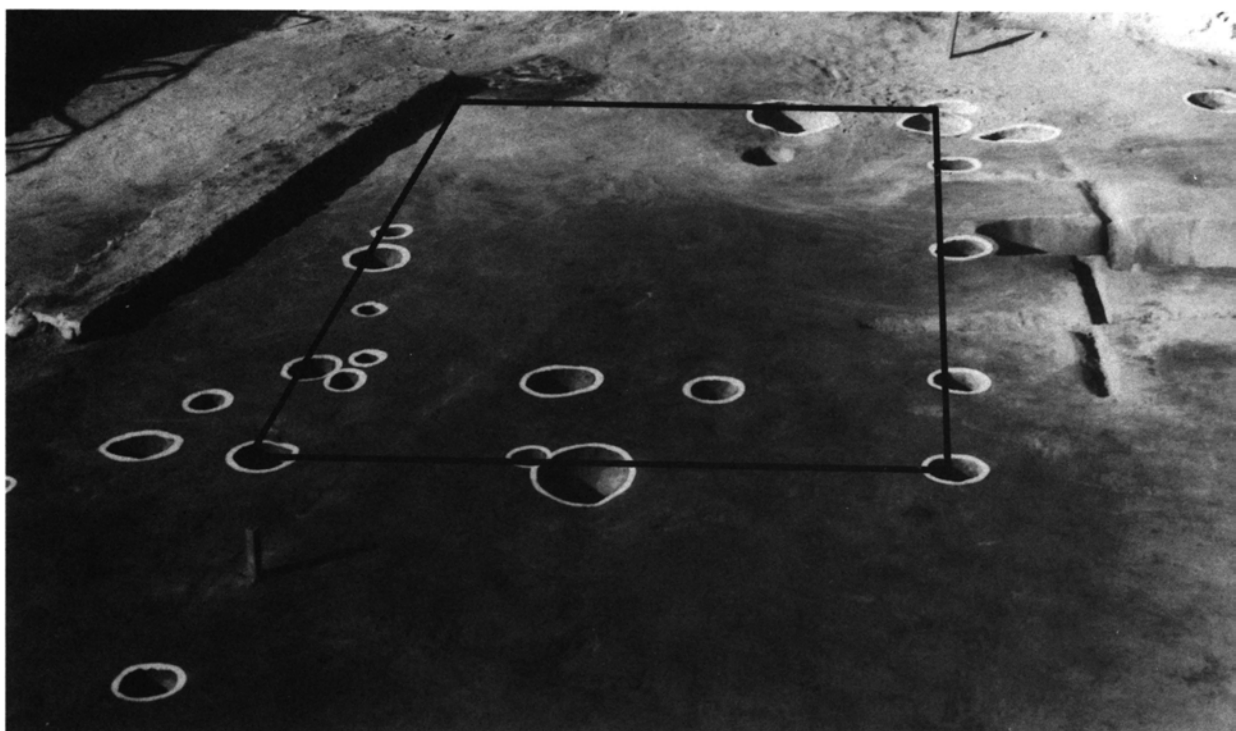
◀ SZ190主体部



▲ SZ237主体部



▲ IIIa期方形周溝墓とIV期方形周溝墓の重複(破壊)



▲ SZ208下で検出した掘立柱建物(南から)

● 61N2区遺構群

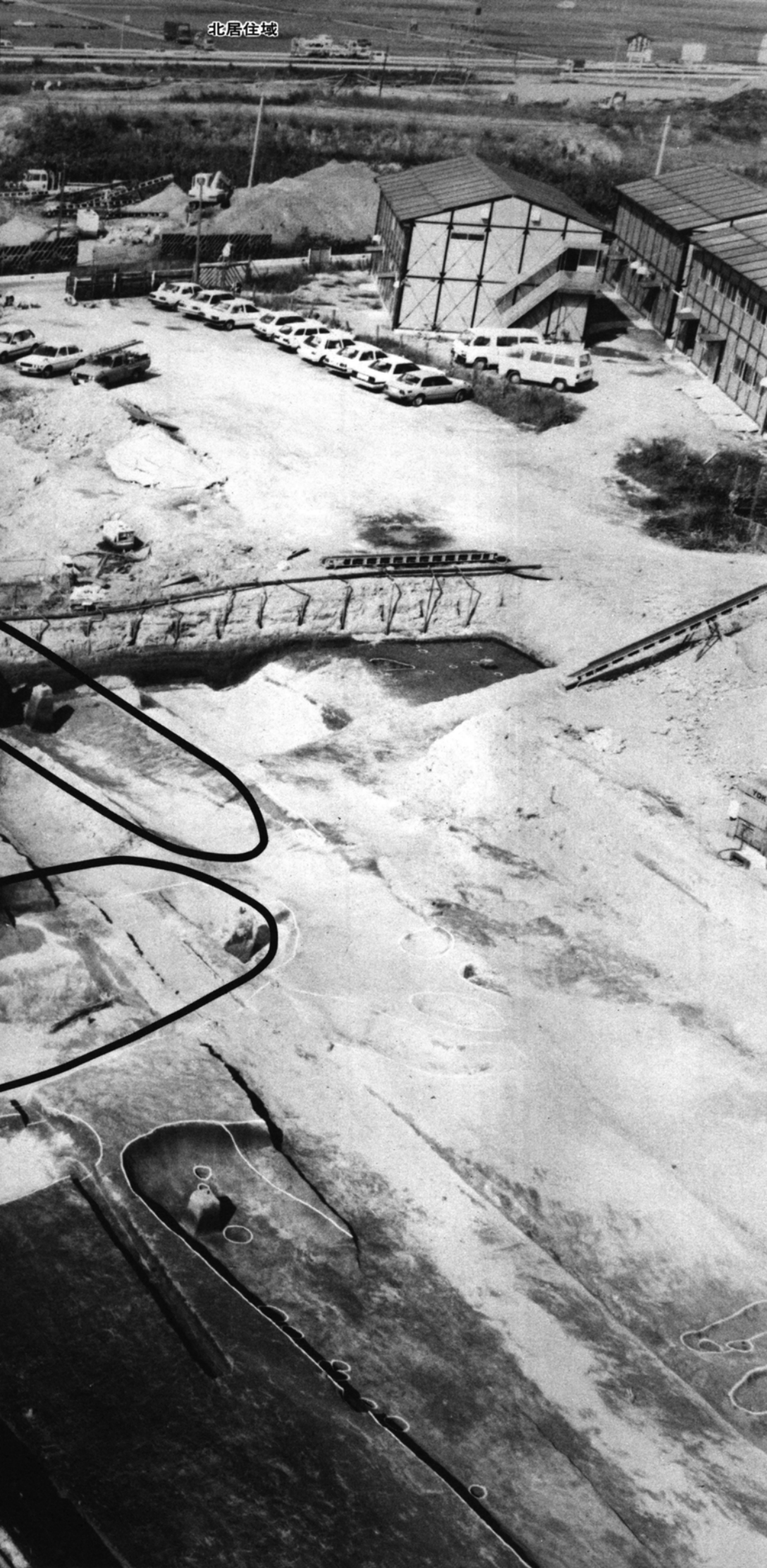


●61N区
大形方形周溝墓
SZ208

SZ208の南溝の一部は、県教育委員会が行った昭和52年度発掘調査（写真中央を南北に走る水路部分の調査）ですでに検出されていた。

しかし、当時は方形周溝墓と断定するに至る条件がなく、その決定は昭和61年度の当センターによる調査まで待たねばならなかった。

その間に約9年が経過した。



SZ208西周溝
出土の鍬



●61N区

●61P区
下面遺構群



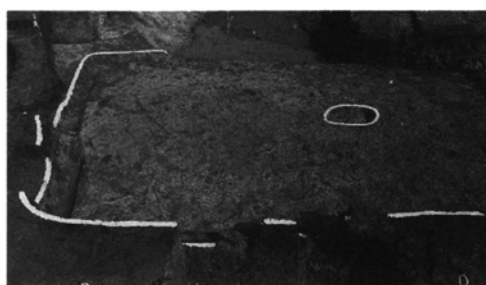
▲竪穴住居群
(西から)



▲SB02(東から)



◀SB02
遺物出土状態
(南から)



◀同上
完掘状態



▲SB03出土の鹿角



◀SB02
土層セクション
(西から)

●61P区
上面遺構群

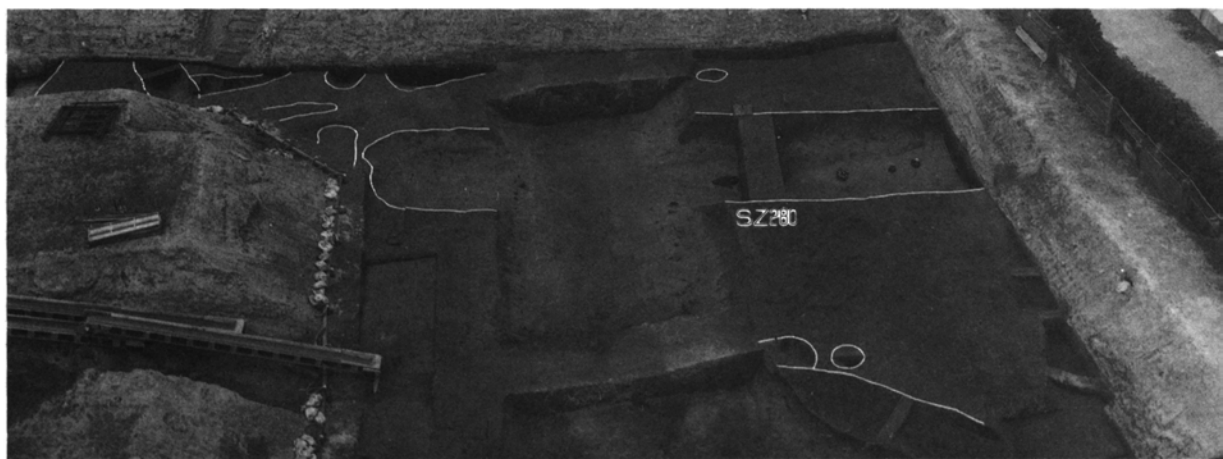
方形周溝墓群 ▶
(西から)



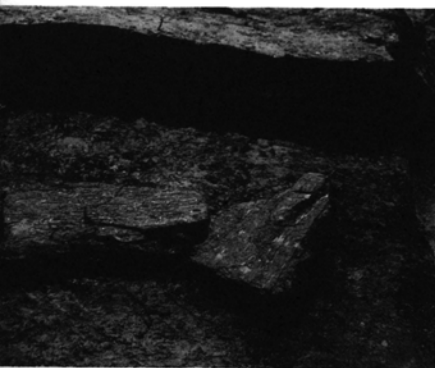
SZ206-207 ▶
(北から)



61P区東部 ▶
(南から)



SZ301北周溝上層出土
Ⅶ期土器群



◀SZ301北周溝西部下層出土
広鋏未製品



▲SZ301北周溝西部下層出土 鋤
(南から)

◀SZ301北周溝東端下層出土 鋤
(北から)



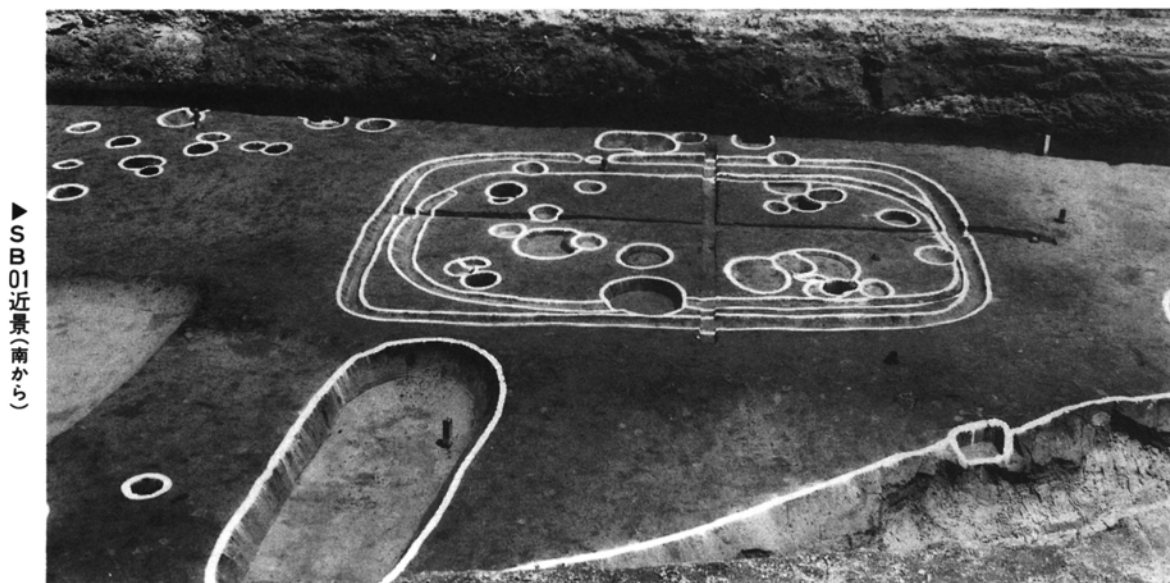
◀SZ302西周溝下層出土 鋤
(西から)

●
61
T
区

▶ 62 A₁区 (西から)

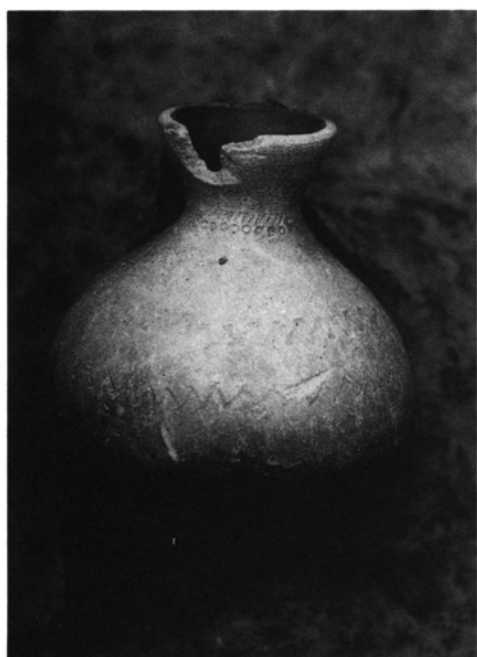


● 62 A₂区



▶ SB01近景 (南から)

▼ SK01出土土器





●62B区

◀62B区西部方形周溝墓群(東から)

(西から)

●62C区

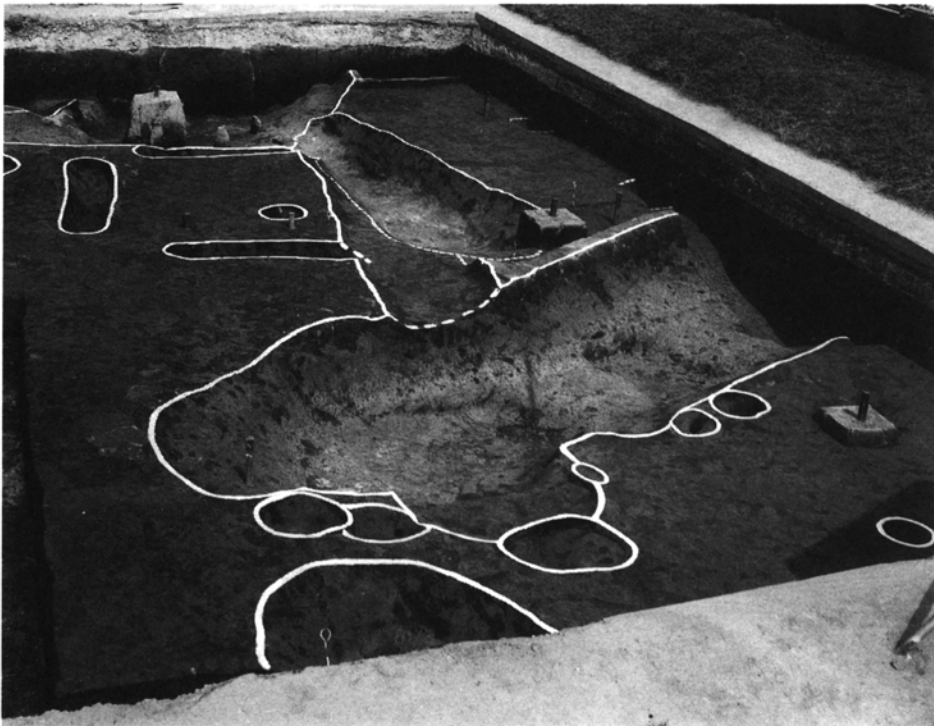


●62D区

(東から)

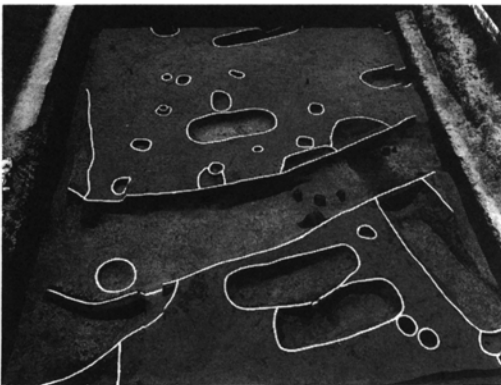


(西から)



●62E区

(東から)



●62F区

(東から)



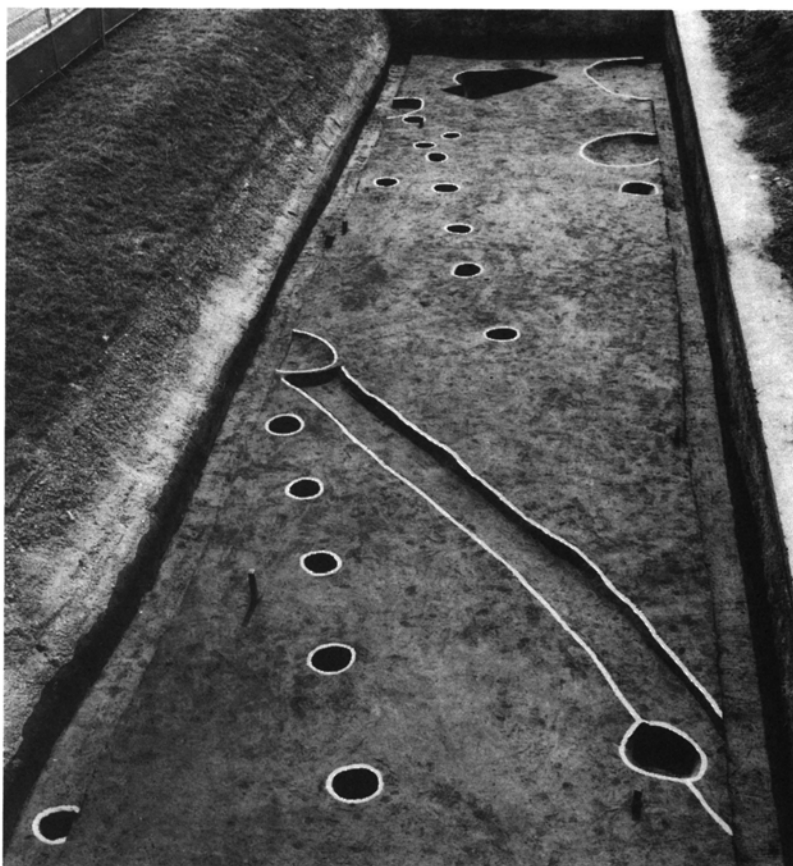
●62G区



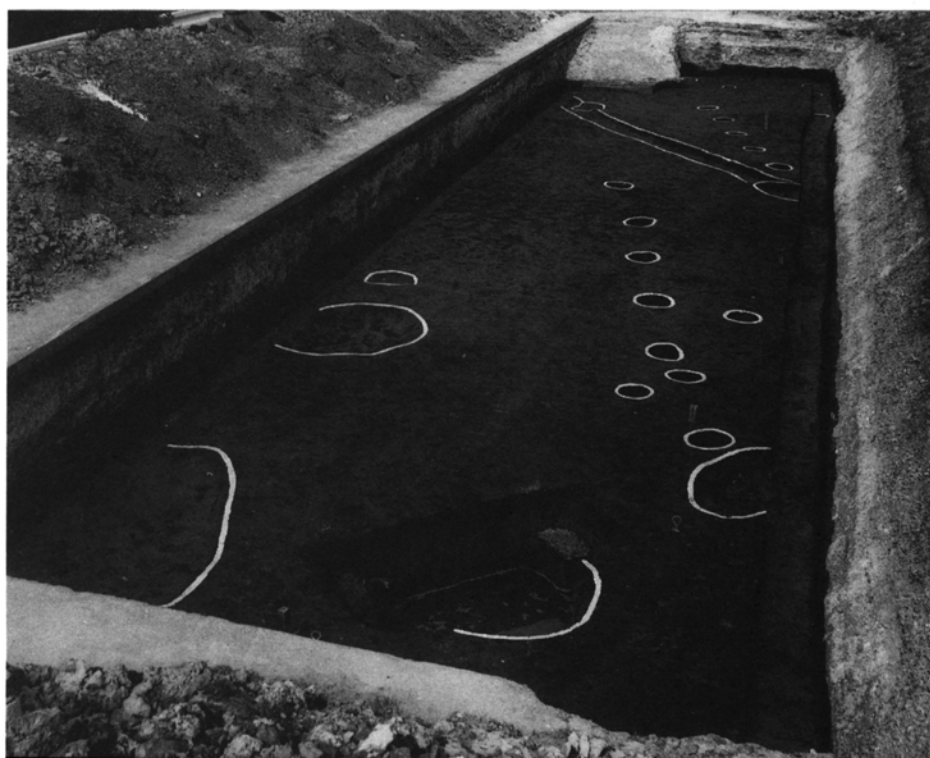
(西から)

●62H区

(西から)



(東から)

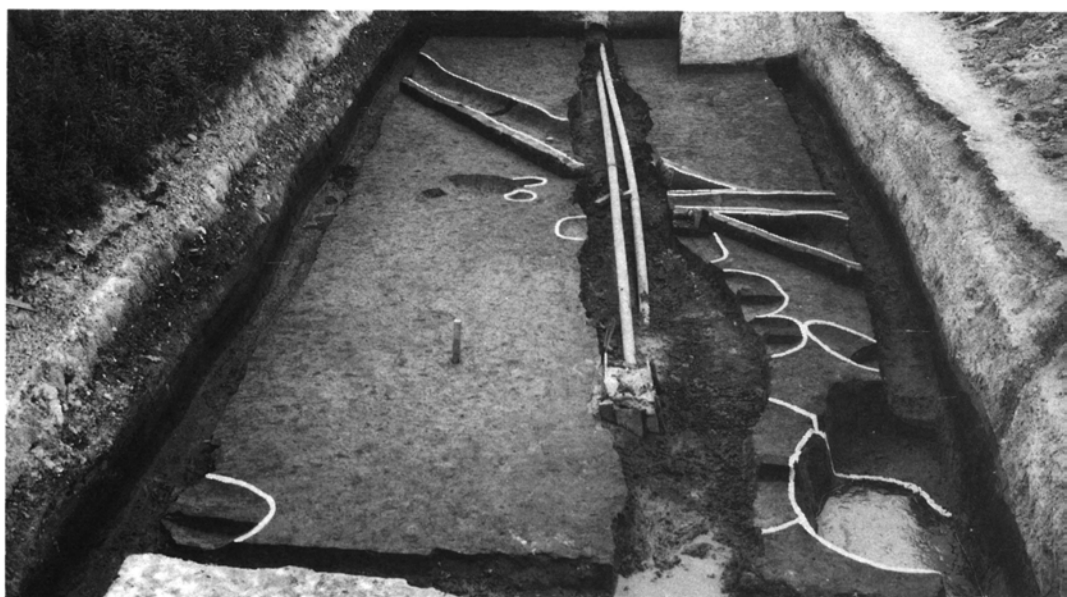


●62 I 区



(東から)

●62 J 区



(東から)

●62 K 区



●63 A1区



●63 B2区



(東から)

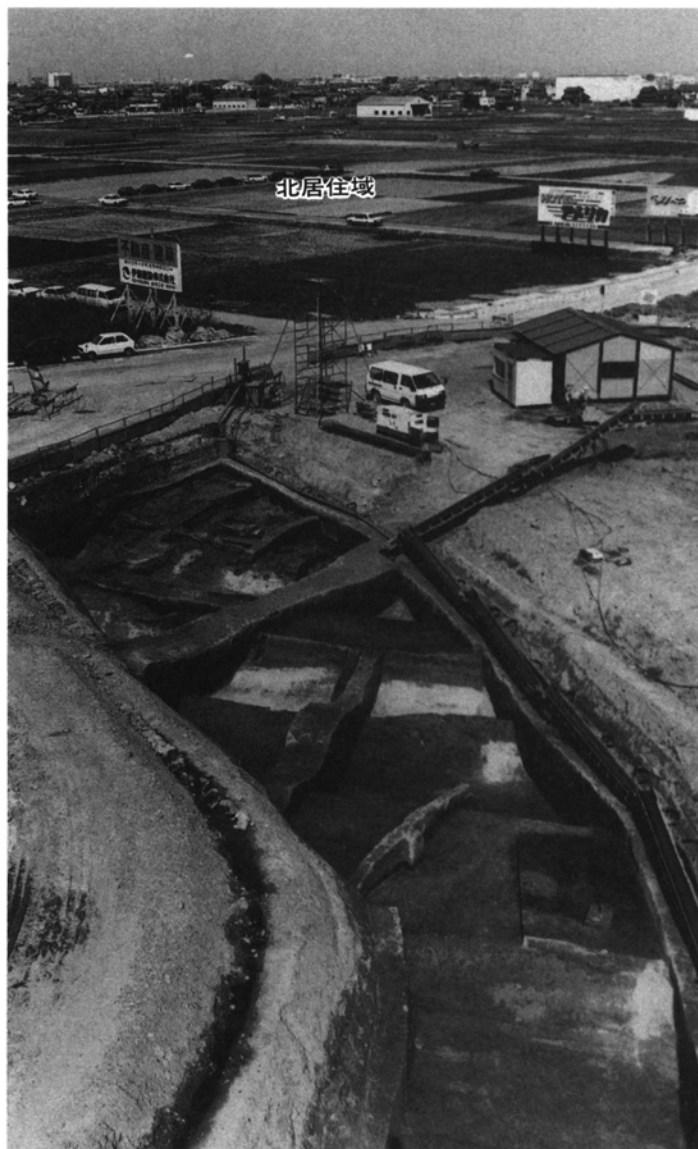
▼谷B上層出土山茶碗



●63D区



▲上面遺構群(南東から)



北居住域

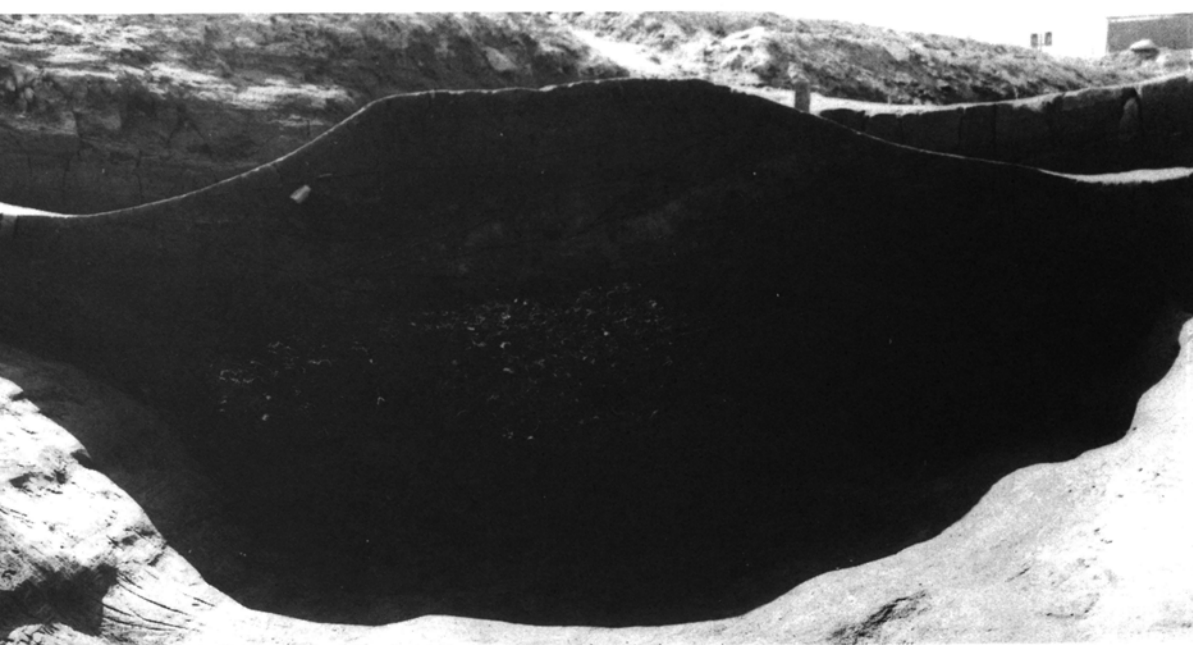
◀下面遺構群(南東から)

▼下面遺構群(北西から)





▲調査区東部(西から)



▲SD06・07土層セクション(西から)

▼SD03・04土層セクション(西から)





▲63G区弥生時代包含層上面検出状態(南西から)

SA01柱穴▶



P05礎板

(北から)



P01柱根

(西から)

●63G区

●63G区
下面遺構群

白っぽく見える部分
は、ベースの上部砂層
が露出していることを
示す。

左上方の遺構空白部
分は、黒褐色シルトの
遺存区域である。

砂層が露出するか
しなやかは生活痕跡と
しての攪乱(遺構形成)
の程度差に関係するこ
とがこれでわかる。







●63J区

(南西から)



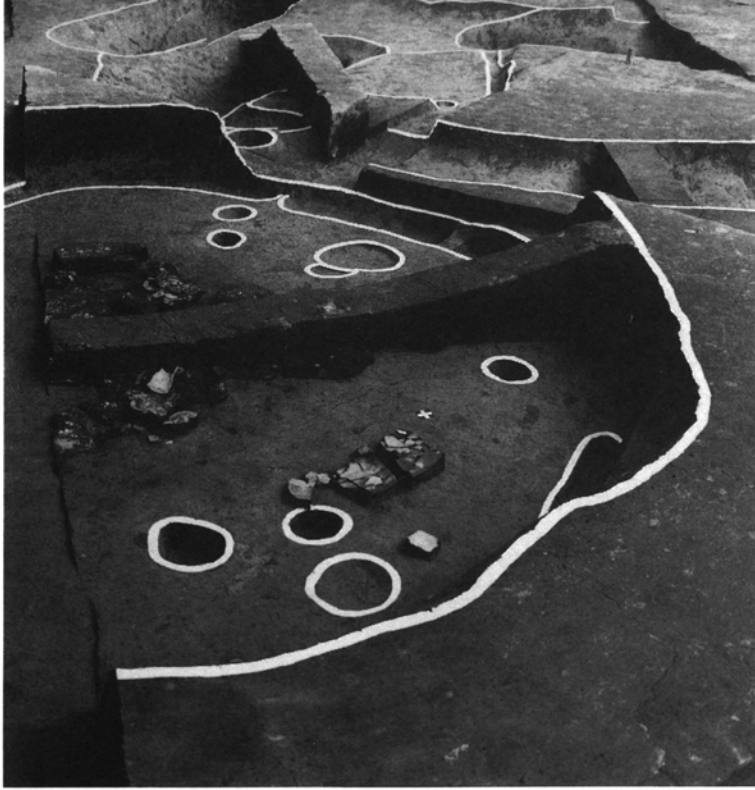
63L区

(南から)

●63M区

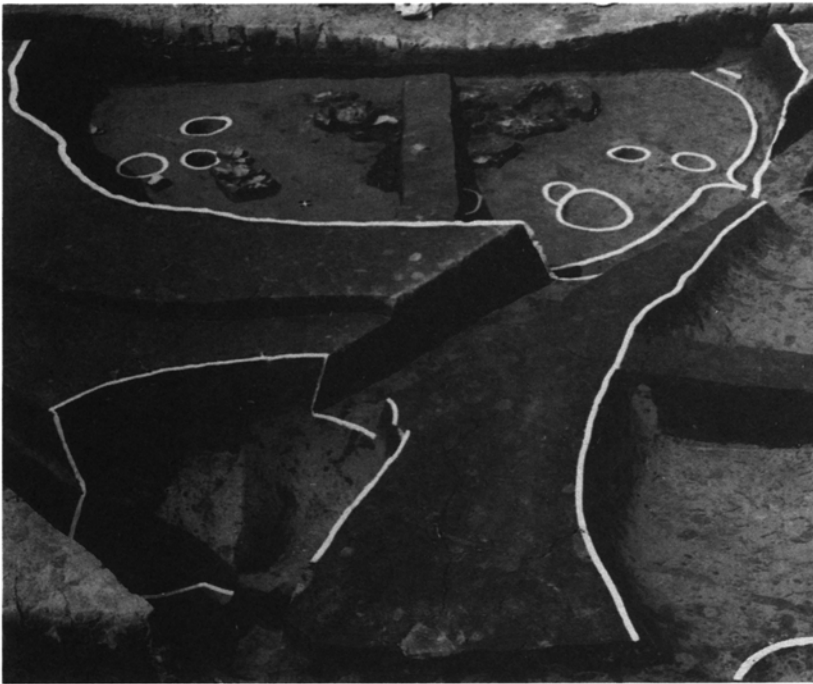


(北から)



◀ SB01 (北西から)

(南西から) ▼



▲ 全景 (北西から)

● 63N区

SB01
土層セクション▶
(北西から)





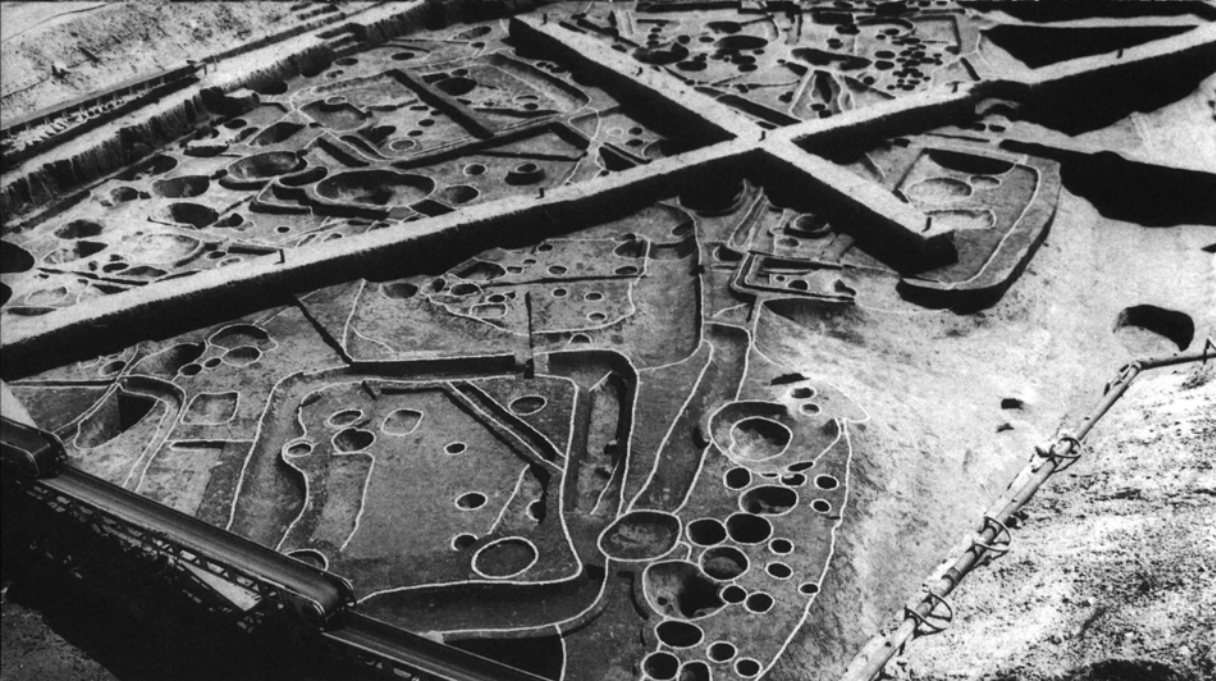
◀ 東半部

(南から)



◀ 西半部

(南東から)



◀ 全景

(北東から)

● 89 A 区下面遺構群



▲SB23南西柱穴

●89 A 区 柱穴断面

▼SB08北西柱穴





◀SB08南東柱穴

●89A区



◀SK68土層セクション



▲銅鐸埋納坑(矢印)付近

(東から)

▼環濠の屈曲(東から)

●89B区上面遺構群

遺構の輪郭を示す白線は、弥生時代が実線、中世が破線である。
点線は現代攪乱で、銅鐸埋納坑はかろうじて危機を免がれている。



SD XVI

SD XV・XVI



▲矢印は銅鐸埋納坑(南東から)

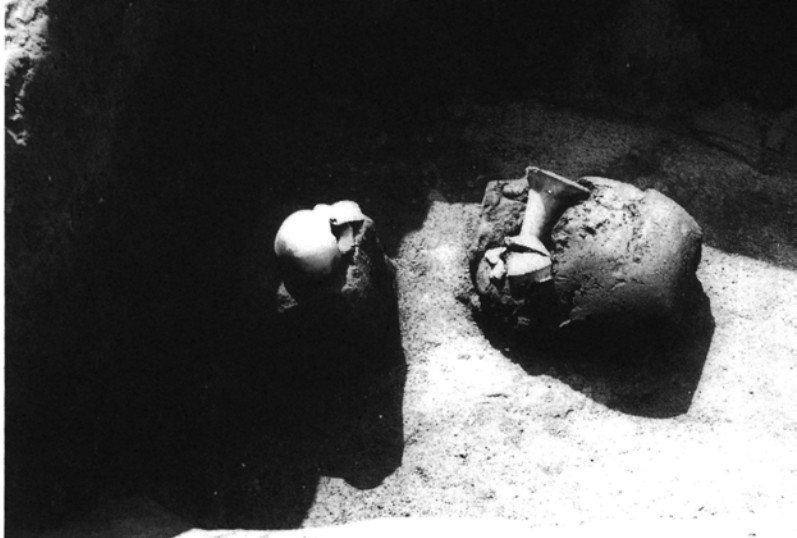
● 89 B 区上面遺構群 S Z 1 6 2 付近



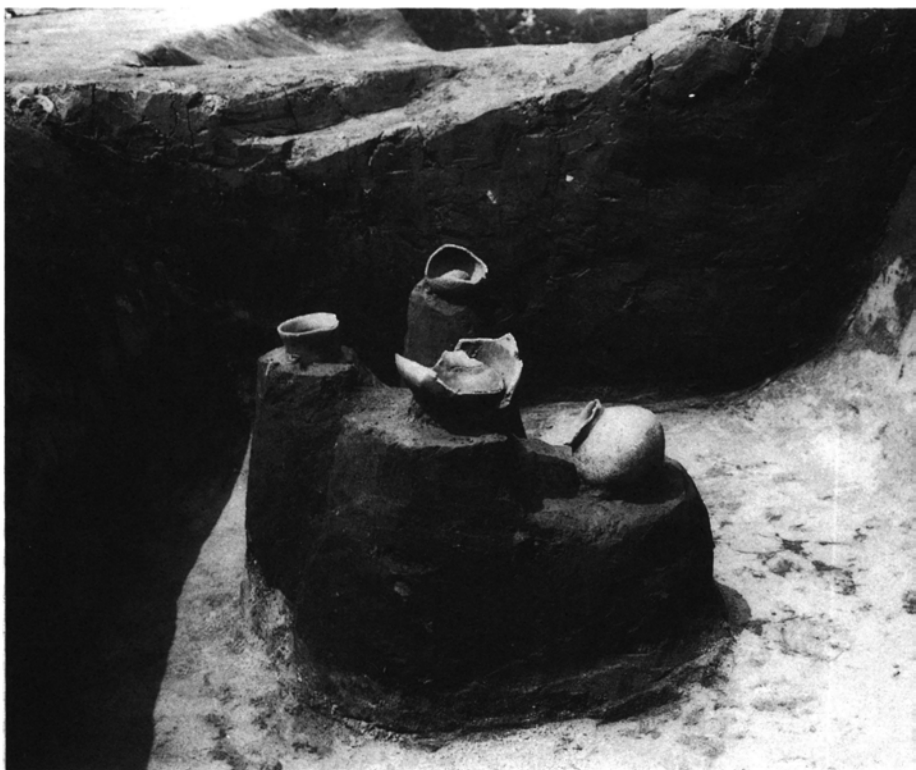
▲SD162北周溝土器出土状態(西から)

● 89 B 区 S Z 1 6 2 土器出土状態

▶ 東溝(東から)



▶ 南溝(東から)



▶ 同上(北から)





(西から)

●89B区 SDXV・XVI 土器出土状態

(南から)





(西から)

●89B区 SDXV・XVI 土器出土状態

(南から)





▲北西部

(東から)



▲南東部

(北西から)

●89B区下面遺構群

▶北部(南西から)



●89B区下面遺構群近景

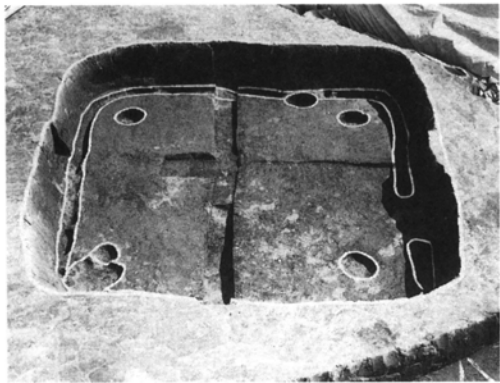
▶南西部(南西から)



▲SB20(東から)

▼北東部(北東から)

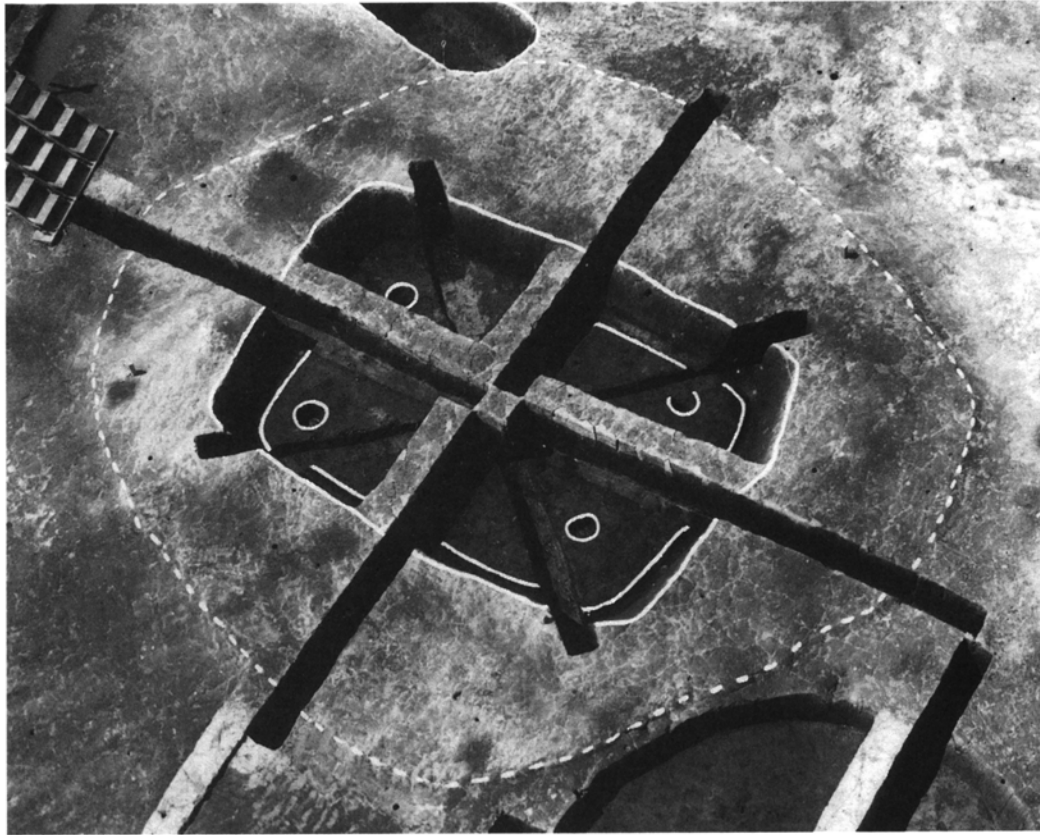




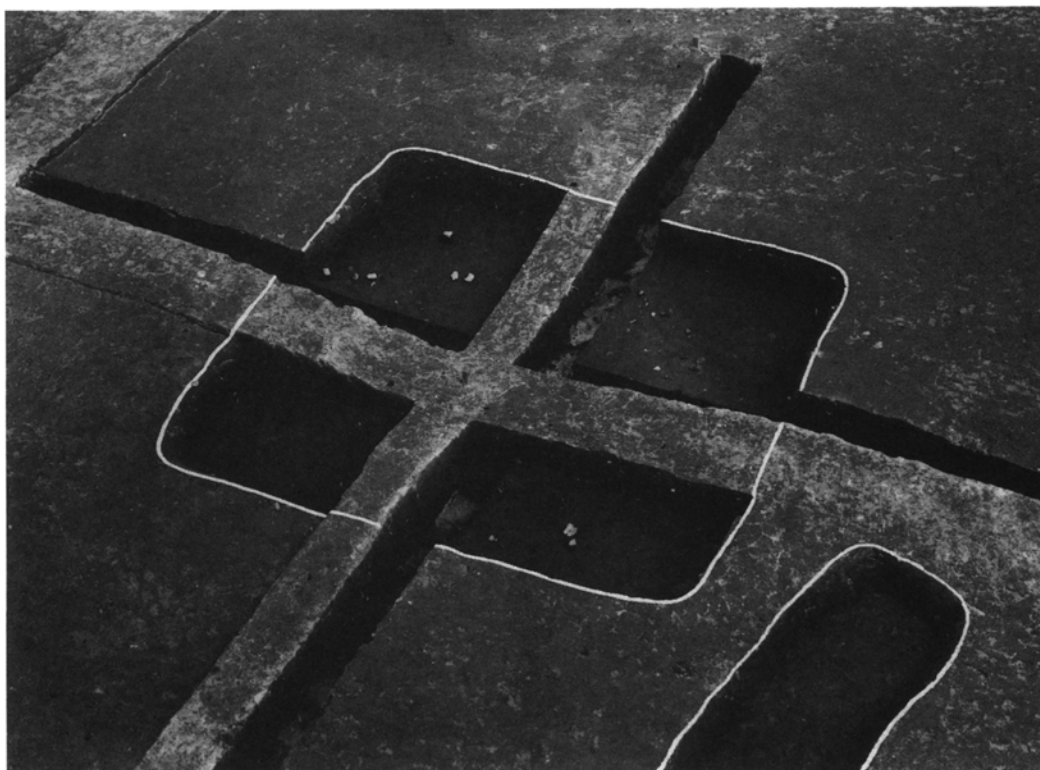
▲63J区SB12(北から)



▲同左 北東隅土器出土状態(北から)



◀89A区SB30
(南から)



◀63G区SB15
(南から)

●古墳時代遺構



▲61H区 SX03

- ・(東から)
- ・(南から)

61H区SB109▶

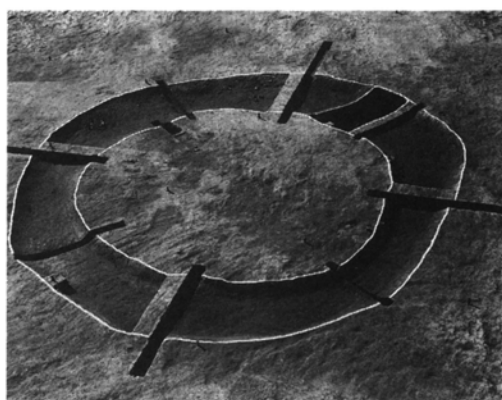
- ・(北東から)
- ・(北西から)



▼同右 須恵器壺出土状態(西から)



▼61H区 SZ1001全景(西から)





◀61H区
(西から)

●中世土壇群

中世土壇は、一部の区域を除き、統一した方格区画線があるかのように東西南北の方位に長軸線を一致させている。

▼89B区中世土壇97(東から)

